

第 4 章 調査結果の分析

4.1 クロス集計軸の設定

調査結果の単純集計と属性や関連する質問項目間のクロス集計を行うため、原子力の社会的受容性の判断に影響を与えると考えられる個人的特性（性別、年齢、居住地、保有情報量、社会性価値観など）を中心にクロス集計軸を七つ設定した。

表「クロス集計軸 1～3 の内容」

集計軸 1	集計軸 2	集計軸 3
【地域】 ・北海道・東北 ・関東 ・中部・北陸 ・近畿 ・中国・四国・九州	【職業】 ・農林漁業 ・自営・商工業 ・自由業 ・管理職 ・事務・技術職 ・労務・技能職 ・パート・アルバイト ・主婦専業 ・学生 ・無職	【男性】 ・男性小計 ・15～19才 ・20～29才 ・30～39才 ・40～49才 ・50～59才 ・60～69才 ・70～79才
【都市規模】 ・21大都市 ・15万以上の都市 ・15万未満の都市 ・郡部		
【性別】 ・男性 ・女性	【世帯年収】 ・300万円未満 ・～400万円未満 ・～500万円未満 ・～600万円未満 ・～700万円未満 ・～800万円未満 ・～1000万円未満 ・～1200万円未満 ・1200万円以上	【女性】 ・女性小計 ・15～19才 ・20～29才 ・30～39才 ・40～49才 ・50～59才 ・60～69才 ・70～79才
【年齢】 ・15～19才 ・20～29才 ・30～39才 ・40～49才 ・50～59才 ・60～69才 ・70～79才		

※全質問にクロス

表「クロス集計軸4の内容」

集計軸 4															
<p>【年齢】</p> <table border="0"> <tr> <td>(男性)</td> <td>(女性)</td> </tr> <tr> <td>15～24 歳</td> <td>15～24 歳</td> </tr> <tr> <td>25～34 歳</td> <td>25～34 歳</td> </tr> <tr> <td>35～44 歳</td> <td>35～44 歳</td> </tr> <tr> <td>45～54 歳</td> <td>45～54 歳</td> </tr> <tr> <td>55～64 歳</td> <td>55～64 歳</td> </tr> <tr> <td>65～74 歳</td> <td>65～74 歳</td> </tr> </table>		(男性)	(女性)	15～24 歳	15～24 歳	25～34 歳	25～34 歳	35～44 歳	35～44 歳	45～54 歳	45～54 歳	55～64 歳	55～64 歳	65～74 歳	65～74 歳
(男性)	(女性)														
15～24 歳	15～24 歳														
25～34 歳	25～34 歳														
35～44 歳	35～44 歳														
45～54 歳	45～54 歳														
55～64 歳	55～64 歳														
65～74 歳	65～74 歳														
<p>【子どもの有無】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供あり ・ 小さい子供あり (0～14 歳) ・ 子供なし 															
<p>【女性－仕事の有無】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性 (仕事有) ー 農林漁業、自営・商工業、自由業、管理職、事務・技術職、 労務・技能職 ・ 女性 (パート等) ー パート・アルバイト ・ 女性 (仕事無) ー 主婦専業、無職 ・ 女性 (学生) ー 学生 															
<p>【今後利用・活用していくべきエネルギー：問 7】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石炭火力発電 ・ 石油火力発電 ・ 天然ガス火力発電 ・ 原子力発電 ・ 水力発電 ・ 地熱発電 ・ 風力発電 ・ 太陽光発電 ・ 廃棄物発電 ・ バイオマス発電 ・ その他 ・ あてはまるものはない 	<p>【原子力発電の利用：問 8-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 増やす ・ 震災以前を維持 ・ しばらく利用、徐々に廃止 ・ 即時、廃止 ・ その他 ・ わからない ・ あてはまるものはない 														

※全質問にクロス

表「クロス集計軸5の内容」

集計軸5																																											
<p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道→北海道 ・ 東北 →青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 ・ 関東 →茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 ・ 中部 →山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県 ・ 北陸 →新潟県、富山県、石川県、福井県 ・ 近畿 →三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県 ・ 中国 →鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県 ・ 四国 →徳島県、香川県、愛媛県、高知県 ・ 九州 →福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県 ・ 沖縄 →沖縄県 																																											
<p>【原子力発電所隣接（30km 圏内）・原子力発電所非隣接】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接地域：30km 圏内（UPZ:Urgent Protective action planning Zone 圏内） ・ 非立地県：上記以外 <p>●原子力発電所の緊急時防護措置準備区域（UPZ・30km圏内）に含まれる市町村</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>北海道</td> <td>泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村</td> </tr> <tr> <td>青森県</td> <td>東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村</td> </tr> <tr> <td>宮城県</td> <td>女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町</td> </tr> <tr> <td>福島県</td> <td>いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村</td> </tr> <tr> <td>新潟県</td> <td>柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町</td> </tr> <tr> <td>茨城県</td> <td>東海村、日立市、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、水戸市、茨城町、大洗町、高萩市、大子町、笠間市、鉾田市</td> </tr> <tr> <td>静岡県</td> <td>御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市、吉田町、袋井市、焼津市、藤枝市、島田市、森町、磐田市</td> </tr> <tr> <td>富山県</td> <td>氷見市</td> </tr> <tr> <td>石川県</td> <td>志賀町、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、中能登町、穴水町</td> </tr> <tr> <td>岐阜県</td> <td>揖斐川町</td> </tr> <tr> <td>福井県</td> <td>敦賀市、美浜町、小浜市、おおい町、高浜町、福井市、鯖江市、越前市、越前町、池田町、南越前町、若狭町</td> </tr> <tr> <td>滋賀県</td> <td>長浜市、高島市</td> </tr> <tr> <td>京都府</td> <td>舞鶴市、京都市、福知山市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町</td> </tr> <tr> <td>鳥取県</td> <td>米子市、境港市</td> </tr> <tr> <td>島根県</td> <td>松江市、出雲市、安来市、雲南市</td> </tr> <tr> <td>山口県</td> <td>上関町</td> </tr> <tr> <td>愛媛県</td> <td>伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市、伊予市、内子町</td> </tr> <tr> <td>福岡県</td> <td>糸島市</td> </tr> <tr> <td>佐賀県</td> <td>玄海町、唐津市、伊万里市</td> </tr> <tr> <td>長崎県</td> <td>松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県</td> <td>薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、始良市、さつま町、長島町</td> </tr> </tbody> </table>		北海道	泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村	青森県	東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村	宮城県	女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町	福島県	いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村	新潟県	柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町	茨城県	東海村、日立市、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、水戸市、茨城町、大洗町、高萩市、大子町、笠間市、鉾田市	静岡県	御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市、吉田町、袋井市、焼津市、藤枝市、島田市、森町、磐田市	富山県	氷見市	石川県	志賀町、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、中能登町、穴水町	岐阜県	揖斐川町	福井県	敦賀市、美浜町、小浜市、おおい町、高浜町、福井市、鯖江市、越前市、越前町、池田町、南越前町、若狭町	滋賀県	長浜市、高島市	京都府	舞鶴市、京都市、福知山市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町	鳥取県	米子市、境港市	島根県	松江市、出雲市、安来市、雲南市	山口県	上関町	愛媛県	伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市、伊予市、内子町	福岡県	糸島市	佐賀県	玄海町、唐津市、伊万里市	長崎県	松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市	鹿児島県	薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、始良市、さつま町、長島町
北海道	泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村																																										
青森県	東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村																																										
宮城県	女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町																																										
福島県	いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村																																										
新潟県	柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町																																										
茨城県	東海村、日立市、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、水戸市、茨城町、大洗町、高萩市、大子町、笠間市、鉾田市																																										
静岡県	御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市、吉田町、袋井市、焼津市、藤枝市、島田市、森町、磐田市																																										
富山県	氷見市																																										
石川県	志賀町、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、中能登町、穴水町																																										
岐阜県	揖斐川町																																										
福井県	敦賀市、美浜町、小浜市、おおい町、高浜町、福井市、鯖江市、越前市、越前町、池田町、南越前町、若狭町																																										
滋賀県	長浜市、高島市																																										
京都府	舞鶴市、京都市、福知山市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町																																										
鳥取県	米子市、境港市																																										
島根県	松江市、出雲市、安来市、雲南市																																										
山口県	上関町																																										
愛媛県	伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市、伊予市、内子町																																										
福岡県	糸島市																																										
佐賀県	玄海町、唐津市、伊万里市																																										
長崎県	松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市																																										
鹿児島県	薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、始良市、さつま町、長島町																																										
出典：原子力規制委員会「原子力災害対策について」																																											

※全質問にクロス

表「クロス集計軸 6 の内容」

集計軸 6										
<p>【原子力の専門家に対する信頼：問 12-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼できる層 信頼できる+どちらかといえば信頼できる ・ どちらともいえない層 ・ 信頼できない層 信頼できない+どちらかといえば信頼できない 										
<p>【国に対する信頼：問 13-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼できる層 信頼できる+どちらかといえば信頼できる ・ どちらともいえない層 ・ 信頼できない層 信頼できない+どちらかといえば信頼できない 										
<p>【社会性尺度 問 1（生活意識や行動）の選択肢合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会性が高い層（選択肢の合計が 9～18） ・ 社会性が中程度の層（選択肢の合計が 4～8） ・ 社会性が低い層（選択肢の合計が 1～3） ・ 社会性がない層（「その他」「特にない／わからない」を選択） 										
<p>【社会性尺度 問 1（生活意識や行動）の選択肢合計】</p> <p><u>「地域の社会秩序の意識」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高い層（選択肢の合計が 3～5） ・ 低い層（選択肢の合計が 1～2） ・ ない層（選択肢の合計が 0） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>ボランティア参加希望</td> <td>問 1 = 2 に ON</td> </tr> <tr> <td>観光客へ気配り</td> <td>問 1 = 8 に ON</td> </tr> <tr> <td>地域の伝統継承</td> <td>問 1 = 9 に ON</td> </tr> <tr> <td>近所との協力</td> <td>問 1 = 10 に ON</td> </tr> <tr> <td>文化財は大切に</td> <td>問 1 = 15 に ON</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>「日本の社会秩序の意識」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高い層（選択肢の合計が 4～6） ・ 低い層（選択肢の合計が 1～3） ・ ない層（選択肢の合計が 0） 	ボランティア参加希望	問 1 = 2 に ON	観光客へ気配り	問 1 = 8 に ON	地域の伝統継承	問 1 = 9 に ON	近所との協力	問 1 = 10 に ON	文化財は大切に	問 1 = 15 に ON
ボランティア参加希望	問 1 = 2 に ON									
観光客へ気配り	問 1 = 8 に ON									
地域の伝統継承	問 1 = 9 に ON									
近所との協力	問 1 = 10 に ON									
文化財は大切に	問 1 = 15 に ON									

選挙投票	問 1 = 4 に ON
街の美化保全	問 1 = 7 に ON
公共心の希薄化	問 1 = 1 1 に ON
行政まかせにしない	問 1 = 1 2 に ON
情報を見聞きする	問 1 = 1 3 に ON
災害の準備・訓練	問 1 = 1 4 に ON

「社会へのコミットメント」が高い層

- ・ 高い層（選択肢の合計が 3）
- ・ 低い層（選択肢の合計が 1～2）
- ・ ない層（選択肢の合計が 0）

・ 地域の行事参加	問 1 = 3 に ON
・ 住民同士のふれあい	問 1 = 5 に ON
・ 自治会等活動参加	問 1 = 6 に ON

※全質問にクロス

表「クロス集計軸 7 の内容」

集計軸 7
<p>【「エネルギー・環境」に関する保有情報量（知識）問 4-1 の選択肢合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保有情報量が高い層（選択肢の合計が 9～11） ・ 保有情報量が中程度の層（選択肢の合計が 4～8） ・ 保有情報量が高い層（選択肢の合計が 1～3） ・ 保有情報量がない層（「あてはまるものはない」を選択）
<p>【「原子力」に関する保有情報量（知識）問 5-1 の選択肢合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保有情報量が高い層（選択肢の合計が 9～11） ・ 保有情報量が中程度の層（選択肢の合計が 4～8） ・ 保有情報量が高い層（選択肢の合計が 1～3） ・ 保有情報量がない層（「あてはまるものはない」を選択）
<p>【「放射線」に関する保有情報量（知識）問 6-1 の選択肢合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保有情報量が高い層（選択肢の合計が 9～11） ・ 保有情報量が中程度の層（選択肢の合計が 4～8） ・ 保有情報量が高い層（選択肢の合計が 1～3） ・ 保有情報量がない層（「あてはまるものはない」を選択）

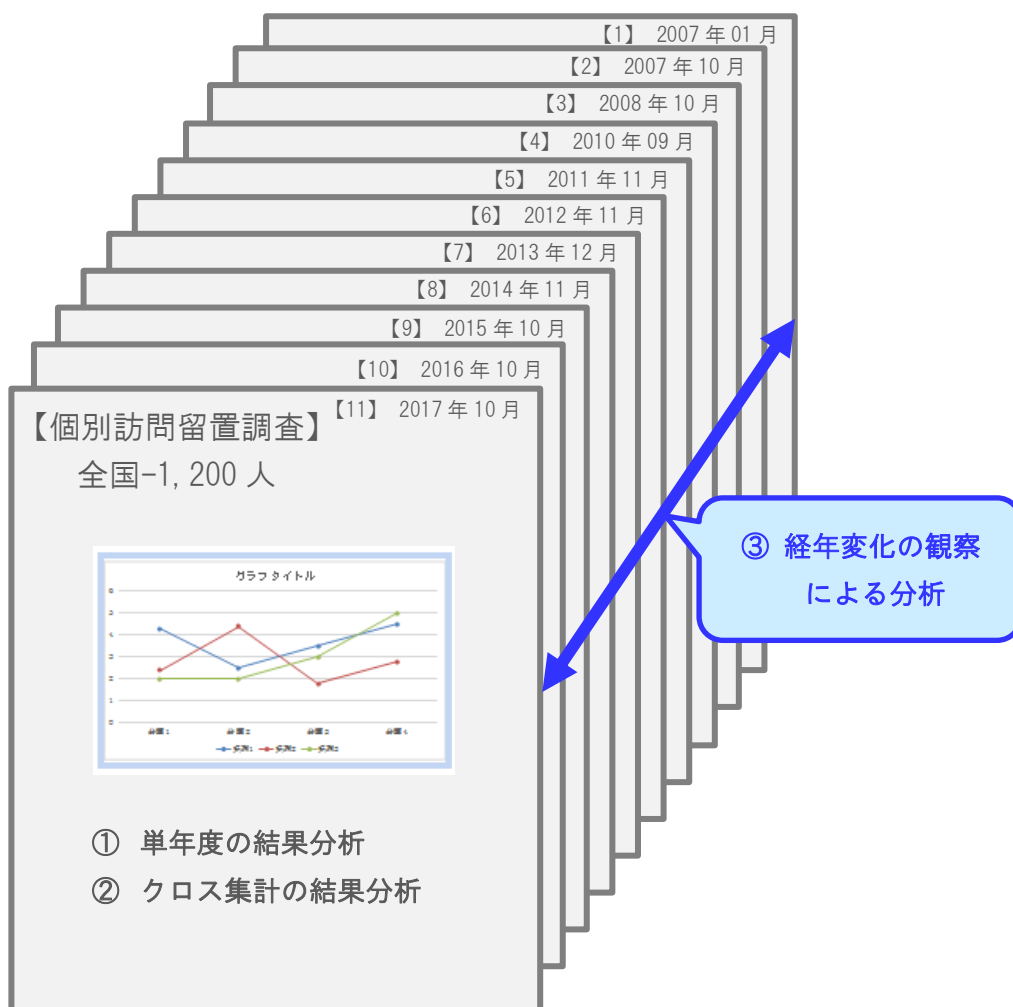
※全質問にクロス

4.2 調査結果の分析

調査結果の単純集計と属性や関連する質問項目間のクロス集計を行い、調査結果を分析した。経年的・定点的变化を観察するにあたり、10ポイント以上の差をより特徴的な差が出ているものとみなした。

- ① 単純集計結果による分析
- ② クロス集計結果による分析
- ③ 経年変化の観察による分析

福島第一原子力発電所の事故後の変化を中心に経年変化を観察



図「世論調査結果の分析方法」

世論調査結果

調査概要

<2017年10月 全国個別訪問留置調査>

- 調査地域 : 全国
- 調査対象者 : 15～79歳男女個人
- サンプリング : 住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割当
- 標本数の配分 : 200地点(1地点6サンプル)を地域・市郡規模別の各層に比例配分
- 調査方法 : 個別訪問留置調査
- サンプル数 : 1200人
- 実査期間 : 2017年10月4日(水)～10月16日(月)

I 章 回答者の属性

1. 性別

(%)		
	男性	女性
全体(N=1200)	49.7	50.3

2. 年代

(%)							
	10代 (15~19歳)	20代	30代	40代	50代	60代	70代
全体(N=1200)	5.9	12.4	16.2	17.8	15.3	18.3	14.2

3. 居住地(原子力発電所隣接(30km圏内)・原子力発電所非隣接)

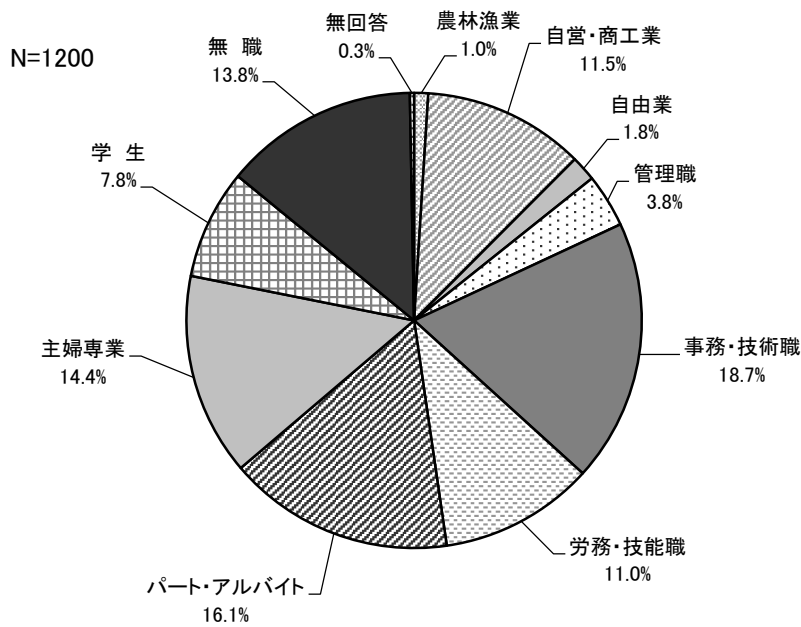
(%)		
	30km圏内*	30km圏外
全体(N=1200)	7.0	93.0

●原子力発電所の緊急時防護措置準備区域(UPZ・30km圏内)に含まれる市町村

北海道	泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村
青森県	東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村
宮城県	女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町
福島県	いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村
新潟県	柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町
茨城県	東海村、日立市、那珂市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、城里町、水戸市、茨城町、大洗町、高萩市、大子町、笠間市、鉾田市
静岡県	御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市、吉田町、袋井市、焼津市、藤枝市、島田市、森町、磐田市
富山県	水見市
石川県	志賀町、七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、中能登町、穴水町
岐阜県	揖斐川町
福井県	敦賀市、美浜町、小浜市、おおい町、高浜町、福井市、鯖江市、越前市、越前町、池田町、南越前町、若狭町
滋賀県	長浜市、高島市
京都府	舞鶴市、京都市、福知山市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町
鳥取県	米子市、境港市
島根県	松江市、出雲市、安来市、雲南市
山口県	上関町
愛媛県	伊方町、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市、伊予市、内子町
福岡県	糸島市
佐賀県	玄海町、唐津市、伊万里市
長崎市	松浦市、佐世保市、平戸市、壱岐市
鹿児島県	薩摩川内市、いちき串木野市、阿久根市、鹿児島市、出水市、日置市、姪良市、さつま町、長島町

出典：原子力規制委員会「原子力災害対策について」

4. 職業



5. 未既婚

(%)

	既婚	別居	離婚	死別	未婚	無回答
全体(N=1200)	66.6	0.3	4.9	4.9	23.0	0.3

6. 学歴

(%)

	短大卒以下	大学卒以上	無回答
全体(N=1200)	75.0	24.4	0.6

7. 子どもの有無

(%)

	子どもあり	小さい子どもあり*	子どもなし	無回答
全体(N=1200)	30.3	23.3	67.7	2.0

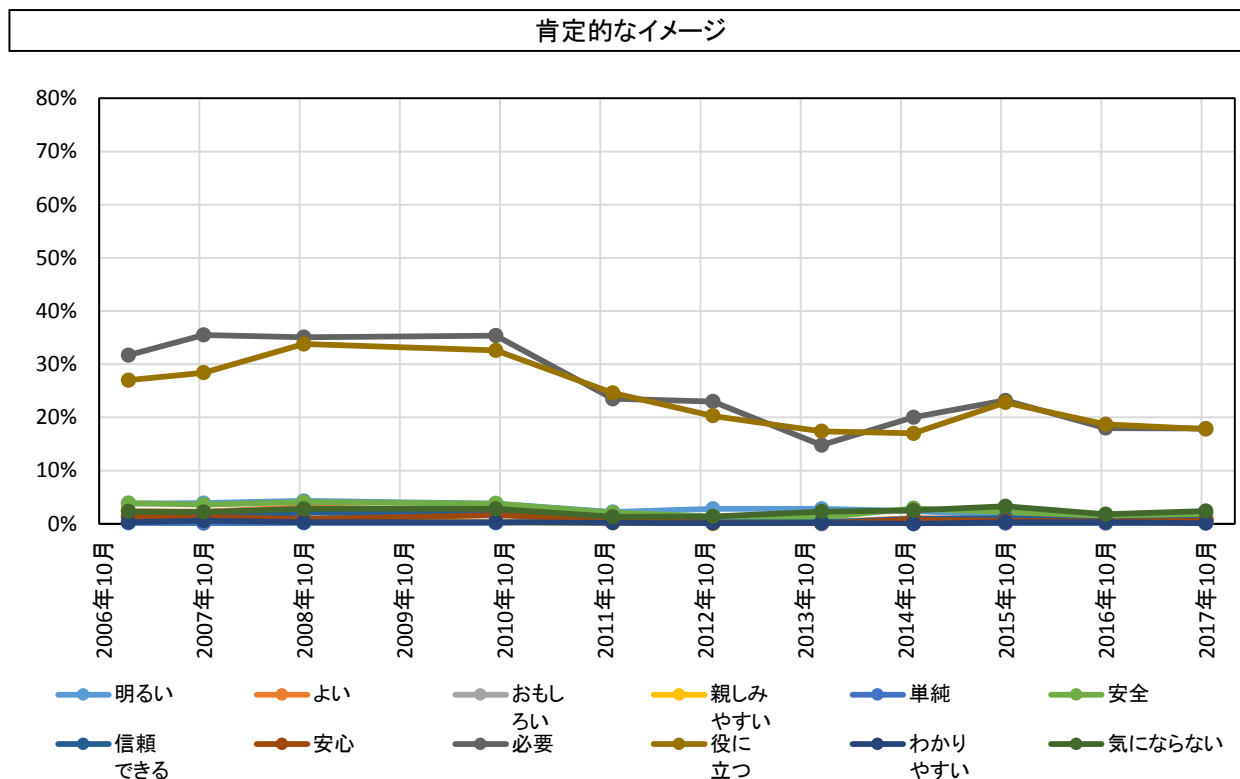
*0～14歳の子ども

Ⅱ章 原子力・放射線に対する イメージ

●原子力に対するイメージ

「原子力」という言葉から思い浮かぶイメージを尋ねたところ、全体として肯定的なイメージより否定的なイメージの反応が高く、「危険」(68.5%)、「不安」(57.3%)が特に高い。続いて、「複雑」(33.8%)、「信頼できない」(30.2%)。一方、肯定的なイメージは、「必要」(17.9%)、「役に立つ」(17.8%)という回答が多く、他の項目はきわめて低い反応水準にある。
前回と大きな変化はない。

問1. あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)
N=1200

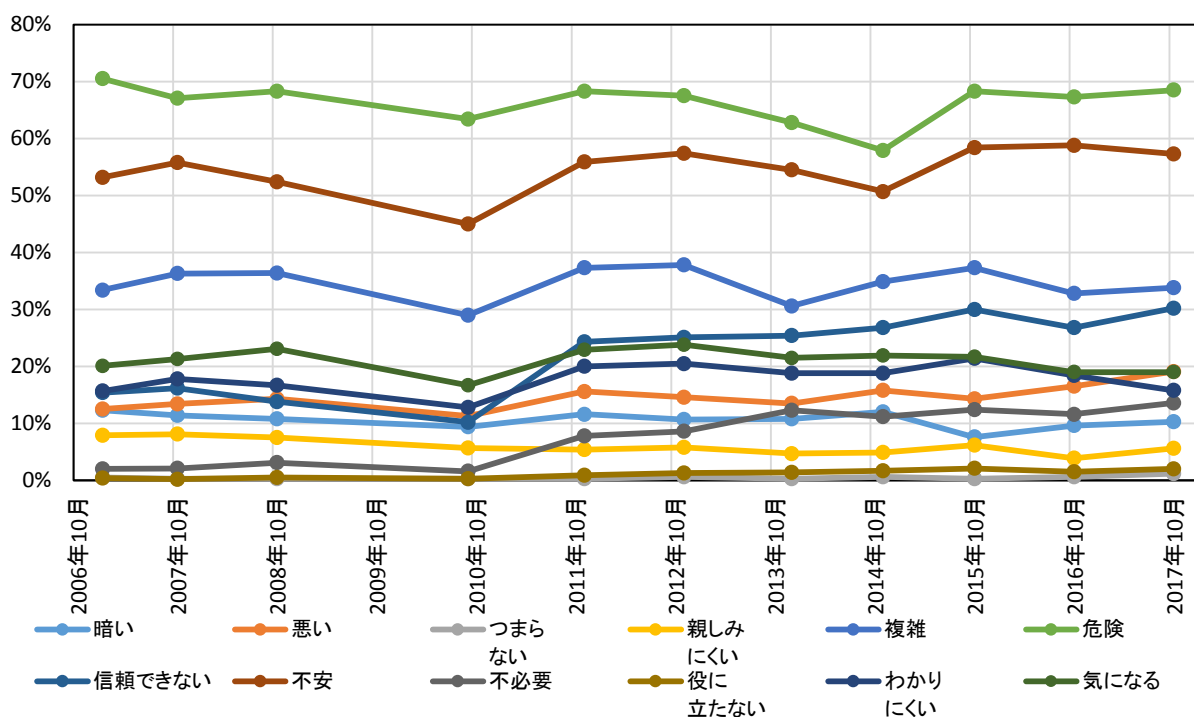


	07年1月	07年10月	08年10月	10年9月	11年11月	12年11月	13年12月	14年11月	15年10月	16年10月	17年10月
明るい	3.8	3.9	4.3	3.8	2.2	2.8	2.8	2.4	1.6	1.3	0.8
よい	2.4	2.3	3.1	2.4	1.3	0.9	0.3	1.1	0.9	1.5	0.9
おもしろい	0.6	0.6	0.8	0.3	0.6	0.6	0.5	0.3	0.6	0.4	0.2
親しみやすい	0.3	0.6	0.7	0.3	0.2	-	0.2	0.2	0.2	0.1	0.3
単純	0.2	0.1	0.2	0.2	0.7	0.2	-	0.1	0.1	0.1	0.3
安全	3.9	3.6	4.1	3.8	2.1	1.4	1.2	2.9	2.2	1.5	1.8
信頼できる	1.4	1.4	2.1	1.8	0.8	0.3	0.3	0.9	1.1	0.5	0.8
安心	1.4	1.3	0.9	1.6	0.8	0.2	0.1	0.7	0.6	0.4	0.6
必要	31.7	35.5	35.1	35.4	23.5	23.0	14.8	20.0	23.2	18.0	17.9
役に立つ	27.0	28.4	33.8	32.6	24.6	20.3	17.4	17.0	22.8	18.7	17.8
わかりやすい	0.3	0.6	0.3	0.3	0.2	0.1	0.2	-	0.3	0.3	0.1
気にならない	2.3	2.2	2.8	2.8	1.3	1.4	2.3	2.5	3.3	1.8	2.4

(%)

N=1200

否定的なイメージ



	07年1月	07年10月	08年10月	10年9月	11年11月	12年11月	13年12月	14年11月	15年10月	16年10月	17年10月
暗い	12.3	11.4	10.8	9.4	11.6	10.7	10.8	12.0	7.6	9.6	10.3
悪い	12.5	13.4	14.3	11.3	15.6	14.6	13.5	15.8	14.3	16.5	19.1
つまらない	0.5	0.3	0.3	0.3	0.3	0.6	0.3	0.6	0.3	0.6	1.2
親しみにくい	7.9	8.1	7.5	5.7	5.4	5.8	4.7	4.9	6.2	3.9	5.6
複雑	33.4	36.3	36.4	29.0	37.3	37.8	30.6	34.9	37.3	32.8	33.8
危険	70.5	67.1	68.3	63.4	68.3	67.5	62.8	57.9	68.3	67.3	68.5
信頼できない	15.4	16.2	13.8	10.2	24.3	25.1	25.4	26.8	30.0	26.8	30.2
不安	53.2	55.8	52.4	45.0	55.9	57.4	54.5	50.7	58.4	58.8	57.3
不必要	2.0	2.1	3.1	1.6	7.8	8.6	12.3	11.2	12.4	11.6	13.6
役に立たない	0.4	0.2	0.5	0.3	0.9	1.3	1.4	1.7	2.1	1.5	2.0
わかりにくい	15.7	17.8	16.7	12.8	20.0	20.5	18.8	18.8	21.4	18.4	15.8
気になる	20.1	21.3	23.1	16.7	22.9	23.8	21.5	21.9	21.7	19.0	19.0
その他	1.3	1.8	1.5	0.8	2.8	1.9	1.1	2.1	1.2	1.8	1.1
あてはまるものはない	2.5	2.8	2.5	2.8	2.5	1.6	4.0	3.8	2.4	4.3	3.8

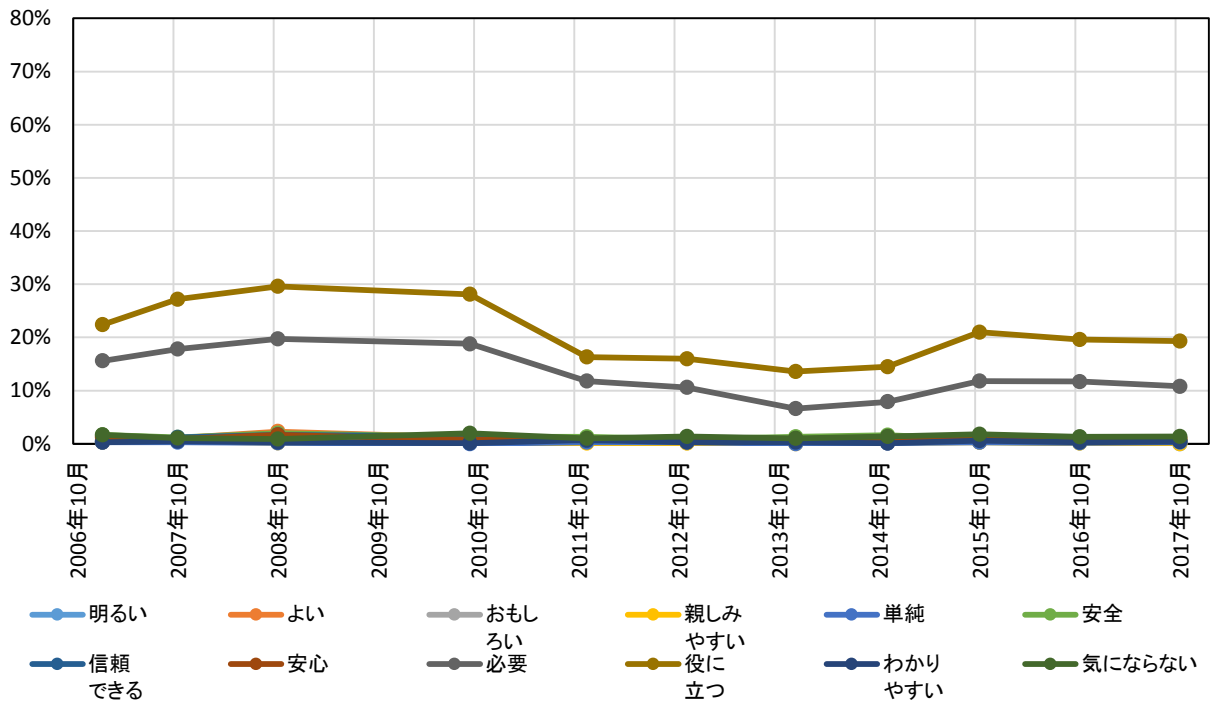
(%)

●放射線に対するイメージ

「放射線」という言葉から思い浮かぶイメージを尋ねたところ、全体として肯定的なイメージよりも否定的なイメージの反応が圧倒的に高く、「危険」(71.2%)、「不安」(51.3%)という回答が突出している。一方、肯定的なイメージでは「役に立つ」(19.3%)、「必要」(10.8%)という回答が高いが、否定的イメージと比べるとポイント数が圧倒的に低い。前回と大きな変化はない。

問2. あなたは「放射線」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)
N=1200

肯定的なイメージ

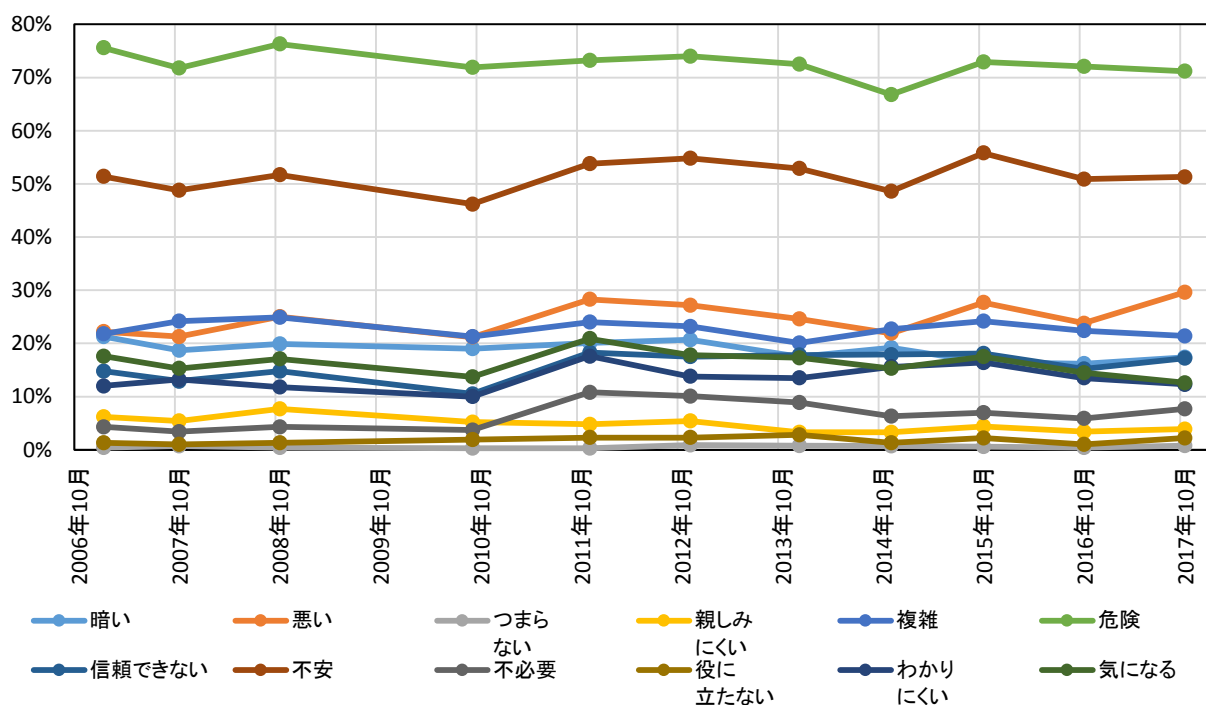


	07年1月	07年10月	08年10月	10年9月	11年11月	12年11月	13年12月	14年11月	15年10月	16年10月	17年10月
明るい	0.3	1.0	1.1	0.5	0.5	0.2	0.3	0.4	0.3	0.2	-
よい	1.4	1.1	2.3	1.2	0.6	0.8	0.2	0.7	0.9	0.8	0.6
おもしろい	0.3	0.8	0.2	0.3	0.5	0.4	0.1	0.3	0.3	0.4	0.5
親しみやすい	0.3	0.5	0.2	0.1	0.1	0.1	-	0.2	0.3	0.1	-
単純	0.3	0.3	0.2	-	0.3	0.3	-	0.1	0.3	0.2	0.3
安全	1.7	1.2	2.0	1.3	1.3	0.9	1.3	1.6	0.9	1.1	0.8
信頼できる	0.6	1.2	1.7	1.4	0.6	0.8	0.8	0.8	0.9	0.8	0.5
安心	1.2	0.9	1.7	0.8	0.8	0.9	0.9	1.1	1.0	0.8	1.0
必要	15.6	17.8	19.7	18.8	11.8	10.6	6.6	7.9	11.8	11.7	10.8
役に立つ	22.4	27.2	29.6	28.1	16.3	16.0	13.6	14.5	21.0	19.6	19.3
わかりやすい	0.3	0.5	0.3	0.1	0.7	0.3	0.3	0.1	0.6	0.3	0.4
気にならない	1.7	1.1	0.9	2.0	1.0	1.4	1.0	1.4	1.8	1.3	1.4

(%)

N=1200

否定的なイメージ



	07年1月	07年10月	08年10月	10年9月	11年11月	12年11月	13年12月	14年11月	15年10月	16年10月	17年10月
暗い	21.3	18.7	19.9	19.0	20.1	20.7	17.5	19.2	16.5	16.2	17.4
悪い	22.2	21.3	25.0	21.2	28.3	27.2	24.6	21.9	27.7	23.8	29.6
つまらない	0.4	0.7	0.4	0.3	0.3	0.9	0.8	0.7	0.6	0.4	0.8
親しみにくい	6.2	5.4	7.7	5.2	4.8	5.4	3.3	3.3	4.4	3.4	3.9
複雑	21.8	24.2	24.9	21.3	24.0	23.2	20.1	22.7	24.2	22.4	21.4
危険	75.6	71.8	76.3	71.9	73.2	74.0	72.5	66.8	72.9	72.1	71.2
信頼できない	14.8	12.9	14.8	10.5	18.3	17.5	17.8	17.9	18.1	15.2	17.2
不安	51.4	48.8	51.7	46.2	53.8	54.8	52.9	48.6	55.8	50.9	51.3
不必要	4.3	3.4	4.3	3.7	10.8	10.1	8.9	6.3	7.0	5.9	7.7
役に立たない	1.3	1.0	1.3	1.9	2.3	2.3	2.8	1.3	2.2	1.0	2.2
わかりにくい	12.0	13.2	11.8	10.0	17.6	13.8	13.5	15.6	16.4	13.5	12.3
気になる	17.6	15.3	17.1	13.7	20.9	17.8	17.3	15.3	17.5	14.5	12.6
その他	2.0	2.1	2.0	1.1	3.8	2.8	2.3	1.6	2.3	1.9	1.8
あてはまるものはない	2.8	2.9	1.8	1.9	2.0	1.4	4.4	5.1	2.7	3.0	4.8

(%)

第三章 原子力・放射線・エネルギーについての 関心・情報保有量

●原子力・放射線・エネルギー分野への関心

関心が高い項目は「地球温暖化」(47.3%)が最も高く、「原子力施設のリスク」(41.7%)、「福島第一原子力発電所の状況」(41.0%)、「放射線による人体の影響」(38.8%)、「放射性廃棄物の処分」(37.4%)、「日本のエネルギー事情」(36.8%)、「原子力発電の安全性」(32.3%)と続く。
地球温暖化に対する関心は、2015年度をピークに低下傾向が続いている。一方、前回と比べると、原子力発電に関する項目(リスク・安全性・廃棄物)への関心は増加しているようだ。

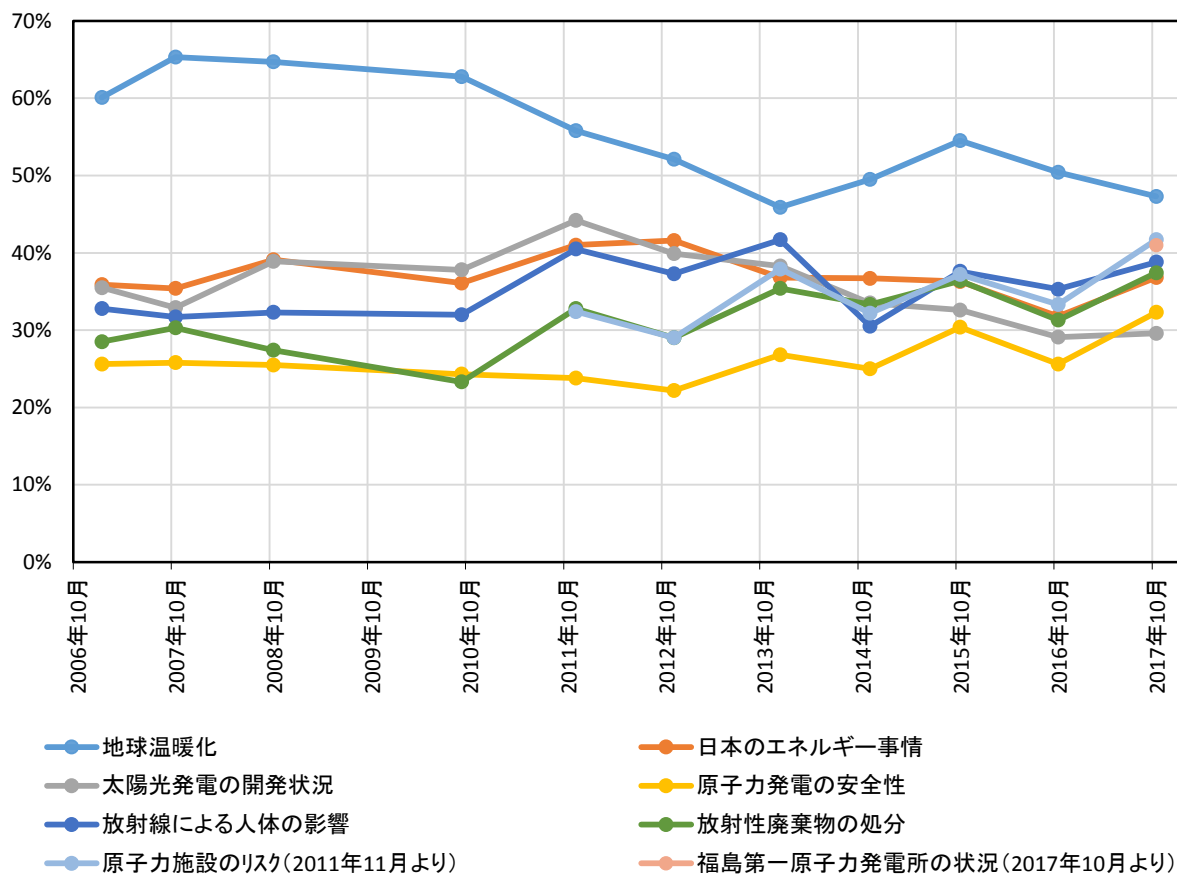
問3. 原子力やエネルギー、放射線の分野において、あなたが関心のあることはどれですか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

17年10月全体 N=1200

	0%	20%	40%	60%	16年 10月	15年 10月	14年 11月	13年 12月	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月
石油や石炭など化石資源の消費	15.8				17.4	22.2	17.2	17.8	20.7	22.3	23.3	24.1	23.3	13.3
地球温暖化	47.3				50.4	54.5	49.5	45.9	52.1	55.8	62.8	64.7	65.3	60.1
世界のエネルギー事情	22.4				19.1	21.6	21.1	20.7	23.4	27.0	25.9	25.3	23.1	25.3
日本のエネルギー事情	36.8				31.8	36.3	36.7	36.8	41.6	41.0	36.1	39.1	35.4	35.9
太陽光発電の開発状況	29.6				29.1	32.6	33.5	38.3	39.9	44.2	37.8	38.9	32.9	35.5
風力発電の開発状況	20.3				19.7	20.9	21.0	27.8	27.5	29.8	21.9	23.8	25.0	25.3
バイオマス発電の開発状況	13.3				12.4	14.1	13.2	14.0	12.4	15.5	8.6	9.9	9.2	7.8
原子力発電の安全性	32.3				25.6	30.4	25.0	26.8	22.2	23.8	24.3	25.5	25.8	25.6
プルサーマル・核燃料サイクル	10.1				5.7	8.1	6.8	8.7	6.4	7.3	10.6	9.8	9.6	10.1
放射線による人体の影響	38.8				35.3	37.6	30.5	41.7	37.3	40.5	32.0	32.3	31.7	32.8
放射線の工業利用	4.1				3.9	4.8	3.8	5.8	4.8	5.0	5.1	5.0	6.3	5.9
放射線の医療利用	21.6				20.5	21.3	14.5	22.1	28.5	29.8	36.0	36.2	33.9	35.9
放射線の農業利用	4.0				4.8	3.7	3.9	5.2	5.7	5.8	5.2	5.3	4.8	6.1
核不拡散	10.8				8.3	9.4	8.0	8.7	6.8	7.4	8.3	8.3	9.8	10.2
高速増殖炉「もんじゅ」	13.3				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
省エネルギー	24.7				20.2	25.4	22.3	15.8	20.2	24.0	28.1	30.9	30.0	30.2
放射性廃棄物の処分	37.4				31.3	36.4	33.3	35.4	29.0	32.8	23.3	27.4	30.3	28.5
使用済燃料の貯蔵	21.9				16.7	23.4	20.1	24.7	18.9	18.1	14.5	16.8	16.3	18.0
原子力施設のリスク(事故・トラブルなど)	41.7				33.3	37.2	32.2	37.9	29.0	32.4	/	/	/	/
原子力発電所の再稼働	20.8				18.4	25.8	21.2	/	/	/	/	/	/	/
原子力発電所の防災体制	19.3				17.4	21.5	19.0	/	/	/	/	/	/	/
各発電方法の発電コスト比較	8.7				8.0	13.2	10.1	/	/	/	/	/	/	/
各発電方法の長所や短所	11.8				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
電力システム改革 (小売全面自由化、発送電分離など)	9.8				10.4	/	/	/	/	/	/	/	/	/
福島第一原子力発電所の状況	41.0				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
避難指示解除区域における 住民の帰還状況	22.0				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
その他	0.7				0.3	0.8	1.6	0.9	0.3	0.8	0.2	0.3	0.3	0.4
特にない／わからない	19.0				19.8	16.0	18.7	18.6	14.1	11.2	14.8	14.8	14.6	19.3

* 07年1月の選択肢は「化石資源の消費」、07年10月からは「石油や石炭など化石資源の消費」に変更
* 17年10月より、「高速増殖炉「もんじゅ」のしくみ」と「高速増殖炉「もんじゅ」の安全性」を統合
* 過去データがない項目は、それぞれ各年に追加された項目

<参考 ポイントが高い項目の経年変化>



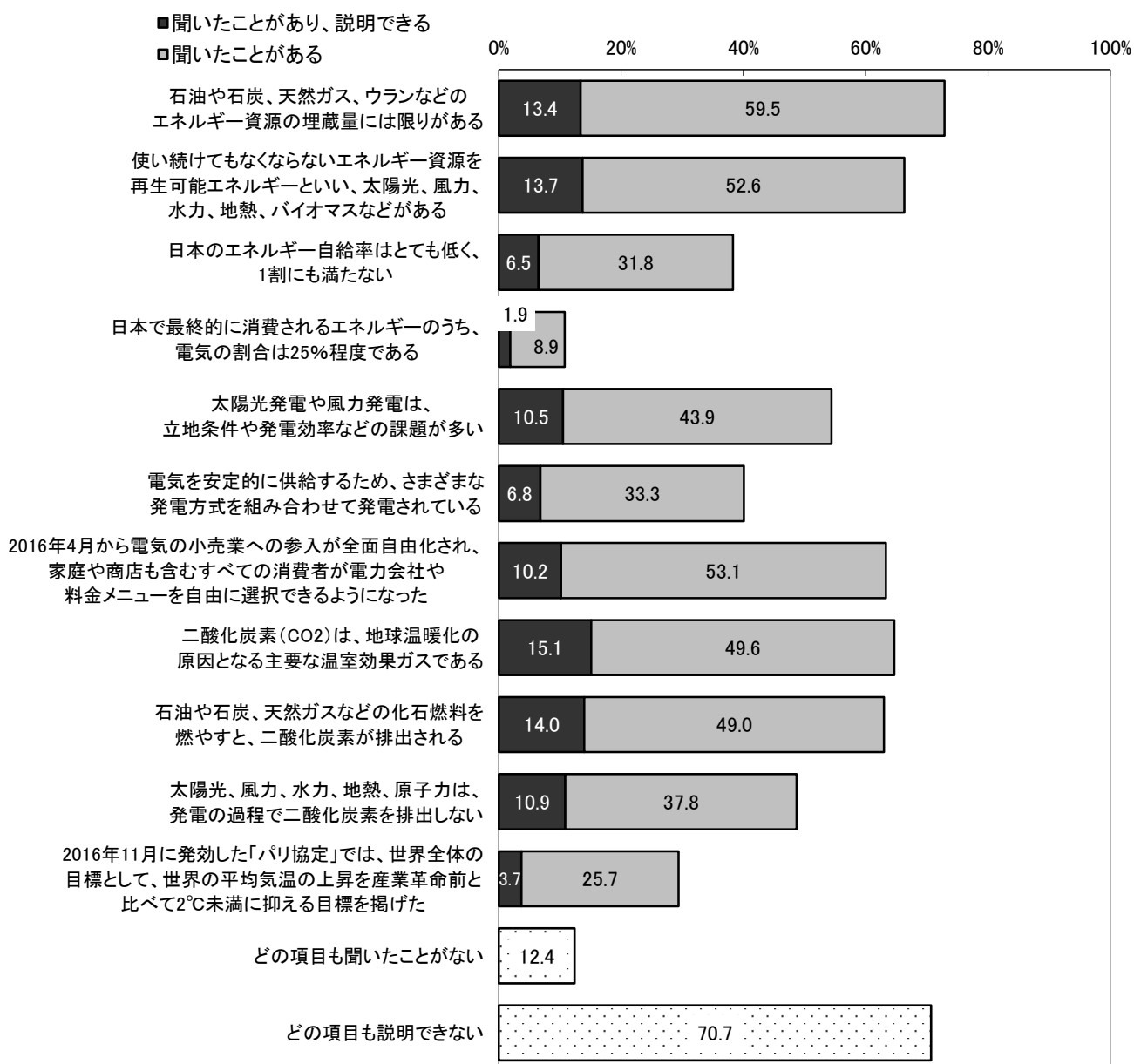
●エネルギー・環境分野に関する情報保有量

エネルギー・環境分野で認知度が高い項目は、「資源の埋蔵量には限りがある」(聞いたことがある72.9%(以下同様))、「再生可能エネルギーについて」(66.3%)、「CO2は温室効果ガスの1つ」(64.7%)、「電気の全面自由化」(63.3%)、「化石燃料を燃やすとCO2発生」(63.0%)。ただし、説明できるかどうかを聞くと、高くても15%程度の回答率となる。一方で、認知度の低い項目として、「消費エネルギーの中の電気の割合は25%程度」(10.8%)が突出している。「パリ協定の内容」(29.4%)も比較的認知度が低い。

問4-1. 「エネルギー・環境」の分野において、あなたが「聞いたことがあるもの」はどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

問4-2. 「問4-1で選択した事柄」のうち、あなたが「他の人に説明できるもの」はどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

17年10月全体 N=1200



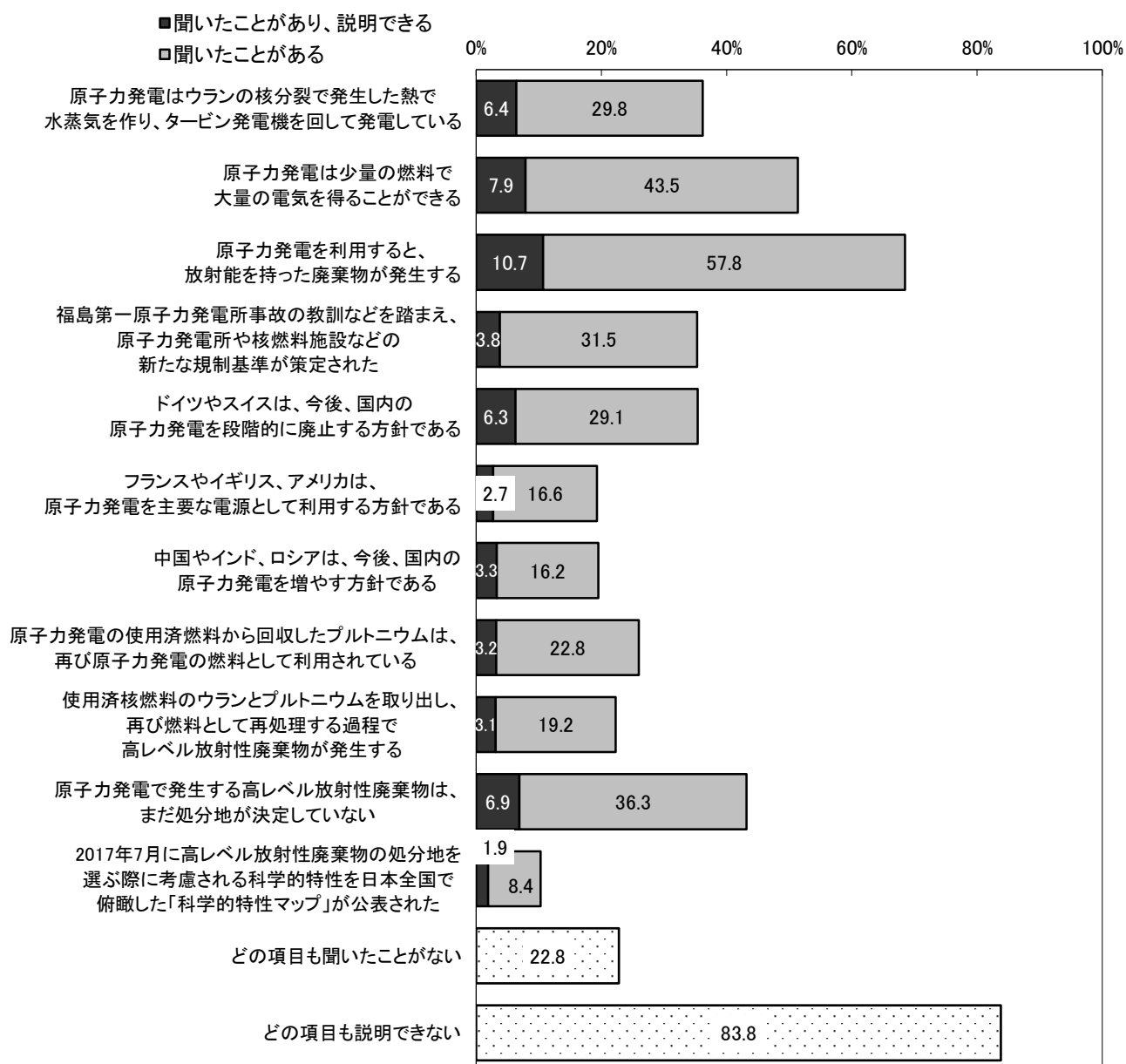
●原子力分野に関する情報保有量

原子力分野で認知度が高い項目は、「原子力発電で放射性廃棄物発生」(聞いたことがある68.5%(以下同様))が突出している。エネルギー・環境全般の話題と比較すると、全体として認知度が低い。一方で、認知度の低い項目として、「科学的特性マップの公表」(10.3%)がもっとも低い。そして、「フランス、イギリス、アメリカの原子力利用(維持)」(19.3%)、「中国、インド、ロシアの原子力利用(増加)」(19.5%)と続く。なお、この他国の原子力利用に関する2項目については、類似項目「ドイツ、スイスの原子力利用(段階的廃止)」(35.4%)と比較するとかなり低いことがわかる。

問5-1. 「原子力」の分野において、あなたが「聞いたことがあるもの」はどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

問5-2. 「問5-1で選択した事柄」のうち、あなたが「他の人に説明できるもの」はどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

17年10月全体 N=1200



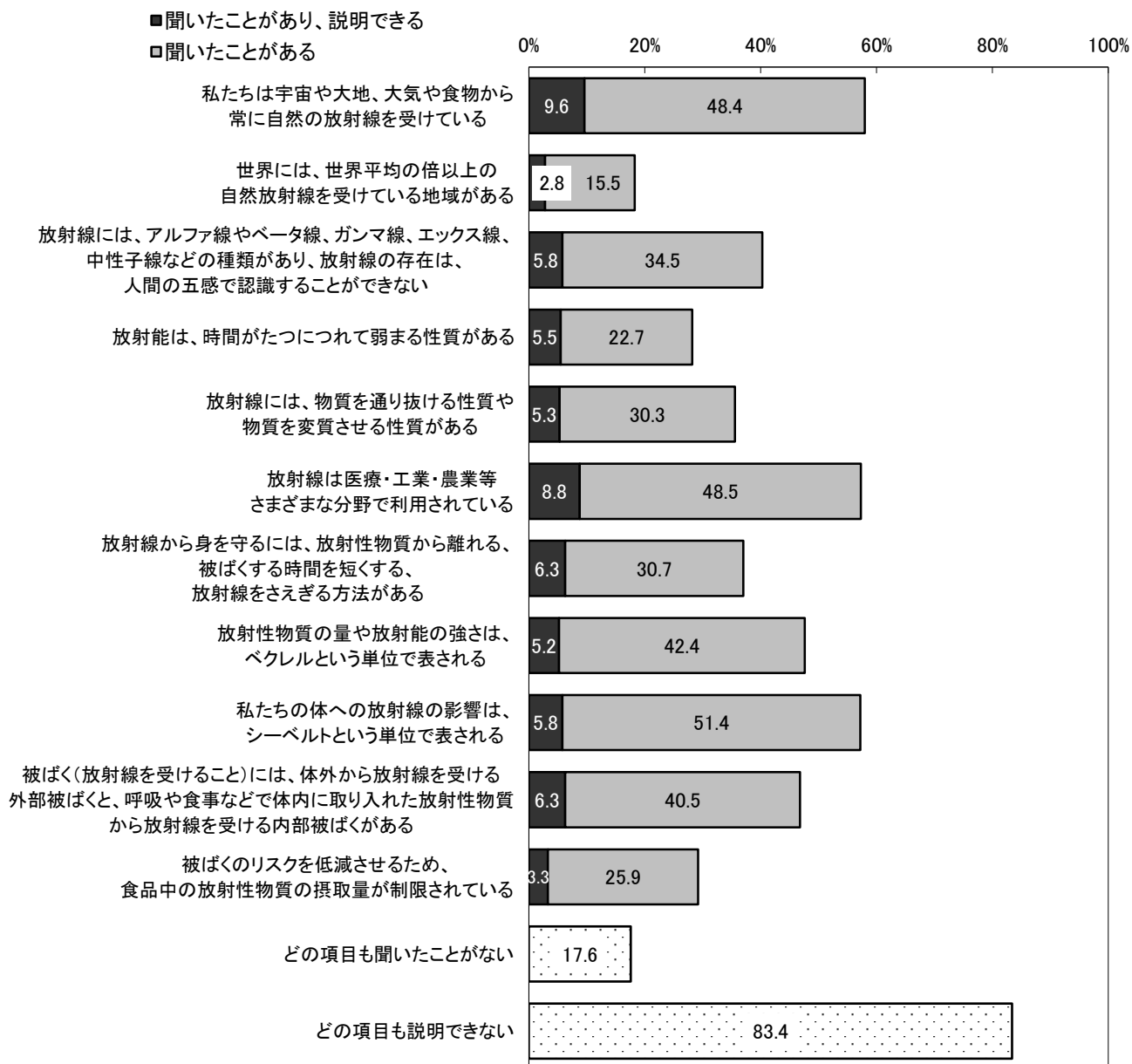
●放射線分野に関する情報保有量

放射線分野で認知度が高い項目は、「自然放射線を受けている」(聞いたことがある58.0%(以下同様))、「放射線は様々な分野で利用」(57.3%)、「シーベルトという単位」(57.2%)が挙げられる。全体としてエネルギー・環境分野より、やや認知度が低い。一方、認知度の低い項目として、「世界平均の倍以上の自然放射線を受ける地域の存在」(18.3%)が挙げられ、次いで、「放射能の時間減衰」(28.2%)、「食品中の放射性物質の摂取量制限」(29.2%)と続く。

問6-1.「放射線」の分野において、あなたが「聞いたことがあるもの」はどれですか。
あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

問6-2.「問6-1で選択した事柄」のうち、あなたが「他の人に説明できるもの」はどれですか。
あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

17年10月全体 N=1200



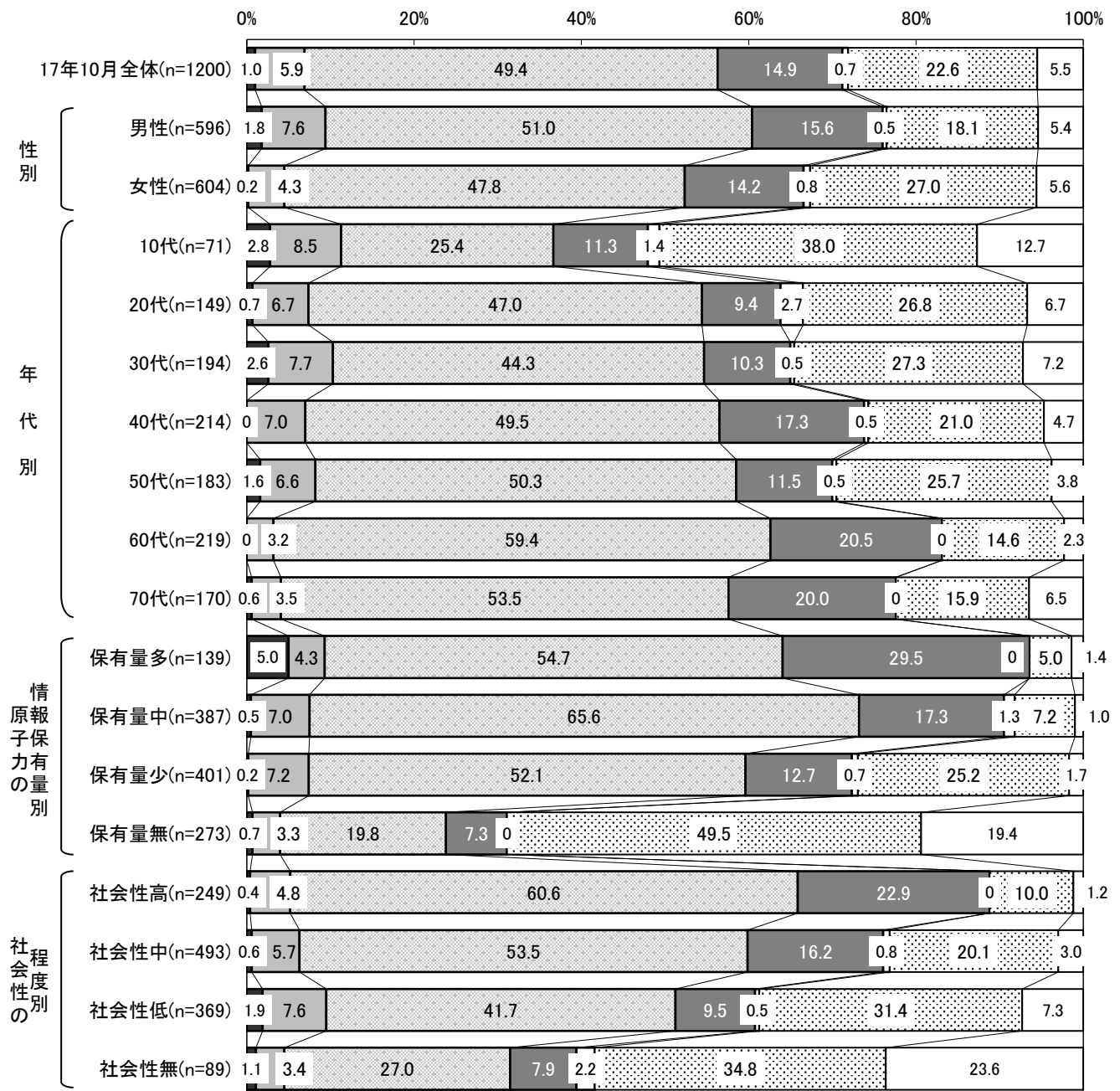
IV章 原子力・エネルギーに対する態度

●エネルギーに対する態度

原子力の利用に関して、もっとも大きい意見は「原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ(徐々に廃止)」(49.4%)。次いで、「原子力発電は即時、廃止すべきだ(即時廃止)」(14.9%)。原子力発電維持・増加の意見は1割を下回った。また、「わからない」の回答が22.6%。
 経年変化を見ると、15年度調査から原子力発電維持・増加の意見は減少しているようだ。
 年齢別を見ても大きな傾向は変わらないが、50代以下では「わからない」の回答が多い。また、60代以上では「即時廃止」の回答がやや多い。

問8-1. 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

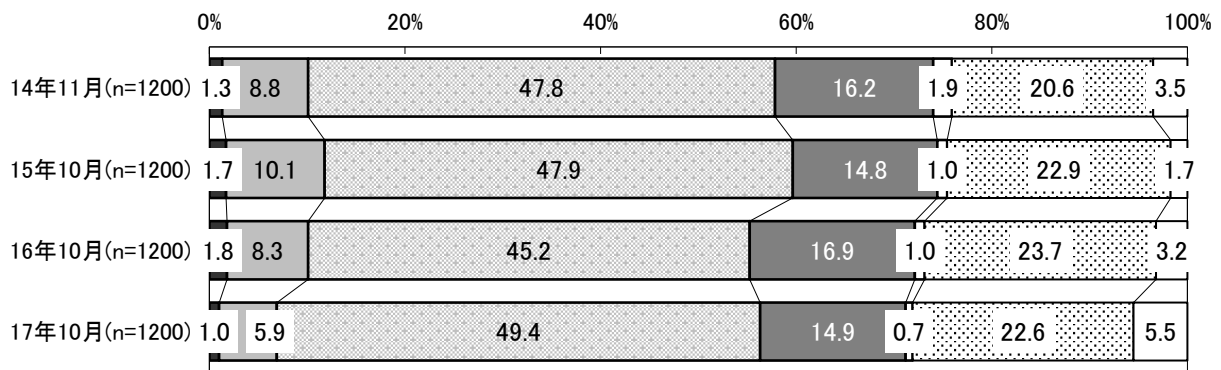
- 原子力発電を増やしていくべきだ □東日本大震災以前の原子力発電の状況を維持していくべきだ □原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ
- 原子力発電は即時、廃止すべきだ □その他 □わからない
- あてはまるものはない



<経年変化>

問8-1. 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

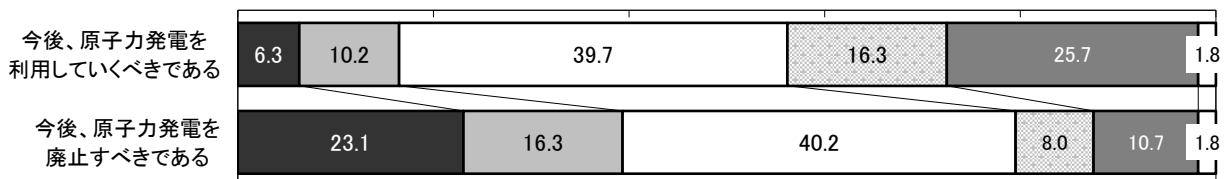
- 原子力発電を増やしていくべきだ □東日本大震災以前の原子力発電の状況を維持していくべきだ □原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ
- 原子力発電は即時、廃止すべきだ □その他 □わからない
- あてはまるものはない



<参考> 2013年12月 全体 N=1200

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

- そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらともいえない □どちらかといえばそう思わない ■そう思わない □無回答



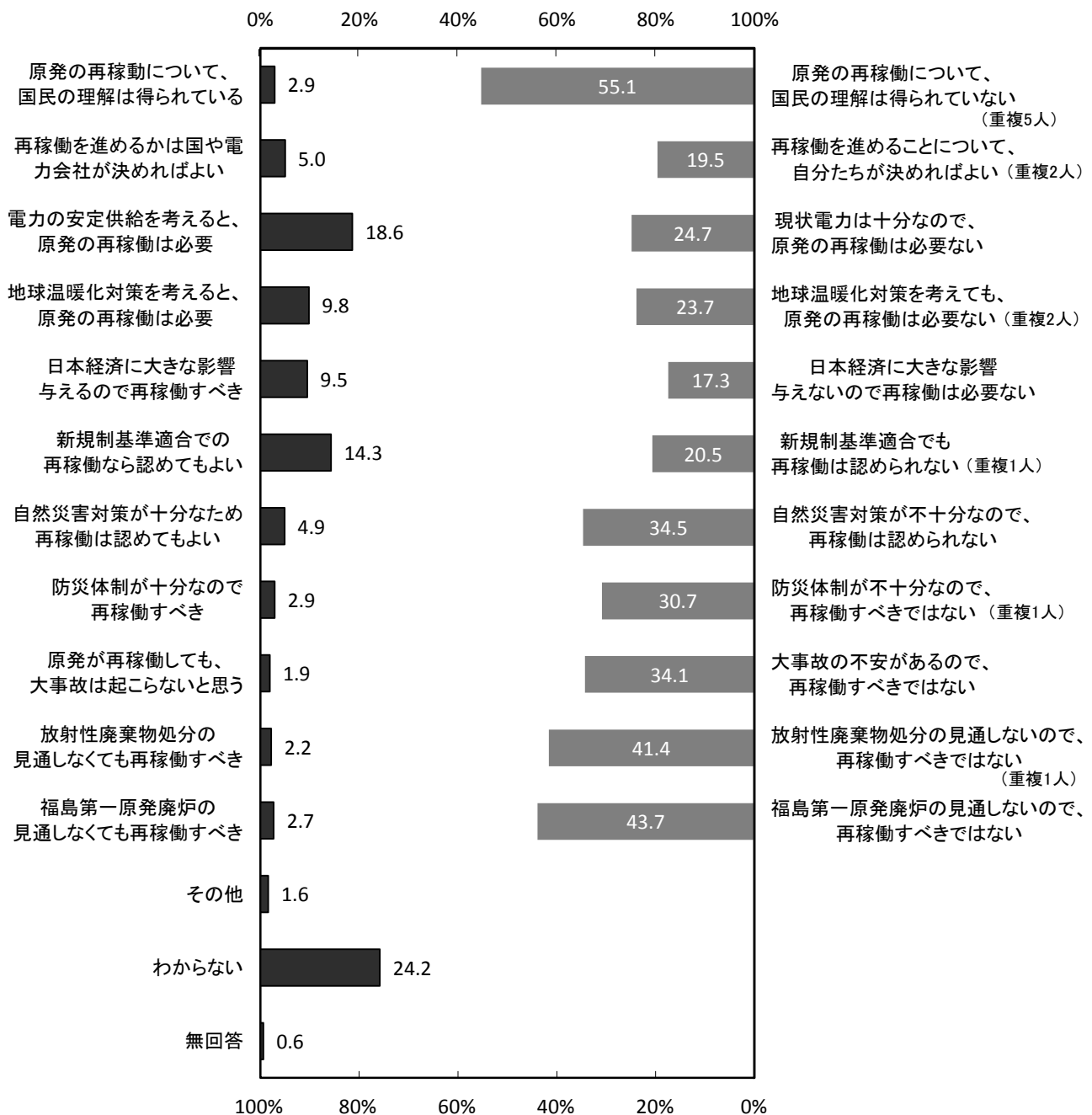
●エネルギーに対する態度

再稼働に関する意見として多く見られるのは、「再稼働について国民の理解は得られていない」(55.1%)、「福島原発廃炉の見通しないので再稼働すべきでない」(43.7%)、「放射性廃棄物処分の見通しないので再稼働すべきではない」(41.4%)。次いで、「自然災害対策不十分」(34.5%)、「大事故の不安」(34.1%)、「防災体制不十分」(30.7%)と続く。これらの項目は再稼働について否定的な意見である。

一方、再稼働について肯定的な意見の中で比較的多く見られる意見は、「電力安定供給のために再稼働必要」(18.6%)、「新規制基準適合での再稼働ならよい」(14.3%)であるが、どちらも対となる否定的な意見の回答割合よりは低い。

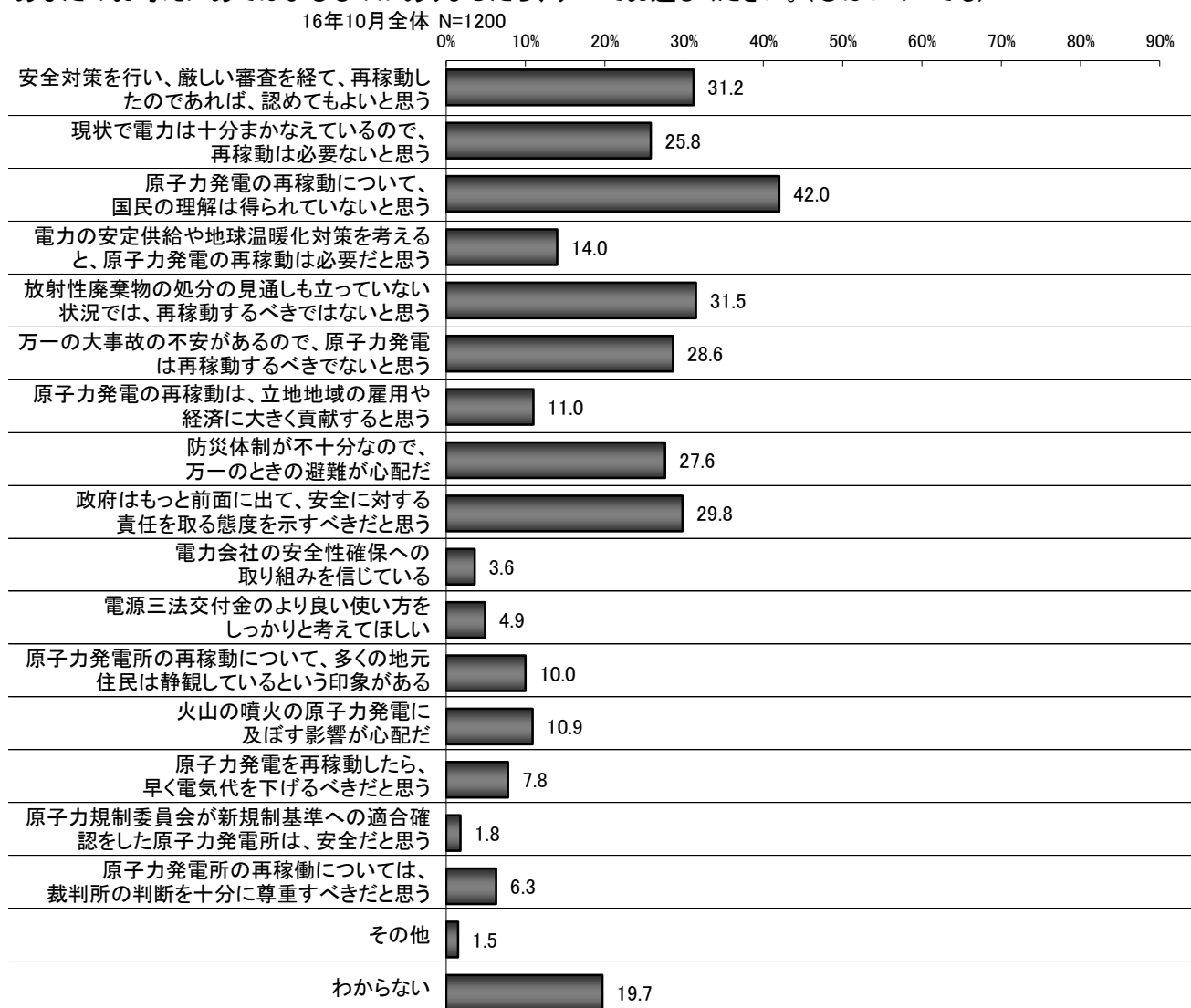
問8-2. 原子力規制委員会による新規制基準への適合確認を通過した原子力発電所は、地元自治体の了解を得て、再稼働されることとなります。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(〇はいくつでも)

17年10月全体 N=1200



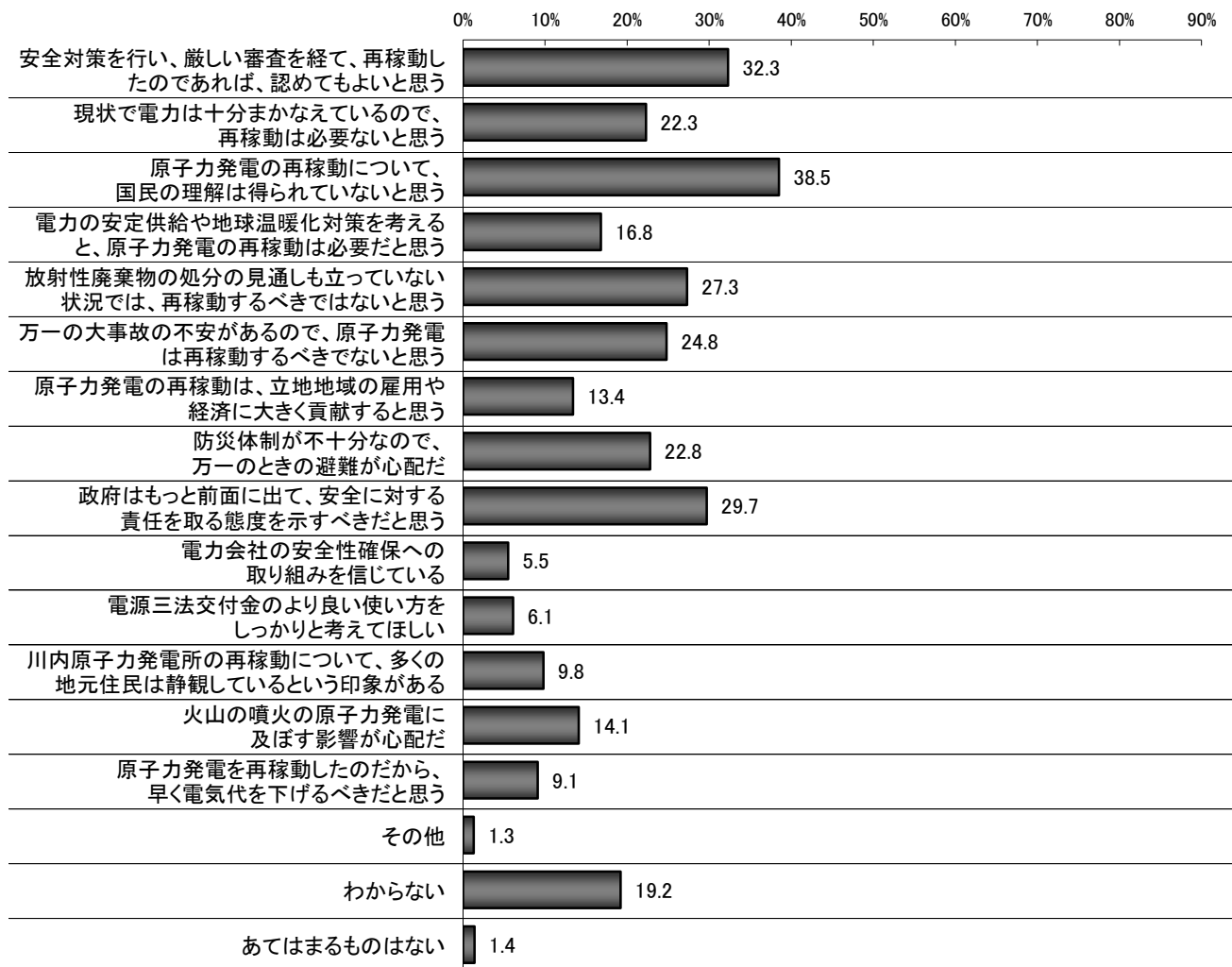
<参考> 2016年10月 N=1200

問. 原子力規制委員会による新規制基準への適合確認を通過した原子力発電所は、地元自治体の了解を得て、再稼働されることとなります。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(〇はいくつでも)



<参考> 2015年10月 N=1200

問. 九州電力(株)川内原子力発電所1号機は、原子力規制委員会の新規規制基準への適合確認を経て、2015年8月11日に再稼働しました。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(〇はいくつでも)



<2017年10月のクロス集計結果(1/2)>

問8-2. 原子力規制委員会による新規制基準への適合確認を通過した原子力発電所は、地元自治体の了解を得て、再稼働されることとなります。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(〇はいくつでも)

	全体	性別		年代別							
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	219	170	
原子力発電所の再稼働を進めることについて、国民の理解は得られている	2.9	3.9	2.0	5.6	1.3	3.1	1.4	2.7	2.7	5.3	
原子力発電所の再稼働を進めることについて、国民の理解は得られていない	55.1	58.2	52.0	26.8	47.0	51.0	52.8	62.3	66.2	59.4	
再稼働を進めるかどうかは、政策を実施してきた国や電力会社が決めればよい	5.0	6.5	3.5	4.2	8.7	5.2	4.7	4.9	3.2	4.7	
再稼働を進めることについては、電気を使用してきた自分たちが決めればよい	19.5	22.1	16.9	8.5	18.1	19.6	22.9	18.0	21.9	19.4	
電力の安定供給を考えると、原子力発電の再稼働は必要	18.6	24.2	13.1	15.5	26.2	20.1	20.6	16.4	13.7	17.6	
現状では電力は十分まかなえているので、原子力発電の再稼働は必要ない	24.7	26.3	23.0	8.5	16.8	19.6	23.4	26.2	32.9	33.5	
地球温暖化対策を考えると、原子力発電の再稼働は必要	9.8	13.9	5.8	5.6	10.1	9.8	9.3	10.4	9.6	11.8	
地球温暖化対策を考えても、原子力発電の再稼働は必要ない	23.7	24.3	23.0	11.3	13.4	16.5	22.9	22.4	34.2	34.7	
原子力発電を止めると、日本経済に大きな影響を与えるので、再稼働すべき	9.5	13.6	5.5	9.9	7.4	10.8	10.7	8.2	8.7	10.6	
原子力発電を止めても、日本経済に大きな影響を与えないので、再稼働する必要はない	17.3	20.3	14.4	7.0	12.1	11.9	14.5	21.3	25.1	21.8	
新規制基準への適合確認を経て再稼働したのであれば、認めてもよい	14.3	17.6	11.1	5.6	13.4	13.4	15.0	16.4	14.6	16.5	
新規制基準への適合確認を経たとしても、再稼働は認められない	20.5	23.2	17.9	11.3	12.8	15.5	21.0	18.0	33.3	22.4	
地震や津波などの自然災害への対策が十分に講じられているため、再稼働は認めてもよい	4.9	8.1	1.8	2.8	5.4	4.1	5.6	6.0	4.1	5.3	
地震や津波などの自然災害への対策が不十分なので、再稼働は認められない	34.5	35.2	33.8	22.5	24.8	33.0	33.6	32.2	45.2	39.4	
防災体制が十分に整備されているため、再稼働すべき	2.9	5.4	0.5	1.4	2.0	1.0	4.2	4.4	1.8	4.7	
防災体制が不十分なので、再稼働するべきでない	30.7	33.1	28.3	18.3	26.2	24.2	32.7	30.1	41.1	31.8	
原子力発電が再稼働しても、大事故は起こらないと思う	1.9	3.9	-	2.8	0.7	1.0	1.9	2.7	0.9	4.1	
大事故の不安があるので、原子力発電は再稼働するべきではない	34.1	34.7	33.4	19.7	22.1	27.3	36.0	34.4	49.8	35.3	
放射性廃棄物の処分の見通しが立っていない状況でも、再稼働するべき	2.2	4.0	0.3	4.2	-	2.6	1.4	3.3	2.7	1.8	
放射性廃棄物の処分の見通しが立っていない状況では、再稼働するべきではない	41.4	42.3	40.6	19.7	34.9	35.6	43.0	39.3	56.2	44.1	
福島第一原子力発電所の廃炉の見通しが立っていない状況でも、再稼働するべき	2.7	4.4	1.0	4.2	2.0	3.6	0.9	2.7	2.7	3.5	
福島第一原子力発電所の廃炉の見通しが立っていない状況では、再稼働するべきではない	43.7	44.6	42.7	21.1	33.6	32.5	43.0	45.4	62.1	50.0	
その他	1.6	1.3	1.8	-	0.7	1.5	1.4	2.7	1.8	1.8	
わからない	24.2	19.1	29.1	56.3	32.2	28.9	22.9	21.3	11.0	20.0	
無回答	0.6	0.7	0.5	-	-	1.0	1.4	0.5	0.5	-	(%)

<2017年10月のクロス集計結果(2/2)>

問8-2. 原子力規制委員会による新規制基準への適合確認を通過した原子力発電所は、地元自治体の了解を得て、再稼働されることになります。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(〇はいくつでも)

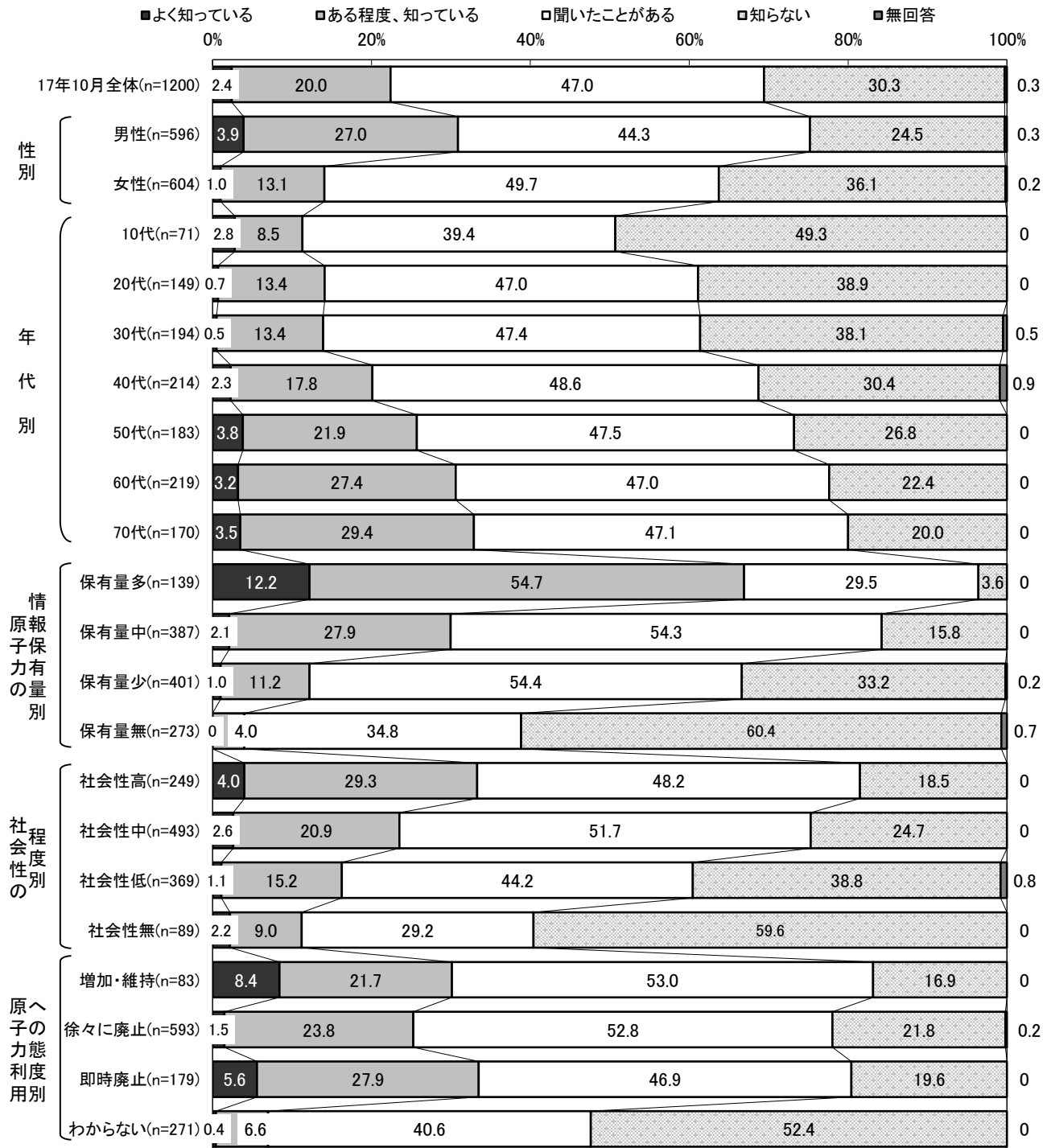
	全体	原子力の情報保有量別				社会性の程度別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	249	493	369	89	83	593	179	271
原子力発電所の再稼働を進めることについて、国民の理解は得られている	2.9	5.8	4.9	1.2	1.1	4.8	3.4	1.4	1.1	13.3	2.4	3.9	1.1
原子力発電所の再稼働を進めることについて、国民の理解は得られていない	55.1	72.7	73.6	55.1	19.8	75.5	61.5	40.9	21.3	42.2	67.5	84.9	22.9
再稼働を進めるかどうかは、政策を実施してきた国や電力会社が決めればよい	5.0	7.2	6.5	4.7	2.2	7.2	4.3	4.9	3.4	22.9	4.9	-	3.7
再稼働を進めることについては、電気を使用してきた自分たちが決めればよい	19.5	30.9	28.2	18.0	3.7	33.3	21.9	10.6	4.5	13.3	24.1	30.7	6.6
電力の安定供給を考えると、原子力発電の再稼働は必要	18.6	30.9	24.0	18.2	5.1	21.3	20.1	17.9	5.6	66.3	23.4	1.7	7.4
現状では電力は十分まかなえているので、原子力発電の再稼働は必要ない	24.7	38.1	35.1	20.9	8.4	39.0	26.2	16.0	12.4	2.4	27.7	60.3	4.4
地球温暖化対策を考えると、原子力発電の再稼働は必要	9.8	20.1	14.5	7.2	1.8	12.4	8.9	10.0	6.7	41.0	11.5	2.2	3.0
地球温暖化対策を考えても、原子力発電の再稼働は必要ない	23.7	44.6	33.3	18.2	7.3	42.6	24.9	13.3	6.7	2.4	26.0	63.1	4.4
原子力発電を止めると、日本経済に大きな影響を与えるので、再稼働すべき	9.5	20.9	12.1	7.2	3.3	12.4	9.3	8.7	5.6	41.0	10.5	1.7	3.7
原子力発電を止めても、日本経済に大きな影響を与えないので、再稼働する必要はない	17.3	38.8	26.1	10.7	3.7	30.5	18.5	10.0	4.5	-	19.9	47.5	1.1
新規制基準への適合確認を経て再稼働したのであれば、認めてもよい	14.3	28.1	17.3	13.5	4.4	21.3	16.4	8.9	5.6	44.6	17.0	1.7	9.6
新規制基準への適合確認を経たとしても、再稼働は認められない	20.5	43.9	29.2	15.0	4.4	39.4	20.7	10.8	6.7	-	21.8	59.8	2.2
地震や津波などの自然災害への対策が十分に講じられているため、再稼働は認めてもよい	4.9	10.8	5.4	4.7	1.5	6.0	4.3	5.7	2.2	25.3	4.7	0.6	2.2
地震や津波などの自然災害への対策が不十分なので、再稼働は認められない	34.5	51.1	46.5	32.2	12.5	54.6	37.5	22.8	10.1	7.2	40.6	76.0	9.6
防災体制が十分に整備されているため、再稼働すべき	2.9	8.6	2.6	2.7	0.7	4.0	2.6	2.7	2.2	13.3	3.2	-	1.1
防災体制が不十分なので、再稼働するべきでない	30.7	49.6	42.9	27.2	8.8	48.6	34.1	19.0	10.1	9.6	35.2	69.8	7.7
原子力発電が再稼働しても、大事故は起こらないと思う	1.9	6.5	1.8	1.5	0.4	4.0	1.4	1.1	2.2	10.8	1.9	0.6	0.4
大事故の不安があるので、原子力発電は再稼働するべきではない	34.1	55.4	48.6	30.4	8.1	55.8	36.3	21.4	13.5	6.0	40.8	79.3	5.9
放射性廃棄物の処分の見通しが立っていない状況でも、再稼働するべき	2.2	7.2	2.1	1.2	1.1	3.6	2.0	1.4	2.2	16.9	1.3	1.1	0.4
放射性廃棄物の処分の見通しが立っていない状況では、再稼働するべきではない	41.4	61.2	57.9	40.4	9.5	64.7	46.9	25.5	12.4	9.6	52.3	73.7	14.4
福島第一原子力発電所の廃炉の見通しが立っていない状況でも、再稼働するべき	2.7	8.6	2.6	1.7	1.1	4.0	2.2	1.9	4.5	18.1	1.5	0.6	1.1
福島第一原子力発電所の廃炉の見通しが立っていない状況では、再稼働するべきではない	43.7	61.2	59.2	43.9	12.5	64.7	47.5	31.2	15.7	14.5	54.5	79.9	15.1
その他	1.6	3.6	2.3	1.0	0.4	2.8	1.2	0.8	3.4	2.4	1.7	2.8	0.7
わからない	24.2	5.0	8.3	19.0	64.1	6.8	19.1	33.3	62.9	10.8	9.8	3.9	62.0
無回答	0.6	-	0.3	0.7	1.1	-	0.4	1.4	-	1.2	0.2	0.6	0.4

(%)

●エネルギーに対する態度(再稼働)

問いに対して、「聞いたことがある」まで含めて7割弱が回答。
年齢が高いほど、情報保有量が多いほど、また、社会性が高いほど、知っている割合が高い。

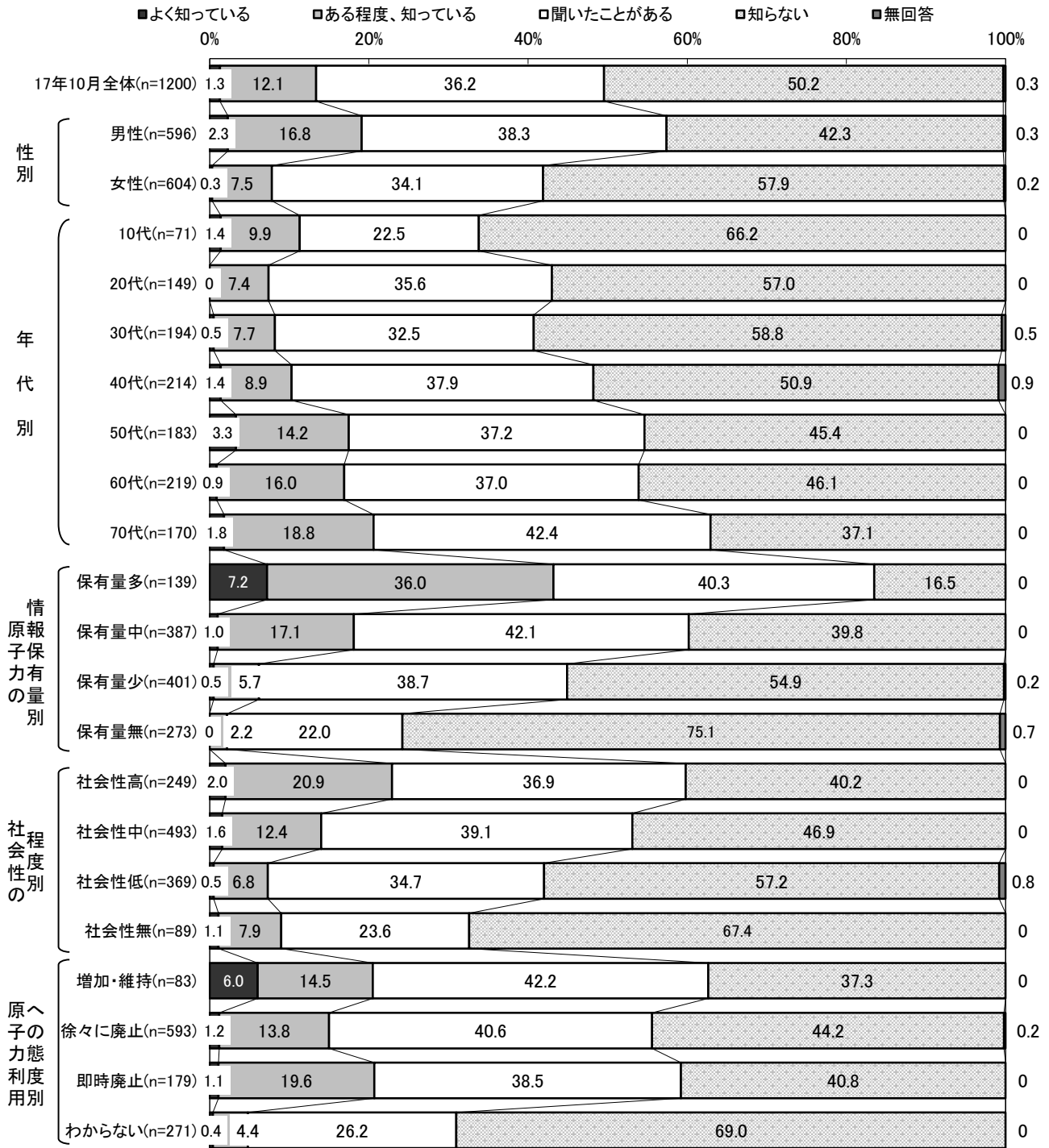
問9-1. 福島第一原子力発電所での事故の教訓などを踏まえ、原子力発電所の規制基準は、安全性の面が見直されています。原子力発電所が再稼働するためには、その規制基準に適合する必要がありますが、電力会社は、各原子力発電所で安全対策工事を行っています。あなたは、そのことをどの程度ご存知ですか。(○は1つだけ)



●エネルギーに対する態度(再稼働)

問9-1に比べると、「知らない」という回答者が多く、5割に達する。
年齢や情報保有量、社会性での傾向は9-1と同様。

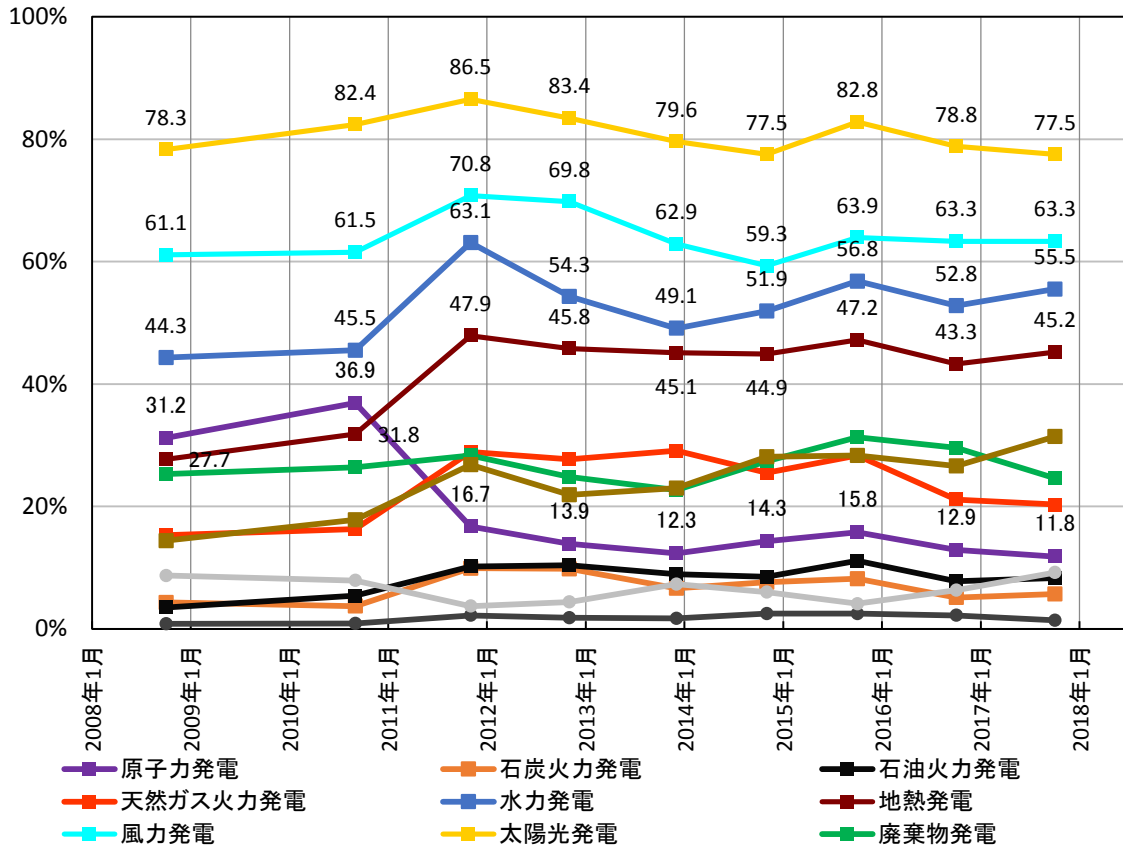
問9-2. 電力会社は、原子力発電所の安全性を向上させるため、規制基準への適合性にとられない自主的・継続的な安全対策を行っています。
あなたは、そのことをどの程度ご存知ですか。(○は1つだけ)



●エネルギーに対する態度

今後わが国が利用・活用していくべきと思うエネルギーとしては、「太陽光発電」(77.5%)、「風力発電」(63.3%)、「水力発電」(55.5%)、「地熱発電」(45.2%)と続く。前回と大きな変化はない。一方、石炭火力、石油火力は経年的にも低いポイントである。天然ガス火力は、震災後に増加したが、昨年から低くなっているように見える。原子力発電も福島事故後から低いポイントであり、この傾向は維持されている。

問7. 今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。以下にあげているエネルギーの中から、お選びください。(○はいくつでも)



	08年10月	10年9月	11年11月	12年11月	13年12月	14年11月	15年10月	16年10月	17年10月
原子力発電	31.2	36.9	16.7	13.9	12.3	14.3	15.8	12.9	11.8
石炭火力発電	4.3	3.7	9.9	9.8	6.6	7.6	8.2	5.1	5.7
石油火力発電	3.5	5.4	10.2	10.4	8.9	8.5	11.1	7.8	8.3
天然ガス火力発電	15.3	16.3	28.9	27.7	29.1	25.5	28.3	21.1	20.3
水力発電	44.3	45.5	63.1	54.3	49.1	51.9	56.8	52.8	55.5
地熱発電	27.7	31.8	47.9	45.8	45.1	44.9	47.2	43.3	45.2
風力発電	61.1	61.5	70.8	69.8	62.9	59.3	63.9	63.3	63.3
太陽光発電	78.3	82.4	86.5	83.4	79.6	77.5	82.8	78.8	77.5
廃棄物発電	25.3	26.4	28.3	24.8	22.7	27.4	31.3	29.6	24.6
バイオマス発電	14.4	17.8	26.8	21.9	23.0	28.1	28.3	26.6	31.4
その他	0.8	0.9	2.2	1.8	1.7	2.5	2.5	2.2	1.4
あてはまるものはない	8.7	7.9	3.7	4.4	7.3	6.0	4.1	6.3	9.2

* 08年10月までの質問文は「今後わが国は～」、10年9月から「今後日本は～」に変更

<2017年10月のクロス集計結果>

	全体	性別		年代別						
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	219	170
原子力発電	11.8	15.9	7.6	5.6	14.1	16.5	13.6	9.8	8.2	11.2
石炭火力発電	5.7	7.2	4.1	5.6	7.4	5.2	6.1	7.1	3.7	5.3
石油火力発電	8.3	9.4	7.3	4.2	10.1	9.3	8.4	9.8	5.9	8.8
天然ガス火力発電	20.3	24.2	16.4	8.5	16.8	16.0	17.8	21.3	25.6	28.2
水力発電	55.5	56.0	55.0	52.1	55.7	47.4	51.4	54.1	62.6	63.5
地熱発電	45.2	49.8	40.6	40.8	45.6	44.8	41.6	41.0	55.7	42.4
風力発電	63.3	63.3	63.4	54.9	59.1	60.3	61.2	61.7	72.1	67.1
太陽光発電	77.5	75.2	79.8	67.6	71.8	77.3	75.7	78.7	85.4	77.6
廃棄物発電	24.6	25.7	23.5	16.9	25.5	27.3	23.8	27.9	26.5	18.8
バイオマス発電	31.4	36.2	26.7	33.8	31.5	27.3	33.2	33.9	35.6	24.7
その他	1.4	1.8	1.0	4.2	0.7	0.5	1.9	1.1	1.4	1.8
あてはまるものはない	9.2	8.4	9.9	22.5	13.4	11.3	8.4	7.1	2.7	8.8

(%)

	全体	原子力の情報保有量別				社会性の程度別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	249	493	369	89	83	593	179	271
原子力発電	11.8	16.5	15.8	10.0	6.2	10.8	12.4	12.2	9.0	63.9	10.3	0.6	7.7
石炭火力発電	5.7	7.2	8.5	4.7	2.2	7.2	5.3	6.0	2.2	14.5	4.0	10.6	4.1
石油火力発電	8.3	12.2	12.4	6.5	3.3	10.4	8.9	6.8	5.6	22.9	7.9	12.8	3.3
天然ガス火力発電	20.3	38.1	29.2	16.2	4.4	27.7	21.7	16.3	7.9	31.3	24.6	22.3	9.6
水力発電	55.5	72.7	69.0	57.6	24.5	71.9	59.2	45.5	30.3	56.6	66.4	69.8	31.7
地熱発電	45.2	71.2	61.0	40.1	16.8	59.4	50.3	34.7	20.2	48.2	56.3	59.2	19.6
風力発電	63.3	71.2	74.9	66.3	38.5	78.7	67.7	53.7	36.0	60.2	73.4	78.8	43.9
太陽光発電	77.5	85.6	85.3	82.0	55.7	88.0	82.8	70.7	47.2	69.9	87.2	88.3	64.9
廃棄物発電	24.6	39.6	31.3	20.9	12.8	36.9	23.9	20.1	12.4	30.1	30.4	30.2	11.8
バイオマス発電	31.4	64.0	42.9	25.7	7.0	47.0	33.7	23.6	7.9	30.1	39.3	45.3	11.1
その他	1.4	3.6	1.3	0.5	1.8	1.2	1.6	1.4	1.1	-	1.0	1.1	2.6
あてはまるものはない	9.2	0.7	0.8	4.5	32.2	1.6	5.3	13.0	36.0	1.2	1.7	1.7	18.1

(%)

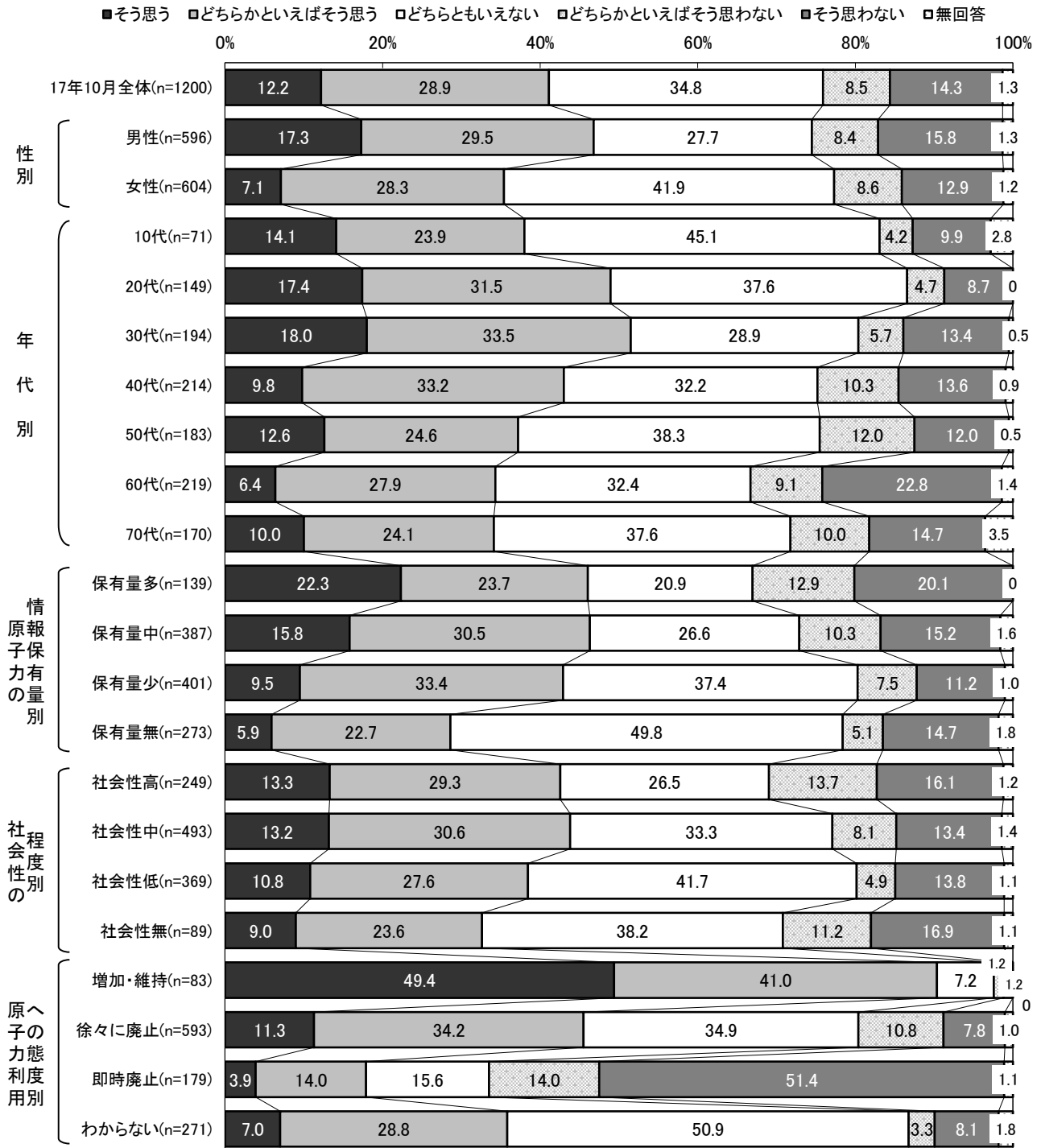
V章 原子力・放射線・エネルギーについての ベネフィット認知

●原子力発電のベネフィット認知

「原子力発電は役に立つ」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は41.1%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は22.8%。14年以降でみると、多少の変動はあるものの、大きな傾向の変化はないと思われる。
 年代別にみると、若年層で肯定的意見が多く、高齢層では、若年層に比べて否定的意見がやや多くなる。また、情報保有量が多くなるにつれ、「どちらともいえない」という回答が少なくなる。

問10. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

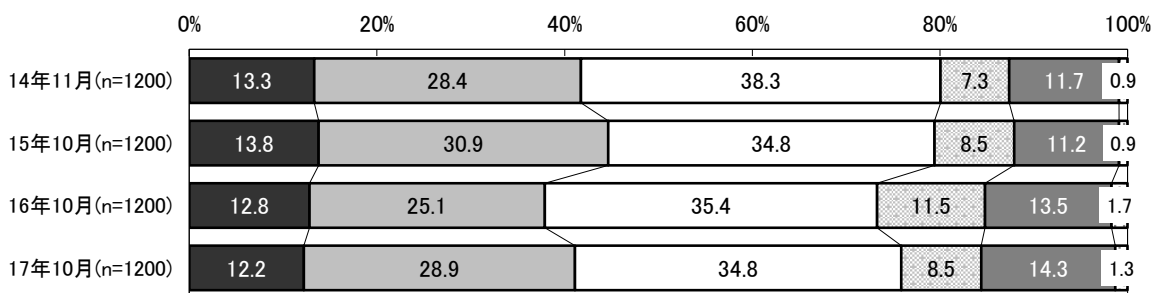
【a】原子力発電は役に立つ



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
【原子力発電は役に立つ】

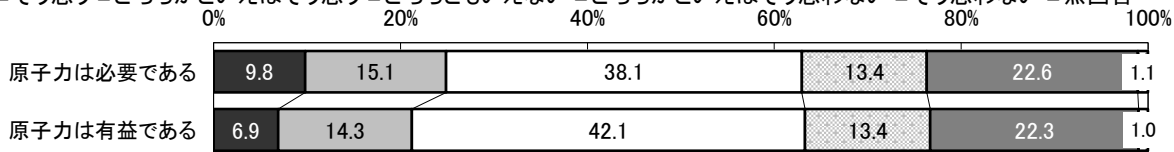
■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
2013年12月 全体N=1200

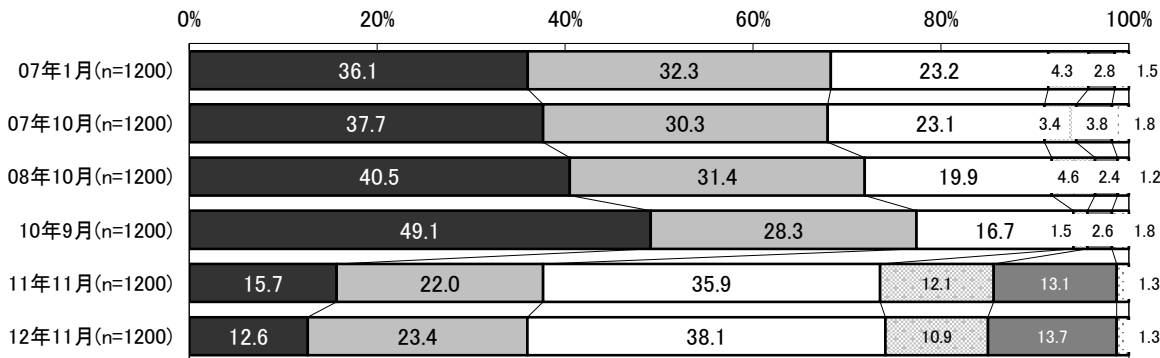
■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



<参考>

問. あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
【原子力発電】

■ 必要である □ どちらかといえば必要である □ どちらともいえない □ どちらかといえば必要でない ■ 必要でない □ 無回答



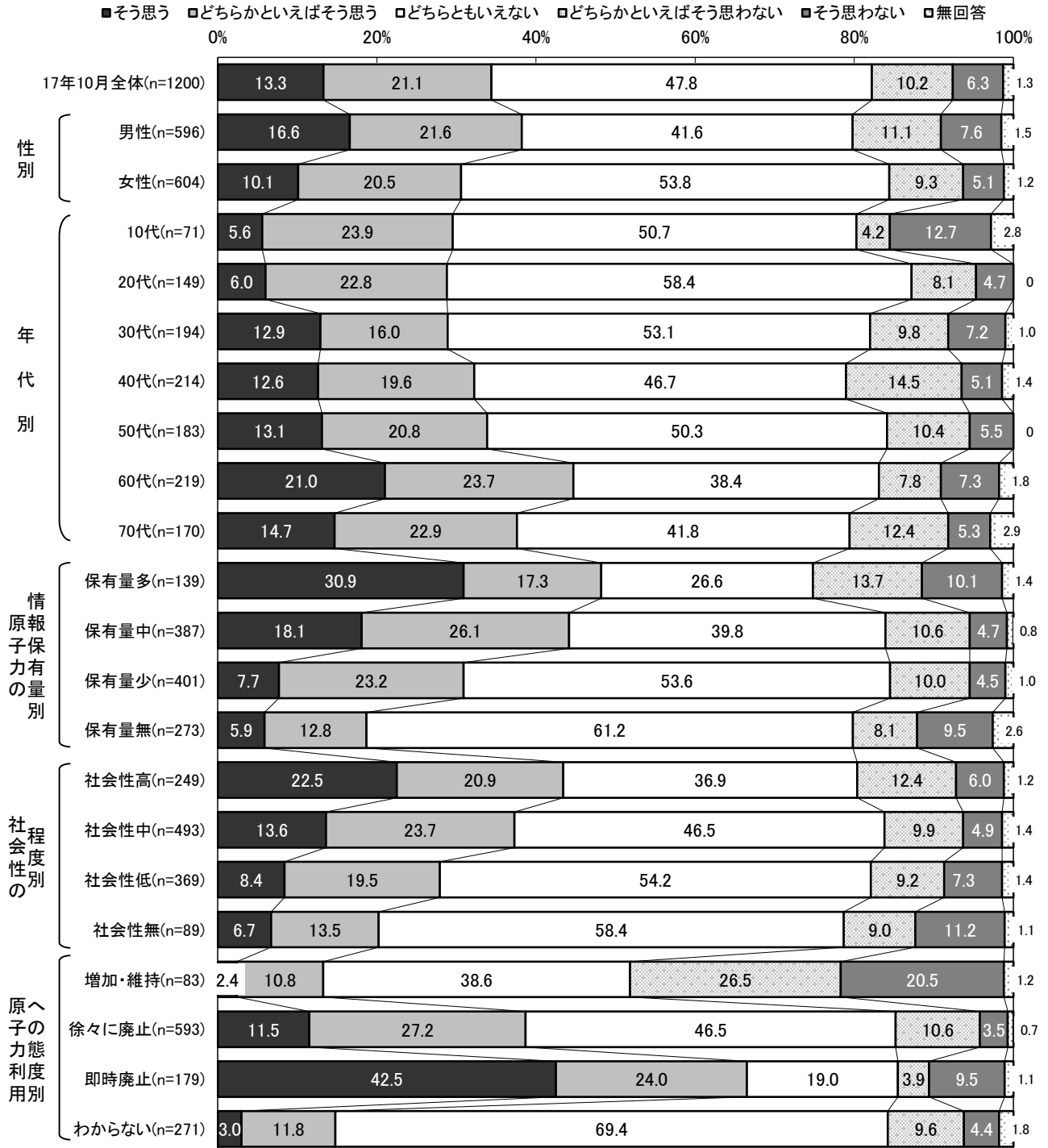
* 07年1月の選択肢は「そう思う／どちらかといえばそう思う」、07年10月からは「必要である／どちらかといえば必要である」

●原子力発電のベネフィット認知(経済性)

「原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる」に肯定的な回答(原子力に否定的な意見)「**「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」**」は34.4%。一方、否定的な回答「**「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」**」の割合は16.5%。(原子力の必要性に関しては、逆転項目であることに注意する。)**「どちらともいえない」**という回答が4割を大きく超える。前回と大きな変化はない。60代が突出して肯定的意見が多い。情報保有量多・社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問10. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【c) 原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる】



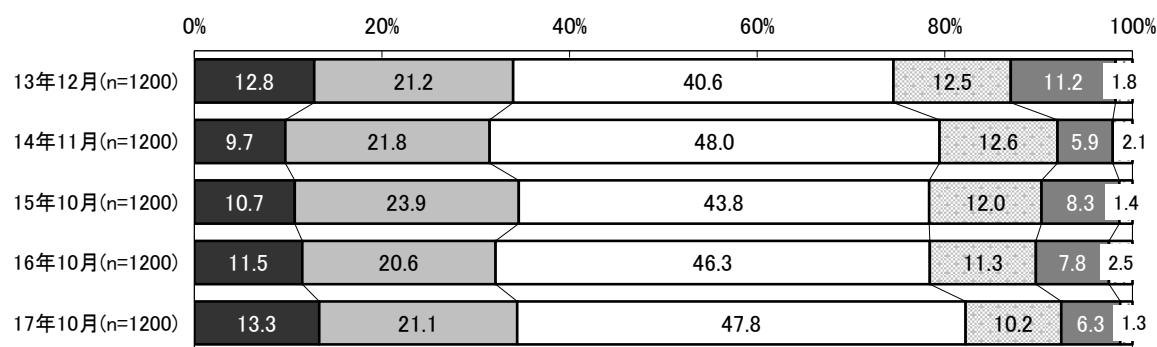
<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる】

*13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

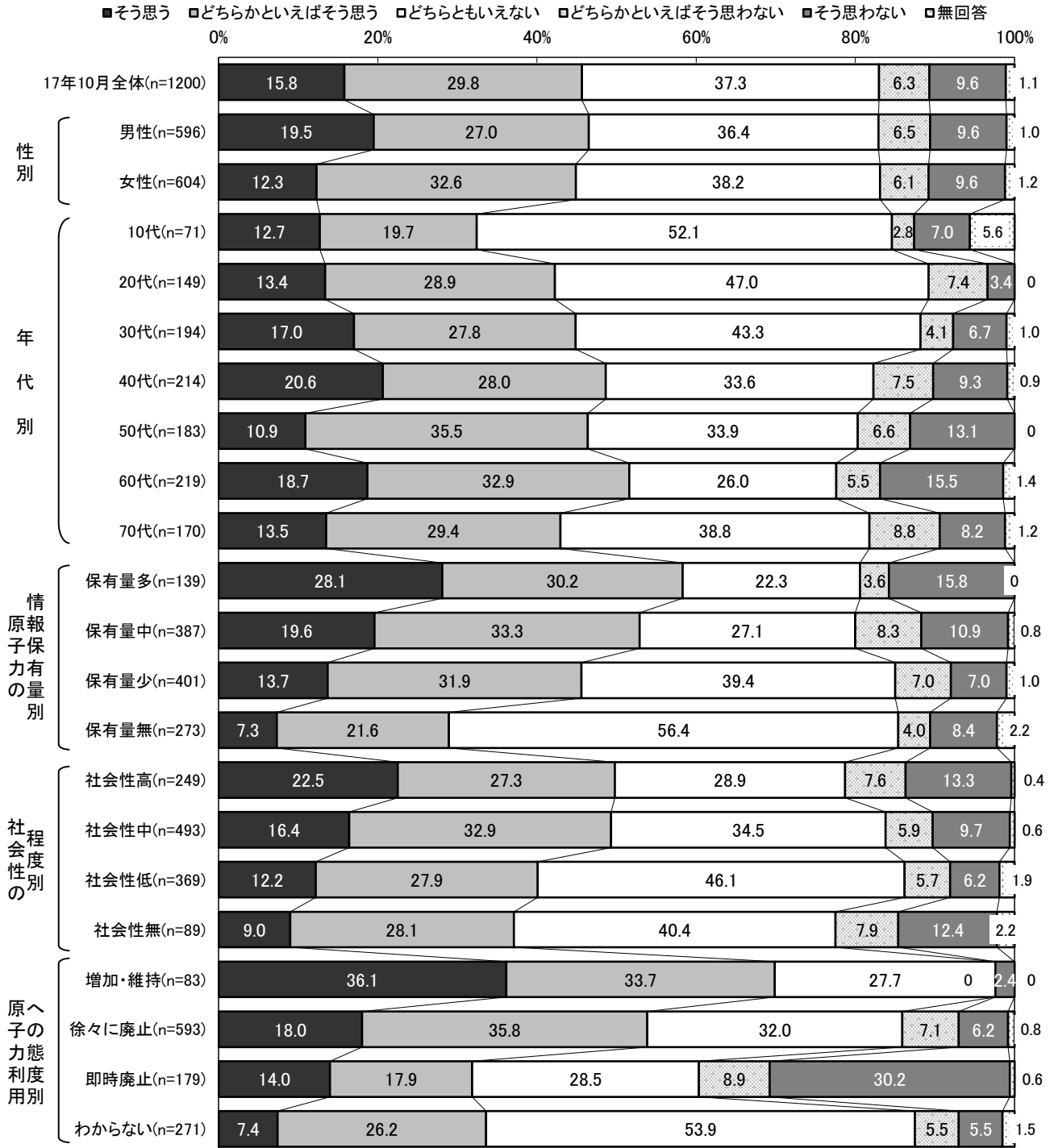


●原子力発電のベネフィット認知(経済性)

「原子力発電がないと、電気料金が上がる」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は45.6%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は15.9%。14年度調査から前回まで、肯定的意見が減少(否定的意見は増加)していたが、今回は増加(減少)した。年代別にみると、60代をピークに高齢層で否定的意見が多い。情報保有量多・社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問10. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【d】原子力発電がないと、電気料金が上がる

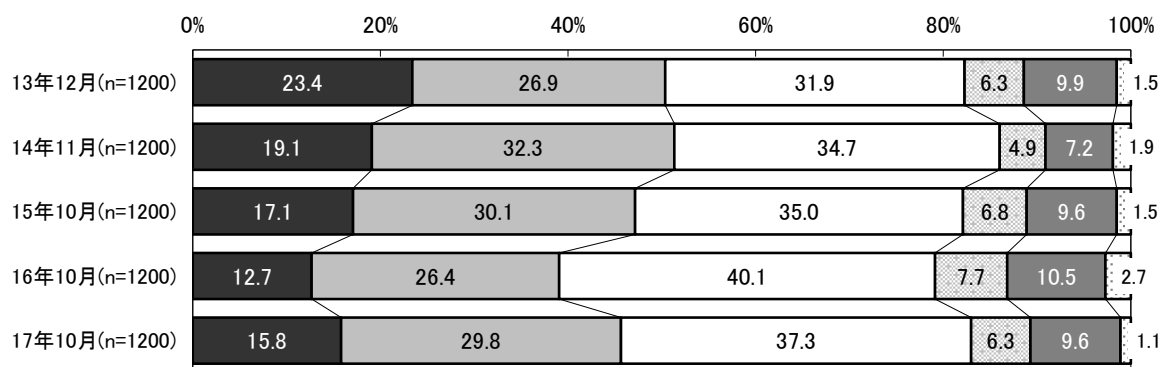


<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 【原子力発電がないと、電気料金が上がる】

*13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答

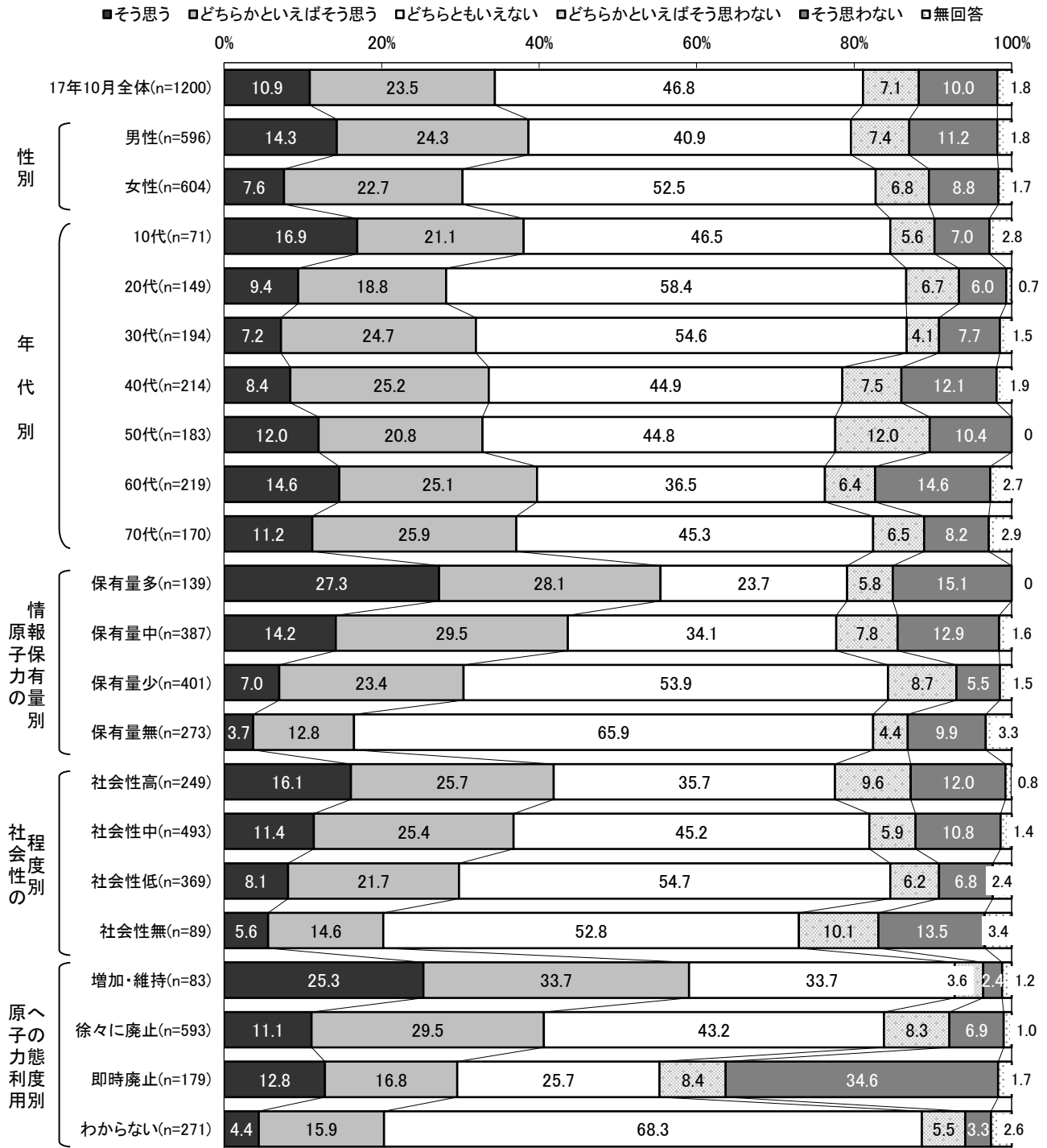


●原子力発電のベネフィット認知(地球温暖化)

「原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないのので、地球温暖化防止に有効である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は34.4%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は17.1%。「どちらともいえない」という回答が5割弱。前回と大きな変化はない。
 年代別にみると、60代以上で、肯定的意見が高い。また、否定的意見が比較的に見られるのは40代~60代。
 情報保有量多・社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問10. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【e】原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないのので、地球温暖化防止に有効である】



<経年変化>

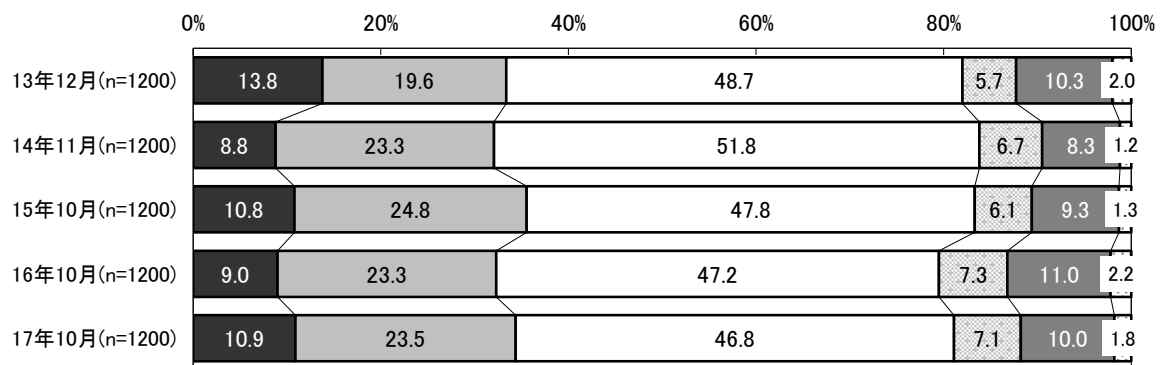
問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。

あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないので、地球温暖化防止に有効である】

*13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答

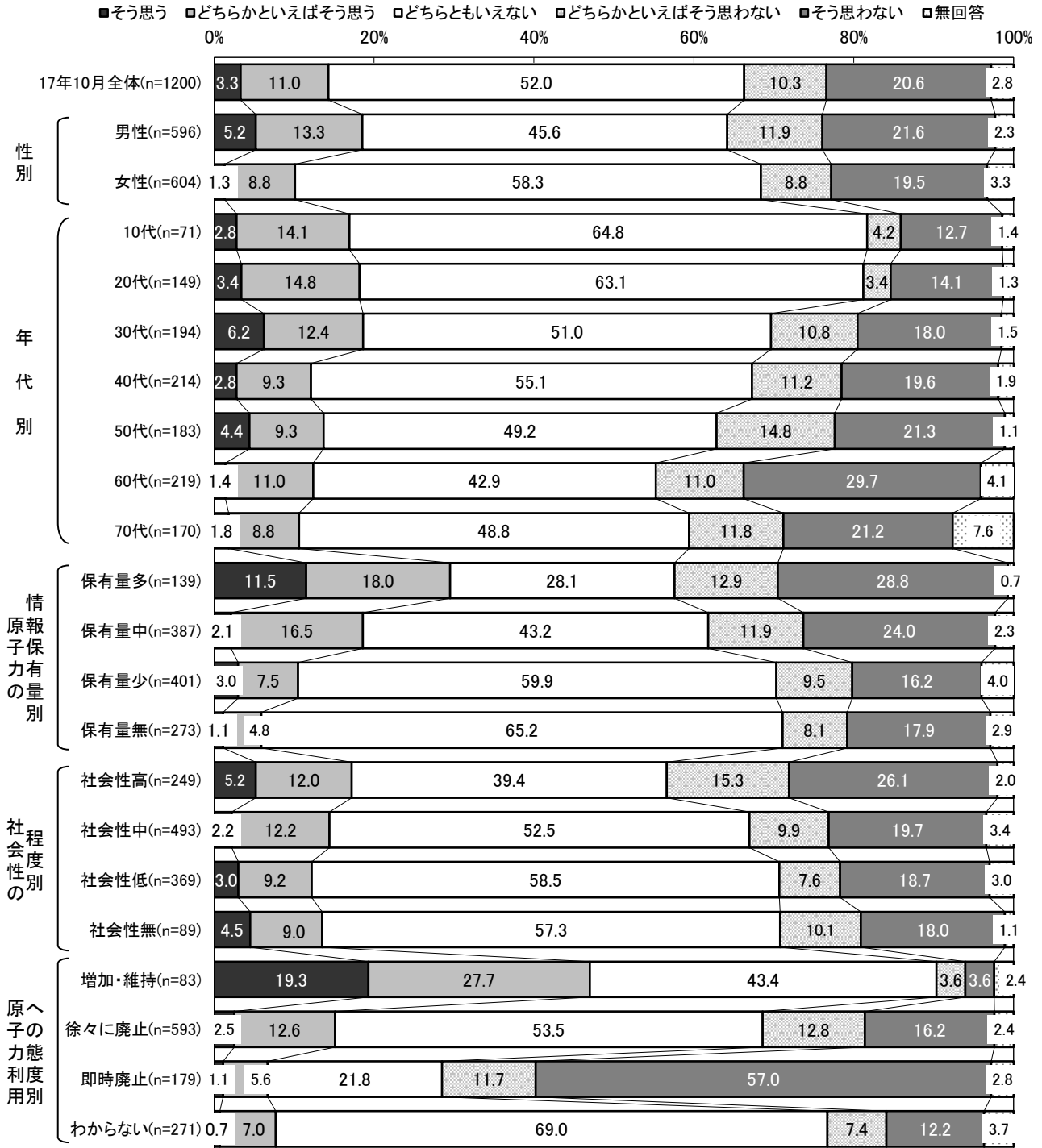


●核燃料サイクル・プルサーマルのベネフィット認知

「核燃料サイクル、プルサーマルは役に立つ」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は14.3%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は30.9%。「どちらともいえない」との回答が5割以上。15年調査以来、肯定的意見が減少しているようだ。年代で見ると、60代をピークに高年齢層で否定的意見が高い。情報保有量多で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問10. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

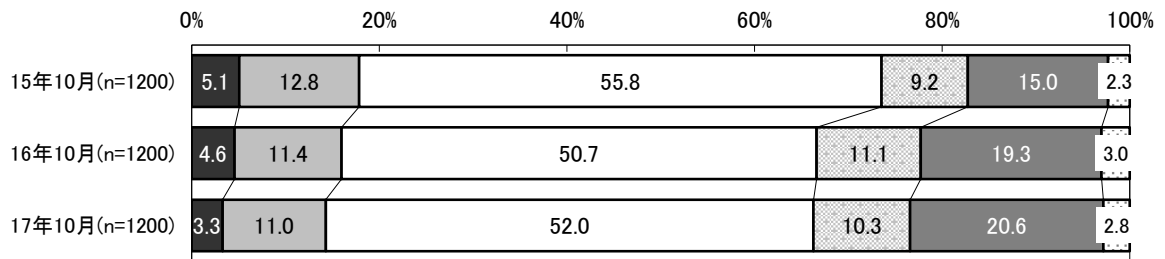
【b) 核燃料サイクル、プルサーマルは役に立つ】



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 【核燃料サイクル、プルサーマルは役に立つ】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



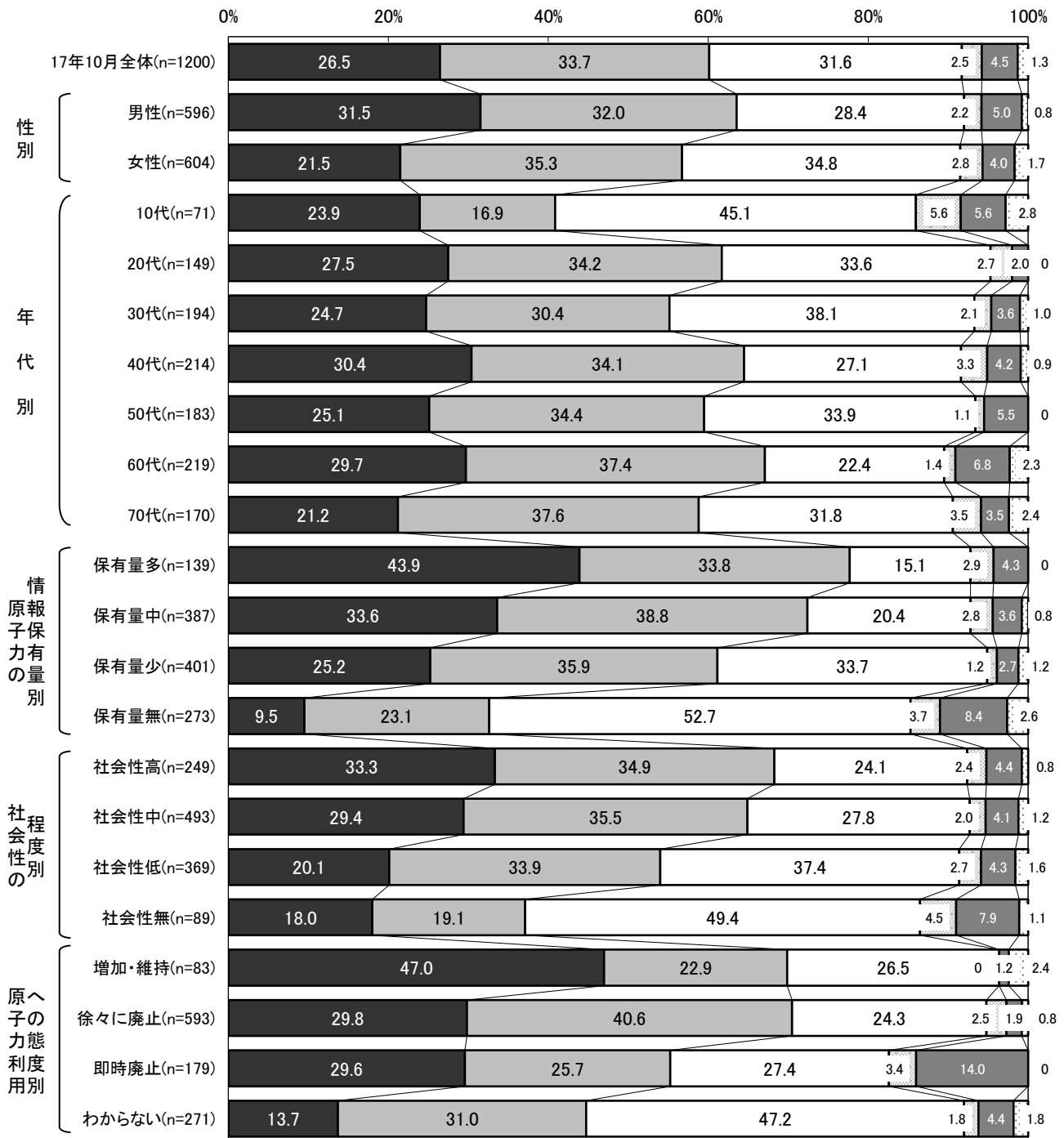
●放射線利用のベネフィット認知

「医療、工業、農業等における放射線利用は必要である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は60.2%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は7.0%。前回と大きな変化はない。
年代では、10代以外で肯定的意見が高い。情報保有量多・社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問10. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【1】医療、工業、農業等における放射線利用は必要である】

■そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらともいえない □どちらかといえばそう思わない ■そう思わない □無回答



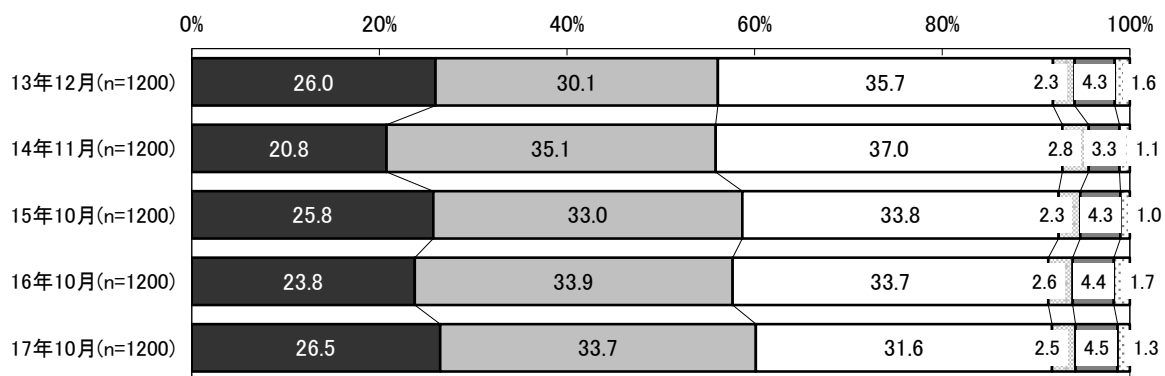
<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【医療、工業、農業等における放射線利用は必要である】

*13年12月は、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。」と聴取。

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



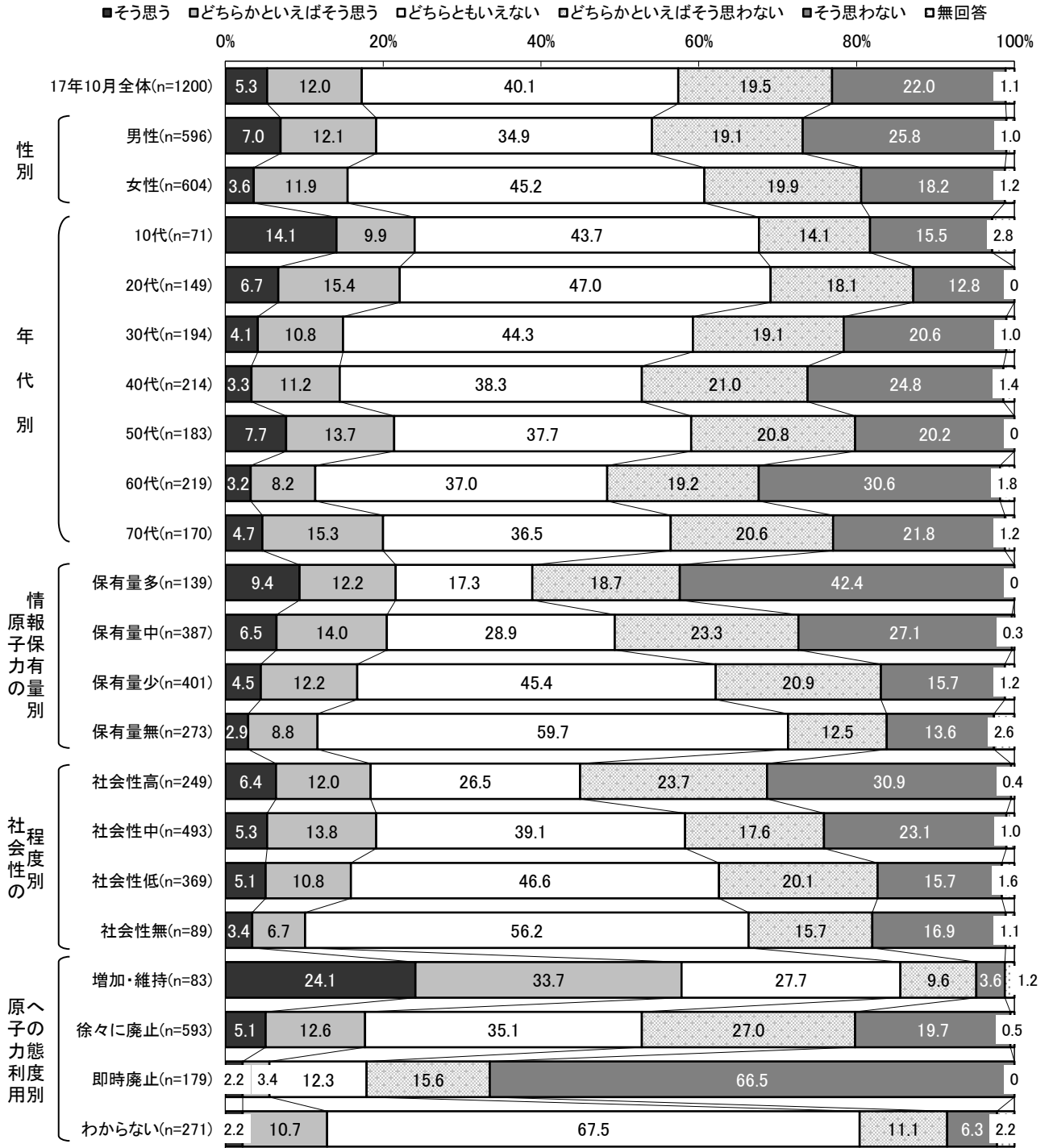
VI章 原子力・放射線・エネルギーについての リスク認知

●原子力発電のリスク認知

「今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は17.3%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は41.5%。14年調査から継続して否定的意見が徐々に増加している(安全確保が難しいと考える層が増えている)。
 10代・20代・50代では肯定的意見が比較的多く、否定的意見が比較的低い。情報保有量多・社会性高では、肯定的意見・否定的意見がともに多く見られ、保有量・社会性が減少するとともに「どちらともいえない」という回答が増加する。

問10. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

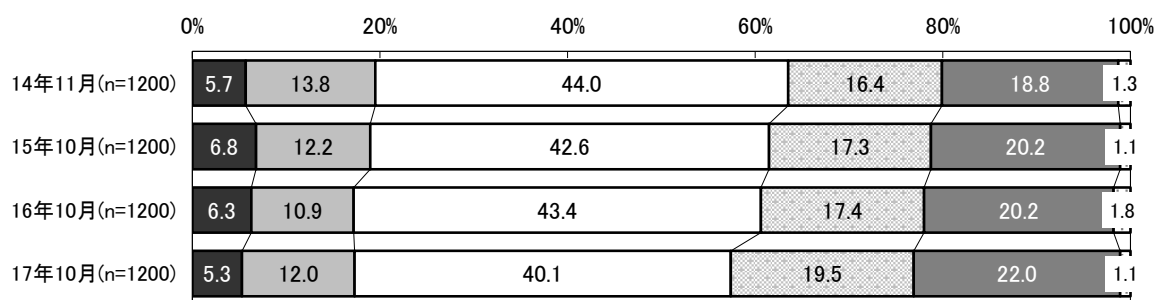
【f) 今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う】



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 【今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答

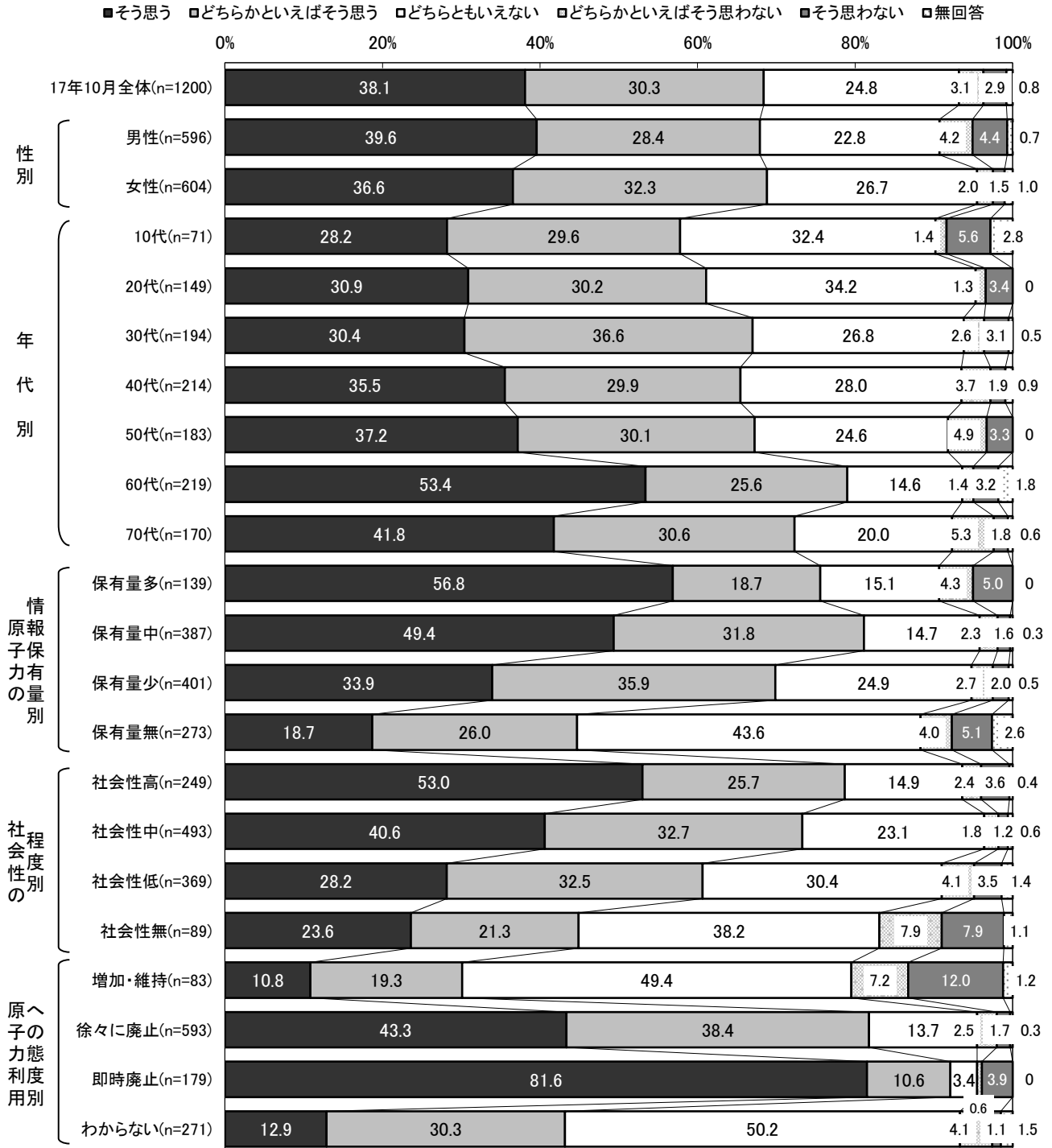


●原子力発電のリスク認知

「わが国のような地震国に原子力発電所は危険である」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は68.4%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は6.0%。前回と比べて、若干肯定的意見が増加した(地震国では危険だという認識が増加した)。
年代別に見ると、60代で特に強い肯定的意見が見られる。情報保有量別にみると、保有量中の層で肯定的意見が最大となっている。また、社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問10. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

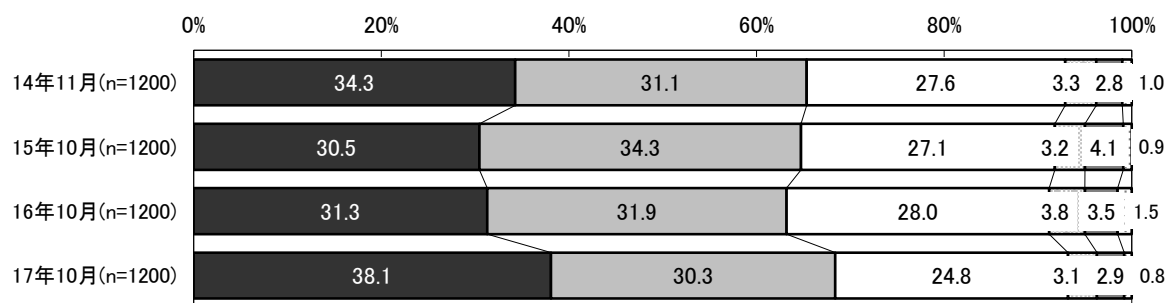
【g】わが国のような地震国に原子力発電所は危険である



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 【わが国のような地震国に原子力発電所は危険である】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



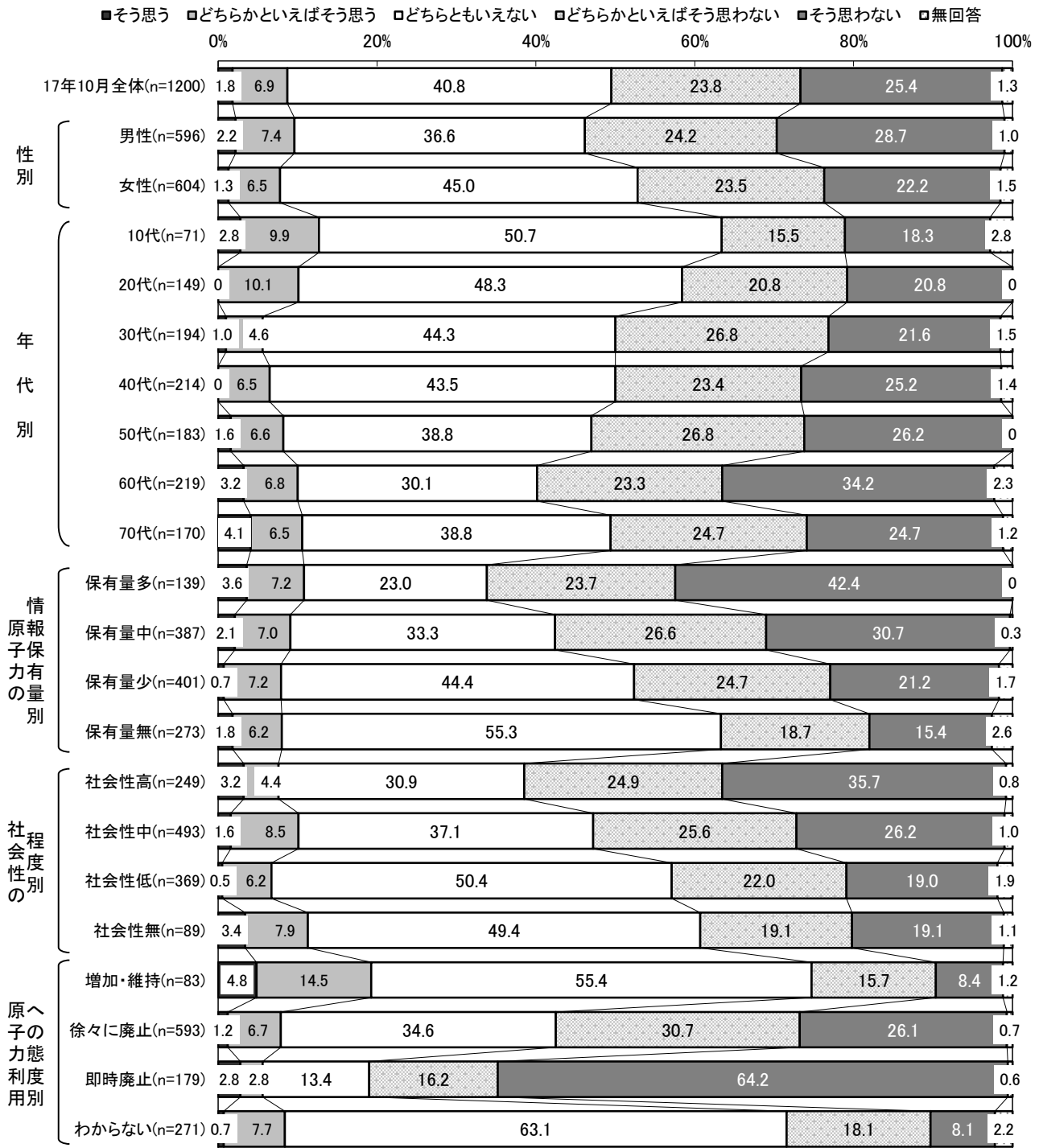
●原子力発電のリスク認知

「原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は8.7%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は49.2%。前回までと大きな変化はない。

年齢別に見ると、60代をピークに、30代以上で否定的意見が多い。また、情報保有量多・社会性高で否定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、否定的意見が減少する。

問10. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

【h) 原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う】



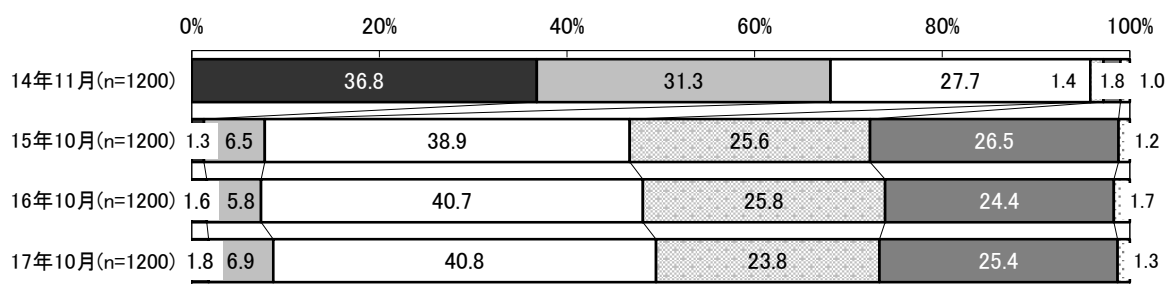
<参考>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

14年11月【原子力発電所の周辺地域の防災体制は十分でないと思う】

15年10月、16年10月【原子力発電所の周辺地域の防災体制は整備されていると思う】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答

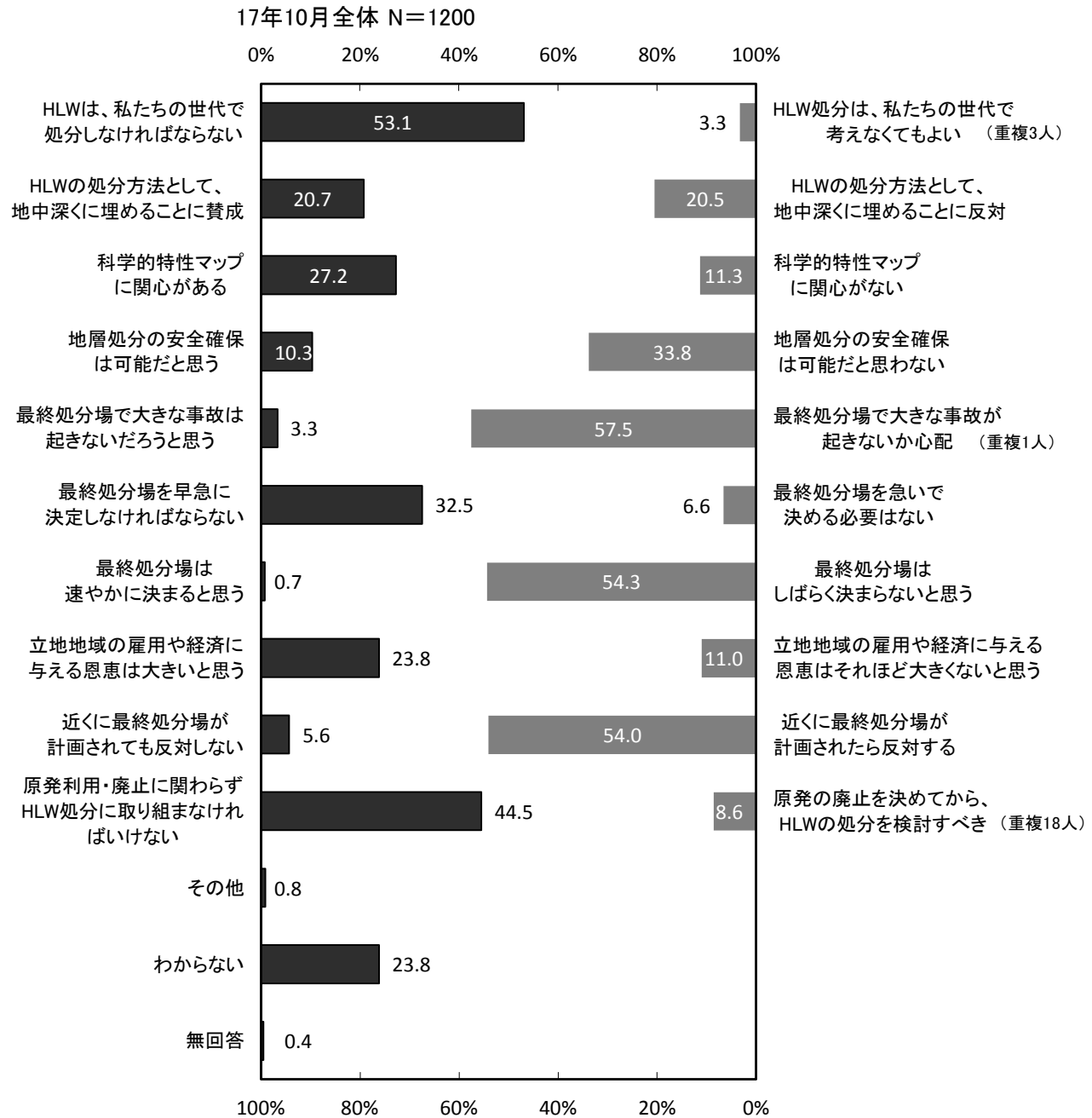


●原子力発電のリスク認知(放射性廃棄物処分)

高レベル放射性廃棄物(HLW)処分に関する意見として多く見られるのは、「大きな事故が心配」(57.5%)、「処分場はしばらく決まらない」(54.3%)、「近くに最終処分場が計画されたら反対」(54.0%)。ここまではHLW処分に否定的な意見だが、それに続いて、「HLWは自分たちの代で処分」(53.1%)、「原子力発電の利用・廃止に関わらずHLW処分は取り組まなければならない」(44.5%)のような肯定的な意見も、主要な意見の中に見られる。

地層処分については、「賛成」が2割、「反対」が2割で、ほぼ同数。また、地層処分の安全確保については、「可能」が1割に対して、「可能でない」が3割強。地層処分についての納得感はまだ醸成されていないように思われる。科学的特性マップについては、聞いたことがない回答者が約9割(問5)であったが、関心がある回答者は、ない人に比べるとやや多い。

問11. 高レベル放射性廃棄物の処分について、あなたは、以下のような意見をどのように感じますか。あなたのご意見と近いものをお選びください。(○はいくつでも)



※HLW: 高レベル放射性廃棄物

<2017年10月のクロス集計結果(1/2)>

問11. 高レベル放射性廃棄物の処分について、あなたは、以下のような意見をどのように感じますか。あなたのご意見と近いものをお選びください。(○はいくつでも)

	全体	性別		年代別						
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	219	170
高レベル放射性廃棄物は、私たちの世代で処分しなければならない	53.1	55.5	50.7	35.2	42.3	42.3	53.7	60.7	63.0	60.6
高レベル放射性廃棄物の処分は、私たちの世代で考えなくてもよい	3.3	5.7	1.0	2.8	4.0	3.6	2.3	2.2	3.7	4.7
高レベル放射性廃棄物の処分方法として、地中深くに埋めることに賛成だ	20.7	26.3	15.1	7.0	14.8	16.0	20.1	24.0	25.1	28.2
高レベル放射性廃棄物の処分方法として、地中深くに埋めることに反対だ	20.5	23.2	17.9	18.3	21.5	19.1	22.4	18.0	23.3	18.8
国が示した処分地の科学的特性マップに関心がある	27.2	29.2	25.2	7.0	21.5	18.6	30.4	29.5	33.8	35.3
国が示した処分地の科学的特性マップに関心がない	11.3	15.1	7.5	19.7	11.4	11.9	8.4	10.4	13.2	8.8
高レベル放射性廃棄物の地層処分の安全を確保することは可能だと思う	10.3	14.6	6.0	8.5	8.1	4.1	7.5	18.6	11.4	12.9
高レベル放射性廃棄物の地層処分の安全を確保することは可能だと思わない	33.8	36.1	31.6	16.9	24.8	29.4	35.0	33.3	45.2	38.2
最終処分場で大きな事故が起きないか心配だ	57.5	57.4	57.6	31.0	51.7	55.7	63.1	60.1	63.9	57.6
最終処分場で大きな事故は起きないだろうと思う	3.3	5.7	1.0	2.8	1.3	1.5	2.3	4.9	3.7	6.5
高レベル放射性廃棄物の最終処分場を早急に決定しなければならない	32.5	37.6	27.5	18.3	24.8	21.6	35.5	35.5	41.1	39.4
高レベル放射性廃棄物の最終処分場を急いで決める必要はない	6.6	9.1	4.1	7.0	8.7	4.1	5.6	7.7	7.3	6.5
高レベル放射性廃棄物の最終処分場は、しばらく決まらなと思う	54.3	58.7	50.0	26.8	49.7	42.3	58.9	59.6	64.8	58.8
高レベル放射性廃棄物の最終処分場は、速やかに決まると思う	0.7	1.2	0.2	-	-	0.5	0.5	1.1	0.9	1.2
処分事業が立地地域の雇用や経済に与える恩恵は大きいと思う	23.8	29.4	18.2	7.0	22.1	19.1	26.6	26.8	29.2	23.5
処分事業が立地地域の雇用や経済に与える恩恵はそれほど大きくないと思う	11.0	12.8	9.3	11.3	6.0	8.2	9.8	11.5	16.4	12.4
自分の住む地域または近隣地域に最終処分場が計画されたら、反対すると思う	54.0	55.4	52.6	26.8	48.3	47.9	54.7	55.7	67.1	57.6
自分の住む地域または近隣地域に最終処分場が計画されても、反対はしないと思う	5.6	8.6	2.6	7.0	1.3	4.1	2.8	9.3	6.4	8.8
原子力発電の廃止を決めてから、高レベル放射性廃棄物の処分を検討するべきだと思う	8.6	8.9	8.3	7.0	4.7	8.2	8.9	7.1	14.6	6.5
原子力発電の利用・廃止に関わらず、高レベル放射性廃棄物の処分に取り組みなければいけない	44.5	49.5	39.6	18.3	33.6	32.0	45.3	53.0	53.4	57.6
その他	0.8	1.0	0.5	1.4	-	0.5	0.5	1.6	0.5	1.2
わからない	23.8	20.5	27.2	52.1	33.6	29.9	22.0	17.5	13.7	18.8
無回答	0.4	0.5	0.3	1.4	-	-	0.9	-	0.5	0.6

(%)

<2017年10月のクロス集計結果(2/2)>

問11. 高レベル放射性廃棄物の処分について、あなたは、以下のような意見をどのように感じますか。あなたのご意見と近いものをお選びください。(〇はいくつでも)

	全体	原子力の情報保有量別				社会性の程度別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	249	493	369	89	83	593	179	271
高レベル放射性廃棄物は、私たちの世代で処分しなければならない	53.1	70.5	65.1	55.9	23.1	71.1	60.4	38.5	22.5	48.2	63.7	73.7	26.2
高レベル放射性廃棄物の処分は、私たちの世代で考えなくてもよい	3.3	9.4	3.4	3.2	0.4	5.6	2.6	3.0	2.2	9.6	3.0	3.9	1.8
高レベル放射性廃棄物の処分方法として、地中深くに埋めることに賛成だ	20.7	39.6	27.4	17.0	7.0	30.5	22.5	15.2	5.6	41.0	24.6	19.0	9.6
高レベル放射性廃棄物の処分方法として、地中深くに埋めることに反対だ	20.5	29.5	28.2	19.5	6.6	30.1	22.9	13.0	11.2	12.0	24.8	38.5	5.5
国が示した処分地の科学的特性マップに関心がある	27.2	55.4	38.2	21.4	5.5	49.4	31.2	11.9	5.6	20.5	34.9	42.5	7.0
国が示した処分地の科学的特性マップに関心がない	11.3	18.0	16.5	8.2	4.8	14.5	12.2	8.9	6.7	13.3	13.8	14.0	4.8
高レベル放射性廃棄物の地層処分の安全を確保することは可能だと思う	10.3	24.5	14.7	6.5	2.2	14.9	11.2	7.0	5.6	34.9	11.1	9.5	3.7
高レベル放射性廃棄物の地層処分の安全を確保することは可能だと思わない	33.8	51.8	48.3	30.7	8.8	55.8	35.9	21.4	12.4	19.3	42.7	59.8	8.1
最終処分場で大きな事故が起きないか心配だ	57.5	75.5	71.6	58.9	26.4	76.7	65.3	41.7	25.8	43.4	69.5	79.3	31.0
最終処分場で大きな事故は起きないだろうと思う	3.3	11.5	3.1	2.0	1.5	4.8	3.7	2.4	1.1	10.8	3.7	1.7	1.8
高レベル放射性廃棄物の最終処分場を早急に決定しなければならない	32.5	60.4	43.7	26.2	11.7	48.6	38.1	19.5	10.1	34.9	39.8	46.4	11.4
高レベル放射性廃棄物の最終処分場を急いで決める必要はない	6.6	12.2	9.8	5.0	1.5	9.6	6.1	5.7	4.5	9.6	7.8	8.9	2.6
高レベル放射性廃棄物の最終処分場は、しばらく決まらなと思う	54.3	87.8	75.7	47.6	16.8	78.7	62.3	35.5	20.2	53.0	69.1	73.2	18.5
高レベル放射性廃棄物の最終処分場は、速やかに決まらと思う	0.7	0.7	0.3	1.5	-	0.8	0.6	0.5	1.1	-	0.7	1.1	0.7
処分事業が立地地域の雇用や経済に与える恩恵は大きいと思う	23.8	40.3	34.1	19.2	7.3	40.2	25.6	14.6	5.6	34.9	28.8	29.1	9.2
処分事業が立地地域の雇用や経済に与える恩恵はそれほど大きくないと思う	11.0	27.3	13.4	8.2	3.3	18.1	13.2	4.6	5.6	9.6	12.5	20.1	3.3
自分の住む地域または近隣地域に最終処分場が計画されたら、反対すると思う	54.0	67.6	72.4	53.4	22.0	73.1	61.5	39.0	21.3	33.7	66.6	75.4	28.0
自分の住む地域または近隣地域に最終処分場が計画されても、反対はしないと思う	5.6	16.5	5.9	4.0	1.8	8.4	6.1	3.5	3.4	20.5	6.2	3.9	1.5
原子力発電の廃止を決めてから、高レベル放射性廃棄物の処分を検討するべきだと思う	8.6	12.2	11.1	7.7	4.4	11.2	9.7	5.7	6.7	6.0	8.8	17.3	3.7
原子力発電の利用・廃止に関わらず、高レベル放射性廃棄物の処分に取り組まなければならない	44.5	75.5	63.3	37.2	12.8	68.3	49.3	29.0	15.7	37.3	58.2	60.9	13.7
その他	0.8	3.6	0.5	0.2	0.4	2.4	0.2	-	2.2	3.6	0.2	2.2	-
わからない	23.8	4.3	8.3	21.4	59.3	7.2	17.2	34.4	62.9	15.7	11.1	6.7	54.2
無回答	0.4	-	-	0.2	1.5	0.4	0.2	0.8	-	-	0.2	-	0.4

(%)

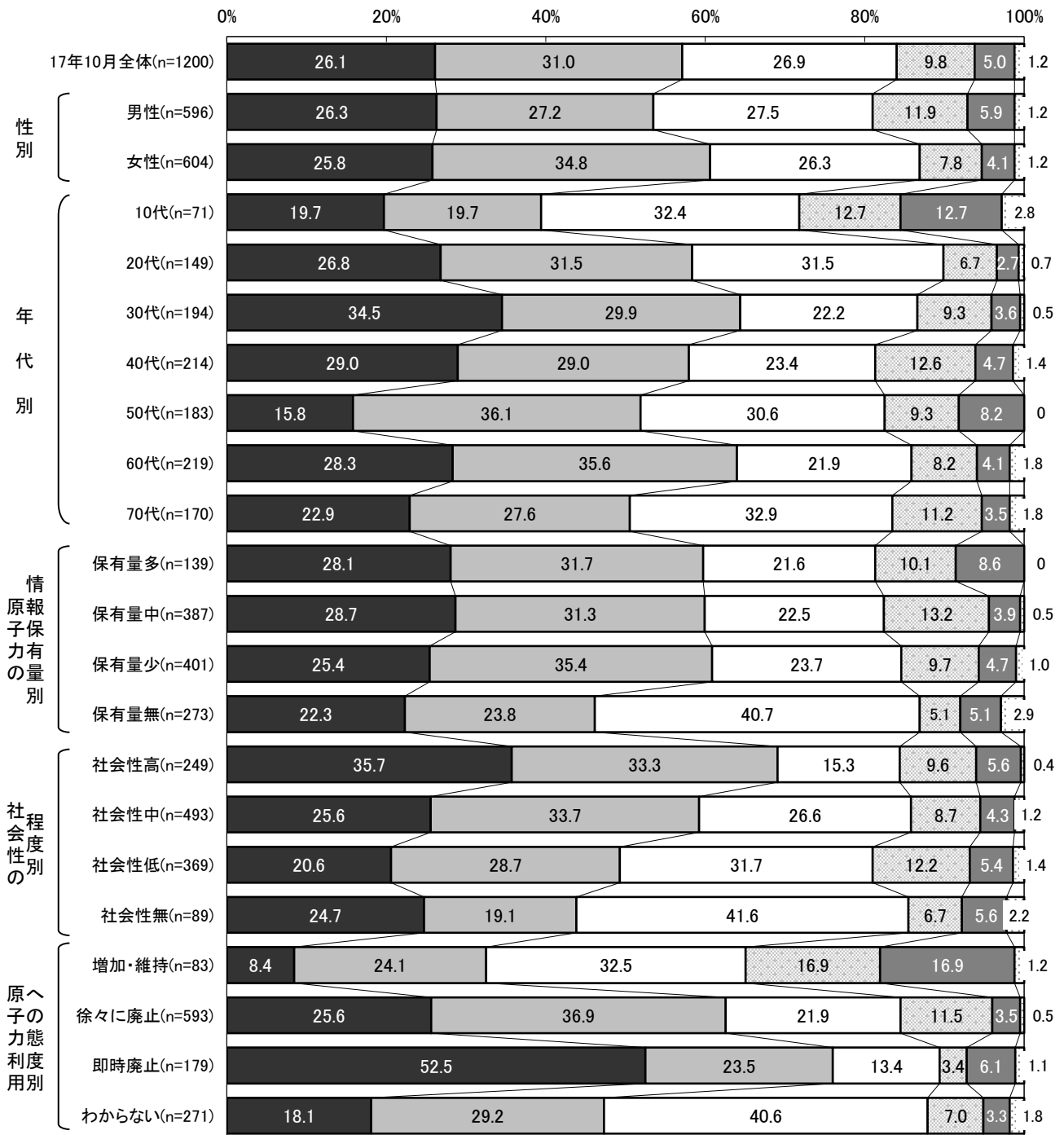
●放射能・放射線のリスク認知

「自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は57.1%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は14.8%。14年調査から見ると、肯定的意見の割合に大きな変化はないと見るべきか(前回までの減少傾向は今年で回復した)。否定的意見は前回まで増加していたが、こちらも頭打ちの印象がある。
社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問10. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

(i) 自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ

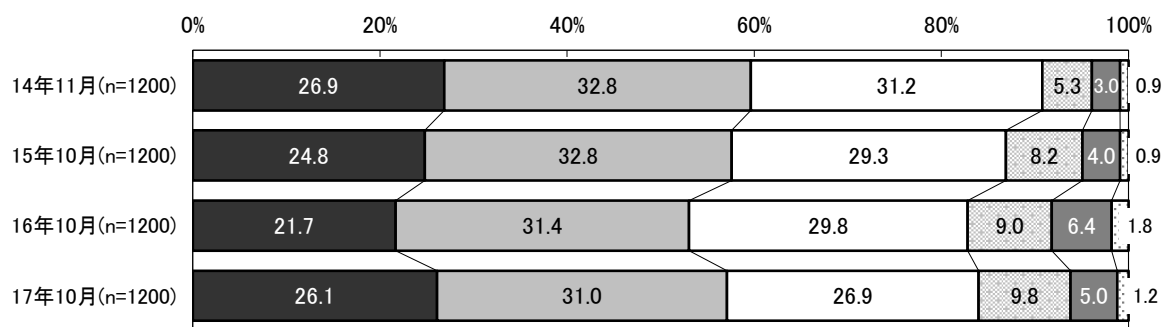
■そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらともいえない □どちらかといえばそう思わない ■そう思わない □無回答



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 【自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

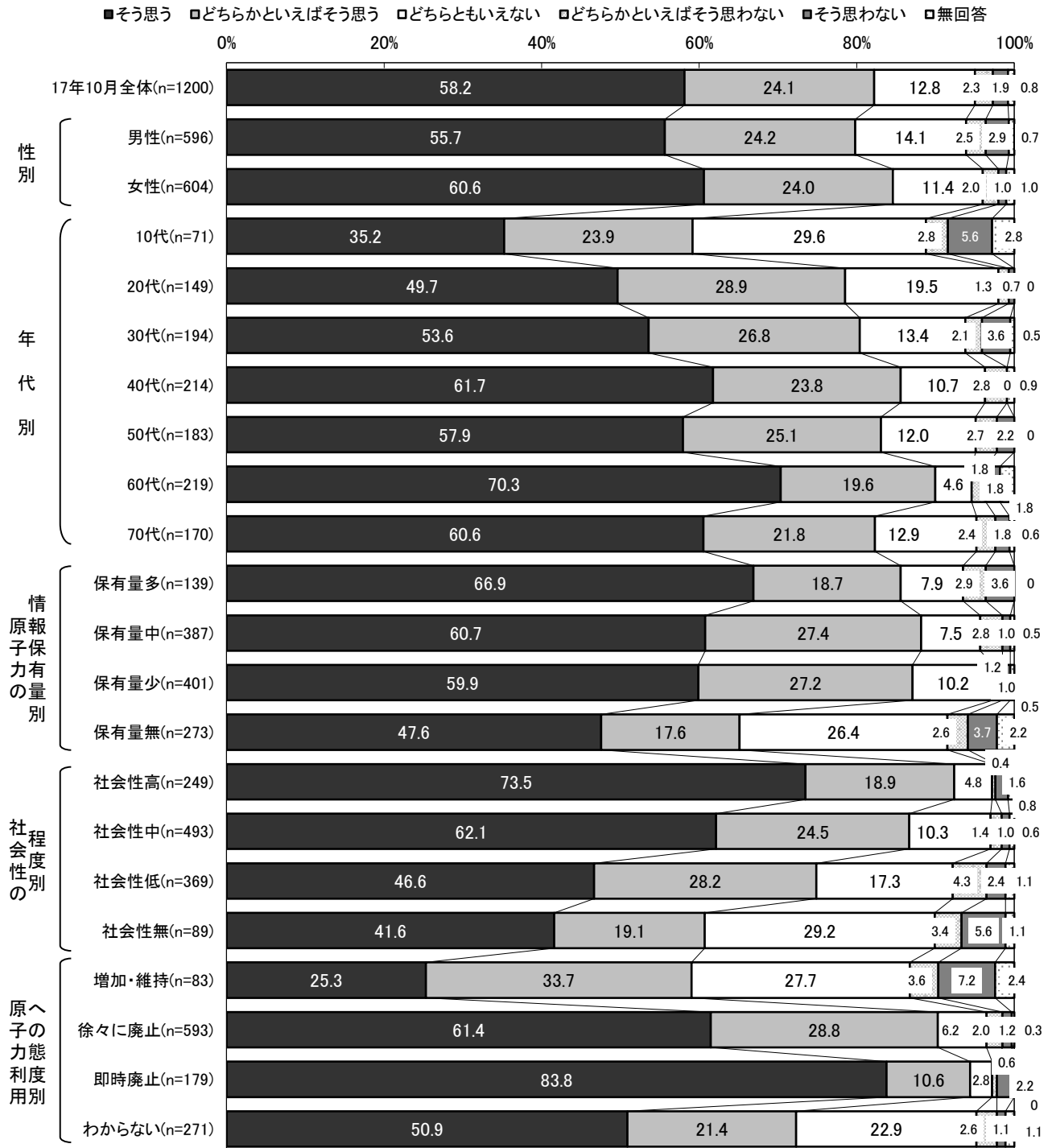


●放射能・放射線のリスク認知

「子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は82.3%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は4.2%。経年で、大きな傾向はないが、強い肯定的意見は徐々に増加しているように見える。年代別に見ると、60代をピークとして、年齢と共に、肯定的意見が増加する。また、社会性高で肯定的意見が大きく、その程度が小さくなるにつれて、肯定的意見が減少する。

問10. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

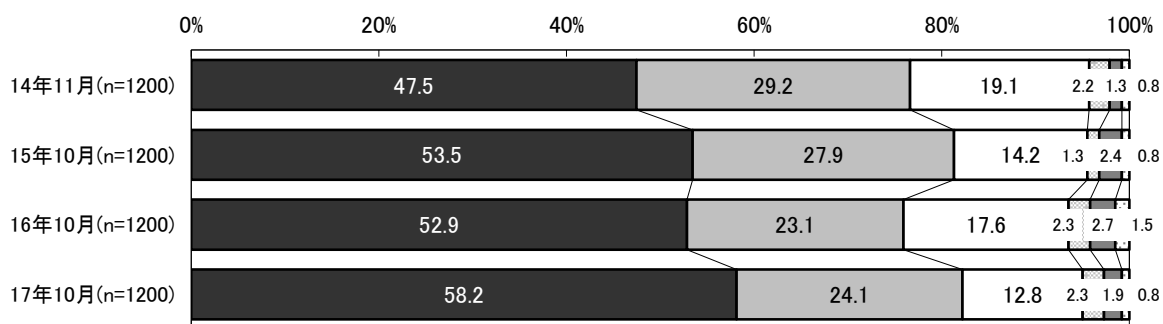
【j) 子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい】



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 【子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答

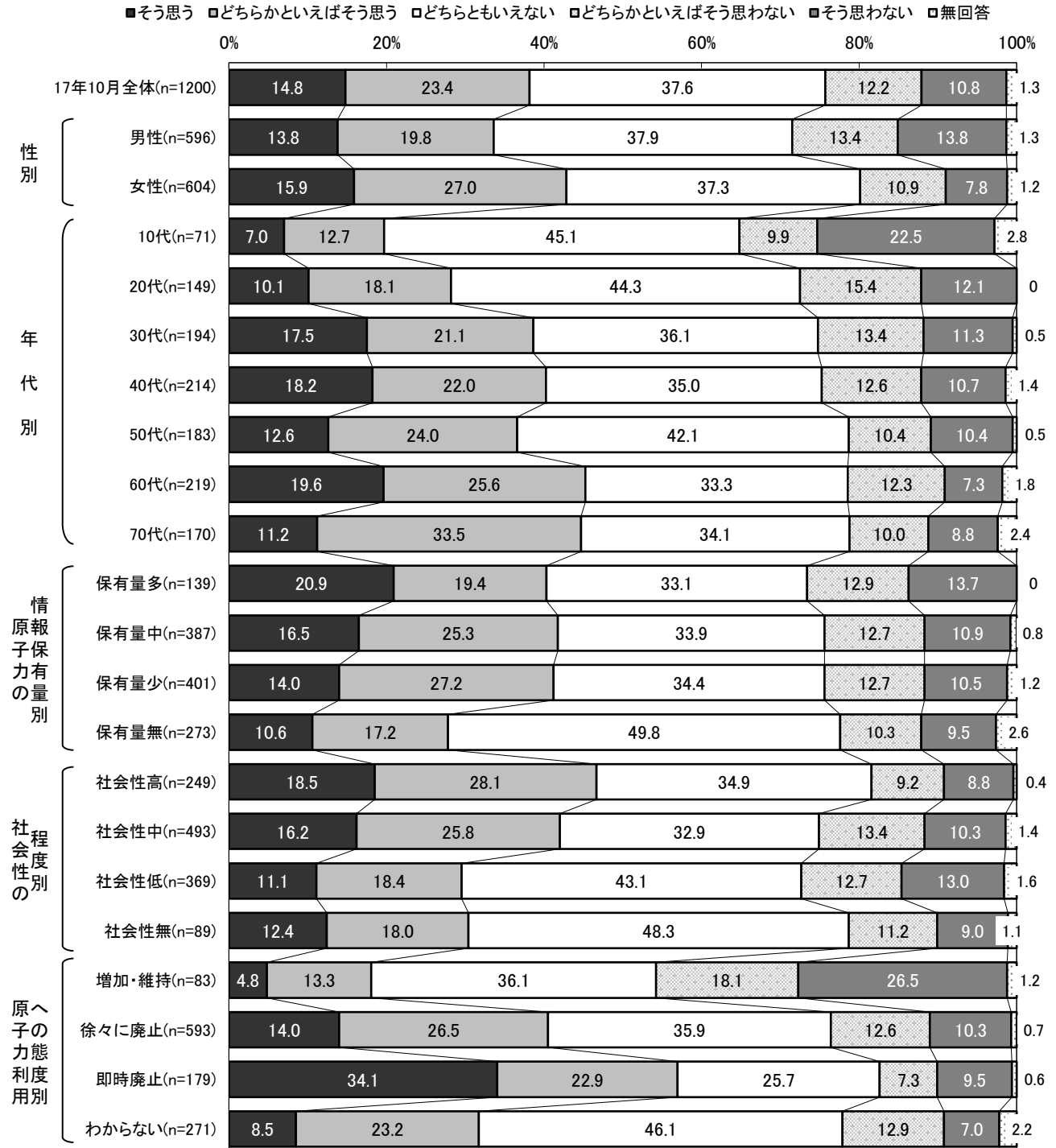


●放射能・放射線のリスク認知

「食品を選ぶときは、放射能について気をつけている」に肯定的な回答(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は38.2%。一方、否定的な回答(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は23.0%。年を経るにしたがい、否定的意見の若干の増加が続いているように見える。年代別に見ると、全体として年齢と共に、肯定的意見が増加する。否定的意見は10代で多く見られる。社会性が高い層では、肯定的意見(気をつける)が多く、否定的意見(気をつけない)が少ない。そして、社会性が低い層では、肯定的意見が減少し、否定的意見が増加する。

問10. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

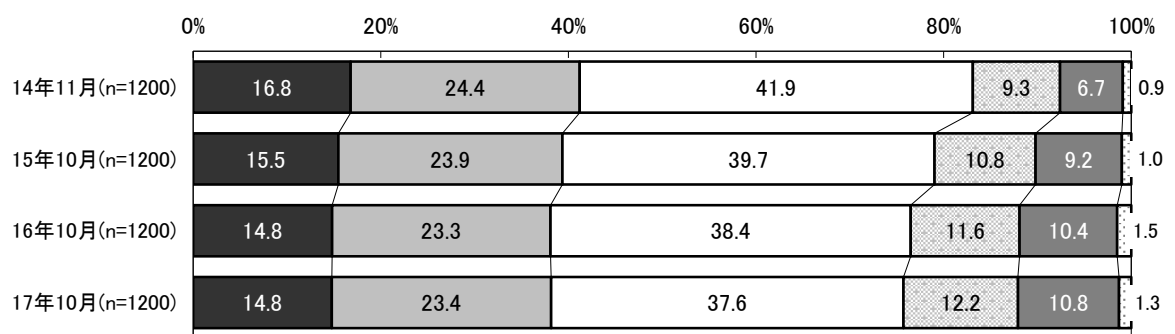
【k】食品を選ぶときは、放射能について気をつけている



<経年変化>

問. あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。
 あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 【食品を選ぶときは、放射能について気をつけている】

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

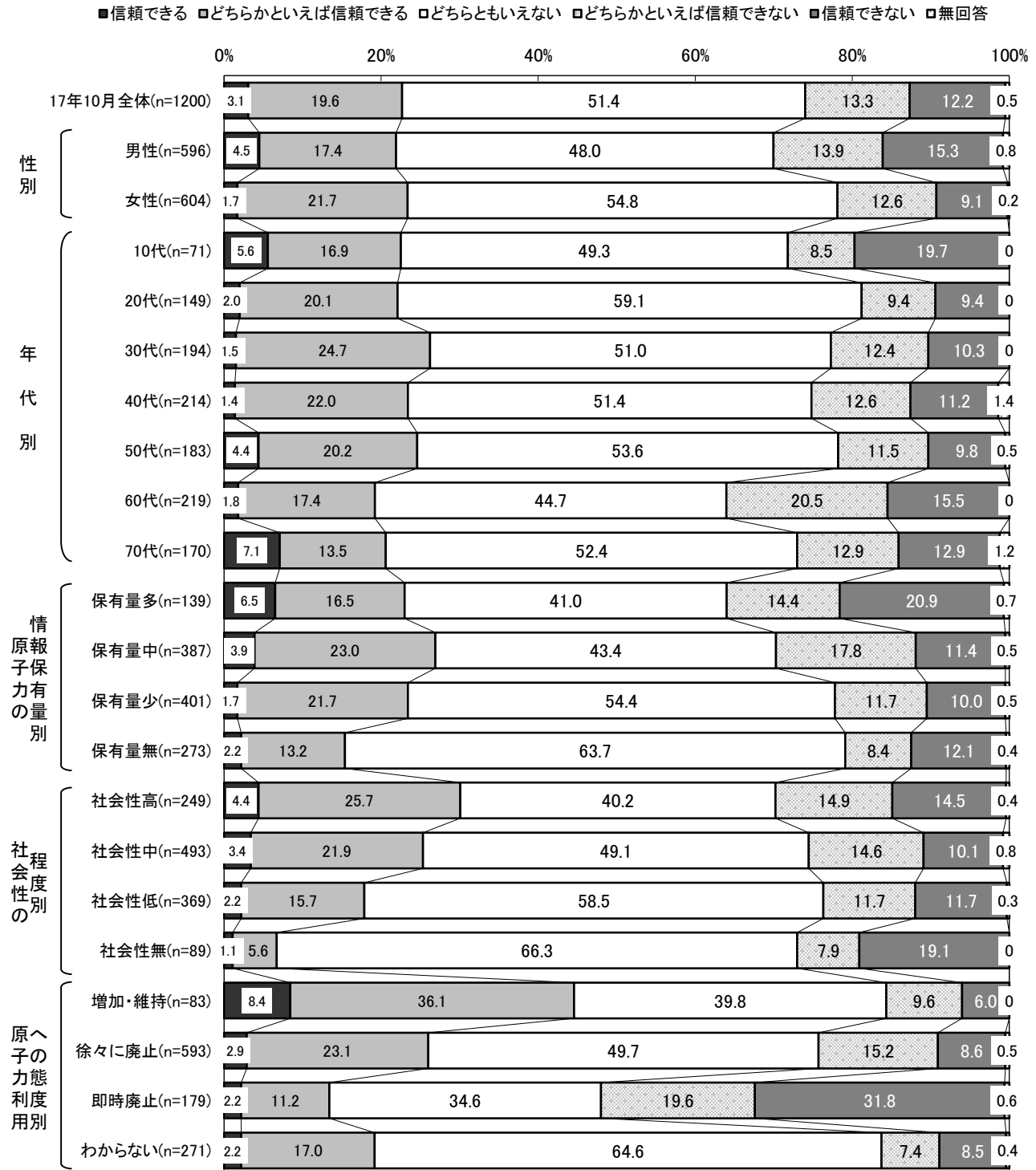


VII章 原子力に対する信頼について

●原子力に対する信頼(原子力の専門家)

原子力の専門家についての信頼を聞いたところ、信頼できる(「信頼できる」+「どちらかといえば信頼できる」)という回答は22.7%、信頼できない(「信頼できない」+「どちらかといえば信頼できない」)という回答は25.5%。「どちらともいえない」という回答が約5割を占めている。前回(15年)と比べると、信頼側にシフトしたように見える。また、他の主体(事業者・国・自治体)と比較して、信頼が高い。年代別にみると、60代で否定的意見が多い。

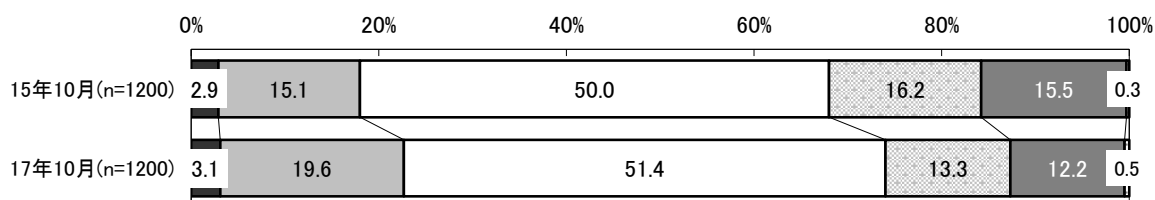
問12-1. 原子力に関して、あなたは「原子力の専門家」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)



<経年変化>

問. 原子力に関して、あなたは「原子力の専門家」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

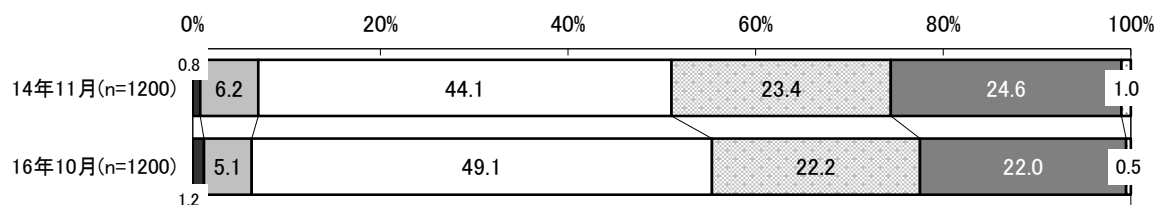
■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない ■信頼できない □無回答



<参考>

問. 原子力に関して、あなたは「原子力の事業者」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない ■信頼できない □無回答

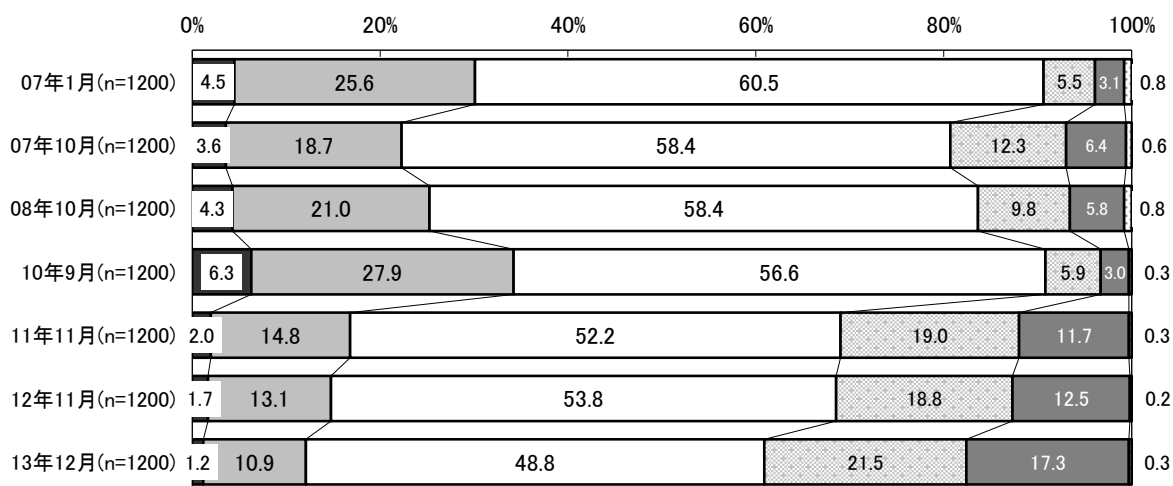


<参考>

問. 原子力に関して、あなたは専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

*07年1月～12年11月までは「あなたは、原子力に携わる専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか」と聴取

■信頼できる □どちらかといえば信頼できる □どちらともいえない □どちらかといえば信頼できない ■信頼できない □無回答



●原子力に対する信頼(原子力の専門家)

原子力の専門家を「信頼できる」とする回答者については、「専門的な知識を持っているから」が突出して多く、次いで「信頼したいから」「熱意を持って、原子力に携わっているから」と続く。
 一方、「信頼できない」とする回答者については、「情報公開が不足しているから」「正直には話していないから」「管理体制や安全対策が不足しているから」「偏った見方をしているから」と続く。
 「どちらともいえない」とする回答者は、「情報公開が不足しているから」のポイントが高く、「管理体制や安全対策が不足しているから」「偏った見方をしているから」「正直には話していないから」と続く。「信頼できない」とする回答者と類似の項目を選択することが多いが、そのポイント数はかなり低いことがわかる。
 15年調査と大きな変化は見られない。

問12-2. あなたが、問12-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
 (○はいくつでも)

<参考>
 全体N=1200

N→	2017年10月			
	全体 1200	信頼 できる 272	どちらと もいえない 617	信頼 できない 305
原子力の専門家は、専門的な知識を持っているから	29.7	89.3	16.0	4.6
原子力の専門家は、専門的な知識が不足しているから	6.4	1.5	4.9	14.1
原子力の専門家は、偏った見方をしているから	21.2	4.4	18.6	41.3
原子力の専門家は、公平な見方をしているから	5.4	15.4	2.4	2.6
原子力の専門家は、正直に話しているから	4.4	11.8	2.3	2.3
原子力の専門家は、正直には話していないから	21.8	2.6	17.3	48.2
原子力の専門家は、私たちのことを配慮しているから	5.1	11.0	4.2	1.6
原子力の専門家は、私たちのことには配慮していないから	12.4	1.5	9.4	28.2
原子力の専門家は、私たちと考え方が似ているから	1.5	2.9	1.3	0.7
原子力の専門家は、私たちとは考え方が違うから	12.8	2.9	11.8	23.6
原子力の専門家は、熱意をもって、原子力に携わっているから	8.2	22.8	4.9	2.0
原子力の専門家は、熱意が感じられないから	7.3	0.7	5.7	16.4
原子力の専門家は、管理体制や安全対策ができていないから	3.2	9.6	1.5	1.0
原子力の専門家は、管理体制や安全対策が不足しているから	22.0	5.9	19.4	42.0
原子力の専門家は、情報公開ができていないから	2.4	6.6	1.3	1.0
原子力の専門家は、情報公開が不足しているから	35.8	10.7	37.4	55.4
原子力の専門家を信頼したいから	13.6	39.0	7.8	3.0
原子力の専門家を信頼したくないから	9.9	0.7	6.2	25.6
その他	8.2	0.4	12.0	7.5

(%)

2015年10月		
信頼 できる 216	どちらと もいえない 600	信頼 できない 380
94.0	15.2	2.4
0.9	5.5	11.8
2.8	17.3	37.6
15.7	2.8	1.3
10.2	1.7	0.3
2.3	22.2	51.6
11.6	3.2	0.5
0.9	10.0	28.7
1.9	0.8	0.3
4.6	13.8	22.4
30.1	4.5	0.8
0.9	4.8	19.2
8.3	1.5	1.1
3.7	27.7	48.7
5.6	2.0	1.3
6.5	46.2	59.5
42.1	6.0	1.1
-	6.0	16.8
1.9	15.2	6.6

(%)

<参考> 2014年11月、2016年10月、それぞれN=1200

問. あなたが、前の問でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
(○はいくつでも)

※対象が「原子力の事業者」

	2016年10月		
	信頼 できる	どちらと もいえない	信頼 できない
N→	75	589	530
原子力の事業者は、専門的な知識を持っているから	84.0	12.6	1.9
原子力の事業者は、専門的な知識が不足しているから	1.3	7.5	12.5
原子力の事業者は、偏った見方をしているから	-	9.3	26.6
原子力の事業者は、公平な見方をしているから	8.0	1.4	0.4
原子力の事業者は、正直に話しているから	9.3	1.0	0.9
原子力の事業者は、正直には話していないから	4.0	29.5	59.8
原子力の事業者は、私たちのことを 配慮しているから	10.7	2.4	0.8
原子力の事業者は、私たちのことには 配慮していないから	1.3	9.2	38.3
原子力の事業者は、私たちと考え方が似ているから	5.3	-	0.6
原子力の事業者は、私たちとは考え方が違うから	2.7	9.2	26.8
原子力の事業者は、熱意をもって、 原子力に携わっているから	37.3	3.6	0.6
原子力の事業者は、熱意が感じられないから	-	6.1	22.8
原子力の事業者は、管理体制や安全対策が できているから	25.3	1.2	1.1
原子力の事業者は、管理体制や安全対策が 不足しているから	2.7	33.1	60.4
原子力の事業者は、情報公開ができているから	1.3	0.3	0.4
原子力の事業者は、情報公開が不足しているから	10.7	48.2	68.3
原子力の事業者を信頼したいから	45.3	7.5	1.3
原子力の事業者を信頼したくないから	-	6.1	24.2
その他	1.3	11.0	4.0

(%)

2014年11月		
信頼 できる	どちらと もいえない	信頼 できない
83	529	576
78.3	16.3	0.9
1.2	5.9	17.2
-	10.2	30.9
7.2	1.7	0.7
4.8	0.9	0.2
3.6	31.2	61.6
10.8	3.0	-
-	10.6	40.1
1.2	0.9	0.3
1.2	9.6	24.7
32.5	4.2	0.2
1.2	7.6	19.8
21.7	2.1	0.5
1.2	30.1	62.7
2.4	1.9	0.2
2.4	43.1	69.4
49.4	9.1	1.4
-	4.3	19.4
6.0	10.8	4.2

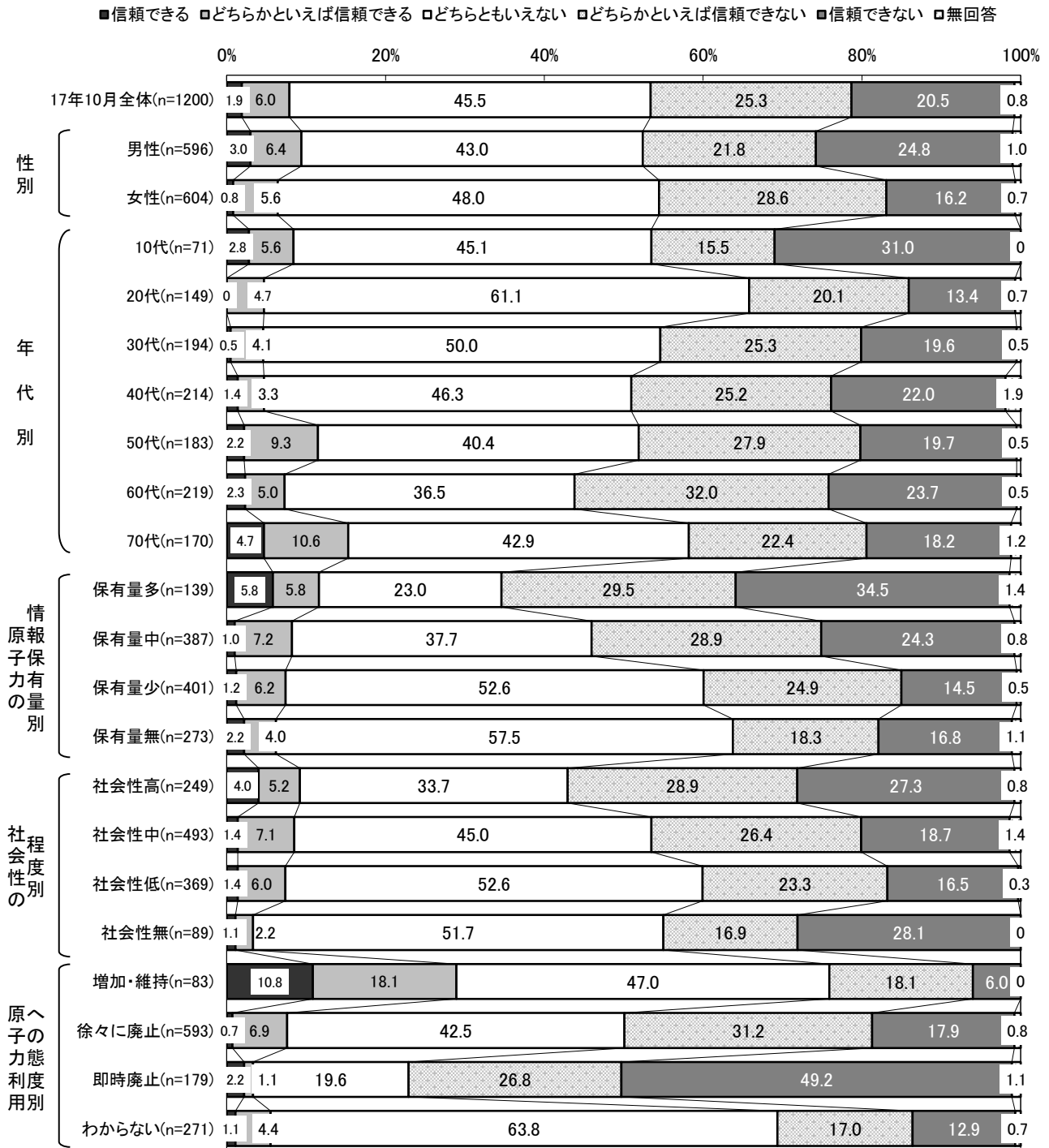
(%)

●原子力に対する信頼(国)

原子力について、国の信頼を聞いたところ、信頼できる(「信頼できる」+「どちらかといえば信頼できる」という回答は7.9%、信頼できない(「信頼できない」+「どちらかといえば信頼できない」という回答は45.8%。また、「どちらともいえない」という回答が5割近い。前回(15年)と比べると、「どちらともいえない」という回答が多くなっている。原子力の専門家に比べると、信頼感は低い。

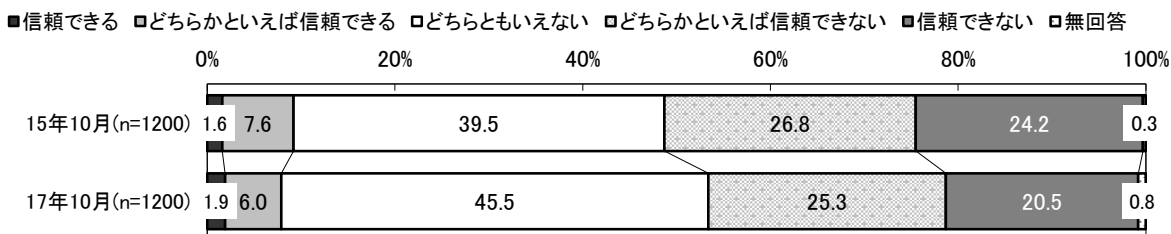
年代別に見ると、20~60代で年齢と共に、否定的意見が増加傾向を示す。また、情報保有量多・社会性高で肯定的意見・否定的意見が共に大きく、その程度が小さくなるにつれて、その両意見は減少する傾向にある。

問13-1. 原子力に関して、あなたは「国」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)



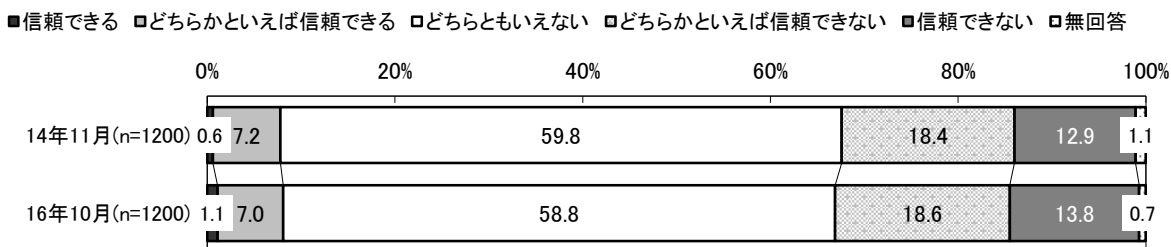
<経年変化>

問. 原子力に関して、あなたは「国」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)



<参考>

問. 原子力に関して、あなたは「自治体」を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

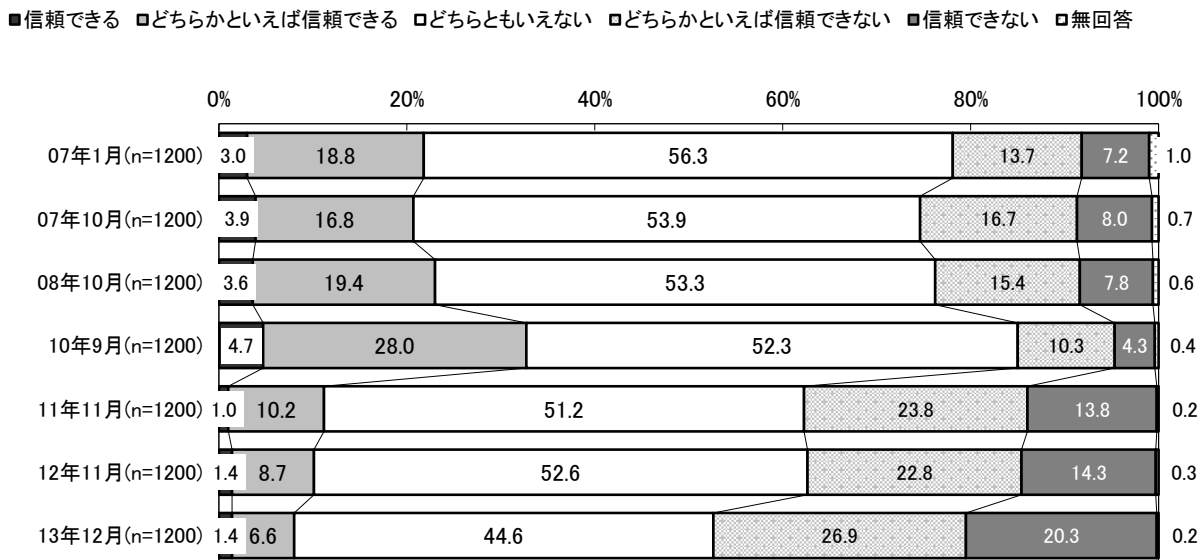


<参考>

問. 原子力に関して、あなたは国や自治体を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

*07年1月～12年11月までは

「原子力の安全管理や規制は国や自治体によって行なわれています。あなたは、国や自治体を信頼できると思いますか」と聴取



●原子力に対する信頼(国)

国を「信頼できる」とする回答者については、「専門的な知識を持っているから」「信頼したいから」が多い。一方、「信頼できない」とする回答者については、「情報公開が不足しているから」「正直には話していないから」「管理体制や安全対策が不足しているから」「自分たちの利益優先に感じるから」「偏った見方をしているから」が多い。「どちらともいえない」とする回答者は、「情報公開が不足しているから」「正直には話していないから」「管理体制や安全対策が不足しているから」が多い。「信頼できない」とする回答者と類似の項目を選択することが多いが、ポイントは全体として低いことがわかる。15年調査と大きな変化は見られない。

問13-2. あなたが、問13-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

N→	2017年10月				2015年10月		
	全体 1200	信頼 できる 95	どちらとも いえない 546	信頼 できない 549	信頼 できる 110	どちらとも いえない 474	信頼 できない 612
国は、専門的な知識を持っているから	9.0	55.8	8.6	1.5	44.5	4.2	0.5
国は、専門的な知識が不足しているから	19.0	5.3	15.0	25.7	-	17.5	28.8
国は、偏った見方をしているから	25.8	5.3	15.8	39.3	2.7	13.3	29.9
国は、公平な見方をしているから	3.1	21.1	2.2	0.9	19.1	1.7	0.7
国は、正直に話しているから	1.9	10.5	0.9	1.5	10.9	0.8	1.0
国は、正直には話していないから	40.9	5.3	28.9	59.2	5.5	31.4	65.2
国は、私たちのことを配慮しているから	4.2	23.2	4.2	0.9	28.2	2.7	0.5
国は、私たちのことには配慮していないから	22.8	3.2	11.2	37.9	0.9	11.6	40.7
国は、私たちと考え方が似ているから	1.3	7.4	1.1	0.4	4.5	1.3	0.2
国は、私たちとは考え方が違うから	15.9	4.2	10.4	23.3	0.9	10.5	25.7
国は、熱意をもって、原子力に携わっているから	3.7	21.1	2.9	1.5	26.4	3.2	0.2
国は、熱意が感じられないから	14.8	3.2	9.5	21.9	-	13.1	26.8
国は、管理体制や安全対策ができていないから	2.1	13.7	1.3	0.9	20.9	1.3	0.5
国は、管理体制や安全対策が不足しているから	38.2	6.3	28.0	54.1	1.8	34.8	62.7
国は、情報公開ができていないから	1.3	8.4	0.9	0.4	12.7	0.8	0.3
国は、情報公開が不足しているから	48.3	7.4	41.6	62.5	4.5	47.0	70.3
国を信頼したいから	8.5	53.7	7.9	1.5	60.0	7.0	1.3
国を信頼したくないから	8.7	1.1	3.5	15.3	-	4.2	13.4
国は、営利目的ではないから	3.0	13.7	2.9	1.3	20.9	2.1	0.8
国は、自分たちの利益優先に感じるから	28.2	3.2	17.9	43.0	5.5	21.1	46.6
その他	5.8	-	8.6	4.0	2.7	8.2	3.4

(%)

(%)

<参考> 2014年11月、2016年10月、それぞれN=1200

問. あなたが、前の問でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
(○はいくつでも)

※対象が「自治体」

	2016年10月			2014年11月		
	信頼 できる	どちらと もいえな い	信頼 できない	信頼 できる	どちらと もいえな い	信頼 できない
N→	97	706	389	93	718	376
自治体は、専門的な知識を持っているから	18.6	2.4	1.0	26.9	1.5	0.3
自治体は、専門的な知識が不足しているから	6.2	29.7	43.7	-	27.4	40.4
自治体は、偏った見方をしているから	2.1	11.9	22.9	1.1	10.3	23.1
自治体は、公平な見方をしているから	21.6	1.6	0.8	28.0	1.9	0.8
自治体は、正直に話しているから	8.2	1.1	1.3	14.0	1.5	0.5
自治体は、正直には話していないから	-	18.7	44.0	1.1	17.4	45.5
自治体は、私たちのことを配慮しているから	40.2	4.7	0.8	24.7	3.8	1.1
自治体は、私たちのことには配慮していないから	1.0	8.4	31.4	1.1	7.1	33.8
自治体は、私たちと考え方が似ているから	10.3	0.8	0.5	9.7	2.2	0.8
自治体は、私たちとは考え方が違うから	1.0	9.8	22.6	1.1	7.7	23.4
自治体は、熱意をもって、原子力に携わっているから	9.3	0.8	0.8	9.7	1.7	0.3
自治体は、熱意が感じられないから	2.1	9.1	20.1	1.1	6.8	22.9
自治体は、管理体制や安全対策ができていないから	9.3	1.3	0.5	7.5	0.6	-
自治体は、管理体制や安全対策が不足しているから	-	26.8	51.9	-	26.5	56.1
自治体は、情報公開ができていないから	7.2	0.6	0.3	7.5	0.6	-
自治体は、情報公開が不足しているから	3.1	38.1	58.1	4.3	32.9	56.6
自治体を信頼したいから	45.4	5.4	1.3	51.6	6.5	1.3
自治体を信頼したくないから	1.0	4.4	15.7	-	2.6	10.6
自治体は、営利目的ではないから	21.6	5.2	1.3	31.2	5.2	3.2
自治体は、自分たちの利益優先に感じるから	-	17.8	39.8	2.2	15.5	38.8
その他	1.0	10.3	1.8	2.2	12.1	2.7

(%)

(%)

Ⅷ章 原子力・放射線・エネルギーについての
広聴・広報に関わる事項

●原子力・エネルギー・放射線についての広聴・広報

原子力やエネルギーに関する日頃の情報源を尋ねたところ、「テレビ(ニュース)」(82.2%)、「新聞」(47.8%)、「テレビ(情報番組)」(42.2%)が主な情報源。インターネットでは、検索サイト上のニュース(14.6%)とスマートフォンのニュースアプリ(14.0%)が情報源としてやや高めのポイントを有する。また、「家族、友人、知人との会話」も9.4%の回答がある。
 経年で見ると、「家族、友人、知人との会話」での情報獲得が徐々に減少して見える。
 年齢別にみると、全体として情報源とのアクセスは、高年齢層ほど多くなる。新聞は40代以上でアクセスが高くなる。一方、インターネットは20代~40代でアクセスが高い。20代ではSNSも情報源となり得る可能性がある。

問14. あなたは、ふだん原子力やエネルギー、放射線に関する情報を何によって得ていますか。
 次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

17年10月全体 N=1200	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	16年 10月	15年 10月	14年 11月	13年 12月	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月	07年 10月	07年 1月	
新聞											54.0	55.3	56.4	61.1	53.7	58.5	53.0	55.6	49.4	59.1	
テレビ(ニュース)											81.8	85.8									
テレビ(情報番組)											38.7	40.6	85.6	87.7	86.4	88.7	81.0	81.2	77.7	77.8	
テレビ(ドラマ)											1.3	1.0									
テレビ(CM)											2.2	3.6									
ラジオ											5.8	7.8	12.8	7.8	9.4	10.6	8.8	7.6	9.0	9.5	
雑誌(週刊誌・月刊誌等)											8.6	9.6	10.4	8.9	11.7	11.6	12.7	13.7	15.3	16.1	
自治体の広報紙											3.8	6.5	6.8								
事業者の広報紙											2.1	1.9									
本・パンフレット											3.6	4.9	3.8	6.0	7.2	7.6	7.6	9.1	9.8	10.5	
ビデオ・DVD											0.3	0.2	0.2								
講演会・説明会・セミナー等のイベント											1.6	2.0	2.6								
学校											2.3	2.6	2.3	1.8							
博物館・展示館・PR施設											1.3	1.3	1.3	1.8	1.7	1.8	3.4	3.7	9.9	11.6	
家族、友人、知人との会話											11.2	17.0	15.5								
回覧板											1.2	1.3	2.3								
国、自治体のホームページ											2.1	2.8	3.7								
原子力事業者、研究機関等のホームページ											0.9	1.6	2.6								
検索サイト上のニュース(GoogleニュースやYahoo!ニュース等)											16.9	19.9	23.3								
テレビ局や新聞社などのニュースサイト																					
スマートフォンのニュースアプリ(Gunnosy, LINE NEWS, SmartNews等)											10.3	9.8		23.5	24.6	27.6	16.2	12.1	11.3	10.3	
SNS(LINE、フェイスブック、ツイッター等)																					
メール配信(メールマガジン等)											0.4	0.7	0.7								
動画投稿サイト(YouTube、ニコニコ動画等)																					
その他のインターネット情報											0.3	0.7	1.5								
その他											0.3	0.4	0.3	0.8	1.3	1.6	1.6	2.3	1.3	1.3	
特になし/わからない											11.7	6.8	8.6	6.7	4.2	2.3	9.3	7.8	7.9	7.2	

*07年10月までの選択肢は「国や電力会社などのPR施設」、08年10月からは「博物館・展示館・PR施設」に変更
 *12年11月までの選択肢は「あてはまるものはない」、13年12月からは「特になし/わからない」に変更
 *13年12月までは「インターネット」だけだった選択肢を、14年11月から細分化
 *14年11月までは「テレビ」だけだった選択肢を、15年10月から細分化
 *17年10月、「インターネット上のニュースサイト」を2つに細分化。「フェイスブック」「ツイッター」を「SNS」に統合。
 *その他、過去にデータのない項目は、それぞれ各年に追加された項目である

<2017年10月のクロス集計結果(1/2)>

問14. あなたは、ふだん原子力やエネルギー、放射線に関する情報を何によって得ていますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

	全体	性別		年代別						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	219	170
新聞	47.8	50.2	45.4	11.3	20.8	25.8	43.5	62.8	72.6	68.8
テレビ(ニュース)	82.2	79.7	84.6	57.7	73.2	77.3	81.8	86.9	92.7	87.6
テレビ(情報番組)	42.2	40.8	43.5	18.3	33.6	30.4	42.5	47.0	54.3	51.8
テレビ(ドラマ)	1.7	1.8	1.5	4.2	2.7	0.5	0.5	1.6	1.4	2.9
テレビ(CM)	2.6	2.7	2.5	7.0	2.0	1.5	2.8	2.2	1.8	3.5
ラジオ	5.9	8.6	3.3	-	1.3	3.6	2.8	8.2	11.4	9.4
雑誌(週刊誌・月刊誌等)	5.9	8.4	3.5	2.8	1.3	2.6	5.1	4.9	8.2	14.1
自治体の広報紙	3.9	3.7	4.1	-	0.7	2.1	2.3	4.9	7.3	7.1
事業者の広報紙	1.1	1.2	1.0	-	-	1.0	0.5	0.5	0.5	4.7
本・パンフレット	2.9	3.2	2.6	4.2	2.0	3.6	1.9	2.7	4.1	2.4
ビデオ・DVD	0.5	0.5	0.5	1.4	-	-	0.5	1.1	0.5	0.6
講演会・説明会・セミナー等のイベント	2.3	2.5	2.2	1.4	-	1.5	1.9	3.8	2.3	4.7
学校	1.6	1.7	1.5	14.1	4.0	-	0.5	0.5	-	0.6
博物館・展示館・PR施設	1.3	1.2	1.3	-	-	0.5	1.4	1.1	1.8	2.9
家族、友人、知人との会話	9.4	7.9	10.9	5.6	9.4	8.2	8.9	7.7	11.9	11.8
回覧板	1.4	1.2	1.7	-	0.7	1.5	0.9	1.6	1.4	2.9
国、自治体のホームページ	2.3	3.0	1.7	-	1.3	2.6	3.3	2.2	2.7	2.4
原子力事業者、研究機関等のホームページ	1.7	2.2	1.2	1.4	-	2.6	2.3	2.2	0.5	2.4
検索サイト上のニュース(GoogleニュースやYahoo!ニュース等)	14.6	16.9	12.3	8.5	19.5	26.3	19.6	13.1	8.2	2.9
テレビ局や新聞社などのニュースサイト	8.3	10.4	6.3	4.2	7.4	3.6	7.5	6.6	12.8	13.5
スマートフォンのニュースアプリ(Gunosy,LINE NEWS,SmartNews等)	14.0	14.4	13.6	16.9	26.2	21.6	18.2	12.6	5.0	1.2
SNS(LINE、フェイスブック、ツイッター等)	4.9	3.7	6.1	5.6	12.8	7.2	8.4	2.2	-	-
メール配信(メールマガジン等)	0.9	0.8	1.0	-	-	2.1	1.4	1.6	0.5	-
動画投稿サイト(YouTube,ニコニコ動画等)	1.5	1.3	1.7	4.2	2.0	2.1	1.9	1.1	0.9	-
その他のインターネット情報	0.5	0.5	0.5	1.4	-	0.5	0.5	0.5	0.9	-
その他	0.3	0.3	0.3	-	-	-	0.9	0.5	0.5	-
特になし/わからない	9.3	10.2	8.4	28.2	19.5	12.4	6.5	3.3	2.7	7.6

(%)

<2017年10月のクロス集計結果(2/2)>

問14. あなたは、ふだん原子力やエネルギー、放射線に関する情報を何によって得ていますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

	全体	原子力の情報保有量別				社会性の程度別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	249	493	369	89	83	593	179	271
新聞	47.8	72.7	56.8	45.6	25.3	69.1	52.1	32.5	27.0	42.2	53.3	58.7	37.3
テレビ(ニュース)	82.2	89.2	89.9	83.3	65.9	92.0	86.0	76.4	57.3	81.9	87.4	88.8	73.8
テレビ(情報番組)	42.2	59.0	48.1	40.9	27.1	57.4	48.5	28.7	20.2	32.5	48.4	49.2	31.0
テレビ(ドラマ)	1.7	2.2	2.1	1.2	1.5	0.8	1.6	2.2	2.2	-	1.3	2.8	2.2
テレビ(CM)	2.6	4.3	2.6	2.5	1.8	3.2	3.2	1.6	1.1	2.4	2.4	2.2	3.3
ラジオ	5.9	15.1	8.0	3.2	2.2	11.2	4.7	5.4	-	7.2	6.4	10.6	2.6
雑誌(週刊誌・月刊誌等)	5.9	15.1	8.0	3.7	1.5	13.3	5.9	2.2	1.1	6.0	7.1	11.2	1.1
自治体の広報紙	3.9	8.6	5.2	3.5	0.4	10.8	2.8	1.6	-	2.4	5.6	5.6	0.7
事業者の広報紙	1.1	3.6	1.3	0.7	-	3.2	0.8	0.3	-	1.2	1.0	2.2	0.7
本・パンフレット	2.9	15.1	2.3	1.0	0.4	6.4	2.6	1.6	-	6.0	2.2	8.4	0.7
ビデオ・DVD	0.5	0.7	0.3	0.7	0.4	0.8	0.6	0.3	-	1.2	0.5	0.6	0.4
講演会・説明会・セミナー等のイベント	2.3	9.4	2.8	0.7	0.4	7.6	1.6	0.3	-	3.6	1.7	7.8	0.4
学校	1.6	4.3	1.8	0.7	1.1	1.6	1.6	1.9	-	2.4	1.3	2.8	0.7
博物館・展示館・PR施設	1.3	7.2	0.8	0.2	0.4	3.2	1.2	0.3	-	2.4	1.3	2.2	0.4
家族、友人、知人との会話	9.4	14.4	11.6	9.2	4.0	18.1	10.5	4.1	1.1	8.4	10.5	17.3	3.0
回覧板	1.4	2.9	1.8	0.7	1.1	5.2	0.6	0.3	-	2.4	1.9	1.1	0.7
国、自治体のホームページ	2.3	9.4	2.1	1.7	-	5.6	2.2	0.8	-	2.4	2.7	3.9	0.7
原子力事業者、研究機関等のホームページ	1.7	10.1	1.3	0.2	-	3.2	2.0	0.5	-	3.6	1.9	3.4	-
検索サイト上のニュース(GoogleニュースやYahoo!ニュース等)	14.6	23.7	18.6	14.2	4.8	15.7	17.4	12.7	3.4	19.3	17.4	17.9	6.6
テレビ局や新聞社などのニュースサイト	8.3	23.0	10.6	5.2	2.2	16.9	8.7	3.8	1.1	12.0	9.9	11.7	2.2
スマートフォンのニュースアプリ(Gunosy,LINE NEWS,SmartNews等)	14.0	15.8	17.1	15.5	6.6	14.9	15.0	13.6	7.9	18.1	15.7	12.3	11.4
SNS(LINE、フェイスブック、ツイッター等)	4.9	5.8	5.9	4.7	3.3	6.4	5.3	4.1	2.2	9.6	3.7	7.3	4.1
メール配信(メールマガジン等)	0.9	5.0	0.5	0.5	-	1.6	1.2	0.3	-	2.4	0.3	2.8	0.4
動画投稿サイト(YouTube,ニコニコ動画等)	1.5	3.6	1.6	1.5	0.4	2.0	2.4	0.3	-	1.2	1.0	2.8	1.1
その他のインターネット情報	0.5	0.7	0.8	0.5	-	0.8	0.4	0.5	-	-	0.8	0.6	-
その他	0.3	0.7	0.5	0.2	-	1.2	0.2	-	-	-	0.2	1.7	-
特になし/わからない	9.3	0.7	2.8	6.0	27.8	1.6	5.3	12.5	40.4	4.8	3.2	2.8	21.0

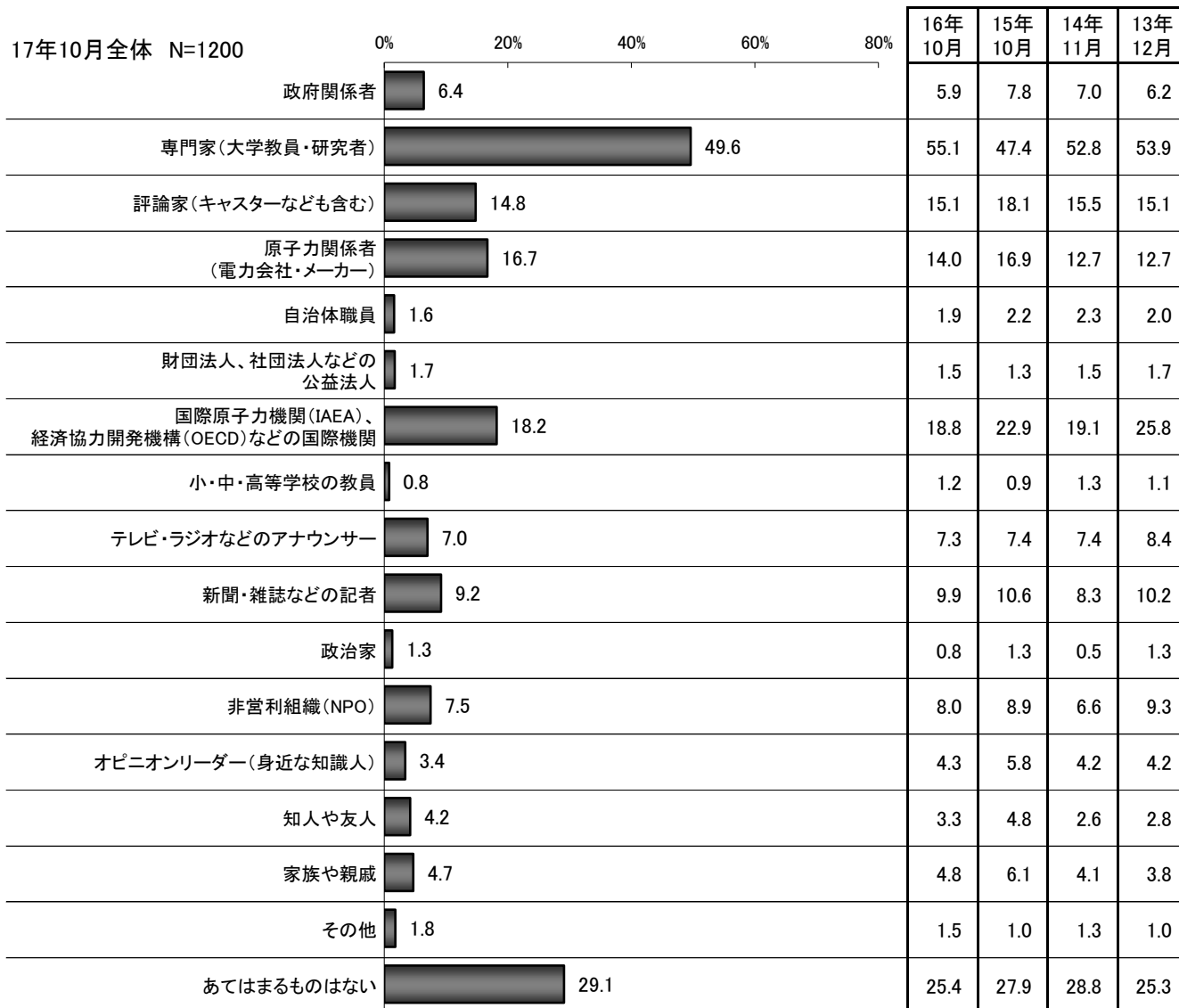
(%)

●原子力に対する信頼(情報発信者)

情報源の信頼としては、「専門家(大学教員・研究者)」(49.6%)が突出して多く、次いで「国際機関」「原子力関係者」「評論家」である。「あてはまるものはない」という回答も29.1%ある。国際機関への信頼は減少してきているように見える(接触機会の問題かと思われる)。

年代別に見ると、若年層ほど、信頼できる主体がなく、10代では専門家への信頼も3割程度。60～70代では、他の年齢層と比べると、「国際機関」「評論家」「記者」への信頼が高く、「原子力関係者」への信頼は低い。

問15. あなたは、原子力やエネルギー、放射線に関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)



<2017年10月のクロス集計結果(1/2)>

問15. あなたは、原子力やエネルギー、放射線に関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

	全体	性別		年代別							
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	219	170	
政府関係者	6.4	7.4	5.5	5.6	6.7	4.1	7.5	6.6	6.4	7.6	
専門家(大学教員・研究者)	49.6	48.5	50.7	29.6	42.3	51.5	46.7	55.7	53.4	54.1	
評論家(キャスターなども含む)	14.8	15.4	14.2	8.5	7.4	15.5	16.4	13.1	18.7	18.2	
原子力関係者 (電力会社・メーカー)	16.7	17.1	16.2	11.3	18.8	17.0	16.8	20.2	13.2	17.1	
自治体職員	1.6	1.7	1.5	-	-	1.0	2.3	2.7	1.4	2.4	
財団法人、社団法人などの 公益法人	1.7	2.0	1.3	4.2	1.3	-	1.9	2.2	2.3	1.2	
国際原子力機関(IAEA)、 経済協力開発機構(OECD)などの国際機関	18.2	20.1	16.2	9.9	16.1	13.4	15.0	17.5	23.7	26.5	
小・中・高等学校の教員	0.8	0.8	0.7	7.0	0.7	0.5	0.5	0.5	-	-	
テレビ・ラジオなどのアナウンサー	7.0	7.4	6.6	4.2	4.0	5.7	5.1	7.7	11.0	8.8	
新聞・雑誌などの記者	9.2	9.1	9.3	4.2	2.7	6.7	4.7	10.9	17.4	12.9	
政治家	1.3	1.3	1.2	1.4	-	1.0	0.5	1.6	2.3	1.8	
非営利組織(NPO)	7.5	6.4	8.6	7.0	7.4	4.6	6.5	6.6	11.4	8.2	
オピニオンリーダー(身近な知識人)	3.4	3.0	3.8	7.0	3.4	1.5	4.2	4.4	2.3	3.5	
知人や友人	4.2	3.4	5.0	2.8	4.0	7.7	3.3	3.3	3.2	4.1	
家族や親戚	4.7	3.4	6.0	12.7	7.4	7.2	4.2	1.1	3.7	1.8	
その他	1.8	2.0	1.5	2.8	-	1.0	3.3	-	1.4	4.1	
あてはまるものはない	29.1	29.9	28.3	42.3	32.9	32.5	32.7	27.3	24.2	20.0	

(%)

<2017年10月のクロス集計結果(2/2)>

問15. あなたは、原子力やエネルギー、放射線に関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

	全体	原子力の情報保有量別				社会性の程度別				原子力利用に対する態度別			
		保有量 多	保有量 中	保有量 少	保有量 無	社会性 高	社会性 中	社会性 低	社会性 無	増加・ 維持	徐々に 廃止	即時廃 止	わから ない
N	1200	139	387	401	273	249	493	369	89	83	593	179	271
政府関係者	6.4	7.2	6.2	6.7	5.9	6.4	6.1	8.1	1.1	15.7	6.2	4.5	5.9
専門家(大学教員・研究者)	49.6	56.1	58.9	51.1	30.8	62.7	54.8	41.2	19.1	68.7	57.3	46.4	38.4
評論家(キャスターなども含む)	14.8	19.4	17.3	15.0	8.8	19.3	16.0	11.9	7.9	14.5	16.7	22.9	8.1
原子力関係者 (電力会社・メーカー)	16.7	19.4	19.9	16.7	10.6	20.1	19.3	13.8	4.5	32.5	18.0	8.4	15.9
自治体職員	1.6	0.7	2.6	1.2	1.1	4.0	1.6	0.3	-	2.4	1.7	1.7	1.5
財団法人、社団法人などの 公益法人	1.7	2.2	2.3	1.2	1.1	1.2	2.0	1.6	1.1	3.6	1.9	1.1	1.1
国際原子力機関(IAEA)、 経済協力開発機構(OECD)などの国際機関	18.2	43.2	22.2	15.2	4.0	29.3	19.3	12.7	3.4	19.3	23.6	20.1	7.4
小・中・高等学校の教員	0.8	1.4	0.8	1.0	-	0.4	1.0	0.8	-	1.2	0.7	0.6	0.7
テレビ・ラジオなどのアナウンサー	7.0	7.2	9.0	5.5	6.2	8.8	6.7	6.8	4.5	7.2	6.6	10.6	5.2
新聞・雑誌などの記者	9.2	16.5	11.6	6.5	5.9	15.7	9.1	6.2	3.4	7.2	10.8	11.7	5.5
政治家	1.3	3.6	0.8	0.5	1.8	2.8	1.0	0.5	1.1	1.2	1.0	2.2	1.1
非営利組織(NPO)	7.5	20.1	8.5	6.0	1.8	14.1	7.1	4.9	2.2	3.6	8.9	16.8	1.5
オピニオンリーダー(身近な知識人)	3.4	8.6	4.1	2.5	1.1	4.8	4.1	2.4	-	2.4	4.0	6.1	1.1
知人や友人	4.2	5.0	4.1	4.0	4.0	3.6	5.5	3.3	2.2	2.4	3.0	8.9	4.4
家族や親戚	4.7	4.3	4.7	4.0	5.9	5.2	5.1	3.5	5.6	4.8	2.9	8.9	4.8
その他	1.8	3.6	2.8	0.7	0.7	2.4	1.8	1.1	2.2	-	1.5	3.4	1.5
あてはまるものはない	29.1	15.1	20.7	28.9	48.4	16.1	23.9	36.6	62.9	15.7	22.1	24.6	43.2

(%)

●原子力・エネルギー・放射線についての広聴・広報

原子力やエネルギーに関するイベント・施設の中で参加してみたいものとして、「施設見学会」(18.1%)、「勉強会」(11.5%)がやや高い。なお、「あてはまるものはない」がもっとも多く、63.3%を占める。その他の項目は軒並み選択率が低く、その他の全体としての傾向は前回と大きく変わらない。
年齢別では、全体として高齢層の方が情報獲得意欲が高い。
社会性高において、「講演会(少人数、双方向)」「講演会(大規模、パネリストによる講演会)」「実験教室」の選択率が高くなる。

問16-1. 以下に挙げている「原子力やエネルギー、放射線に関する情報提供(イベントなど)」の中で、参加してみたいものや利用してみたいものはどれですか。
あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

17年10月全体 N=1200

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	16年 10月	15年 10月	14年 11月	13年 12月
施設見学会									18.3	21.4	21.1	18.6
勉強会 (専門家が講師として解説を行う)									14.3	14.2	15.0	16.8
工作教室									2.5	2.4	1.4	1.1
実験教室 (計測器など機器を用いて実験や測定を行う)									7.8	10.6	7.0	8.1
講演会 (少人数、双方向型)									6.4	6.3	5.0	5.9
講演会 (大規模、パネリストによる討論会)									7.3	7.8	7.8	9.4
バーチャル見学会 (インターネットでの疑似見学)									3.2	3.6		
インターネットでの講演会視聴									3.8	3.7		
インターネットでのパンフレット等の閲覧									3.2			
インターネットでの図面等を用いた解説資料の閲覧									3.3			
インターネットでの映像資料の視聴									6.4			
その他									0.4	0.8	0.5	0.7
あてはまるものはない									60.6	56.9	61.8	61.1

*「バーチャル見学会」「インターネットでの講演会視聴」は15年10月に追加

*「インターネットでのパンフレット等の閲覧」「インターネットでの図面等を用いた解説資料の閲覧」「インターネットでの映像資料の視聴」は16年10月に追加

<2017年10月のクロス集計結果(1/2)>

問16-1. 以下に挙げている「原子力やエネルギー、放射線に関する情報提供(イベント)」の中で、参加してみたいものや利用してみたいものはどれですか。
あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

	全体	性別		年代別						
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	219	170
施設見学会	18.1	20.5	15.7	7.0	12.8	12.4	15.9	21.3	22.8	27.1
勉強会 (専門家が講師として解説を行う)	11.5	12.9	10.1	5.6	8.1	10.3	5.6	13.7	16.4	17.1
工作教室	1.8	1.7	1.8	1.4	1.3	4.6	1.4	1.6	0.5	1.2
実験教室 (計測器など機器を用いて実験や測定を行う)	8.1	7.6	8.6	8.5	6.7	10.3	8.4	9.8	6.8	5.9
講演会 (少人数、双方向型)	5.1	6.0	4.1	4.2	2.7	5.2	4.2	7.1	4.6	7.1
講演会 (大規模、パネリストによる討論会)	6.7	6.2	7.1	1.4	5.4	3.6	4.7	8.2	10.0	10.0
バーチャル見学会 (インターネットでの疑似見学)	4.6	4.7	4.5	4.2	7.4	6.7	3.3	5.5	3.7	1.8
インターネットでの講演会視聴	2.5	3.4	1.7	2.8	1.3	1.5	2.8	4.9	2.7	1.2
インターネットでのパンフレット等の閲覧	1.4	1.7	1.2	-	1.3	2.1	1.4	2.7	0.9	0.6
インターネットでの図面等を用いた解説資料の閲覧	2.2	2.2	2.2	-	2.0	4.1	2.3	2.7	0.9	1.8
インターネットでの映像資料の視聴	5.3	4.4	6.3	4.2	5.4	6.2	6.1	8.2	4.6	1.8
その他	0.4	0.7	0.2	1.4	-	0.5	0.5	-	0.5	0.6
あてはまるものはない	63.3	62.9	63.7	73.2	70.5	64.4	67.3	61.7	55.7	58.2

(%)

<2017年10月のクロス集計結果(2/2)>

問16-1. 以下に挙げている「原子力やエネルギー、放射線に関する情報提供(イベント)」の中で、参加してみたいものや利用してみたいものはどれですか。
あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

	全体	原子力の情報保有量別				社会性の程度別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	249	493	369	89	83	593	179	271
施設見学会	18.1	31.7	23.8	14.7	8.1	33.3	19.5	9.5	3.4	28.9	21.9	19.0	9.2
勉強会 (専門家が講師として解説を行う)	11.5	29.5	14.7	8.0	2.9	25.7	10.3	5.7	2.2	14.5	14.0	17.9	3.3
工作教室	1.8	2.2	1.0	2.5	1.5	2.4	1.8	1.4	1.1	1.2	2.0	1.1	2.2
実験教室 (計測器など機器を用いて実験や測定を行う)	8.1	15.1	10.1	7.0	3.3	14.5	9.1	3.8	2.2	8.4	9.3	10.6	5.2
講演会 (少人数、双方向型)	5.1	15.1	7.0	2.5	1.1	11.6	4.3	2.4	2.2	3.6	5.2	11.2	1.1
講演会 (大規模、パネリストによる討論会)	6.7	15.8	9.6	4.7	0.7	14.9	7.1	1.9	1.1	8.4	7.4	12.3	1.1
バーチャル見学会 (インターネットでの疑似見学)	4.6	9.4	5.9	4.0	1.1	8.0	4.9	2.7	1.1	7.2	5.4	4.5	3.3
インターネットでの講演会視聴	2.5	5.0	3.4	2.0	0.7	4.0	3.0	1.4	-	3.6	3.0	2.8	0.7
インターネットでのパンフレット等の閲覧	1.4	2.9	2.1	0.7	0.7	1.2	2.2	0.5	1.1	3.6	1.3	2.2	0.4
インターネットでの図面等を用いた解説資料の閲覧	2.2	5.0	3.4	1.2	0.4	4.4	2.4	0.8	-	1.2	2.5	4.5	0.7
インターネットでの映像資料の視聴	5.3	6.5	8.8	4.2	1.5	8.8	6.1	3.0	1.1	6.0	5.6	7.8	3.0
その他	0.4	0.7	0.3	0.5	0.4	0.4	0.2	0.5	1.1	1.2	0.2	-	0.7
あてはまるものはない	63.3	40.3	53.0	67.1	84.2	39.8	60.6	76.4	89.9	48.2	58.9	53.6	79.3

(%)

<参考>

問. 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント・施設・情報源」の中で、参加してみたいもの、理解に役立つものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

全体 N=1200

	12年 11月	11年 11月	10年 9月	08年 10月
施設見学会	36.2	32.0	43.8	37.1
勉強会 (専門家が講師として解説を行う)	18.2	21.8	11.4	14.8
工作教室	4.0	4.0	4.6	6.3
実験教室 (計測器など機器を用いて実験や測定を行う)	16.5	18.3	14.4	15.9
趣味講座	7.1	7.3	6.6	9.4
講演会 (少人数、双方向型)	7.8	9.0	5.2	5.3
講演会 (大規模、パネリストによる討論会)	9.9	12.3	7.5	8.8
コンクール (作文やポスターなどのコンテスト)	2.2	1.3	1.9	2.3
その他	0.3	0.7	0.4	0.5
あてはまるものはない	14.1	14.9	18.6	16.2

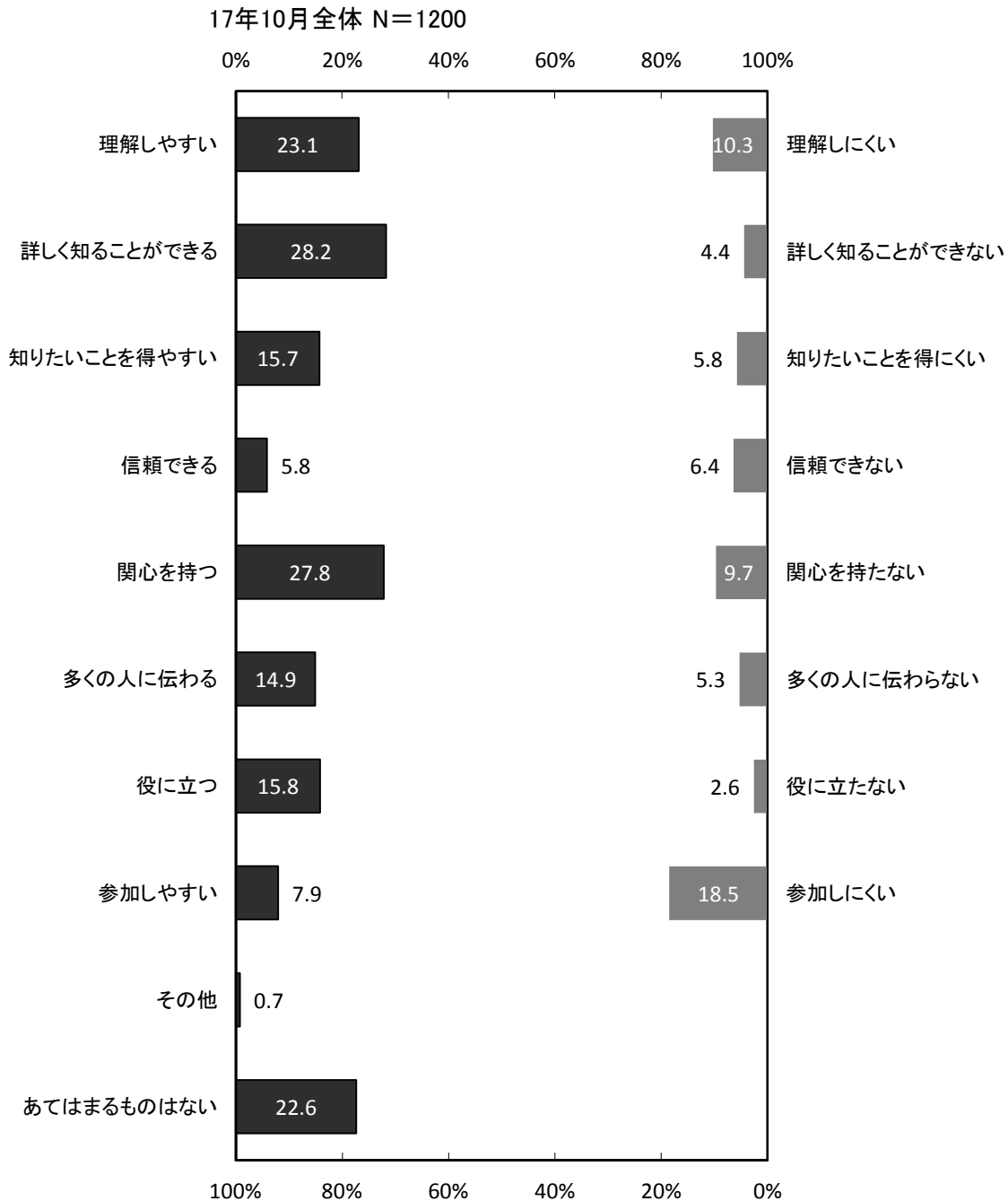
(%)

●原子力・エネルギー・放射線についての広聴・広報

問16-2～16-5を比較すると、「施設見学会」は(相対的に)「関心を持つ」手段として、「勉強会」は「詳しく知ることのできる」手段として、また、「講演会(大規模)」は「多くの人に伝わる」手段として、認識されているようだ。もっとも参加しやすい方法は、「講演会(大規模)」であった。

「講演会(少人数)」は、他の手段と比較して、特段のメリットを示す項目がなく、かつ、もっとも「参加しにくい」ものであった。ただし、これについては、今回の選択肢の中に、参加者が主体となった目的(他の参加者の意見を知ることができる・自分の意見を伝えることができる等)が含まれていないことに起因するとも思われ、今度の設問調整が望まれる。

問16-2.「施設見学会」で原子力やエネルギー、放射線に関する情報を得る場合、次に挙げた事柄について、あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも)



<2017年10月のクロス集計結果(1/2)>

問16-2.「施設見学会」で原子力やエネルギー、放射線に関する情報を得る場合、次に挙げた事柄について、あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも)

	全体	性別		年代別						
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	219	170
理解しやすい	23.1	23.7	22.5	15.5	20.8	21.6	22.4	25.1	25.1	25.9
理解しにくい	10.3	11.2	9.4	8.5	9.4	6.7	9.8	12.0	12.8	11.8
詳しく知ることができる	28.2	28.0	28.3	22.5	27.5	27.8	28.0	31.7	33.3	21.2
詳しく知ることができない	4.4	5.4	3.5	2.8	4.0	2.6	3.3	5.5	5.0	7.1
知りたいことを得やすい	15.7	14.4	16.9	7.0	12.8	15.5	12.1	15.8	21.0	19.4
知りたいことを得にくい	5.8	7.4	4.1	4.2	5.4	4.6	3.7	9.3	7.3	4.7
信頼できる	5.8	7.2	4.3	4.2	6.0	3.1	5.6	7.1	6.4	7.1
信頼できない	6.4	8.2	4.6	2.8	6.7	6.7	7.0	8.7	5.9	4.7
関心を持つ	27.8	27.2	28.5	14.1	24.2	25.3	23.8	33.9	34.2	30.0
関心を持たない	9.7	9.9	9.4	16.9	13.4	11.3	10.3	5.5	7.3	8.2
多くの人に伝わる	14.9	14.4	15.4	14.1	15.4	11.9	12.1	20.2	15.5	15.3
多くの人に伝わらない	5.3	6.4	4.1	1.4	8.1	7.2	3.3	5.5	5.5	4.1
役に立つ	15.8	16.1	15.6	9.9	18.1	13.4	14.0	16.4	20.5	14.7
役に立たない	2.6	3.9	1.3	-	0.7	3.6	2.3	3.8	3.2	2.4
参加しやすい	7.9	8.4	7.5	4.2	5.4	7.2	6.1	10.9	8.7	10.6
参加しにくい	18.5	16.9	20.0	15.5	20.8	18.0	18.7	17.5	20.1	17.1
その他	0.7	0.5	0.8	1.4	0.7	1.0	1.4	-	0.5	-
あてはまるものはない	22.6	23.7	21.5	31.0	18.8	23.2	26.2	18.0	16.0	30.6

(%)

<2017年10月のクロス集計結果(2/2)>

問16-2.「施設見学会」で原子力やエネルギー、放射線に関する情報を得る場合、次に挙げた事柄について、あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも)

	全体	原子力の情報保有量別				社会性の程度別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	249	493	369	89	83	593	179	271
理解しやすい	23.1	38.8	27.6	21.4	11.0	35.7	24.5	17.6	2.2	30.1	26.8	24.0	15.9
理解しにくい	10.3	7.2	14.2	10.2	6.6	14.9	9.7	7.6	12.4	8.4	11.8	12.8	7.7
詳しく知ることができる	28.2	40.3	32.8	29.2	13.9	41.4	29.8	23.3	2.2	33.7	34.1	26.3	19.2
詳しく知ることができない	4.4	5.8	6.5	4.0	1.5	10.0	3.9	1.9	2.2	3.6	4.7	8.9	1.8
知りたいことを得やすい	15.7	28.1	19.4	14.2	6.2	28.9	16.2	8.7	4.5	15.7	17.9	20.1	9.6
知りたいことを得にくい	5.8	10.8	8.0	4.2	2.2	10.8	5.9	1.6	7.9	7.2	6.1	10.1	2.6
信頼できる	5.8	12.9	5.7	5.5	2.6	10.8	5.1	4.3	1.1	13.3	5.6	7.8	3.0
信頼できない	6.4	10.8	8.8	5.0	2.9	11.2	6.3	3.5	5.6	6.0	5.7	16.2	2.6
関心を持つ	27.8	43.2	35.7	26.7	10.6	42.6	33.3	16.0	5.6	43.4	32.7	30.2	16.6
関心を持たない	9.7	4.3	7.0	8.0	18.7	8.0	7.9	9.2	25.8	6.0	6.9	8.9	13.7
多くの人に伝わる	14.9	20.1	18.1	15.0	7.7	22.9	15.8	11.1	3.4	14.5	17.7	14.0	11.4
多くの人に伝わらない	5.3	7.9	7.8	3.0	3.7	8.4	5.3	3.0	5.6	7.2	4.6	10.1	3.7
役に立つ	15.8	28.1	19.9	13.7	7.0	26.9	17.2	9.5	3.4	25.3	18.4	16.2	10.0
役に立たない	2.6	3.6	3.1	2.2	1.8	3.6	2.4	1.9	3.4	1.2	3.4	2.8	1.5
参加しやすい	7.9	12.9	10.1	8.0	2.2	16.1	7.1	5.1	1.1	13.3	9.8	7.3	4.4
参加しにくい	18.5	14.4	23.8	18.2	13.6	22.9	19.9	15.4	11.2	19.3	21.1	20.7	12.5
その他	0.7	0.7	1.0	0.5	0.4	0.8	0.6	0.8	-	-	1.0	0.6	0.4
あてはまるものはない	22.6	15.1	14.7	19.2	42.5	12.0	19.3	27.4	50.6	16.9	16.0	19.6	33.6

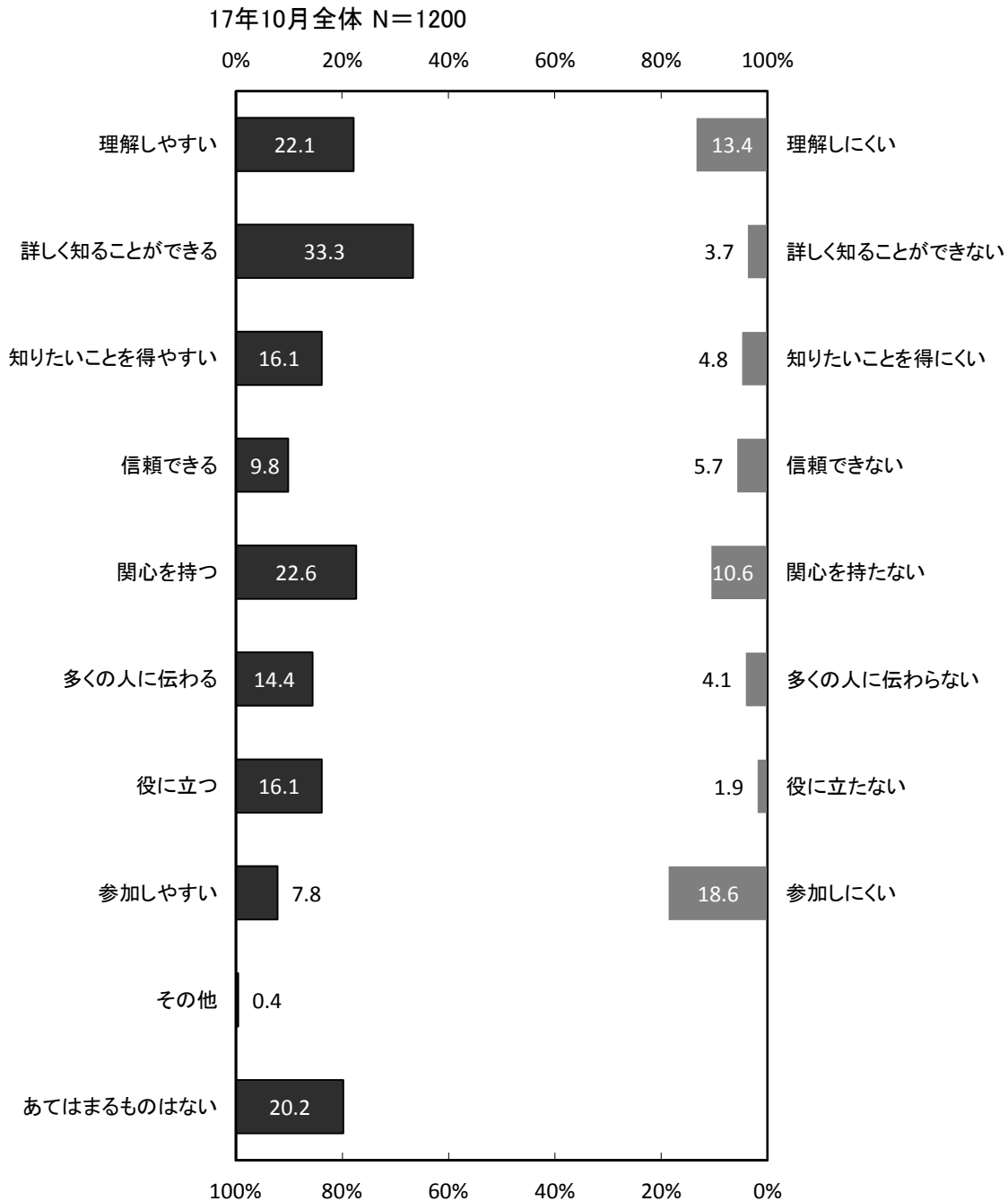
(%)

●原子力・エネルギー・放射線についての広聴・広報

問16-2～16-5を比較すると、「施設見学会」は(相対的に)「関心を持つ」手段として、「勉強会」は「詳しく知ることのできる」手段として、また、「講演会(大規模)」は「多くの人に伝わる」手段として、認識されているようだ。もっとも参加しやすい方法は、「講演会(大規模)」であった。

「講演会(少人数)」は、他の手段と比較して、特段のメリットを示す項目がなく、かつ、もっとも「参加しにくい」ものであった。ただし、これについては、今回の選択肢の中に、参加者が主体となった目的(他の参加者の意見を知ることができる・自分の意見を伝えることができる等)が含まれていないことに起因するとも思われ、今度の設問調整が望まれる。

問16-3.「勉強会(専門家が講師として解説を行う)」で原子力やエネルギー、放射線に関する情報を得る場合、次に挙げた事柄について、あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも)



<2017年10月のクロス集計結果(1/2)>

問16-3.「勉強会(専門家が講師として解説を行う)」で原子力やエネルギー、放射線に関する情報を得る場合、次に挙げた事柄について、あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも)

	全体	性別		年代別						
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	219	170
理解しやすい	22.1	20.6	23.5	14.1	22.8	20.6	18.2	26.2	23.3	25.3
理解しにくい	13.4	14.8	12.1	11.3	12.1	11.9	11.7	14.8	16.0	14.7
詳しく知ることができる	33.3	32.2	34.3	21.1	36.2	33.0	36.9	41.0	32.0	24.7
詳しく知ることができない	3.7	4.7	2.6	-	2.7	2.6	3.3	3.8	4.6	6.5
知りたいことを得やすい	16.1	16.9	15.2	7.0	15.4	16.0	8.9	18.6	21.9	19.4
知りたいことを得にくい	4.8	6.2	3.3	2.8	2.0	3.6	5.6	5.5	5.9	5.9
信頼できる	9.8	9.4	10.3	4.2	10.1	7.7	8.9	10.4	11.0	13.5
信頼できない	5.7	7.7	3.6	1.4	5.4	4.1	5.6	4.9	7.8	7.6
関心を持つ	22.6	21.1	24.0	8.5	17.4	19.1	17.8	25.7	30.1	30.0
関心を持たない	10.6	10.9	10.3	18.3	13.4	12.9	9.3	7.1	8.2	10.6
多くの人に伝わる	14.4	11.9	16.9	11.3	16.1	11.3	15.0	14.8	16.0	14.7
多くの人に伝わらない	4.1	6.0	2.2	1.4	3.4	5.2	2.8	5.5	4.6	4.1
役に立つ	16.1	15.6	16.6	9.9	14.8	12.9	17.8	14.8	19.2	18.8
役に立たない	1.9	2.5	1.3	1.4	2.0	2.6	1.4	2.2	1.4	2.4
参加しやすい	7.8	7.7	7.8	8.5	7.4	4.6	5.6	9.3	8.7	11.2
参加しにくい	18.6	18.8	18.4	9.9	13.4	20.6	19.6	16.4	22.8	20.0
その他	0.4	0.5	0.3	-	-	0.5	-	0.5	0.9	0.6
あてはまるものはない	20.2	22.5	17.9	31.0	20.8	19.1	22.4	15.3	17.8	21.8

(%)

<2017年10月のクロス集計結果(2/2)>

問16-3.「勉強会(専門家が講師として解説を行う)」で原子力やエネルギー、放射線に関する
 情報を得る場合、次に挙げた事柄について、あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも)

	全体	原子力の情報保有量別				社会性の程度別				原子力利用に対する態度別			
		保有量 多	保有量 中	保有量 少	保有量 無	社会性 高	社会性 中	社会性 低	社会性 無	増加・ 維持	徐々に 廃止	即時廃 止	わから ない
N	1200	139	387	401	273	249	493	369	89	83	593	179	271
理解しやすい	22.1	36.7	24.8	22.4	10.3	32.9	24.3	16.5	2.2	26.5	25.5	22.9	16.2
理解しにくい	13.4	12.2	20.4	11.5	7.0	16.5	14.4	10.8	10.1	14.5	16.5	14.5	6.6
詳しく知ることができる	33.3	46.8	40.1	35.7	13.2	46.2	38.3	24.4	5.6	37.3	39.6	35.8	21.4
詳しく知ることができない	3.7	5.0	4.7	3.5	1.8	6.4	3.9	1.6	3.4	6.0	4.0	4.5	2.2
知りたいことを得やすい	16.1	29.5	20.2	14.2	6.2	29.7	16.2	10.0	2.2	20.5	18.5	20.1	9.2
知りたいことを得にくい	4.8	6.5	6.5	3.7	2.9	7.6	5.5	2.2	3.4	7.2	5.4	7.3	1.5
信頼できる	9.8	17.3	12.4	9.0	3.7	18.5	10.3	5.1	2.2	16.9	13.0	5.6	5.2
信頼できない	5.7	5.8	8.3	5.0	2.9	7.6	6.7	3.0	5.6	4.8	5.9	12.3	1.5
関心を持つ	22.6	38.1	25.8	23.7	8.4	39.4	24.9	12.2	5.6	28.9	26.6	25.7	13.3
関心を持たない	10.6	3.6	7.8	9.0	20.5	7.2	9.1	10.8	27.0	8.4	8.4	7.8	14.4
多くの人に伝わる	14.4	15.1	15.2	17.5	8.4	22.1	15.4	10.6	3.4	20.5	15.5	13.4	13.7
多くの人に伝わらない	4.1	7.2	5.7	3.0	1.8	6.4	4.9	2.2	1.1	7.2	4.4	6.1	1.1
役に立つ	16.1	28.8	20.9	14.0	5.9	27.3	18.9	7.9	3.4	25.3	19.2	17.3	8.1
役に立たない	1.9	1.4	2.3	1.7	1.8	3.2	1.6	1.4	2.2	3.6	1.7	4.5	0.4
参加しやすい	7.8	15.1	11.6	5.5	1.8	16.1	8.7	2.4	1.1	12.0	8.9	11.7	3.0
参加しにくい	18.6	12.9	24.8	17.7	13.9	20.1	20.7	16.5	11.2	21.7	20.6	17.3	16.2
その他	0.4	-	0.8	0.2	0.4	0.8	0.2	0.3	1.1	-	0.7	-	0.4
あてはまるものはない	20.2	18.0	13.2	16.5	36.6	11.2	16.6	24.9	44.9	14.5	14.0	19.0	29.9

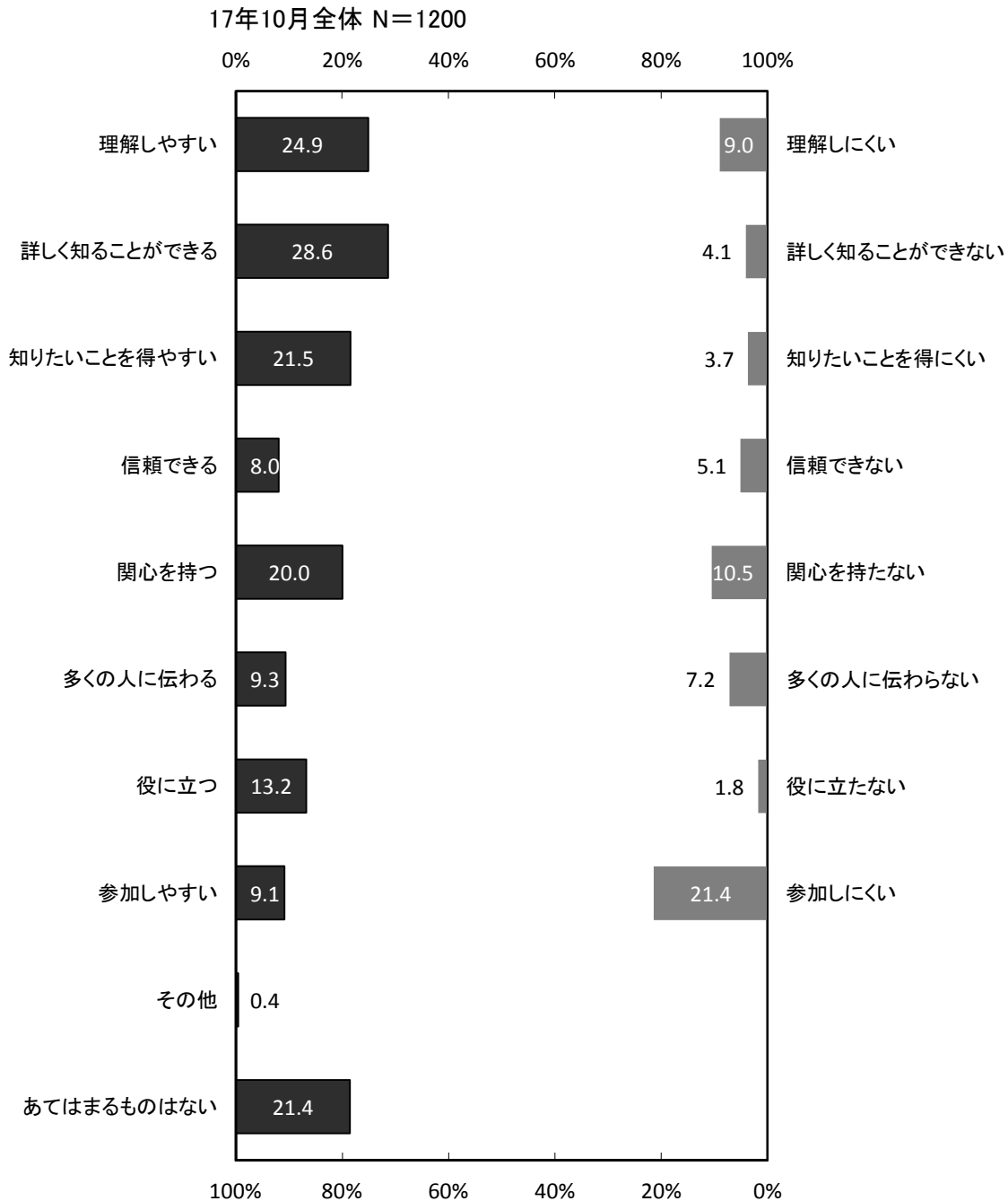
(%)

●原子力・エネルギー・放射線についての広聴・広報

問16-2～16-5を比較すると、「施設見学会」は(相対的に)「関心を持つ」手段として、「勉強会」は「詳しく知ることのできる」手段として、また、「講演会(大規模)」は「多くの人に伝わる」手段として、認識されているようだ。もっとも参加しやすい方法は、「講演会(大規模)」であった。

「講演会(少人数)」は、他の手段と比較して、特段のメリットを示す項目がなく、かつ、もっとも「参加しにくい」ものであった。ただし、これについては、今回の選択肢の中に、参加者が主体となった目的(他の参加者の意見を知ることができる・自分の意見を伝えることができる等)が含まれていないことに起因するとも思われ、今度の設問調整が望まれる。

問16-4.「講演会(少人数・双方向型)」で原子力やエネルギー、放射線に関する情報を得る場合、次に挙げた事柄について、あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも)



<2017年10月のクロス集計結果(1/2)>

問16-4.「講演会(少人数・双方向型)」で原子力やエネルギー、放射線に関する情報を得る場合、次に挙げた事柄について、あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも)

	全体	性別		年代別						
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	219	170
理解しやすい	24.9	24.8	25.0	15.5	25.5	24.7	21.5	31.1	24.7	26.5
理解しにくい	9.0	9.4	8.6	5.6	4.7	5.2	7.5	12.0	11.9	13.5
詳しく知ることができる	28.6	27.3	29.8	21.1	31.5	28.4	29.9	32.2	29.2	22.9
詳しく知ることができない	4.1	5.2	3.0	-	4.0	4.1	2.8	4.9	5.5	4.7
知りたいことを得やすい	21.5	21.1	21.9	9.9	23.5	21.1	19.2	23.5	23.7	22.9
知りたいことを得にくい	3.7	5.2	2.2	-	2.0	4.6	3.7	4.9	3.7	4.1
信頼できる	8.0	8.9	7.1	5.6	8.1	6.2	6.5	9.8	9.1	9.4
信頼できない	5.1	7.0	3.1	2.8	6.0	4.1	3.7	5.5	6.4	5.9
関心を持つ	20.0	18.1	21.9	8.5	17.4	17.5	17.8	20.8	25.1	25.3
関心を持たない	10.5	11.6	9.4	14.1	12.8	14.4	8.4	7.1	8.2	11.8
多くの人に伝わる	9.3	9.2	9.4	5.6	10.1	9.3	5.1	11.5	11.0	11.2
多くの人に伝わらない	7.2	8.6	5.8	7.0	7.4	6.7	6.5	6.0	11.0	4.7
役に立つ	13.2	13.3	13.1	7.0	13.4	10.8	15.9	12.0	13.2	15.9
役に立たない	1.8	2.3	1.2	-	2.0	2.1	1.9	1.6	1.4	2.4
参加しやすい	9.1	8.7	9.4	9.9	12.8	6.7	9.8	8.2	8.7	8.8
参加しにくい	21.4	20.5	22.4	15.5	16.8	21.6	22.9	21.3	25.6	20.6
その他	0.4	0.5	0.3	-	-	0.5	-	0.5	0.9	0.6
あてはまるものはない	21.4	24.2	18.7	32.4	22.1	20.1	23.4	16.9	19.2	22.9

(%)

<2017年10月のクロス集計結果(2/2)>

問16-4.「講演会(少人数・双方向型)」で原子力やエネルギー、放射線に関する情報を得る場合、次に挙げた事柄について、あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも)

	全体	原子力の情報保有量別				社会性の程度別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	249	493	369	89	83	593	179	271
理解しやすい	24.9	42.4	28.7	23.9	12.1	38.2	27.4	17.9	3.4	28.9	27.3	30.2	17.0
理解しにくい	9.0	6.5	12.4	8.5	6.2	10.4	10.1	6.8	7.9	9.6	11.1	9.5	4.4
詳しく知ることができる	28.6	45.3	33.3	29.2	12.5	41.8	30.6	23.0	3.4	32.5	33.1	30.2	21.0
詳しく知ることができない	4.1	4.3	6.5	3.5	1.5	6.4	5.1	1.4	3.4	4.8	4.9	5.6	1.5
知りたいことを得やすい	21.5	37.4	27.6	19.2	8.1	36.5	23.5	12.5	5.6	26.5	24.8	26.3	12.9
知りたいことを得にくい	3.7	4.3	4.4	4.0	1.8	7.6	3.7	1.1	3.4	7.2	4.0	5.6	0.7
信頼できる	8.0	15.8	9.6	7.5	2.6	13.3	8.5	5.1	2.2	15.7	9.8	6.1	3.7
信頼できない	5.1	5.8	8.0	3.5	2.9	6.8	6.1	3.0	3.4	6.0	5.1	10.1	1.8
関心を持つ	20.0	32.4	24.3	19.2	8.8	33.7	21.7	11.9	5.6	15.7	26.0	21.2	11.1
関心を持たない	10.5	5.8	7.8	9.2	18.7	8.8	8.7	10.8	23.6	12.0	8.3	8.9	12.5
多くの人に伝わる	9.3	12.2	11.4	8.0	7.0	14.1	10.5	6.0	3.4	12.0	10.8	10.1	7.0
多くの人に伝わらない	7.2	7.9	9.8	7.2	2.9	11.2	8.1	4.1	3.4	10.8	7.4	8.9	4.8
役に立つ	13.2	25.9	15.8	12.0	4.8	25.7	13.2	7.6	1.1	22.9	14.2	16.8	7.7
役に立たない	1.8	1.4	2.6	1.7	0.7	3.2	1.6	1.4	-	3.6	1.9	2.8	0.4
参加しやすい	9.1	12.9	10.6	9.7	4.0	16.5	10.1	4.6	1.1	13.3	9.6	11.7	6.3
参加しにくい	21.4	18.7	29.2	20.2	13.6	24.5	22.3	21.4	7.9	26.5	25.3	18.4	16.2
その他	0.4	-	0.8	0.2	0.4	0.8	0.2	0.3	1.1	-	0.7	-	0.4
あてはまるものはない	21.4	17.3	14.2	17.5	39.6	13.3	17.8	25.5	47.2	16.9	15.3	20.1	30.6

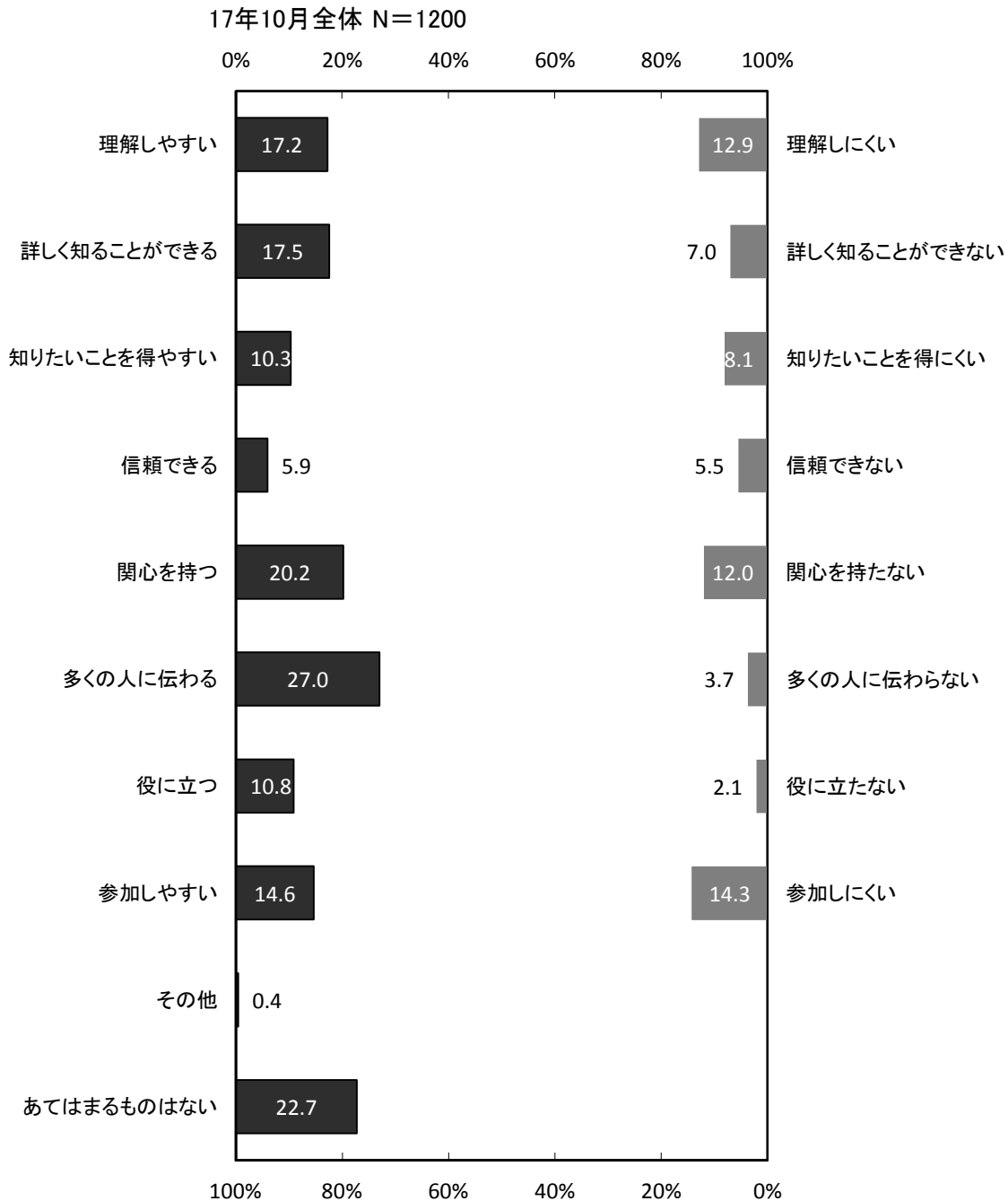
(%)

●原子力・エネルギー・放射線についての広聴・広報

問16-2～16-5を比較すると、「施設見学会」は(相対的に)「関心を持つ」手段として、「勉強会」は「詳しく知ることのできる」手段として、また、「講演会(大規模)」は「多くの人に伝わる」手段として、認識されているようだ。もっとも参加しやすい方法は、「講演会(大規模)」であった。

「講演会(少人数)」は、他の手段と比較して、特段のメリットを示す項目がなく、かつ、もっとも「参加しにくい」ものであった。ただし、これについては、今回の選択肢の中に、参加者が主体となった目的(他の参加者の意見を知ることができる・自分の意見を伝えることができる等)が含まれていないことに起因するとも思われ、今度の設問調整が望まれる。

問16-5.「講演会(大規模・パネリストによる討論会)」で原子力やエネルギー、放射線に関する情報を得る場合、次に挙げた事柄について、あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも)



<2017年10月のクロス集計結果(1/2)>

問16-5.「講演会(大規模・パネリストによる討論会)」で原子力やエネルギー、放射線に関する情報を得る場合、次に挙げた事柄について、あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも)

	全体	性別		年代別						
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
N	1200	596	604	71	149	194	214	183	219	170
理解しやすい	17.2	17.8	16.6	9.9	19.5	14.4	14.5	19.7	17.4	21.8
理解しにくい	12.9	13.3	12.6	11.3	7.4	10.8	10.7	15.8	17.4	14.7
詳しく知ることができる	17.5	16.9	18.0	9.9	19.5	14.9	18.2	20.2	17.8	17.6
詳しく知ることができない	7.0	9.9	4.1	2.8	5.4	8.2	4.7	9.3	8.2	7.6
知りたいことを得やすい	10.3	10.4	10.1	2.8	10.1	6.7	8.4	9.3	14.2	15.9
知りたいことを得にくい	8.1	10.2	6.0	5.6	6.0	8.2	6.5	12.0	8.7	7.6
信頼できる	5.9	6.0	5.8	4.2	8.7	5.7	2.3	7.7	5.9	7.1
信頼できない	5.5	8.1	3.0	2.8	4.7	6.2	5.6	4.4	5.9	7.1
関心を持つ	20.2	17.8	22.5	5.6	19.5	18.0	19.6	20.8	24.2	24.1
関心を持たない	12.0	13.4	10.6	16.9	14.8	16.0	8.9	9.3	8.7	14.1
多くの人に伝わる	27.0	23.2	30.8	18.3	30.9	27.8	27.1	30.1	29.7	19.4
多くの人に伝わらない	3.7	5.2	2.2	1.4	3.4	1.5	2.8	5.5	4.1	5.9
役に立つ	10.8	11.2	10.3	4.2	10.1	8.8	11.7	10.9	14.2	10.6
役に立たない	2.1	2.3	1.8	-	0.7	1.0	2.8	2.2	1.8	4.7
参加しやすい	14.6	13.3	15.9	7.0	14.1	12.4	17.3	16.9	15.5	13.5
参加しにくい	14.3	14.4	14.2	9.9	10.7	14.9	13.1	12.0	17.4	18.8
その他	0.4	0.3	0.5	-	-	-	-	1.6	0.5	0.6
あてはまるものはない	22.7	25.2	20.2	31.0	22.1	21.6	25.7	18.0	21.5	23.5

(%)

<2017年10月のクロス集計結果(2/2)>

問16-5.「講演会(大規模・パネリストによる討論会)」で原子力やエネルギー、放射線に関する情報を得る場合、次に挙げた事柄について、あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも)

	全体	原子力の情報保有量別				社会性の程度別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	社会性高	社会性中	社会性低	社会性無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	249	493	369	89	83	593	179	271
理解しやすい	17.2	25.9	20.4	16.5	9.2	24.9	19.7	12.5	1.1	19.3	18.7	20.1	11.8
理解しにくい	12.9	12.2	19.4	12.0	5.5	18.9	13.8	8.9	7.9	14.5	15.9	14.0	6.6
詳しく知ることができる	17.5	25.9	21.7	16.0	9.5	28.1	18.5	12.2	4.5	16.9	21.2	19.6	11.4
詳しく知ることができない	7.0	13.7	10.1	5.7	1.1	12.4	7.3	3.8	3.4	8.4	7.8	10.6	2.6
知りたいことを得やすい	10.3	15.1	12.9	11.0	2.9	20.9	9.5	6.2	1.1	7.2	12.0	15.1	5.9
知りたいことを得にくい	8.1	15.8	12.7	5.0	2.2	14.9	8.3	4.1	4.5	10.8	9.6	10.6	3.7
信頼できる	5.9	12.2	7.8	3.5	3.7	12.0	6.3	2.2	2.2	15.7	5.7	6.1	3.7
信頼できない	5.5	7.2	7.5	5.0	2.6	7.6	5.9	4.1	3.4	4.8	5.7	8.4	3.7
関心を持つ	20.2	30.2	24.8	19.5	9.5	30.1	23.7	12.2	5.6	22.9	24.3	24.0	11.1
関心を持たない	12.0	7.2	9.8	9.2	21.6	11.2	10.1	11.7	25.8	15.7	8.9	8.9	15.1
多くの人に伝わる	27.0	29.5	34.6	28.2	13.2	36.5	32.3	18.4	6.7	32.5	30.4	30.2	21.4
多くの人に伝わらない	3.7	5.8	4.7	3.7	1.1	9.6	3.2	1.1	-	4.8	4.4	5.0	1.1
役に立つ	10.8	20.9	13.4	10.0	2.9	21.3	10.8	6.2	-	16.9	12.1	15.1	5.5
役に立たない	2.1	2.9	3.6	1.5	0.4	4.4	2.0	1.1	-	2.4	2.5	3.4	0.4
参加しやすい	14.6	22.3	18.6	14.7	4.8	23.3	17.8	7.6	1.1	21.7	17.2	16.8	8.1
参加しにくい	14.3	10.1	18.9	13.2	11.7	16.1	15.8	13.0	6.7	15.7	15.7	12.3	13.3
その他	0.4	-	0.8	0.2	0.4	0.4	0.4	0.3	1.1	-	0.3	0.6	0.7
あてはまるものはない	22.7	21.6	16.0	19.0	38.1	15.3	18.1	27.6	48.3	18.1	17.2	20.7	32.1

(%)

Ⅹ章 自由記述

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問17. 最後に原子力やエネルギー、放射線に対するお考えがあればお書きください。
また、これらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えについてもお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
原子力で得られるエネルギーは大きい、危険である。	男性	15歳	山口
原子力発電は、日本にとって悪い影響が大きいと思う。	男性	16歳	栃木
安全にしてほしい。	男性	17歳	埼玉
NHKニュース防災での原子力などの通知に、一つ一つ目を通していきたい。	男性	17歳	静岡
医療などで必要性はわかっているが、代替できるものがあるなら頼らずにやるべき。	男性	17歳	愛知
必要ない。	男性	17歳	熊本
小学校や中学校の授業などで、原子力やエネルギーについての理解を深めることができる機会を増やすべきである。東日本大震災の時のような事故が起きた時に、最善の行動をとるための知識がなくて命を落とす危険性があるから。	男性	17歳	神奈川
なるようになる。	男性	18歳	北海道
原子力は日本には無理。(火山国)	男性	19歳	神奈川
理系なので、大学でこれらのことを学びたいと思っている。	男性	19歳	埼玉
危ないと思われている反面、がん治療にも使われているため、切っても切れないものと考え	男性	19歳	京都
る。			
処分地を決めてから他を決めるべき。	男性	20歳	東京
原発ゼロを本気で実現しようとする国に比べると、本気度を感じない。	男性	21歳	大阪
意味が分かりません。	男性	23歳	沖縄
原子力発電を中止してほしい。	男性	24歳	大阪
隠さず話すべき。忘れられる過去になりつつある。今の国は信頼できない。	男性	25歳	山梨
こわい。	男性	25歳	千葉
原発がなくても電力は足りるはずだし、原発は決して安い電力ではない(原発を建設する県への援助や、廃棄物処分費用など)。3.11で福島の人々が今も苦しんでいるのに、なぜ安全だと偽れるのか理解できない。国や東電が発する情報は全く信用できない。	男性	25歳	神奈川
原子力に代わる新しい資源を見つけ、いち早く福島の人たちに安心して生活して欲しい。もちろん故郷で。	男性	26歳	福岡
興味なし。どうでもいい。	男性	26歳	東京
今の状況では原子力発電に頼らないと電気の供給不足になると思うので、20~30年後くらいには、原発なしでまかなえるようになってほしい。	男性	26歳	東京
医療に役立てるならOK。兵器等、破壊につながるのは×。	男性	27歳	北海道
命の為に別の命を危険にさらすのはわかる。しかし、便利さの為に命を危険にさらすのはおかしい。万が一の時、人間以外の他の生命がとも困ってしまうし、原発には反対。	男性	28歳	神奈川
怖いものだが、今の生活水準を維持するのに必要。	男性	28歳	神奈川
原子力の推進・廃炉については、十分知識がないので判断できない。原子力発電所は(福島 の事件を想起させ)確かに不測の事態が想定されるようなイメージがあるので、何となく怖いイ メージはある。再生エネルギーで充分コスト面等で、原子力と変わらない水準へ至ることが将 来的に見込めるのであれば、再生エネルギーが良いが、そこまで決断できないのは、十分な予 測ができないからだと思う。どの程度の賭けになるのかにもよるが、見込み薄であれば(安全 面を十分確保の上)、原子力を活用せざるをえない、と言う印象を持っている。	男性	29歳	千葉
政治的な思惑に結びつきやすく、利害、思想の対立に話題が流れやすく、情報のおよその像を 捉えにくい。元々事故が発生する前は、生活になじみがなくわかりにくい。そこに付け入ってデ マのようなニュースや、的外れな報道も多いイメージ。	男性	29歳	東京

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問17. 最後に原子力やエネルギー、放射線に対するお考えがあればお書きください。
また、これらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えについてもお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
ネットや書面で一般の人がそれらについて気になっていることについての意見や質問を事前に集めておいて、それについての答えや対策を専門家が話す番組を放送する。さらにその結果のまとめを新聞に載せ、ネットでも再配信する。若い人にはLINEやTwitter、年配の型には、新聞や雑誌で紹介した方が伝わりやすいと思う。	男性	29歳	愛知
原子力は必要。	男性	30歳	青森
原発反対の意見ばかり報道されていて、縮小傾向になっているが、原子力の研究が遅れることにならないか。これから先、原子力の研究をする人がいなくなるのではないかと思う。	男性	30歳	京都
良いイメージはないが、ゼロにすることは現実的ではないと考える。代替案があって、金銭的にやりくりできるエネルギーがあるようなら減らしていけば良いと思う。天気予報のように原発やエネルギー情報をネット(地図で)上で見れると良い。	男性	31歳	静岡
原子力発電は役に立つが、地震国に原子力は危険でリスクが大きいと思う。	男性	32歳	埼玉
自分の頭で判断することが大切だと思います。	男性	33歳	東京
電気は使っているものの、原子力エネルギーがどういった施設で作られている等が詳しくわからないので、正直信頼はできません。	男性	33歳	宮城
子供の将来のことを考えると、不安感が大きい。	男性	33歳	大阪
安全を最優先してほしい。	男性	34歳	埼玉
福島の中で、原子力、放射線が危険なものとなされがちだが、我々の生活の中では有効に活用され、人々の生活を支えていることも知らせるべきである。	男性	34歳	大分
メリット、デメリットで考えると、色んな分野で利用されているメリットが過小評価されていると思う。危険なのはすぐわかるが、利便性の情報が理解されにくいと感じる。	男性	35歳	千葉
きちんと話し合われる。また、一方の人の思う方向に引っ張らない。オープンにする。そして自分たちの意見に責任を持つ。いろいろな専門家の意見を交換させる。	男性	36歳	東京
もっと情報を伝えていく。ニュースや政府関係者に現在働いている人の生の言葉を定期的に。	男性	36歳	埼玉
危険ならなくなってほしいけど、代わりがないなら安全にしてほしい。	男性	36歳	愛知
処分が困難な原子力、放射線などは、使用は控えるべきだと思う。	男性	36歳	埼玉
私たちに危険を及ぼすことはなるべく減らしたい。必要な部分もある為、最小限にし、安全なもの組み合わせるべき。利益・利便性だけを追求したくない。	男性	37歳	千葉
自然エネルギーに切り替えるべき。	男性	37歳	神奈川
福島第一原子力発電所の事故から6年が経過し、その被害や惨状に対し既に記憶の風化が始まっているように感じる。原発再稼働の方針でヨガ動いているようだが、原発の事故がその周辺地域に住む人々の郷土と生活を奪ってしまった。この残酷な事実から目をそらさず、今からでも原子力発電を放棄し、エネルギー革新を起こすくらいの意気込みで専門家や政治家、官僚が動いて欲しいと願っている。	男性	37歳	群馬
「原子力やエネルギー、放射線」と聞くと言葉だけで難しく、拒否反応してしまう。簡単にまとめた冊子等を家庭に配布し、興味を持つところから始めた方がよい。	男性	38歳	埼玉
専門家、評論家などの詳しい方たちにお任せします。	男性	38歳	愛知
将来的には、世界的に廃止すべきとは思いますが、代替のエネルギーがはっきりしない中、すぐに廃止は難しいと思う。	男性	38歳	大阪
原子力はエネルギーを得るにはとても効率がよいと思うが、非常に危険なので、使わない安心な国を目指してもらいたいです。	男性	38歳	愛知
処分に困る様なものは使うべきではない。	男性	38歳	東京

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問17. 最後に原子力やエネルギー、放射線に対するお考えがあればお書きください。
また、これらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えについてもお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
高レベル放射性廃棄物の最終処分場が決まってないのに、これ以上原子力発電所を稼働すべきでない。立場によってメリット・デメリットがあることなので、賛否両方の識者に詳しい情報発信・解説を開かれた場(TV・ラジオ・ネット)でしてほしい。	男性	39歳	埼玉
あまり興味がないが、そういう人は多いと思う。	男性	39歳	大阪
必要なものではあるが、国が民間である電力会社、経団連をコントロールできていないと思う。利益優先しすぎて安全とのバランスがとれているのか、信頼をおけない。特に経団連等は信頼できる機関ではなくなったと思う。	男性	39歳	愛知
よくわからない。	男性	40歳	三重
原子力発電は不必要。事故になった時の被害が大きすぎる。	男性	40歳	大阪
生活への為必要であるが、安全性に不安がある。	男性	40歳	栃木
意見や見解の違い等の食い違いを、世界規模で正直に話して討論して欲しい。	男性	40歳	福岡
原子力に代わるエネルギーを使うことを希望する。情報を得たいが、どこで得られるかわからない。	男性	40歳	広島
原子力事故のリスクを考えると、リスクの少ない別のエネルギーに替えていった方がよいと思う。	男性	41歳	東京
便利な日常生活を送りたいが、何が正しいのかよくわからない。	男性	41歳	埼玉
必要だと思う。	男性	41歳	石川
資源が少ない国なので、原子力も必要。	男性	41歳	広島
福島が終わってないのに、何にも解決できるわけがない。	男性	41歳	山梨
コントロールできない技術を使うべきではない。事なかれ主義の日本人にはムリ。	男性	42歳	神奈川
よくわからない。	男性	42歳	大阪
核による抑止力を巡って賛成、反対をあおる人、組織はなくならないと思う。	男性	42歳	三重
放射線が怖いなら、電気を使わなければいい。	男性	43歳	東京
安全を確保できるなら必要である。	男性	43歳	大阪
原子力発電所の見学が一番である。現場で働いている人間の意見は重たい。信頼できるし、説得力がある。	男性	43歳	北海道
メリット、デメリットをきちんと伝えることが大切で、例えば太陽光発電もパネルを作る時、設置する時に発生するものもエネルギーと考えるとどうなるのか等。利益追求だけではダメだと思う。	男性	43歳	鹿児島
原子力発電を止めると電力不足となり、日本経済に大きな障害となると思うが、地震の多い日本で原子力発電を続けることはリスクが高く、電力不足以上に潜在的なマイナスが大きいと考える。すぐに停止はできないにしても、再稼働をさせずに代替エネルギーをもっと増やしていくべきで、国が主体となって取り組むべきと考える。放射線については原子力発電(核分裂)で発生するものではあるが、それ以外にもある。正しく理解する必要があると思う。	男性	44歳	埼玉
放射線治療の有効化。	男性	44歳	神奈川
マスコミや報道の情報は全く信頼できないので、自分でネットを活用し、IAEAなどのサイトを見るようにしている。	男性	44歳	東京
きちんと情報を公開して、わかりやすく説明して欲しい。	男性	44歳	愛知
不要	男性	45歳	埼玉
福島の土地を国が買い取り、最終処分場とすれば良いと思う。	男性	45歳	長野
最終処分が不明なものは使うべきではないと思う。先の子供達に負を持ちこしたくはない。	男性	46歳	三重
安全で安心できるものにしてほしい。	男性	47歳	東京
医療に放射線は必要。原子力発電は必要だが、できれば使いたくない。	男性	48歳	神奈川

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問17. 最後に原子力やエネルギー、放射線に対するお考えがあればお書きください。
また、これらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えについてもお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
情報、内容を理解しているわけではありませんが、福島第一原子力事故でのゴミを近くで燃やす話を聞き、反対署名を集めていました。福島現地で働かなければならない方、どうしようもない方々をニュースなどで見ると胸が苦しくなります。(動物も)人体に害がなく、安心、安全に住める場所がすべての方にありますよう願います。この大きな問題を考える前に自分、家族の生活に追われる日々の現状です。	男性	48歳	岩手
原子力は必要だと思うが、安全性が不安。原子力に代わる水か風力など自然なもので安定供給できるのが望ましい。	男性	48歳	大阪
そもそも、どういうものなのかわからない。	男性	48歳	兵庫
素人考えで理解できるレベルではない。専門家に求む。	男性	48歳	大阪
原子力は必要だと思う。しかし、情報はすべて公開し正しい知識を伝達することにより、成功となると思われる。	男性	49歳	愛知
放射線は目に見えないので不安です。だから、原子力は必要ない方が良くと思います。	男性	49歳	青森
原子力エネルギーや放射能はなくすべきだ。	男性	49歳	沖縄
正しい情報を正確に伝えることが必要。	男性	50歳	栃木
必要と危険を同時に説明する場所がない。	男性	51歳	東京
人間が原子力を自由に操ることができるよう研究を進めるべき。	男性	52歳	千葉
企業の技術者が情報をわかりやすく正確に公開する仕組みをつくってほしい。(真実を隠しているイメージがある。)	男性	52歳	静岡
原子力発電については是々非々です。現状を考えれば、ある程度は必要な気がするが、できれば良い方が良く。核のゴミが最終処分される安全な方法が見つかっていない以上積極的賛成はできない。かと言って、反対を言うのもどうかと。この問題は非常に難しい。	男性	52歳	北海道
素人のテレビタレントやアナウンサー達が知ったかぶりで無責任な感想を言うのはやめてほしい。	男性	53歳	奈良
地球温暖化対策のために必要！	男性	53歳	北海道
モニタリングセンターで仕事していた経験があるので詳しく理解しているつもりですが、メディアは不安を煽りすぎる面があると思う。放射線の影響も前例が少ないので全て正しいとは言いきれないと思います。放射線は確かに体に良いものではないが、あまり神経質にならなくとも大丈夫であることも理解している。しかし、日本国には原発は必要ありません。ドイツを見習うべきである。	男性	53歳	福島
早くなくすべき。	男性	54歳	東京
安全対策を万全にして、想定外にも対応できるように進めてほしい。	男性	54歳	山梨
小、中学生からもっと深く原子力や放射線に対して、もっと詳しく教育すべき(大人でもわからない部分たくさんあり)。	男性	55歳	静岡
エネルギー自給率6%の我が国において、原子力発電は必要。再エネの普及も必要だが、異常気象が進んでいる現状からは全てを賄うのは無理。エネルギーのベストミックスを考えるべき。	男性	55歳	宮城
原子力は早急に運用すべき。まだまだ原子力に頼らないと電気力は不足していると感じている(電気料金高い)。	男性	56歳	北海道
正しい情報公開が必要！	男性	56歳	大阪
今福島がどんな具合なのか、理解しやすく教えて欲しい。	男性	56歳	富山
福島原発の燃料デブリの取り出し工事はすぐやめて、チェルノブイリのようにすべき。	男性	57歳	千葉
何が本当なのかがわからない。福島事故の処理されている方々は大変だと思います。いつまで続くのでしょうか？	男性	57歳	石川
安全が一番である。多くの人に伝えるため、テレビ、ラジオ、新聞で情報を伝える。	男性	57歳	大阪

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問17. 最後に原子力やエネルギー、放射線に対するお考えがあればお書きください。
また、これらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えについてもお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
原発はやめるべきです。	男性	57歳	沖 縄
処理できないものは出さない。	男性	58歳	北海道
日本は早く原子力に継ぐエネルギーを見つけるべき。	男性	58歳	青 森
原子力をゼロにする。	男性	59歳	鹿児島
本当の内容を教えてほしい。	男性	59歳	山 梨
将来の世代、原子力はゼロにしてほしい。	男性	60歳	東 京
最終的にはなくさなければならぬエネルギーである。	男性	60歳	富 山
うまく利用すればいいと思う。	男性	61歳	千 葉
廃止の一言。どのような対策を取っても原子力発電があると思うだけで、日頃事故の可能性はつきまとう。福島も「絶対に大丈夫だ」と思うくらい、関係者は安心してはいたはず。我々も福島のような事故は絶対ないと思い込んでいた。起きてからでは遅いが、これからの為にすべて廃止していく方向が一番良い。	男性	61歳	岩 手
安全を最優先でお願いします。	男性	61歳	山 梨
情報公開がすべてです。	男性	62歳	神奈川
放射線の種類によって。害の少ないものと多いものがある、正しい知識を伝えてほしい。	男性	62歳	神奈川
最終処分の見通しなしに原発事業を進めるべきでなかったと思う。廃炉までの手段も確立していなかったことを福島の事故後に知り驚いた。日本は地震国だからこそ、太陽光発電など自然のパワーを活用したエネルギーを開発していくべきだったと思う。福島の人々が故郷に住めなくなったことを政府はもっと重視し、その人たちの立場に立って今後の生活を考えていくべきで、保障を途中で打ち切り、「自分たちで帰らなさい」と言うことはあってはならないと思う。	男性	62歳	東 京
大地震や自然災害が多発する可能性が大きい我国では、原発は廃止すべきである。	男性	62歳	神奈川
現状の状態は、原発50か所が止まっても、電力が停止する事がない！ただし、企業、家庭の電気料は上がる！それ以上に、核の維持・管理の費用がかかりすぎです。ならば、原発はゼロでいいです！未来のためです！	男性	62歳	岐 阜
原発NO	男性	62歳	沖 縄
40年前の学生時代に読んだ時事ニュース(記事)で、「最後まで制御できない技術(核廃棄物処理など)に人類は手を付けるべきではない」という言葉が心に残っている。	男性	63歳	山 形
原子力は近い将来に向けて廃止する方向で、他の安全なエネルギーにかえてもらいたい。将来の子供たちがかわいそうである。自分のことばかり考えるべきではない。	男性	64歳	広 島
全て国を信じております。	男性	64歳	大 分
原子力エネルギーが本当に必要かどうか、よくわからない。	男性	65歳	福 岡
放射線は目に見えない為、身体に入ってもわからないうちに病気になる。一方で、その病気を見つけてくれるのも放射線というもので、どちらを取ればよいのか？と思います。	男性	66歳	神奈川
内容が理解しにくい。	男性	66歳	愛 知
基本は正しい知識と安全性の確保です。これが可能なら便利な道具です。	男性	66歳	北海道
原子力は必要ない。先の事故を忘れないでください。	男性	66歳	東 京
原子力発電はエネルギーとしては悪くはないが、福島の事故のような出来事が起こりうる。日本は地震が多い国なので、事故が起こることがある。そんな中、米朝関係も悪く、戦争にでもなると日本は原子力発電所が多いので、悲惨な事故にもつながり多数の人が、放射線を浴びて被害が出る。	男性	67歳	山 口
放射性廃棄物処理場を早く決める。	男性	67歳	北海道
中電の見学会に参加しました。身分証の確認やセキュリティーチェックや持ち込めるものなどが厳しくてびっくりしました。	男性	67歳	静 岡
難しい問題なので、簡単に単純にイメージや感覚的に回答できない。	男性	67歳	北海道

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問17. 最後に原子力やエネルギー、放射線に対するお考えがあればお書きください。
また、これらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えについてもお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
廃止すべき。ニュース番組で詳しく報道してほしい。	男性	67歳	東京
放射能を除去できないなら原子力を使うべきではない。	男性	67歳	福岡
エネルギーとしては必要な物だが、知識も不足しがちで、その危険性も高い。情報の公開は必須である。誰を信じてよいのかわからない時もある。	男性	68歳	神奈川
福島第一原発事故の教訓を顧みない政府の政治姿勢に腹が立ちます。それと立地所在地の長が原発金を当てにするとか、原発による雇用増による利益を得る企業もあることも事実だと思います。原発で働く人たちの声を聞く方法等を検討すべきだと思います。	男性	68歳	大阪
被害者になったり、身近に存在、環境が接近しない限り、関心がもたれない。	男性	68歳	北海道
国土の狭い災害大国日本で原発を推進することは、自殺行為に等しい。	男性	68歳	福岡
それぞれに対して勉強して実行してください。	男性	69歳	奈良
原子力発電所は反対です。政治家などの意見は信用できない。福島の後始末もできないのに、海外に原子力を売るのはいかがなものか？	男性	69歳	岡山
国民が理解し判断できるよう、身近に説明会や講演会が開催される、いつでも参加しやすくすることを希望する。また、学校教育に取り入れるべきである。	男性	69歳	東京
専門家が情報を提供されても、それを理解しチェックするような専門知識がないので、表面的なものしかわからない。	男性	71歳	大阪
原子力発電に関してまったく信頼できない。政府が進めようとしていることにも、まったく信用できない。	男性	71歳	大阪
医療用のレントゲン、CTの検査の放射線の方が心配。治療のためかなりの検査をした後で、「全部で何ミリシーベルトだったのですか」と聞いたところ、本を山ほど持ってきて訳の分からない説明をしてくれた。	男性	72歳	岡山
原子力に代わる発電を具体的に進めて欲しい。考えることは立派でも、何一つまとまっていない。	男性	72歳	福島
1、原子力(原発)は0で結構です。2、原発の支出は国民年金で支出している(電力会社は損失なし)→金の塊です。	男性	73歳	佐賀
情報を理解できない。	男性	74歳	兵庫
とにかく次の世代に原子力による害を及ぼさないようにすることを願う。	男性	74歳	東京
専門家と呼ばれる人達の主張が極めて散漫に見聞きする。また、その都度、主張が相違していたり“喫緊の課題だ”で終わる。	男性	75歳	千葉
原子力エネルギーの必要性はよくわかるが、福島原発事故の対応が悪く、その後の原子力行政に対する不信になっている。東京電力の責任なのか、国の責任なのか、いまだによくわからない。	男性	76歳	神奈川
自分自身は年金のこともあり、生きていくうえで放射線のことはあまり心配せずに生活している。でも、子供や孫の代になると、どういう影響がこれから現れてくるのか想像つかないし心配だ！	男性	77歳	岩手
放射性廃棄物の処理方法を考えたうえで使用すべき。	男性	77歳	山形
専門家に依頼し、情報を受けたいです。	男性	77歳	埼玉
都合の悪いことは話さず、一方的すぎるから、信頼に与えずに。	男性	78歳	埼玉
不安だけど必要。	女性	15歳	埼玉
難しくわからない。	女性	15歳	埼玉
発電方法などはメリットもデメリットもあるので、難しい問題だと思う。危険でも電力が足りなくなってしまうので、完全に止めることはできないと思う。	女性	15歳	岐阜
今の自分には難しすぎる。	女性	15歳	兵庫
原子力は必要だと思いますが、放射線は人間の体に害でしかないとはいえません。	女性	15歳	京都

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問17. 最後に原子力やエネルギー、放射線に対するお考えがあればお書きください。
また、これらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えについてもお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
この前、学校の授業で原子力のこと勉強したばかり。CO2の出ない限りでないエネルギー、太陽光、風、水に変えて行くことが1番良いと思う。	女性	16歳	岩手
いやだ。戦争を思い出して怖さを感じてほしい。	女性	16歳	山形
わかりません。	女性	16歳	北海道
国と電力会社の長年の関係で、使わざるを得ないエネルギーとなったと思う。他にもきっと可能だと思う。	女性	17歳	東京
原子力に対して不信感などが多くあるので、もっとテレビで報道していくべきだと思う。	女性	17歳	愛知
そもそも原子力は、人間が利用できる範囲のものではないのかもしれませんが。しかし現状生活を電力に頼ってしまっていること、二酸化炭素の排出について考えると難しいです。発電所を立ててしまった以上、これからどう付き合っていくかを考えなければと思います。簡単に廃炉にもできないので。放射線自体は面白いし役に立つと思います。北のこともあるので、放射性物質の特性等わかりやすいページがあるといいなと思います。	女性	18歳	新潟
もっとわかりやすく、説明して頂きたい。専門用語やカタカナばかりでわかりにくい。	女性	19歳	愛知
メディアの情報で左右されるのは、よくないなと思います。	女性	20歳	神奈川
よくわかりません。	女性	20歳	福島
興味が無い。	女性	21歳	神奈川
最終処分や安全性がないのに原発を扱うのはおかしいと思う。自分たち人の手でコントロールできないものを、むやみに使うのはよくない。	女性	21歳	神奈川
確かに取り扱いに気を付けなければいけないものですが、完全悪だと思っている人が多いように感じます。	女性	21歳	神奈川
原子力に代わるエネルギー(安全)なものを見つけて、原子力を徐々に減らばいいと思う。	女性	21歳	北海道
あまりよくわからないし、ニュースをみても理解ができない。	女性	21歳	千葉
いくら基準をクリアしたとしても、自然の中では何が起こるかかわからないので、徐々に原子力発電は減らしていくべきだと思う。	女性	23歳	北海道
正確な情報を若い人達にも伝わるように発信してほしい。	女性	24歳	大阪
情報公開をもう少し国民に発信してほしい。	女性	24歳	東京
原発がなくてもエネルギーは足りていると思うので、必要ないと思う。	女性	25歳	東京
原子力や放射線に対して難しいというイメージが強い。身近に原子力発電所がない為、問題意識が希薄(私も家族も友人も)。バラエティ等で取り上げると若者も少しは視聴するかもしれない。	女性	25歳	愛知
あまり気にしていなかった為、特にありません。	女性	26歳	東京
若い人達にも理解できる情報を発信してほしいと思います。	女性	26歳	愛知
原子力発電は徐々に減らしていくべきだと思う。	女性	27歳	埼玉
原発ゼロをあげる政治家、団体が多いが、原発ゼロにしたその先のことまで考えているのか？単に悪い物は排除する、それだけでは何の説得力もないように感じる。原発ゼロになった後のことまで考えられていない原発ゼロ推進には反対です。	女性	27歳	石川
怖いイメージしかありません。	女性	27歳	大阪
これらのことについて、あまり詳しくニュースやテレビで発信されていないので、頻繁に取り上げてほしい。	女性	28歳	神奈川
とりあえず電気料金下げて。わかりにくい説明はいらない。	女性	30歳	兵庫
身近に原子力やエネルギーの施設がないので、リアルに感じられない。また、興味がわからない。	女性	31歳	大阪
原子力に代わるエネルギー源があるのに、メインの原動とならないのはなぜか。政治家は簡単に原子力を廃止しようとするが、代原のアイデアがあるのかなど知りたい。	女性	31歳	東京
子供に見やすくしてもらえたら(6才、11才)。言葉が難しく、わかりにくい。	女性	32歳	広島

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問17. 最後に原子力やエネルギー、放射線に対するお考えがあればお書きください。
また、これらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えについてもお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
わかりません。	女性	33歳	山形
現時点では必要なエネルギーであり、無視はできない。被爆国としてか、国民全体に核エネルギーそのものにアレルギーのようなものを感じる。有用なものとしての評価はできないものかしら。また国や政府、専門家は広く人々に伝わりやすいように説明する努力をすべき。難しいことを難しいまま伝えるなら、棒読みと同じ。また将来に負の遺産は残さぬよう、その時々で最大限の努力が必要。	女性	33歳	兵庫
子供達の将来が心配。	女性	34歳	東京
原子力は必要なエネルギーだとは思いますが、近隣住民の人のことを考えるとあまり減多なことは言えない。	女性	34歳	東京
震災を教訓に、隠し事なくすべて明らかにすべき。	女性	34歳	北海道
下辺が何を言っても変わらない、と思っている。	女性	35歳	東京
共存する方法を探っていただきたいです。	女性	35歳	神奈川
土壌を汚染するようなものは、目にも見えないし、こわいと感じます。	女性	36歳	北海道
生活していく上で原子力は必要だと思うが、危険と隣り合わせのような感じでもある。どの情報も疑いの目で見てしまう。	女性	36歳	栃木
医療でもっと放射線が安心して使えるようになってほしい。	女性	36歳	神奈川
100%安全だと言う確証がほしい。それを明確にしてほしい。	女性	37歳	東京
風化させずに関心を持つ事。	女性	37歳	新潟
政党によっては原子力エネルギーが必要と考えている所があるが、なぜ必要か説明がなされていない。野党が原発反対と言っているので、なぜ必要か与党ははっきり言ってほしい。	女性	38歳	岐阜
自分を含め、関心がない人が多いのが問題。	女性	38歳	兵庫
人類が生きてる限り、永遠のテーマである。	女性	38歳	奈良
話す人により内容が変わるように思う。どれを信じて良いかわからない。	女性	38歳	山梨
わかりやすく情報の公開をしてほしい。信頼できる情報が入ってこない。	女性	39歳	千葉
難しい。	女性	39歳	三重
今のところ、全く原子力の知識はないに等しい。	女性	39歳	静岡
知識がなく、よくわかりません。	女性	39歳	大阪
もっとわかりやすく本当のことを知らせるべき。生活に必要な食品等の安全性を本当のことが知りたい。現場に行った人の語りを聞くと、国が話していることは全部ウソだと思う。	女性	40歳	大阪
参加したことがないのでわかりません。	女性	41歳	千葉
難しくわかりません。	女性	41歳	長崎
原子力と放射線と言葉の名前を知るぐらいで、どの程度私達、国にとって必要なのか?! 情報を伝えてくれるTVが騒がなければ、関心を持ってない。	女性	41歳	愛知
原子力発電所の近くに住んでる人が、不安にならないように暮らせるようにしてほしいです。	女性	42歳	東京
日常生活の中で、どれだけ放射能の影響受けているか。	女性	42歳	宮城
地震の多い日本では、完全に安全対策をとることができないので、原子力を利用すべきではない。政府と東京電力は福島事故について、隠さず情報を国民に開示するべきだと思う。	女性	43歳	神奈川
難しいので、子供でもわかるような(わかりやすい)冊子を作ってほしい。	女性	43歳	静岡
原発は危険しか伴わない。即刻廃止すべき。	女性	43歳	北海道
地球温暖化は身を持って感じるくらいに深刻になりつつあると思う。しかし、原子力に助けられているが、それからでくる廃棄物を地中深く埋めるしかないという現状では、このまま頼り続けてはいけないと思っている。それにかわる地球を守るエネルギー開発をすすめることに国家も予算をつぎこんでいただきたい。	女性	43歳	奈良
将来の子供達が安全に生活できる。	女性	43歳	大阪
必要だとは思いますが、安全性が信頼できるのかわからない。	女性	43歳	兵庫

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問17. 最後に原子力やエネルギー、放射線に対するお考えがあればお書きください。
また、これらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えについてもお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
放射線は体に悪いので。いずれにせよ、廃止すべきだ。	女性	44歳	千葉
電気がどれだけ作られ、どれだけ使われているのか。そのうち原子力の割合などを、簡単に知る機会があればいいと思う。	女性	44歳	東京
「地震による津波が原発に届くことを想定していなかった」と東日本大震災で言っているのを聞いてから、原発関連のお役人の話は一切信用していません。最終処分に多額の費用がかかることも隠していたと思います。	女性	44歳	神奈川
難しい問題で、何とも言えない。	女性	44歳	兵庫
安全対策をしっかりとやるべき。	女性	45歳	千葉
原子力、放射線は事故があったこともあり、イメージは悪くなっていると思います。でもどちらも必要な物であるのは認識しています。もっと安全性を高め、子供でもわかるように教えて頂きたいと思います。	女性	45歳	神奈川
少しずつ自然エネルギーに移行していくべきだと感じている。	女性	45歳	埼玉
原発事故が起きた以上、安全ではない。	女性	45歳	愛知
安全性(人体への影響)やリスクを全て正確な情報でわかりやすく知り得たい。	女性	45歳	千葉
理想は原発はなしがいいが、それでやっていけるのかが不安。	女性	45歳	大阪
包み隠さず、多くの人に理解できるように説明が必要と感じる。	女性	46歳	神奈川
原子力エネルギーはよいものだと思うが、国のトップ次第で震災のようなことがあると心配である。	女性	46歳	東京
これから不安です。	女性	46歳	栃木
先の短い者には、あまり影響がないからまだ良いが、自分の子供や孫の世代のことが心配。	女性	46歳	栃木
防災体制が不十分であるとわかっているが、今なお原子力に頼らざるをえないこの状況に、何と言えればいいのか複雑な思いです。冷却装置など問題が起こる度に、どこまでが自分達の生活に影響があるのか、あいまいではなくハッキリ伝えてほしい。	女性	47歳	東京
・反原発・原発被害者への補償	女性	47歳	福岡
知らない事だらけなので、テレビや講演会などで知る機会を増やしてほしい。	女性	48歳	大阪
悪い情報ばかりが飛び交い、生活に欠かせないレントゲンなどに使われていることを忘れがちであると思います。正しい知識を身に着けて、負のイメージばかりにとらわれずに、うまく向き合っていけたら良いと思います。	女性	48歳	宮崎
原子力＝発電所というイメージなので立地。稼働初期はとても素晴らしいものと言っていたのに、色々な事故や地震で信用ができなくなった。近くにあるからこわい。エネルギー、放射線と書いてあるが、全てこわいイメージに見えてしまう質問に思える。	女性	48歳	新潟
日米原子協定は廃止すべき。また、全国の放射性廃棄物は福島第一へ集めて管理すべきだと思う。現実的にフクイチ周辺はもう人が住むことはできないのだから、逆に処分場として利用する以外ないと思う。	女性	48歳	青森
国は信頼できない。すでに福島の話は過去になりつつあるように思う。	女性	49歳	山梨
国すらも本当のことを話してないと思う。	女性	49歳	大阪
原子力、放射線でのメリットを知りたい(専門の方、企業)。TVで放送を望みます。	女性	50歳	北海道
わかりやすく、的確に伝えてほしい。	女性	50歳	埼玉
よくわからないことばかりで、参加する場も時間も無い。日々の生活でいっぱいです。	女性	51歳	東京
原発には反対です。将来に負の資産をのこしてしまう。できるだけ再生可能の自然エネルギーをまかなえるよう研究開発を進めてほしい。	女性	51歳	石川
わかりません。	女性	52歳	山口
知識がないので、安全性、将来性についてわからないことばかりです。	女性	52歳	埼玉
原子力発電はよいが、放射性廃棄物の処分が心配だと思う。	女性	53歳	埼玉

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問17. 最後に原子力やエネルギー、放射線に対するお考えがあればお書きください。
また、これらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えについてもお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
・原子力発電はいりません!!リスクの方が大きい。・国や行政、東電など、正確な情報や危険性などまったくオープンにされない点で不信!!	女性	53歳	愛知
今後の原子力発電利用について、国民の意見を聞いてほしい。	女性	54歳	東京
総理が責任をもってTVで情報を発信すること。関係大臣でもよい(もちろん責任をもって)。議員の辞職→責任の取り方。	女性	54歳	東京
情報提供、イベントなどは、誰がどういう意図をもって情報を発信しているのかという事が大切だと思います。見たもの聞いたものに対する意見は出せませんが、手段としてどれが有効であるかという間には疑問を持ちます。	女性	54歳	岩手
将来においての見通しや人体に与える影響について、これからも定期的に情報を公開してもらえると良いと考えています。原子力はコストがかかりすぎるエネルギーなので(事故が起きた際に)、もっと別のエネルギー政策を推し進めるべきだと思います。現在の福島事故が国内の別の場所で起こらないという保証はないので。危機管理が甘いと思います。	女性	55歳	福島
原発はすぐに廃止するべきだと思う。電気量も国をあげて少なくするべきだと思う。国民の命に関わる為、国を守ることにつながるから。このままでは日本は国民が(ガンなどで)亡くなり、国が存続できなくなると思う。	女性	56歳	東京
2011年3月11日の東電の事故以来、私自身原子力エネルギーのことをまったく知らず、便利の名のもとにあぐらをかいていた自分が無知で情けなくなりました。福島の方々のおかげで、今の私たちの生活が成り立っています。早くもとの幸せな日常に戻られることをお祈りしております。	女性	56歳	神奈川
原子力発電がなくても電力は足りるのか、本当のところはどうか良くわからないし、CO2の排出を考えると、原子力発電bestなようだし〜…。国はもっと再生エネルギーを本気で研究して供給できるようにしてほしいです。ただ、原子力発電をやめても廃炉や最終処分場の問題は残るので、もう後戻りできないような気もする…エアコンがないと夏の暑さにはもう耐えられない!	女性	56歳	大阪
福島の事故以来、原子力に対する不信感はぬぐえません。やはり地震大国の日本では他の方法でエネルギーを作ることを考えた方がよいと思う。	女性	57歳	千葉
原爆の被害を受けた唯一の国が原発を持つことは、間違えていると思う。	女性	57歳	三重
大規模の講演会を行った方が信頼度が高いと思う。	女性	58歳	東京
福島の事故以来、不安感が増した。	女性	58歳	埼玉
原子力エネルギーには反対。現在の利便性だけにとらわれて、先のことは後回しという考え。どんなものでも長所、短所はあることは理解できるが、原子力の場合マイナスの要素があまりにも強烈すぎる。地震などの天災もさることながら、廃棄物の最終処分に関することは先送りしている。	女性	59歳	大阪
地震を考えると早急に原発を廃炉にしないと大変なことになると思っています。エネルギーの無駄使いをしているので、そちらをもっと節約できる気がします。日本のこと、地球を大切に思って活動されている方は命がけだと耳にしました!	女性	59歳	兵庫
小さい国なのに、原子力発電所を再稼働し、また事故が起きた場合、住める土地がなくなるのでは?考えすぎでしょうか?子供たち、孫達がとても心配です!	女性	59歳	宮城
原子力は役に立つ反面、人間を滅ぼす怖いものであると思う。原子力に代わるエネルギー源は他にある(太陽、水、風、石炭…)。そちらの分野に力を注いで後世では原子力0の実現となってもらいたい。	女性	59歳	秋田
電力会社として皆にわかりやすく情報発信することを望む。	女性	60歳	徳島
今鹿児島では、多くの場所で太陽光発電が多く作られているので、必要ないと思う。	女性	60歳	鹿児島
人に対する被害が心配。	女性	61歳	埼玉
安全性が確保されれば、必要な物と思います。	女性	61歳	東京

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問17. 最後に原子力やエネルギー、放射線に対するお考えがあればお書きください。
また、これらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えについてもお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
原子力、放射能に対する危険ばかり持ち上げられ、危険なものをこの世から排除していく世の中では立ち行かなくなる気もします。国、世界レベルで技術開発を進めてバランスの取れたエネルギー安定につなげてほしいです。火力発電は温暖化、原子力は事故が起きれば大量の大気汚染と、一長一短ですね！とても難題であり、多難な項目だと思います。	女性	61歳	大阪
専門的な知識もないので考え方がでない。	女性	61歳	兵庫
身近な“原子力”や“エネルギー事情”であるはずなのに、自分に知識がないので不安が大きい。もっと情報を発信することで、国民の判断レベルも上がり、むやみに何でも反対しないのでは…と思う。自分も判断力に乏しいと思う。	女性	61歳	富山
よくわからないことが多い。	女性	61歳	埼玉
天災の多い日本に原子力は合わない。新しいエネルギー源に研究をそそぐべき。	女性	61歳	東京
エネルギーとしては有効とは理解しているが、現実事故が起きて被災された方を思うと、ない方が安全。何もなかったころには戻れない分、科学者や研究者機関に援助して今後解決方法を見つけるのを期待しています。	女性	62歳	兵庫
孫の世代に現在の不安要素がすべて解決していると良いと思う。	女性	62歳	石川
原子力エネルギーは不安。子供たちの安全が第一です。	女性	63歳	埼玉
原子力発電所の安全性の向上が必要不可欠であると思う。	女性	64歳	高知
先の事故以来、不安なイメージが抜けない。	女性	64歳	福岡
福島の後が心配。	女性	64歳	福岡
アンケートをしたおかげでもっと関心度が増した。	女性	65歳	東京
正直よくわかりません。TVや新聞等でわかりやすく伝えてもらいたいと思います。	女性	65歳	福岡
国土も狭くエネルギー源を持たない日本で、これほどの原子力、エネルギーが必要か疑問！	女性	66歳	東京
日本には地熱の基である火山がたくさんある。原子力発電の危険性を回避して、そちらの方の利用を考えるべきである。	女性	66歳	愛媛
負の遺産を残さないでほしい。	女性	66歳	福島
地震国の日本には、原子力エネルギーの建設には反対です。	女性	66歳	東京
高くついたとしても、再生可能エネルギーに変えていくべきだと思う。自然界の微量の放射線を浴びている以上に、人工の放射線まで浴びるのは心配だ。人体に影響はないと言われているが、長時間浴び続けた場合はどうなのか。正確に賛成、反対派の意見を両方教えて欲しい。	女性	66歳	島根
安全をアピールするだけでなく、リスクの可能性も伝えるべき。	女性	67歳	愛知
原子力発電は絶対反対なので、福島事故処理を一日も早く行ってほしい！	女性	67歳	岩手
原子力その他、ゼロにするのは多分できないでしょう。でも医療にとっては必要であると思います。原発を最小限にして本当に必要とすることにだけ利用していただきたいと思います。	女性	67歳	東京
危険性を毎日新聞、テレビ等で情報発信するべき。	女性	67歳	香川
大きな災害に繋がるので、ほかのエネルギー確保が可能であれば安全な方法を取ってもらいたい。	女性	67歳	大分

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問17. 最後に原子力やエネルギー、放射線に対するお考えがあればお書きください。
また、これらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えについてもお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
実際、自分たちの知らないうちに3.11の放射線のがれきのようなものが近隣に処分されていた!!その後、それを知った小・中学校の保護者たちが、二度と町内に処分しないよう署名運動をして歩いた(今年)。行政のやっていることはひど過ぎる。どこの土地でも、放射線と聞けば処分に賛成する所はないと思う。二度と福島県のような悲しい思いをする人たちが現れないように、原子力はもうなくしてほしい。他のエネルギーにお金がかかると言うなら、なるべく戦後の何もなかった時代に近づけるような生活をするよう、国民の意識を変えていった方がいい。人の命と、生活の豊かさを考えた時、大切な家族を原発事故等で失って悲しんでいる人が多くいる中で、そうでない人たちは関係ないと言って、豊かな生活を満喫するのはおかしいと思う。	女性	68歳	岩手
今より不便でも我慢するので、原子力はやめてほしい。	女性	68歳	大阪
多少の不便さがあっても危険の可能性を避け、安全な地球にするべきだと思う。	女性	69歳	千葉
何をしてももうわべだけの国は信頼できない。国民目線で見てほしい。	女性	69歳	山梨
なかなか難しい問題で、理解しにくい。少しでも理解しなければとは、思います。	女性	69歳	宮城
安全であれば、必要だと思う。	女性	69歳	福岡
基本的に原子力エネルギーを電力源にすることは反対です。医療関係に使用することは賛成。	女性	70歳	東京
福島の事故の人的なことを早く解決できるよう、国はもっと努力すべきです。心を込めて進めてほしいです。	女性	70歳	神奈川
東日本大震災時の原発事故、事故後の状況を考えても、原発は即刻廃止するべきと考えます。	女性	70歳	愛知
岩手県南の農家等、放射線の影響で生産物とか出荷できていないものがあると聞いた。早く何とか!!3.11の前のように戻るよう、早急に対応しなければ、農家がかわいそう。	女性	70歳	岩手
情報提供。ラジオを長時間聞いていますよ。自宅にいる時間、テレビまたはラジオどちらかです。ラジオ番組でも扱ってください。	女性	71歳	愛知
太陽熱や風力等、自然からとれるエネルギーを利用したいが、個人にかかる費用が高値すぎる。	女性	73歳	東京
当たり前のことですが、全面的に見て安全安心であることが第一であると思います。	女性	73歳	静岡
全ての仕事は人間性は出ます。東電の事故は災害もあるが、人間が日頃の準備、対応の遅れが原因です。	女性	73歳	福岡
普段ガン治療とか、レンジ等身近な使用しかわからず、人間生きていく上で必要かつ安全であれば、島国日本でも了解かと思われれます。	女性	73歳	東京
ドイツもすでに方向を示しているが、即やめるべきと思う。	女性	74歳	千葉
原子力は怖いと思う。	女性	74歳	静岡
わかりにくく、特に関心を持たない。	女性	74歳	神奈川
原子力はこわい。	女性	74歳	愛知
難しすぎてわからない。	女性	75歳	京都
原子力反対	女性	75歳	栃木
原子力廃止の努力は必要と思うが、国際的に見て難しい。原子力エネルギーに限らず、人類は滅亡の方向に進むのではないか。地球、宇宙の規模で見れば当然のことと思えるが、そうならない為の努力もまた人類の能力かと。	女性	76歳	愛知
難しくわかりません。	女性	76歳	山形
現在の生活では原子力エネルギーや放射線は大変恩恵を受けているが、人間の手におえない力や廃棄物を考えると、負の遺産を後世に残してはいけなと思う。その為には自分自身の生活も見直さなければならないと思う。	女性	77歳	福岡
わかりません。	女性	78歳	神奈川

●原子力やエネルギーに関する情報についての所感

原子力やエネルギーに関する情報について感じることを自由に記入してもらった結果は以下の通り。

問17. 最後に原子力やエネルギー、放射線に対するお考えがあればお書きください。
また、これらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えについてもお書き下さい。(ご自由に)

回答内容			
安全第一をお願いします。	女性	79歳	山口
原子力、放射線を受け、その姿をテレビでそのことについて語っている人を見ると、私たちのような人間は絶対使ってはいけない。	女性	79歳	東京

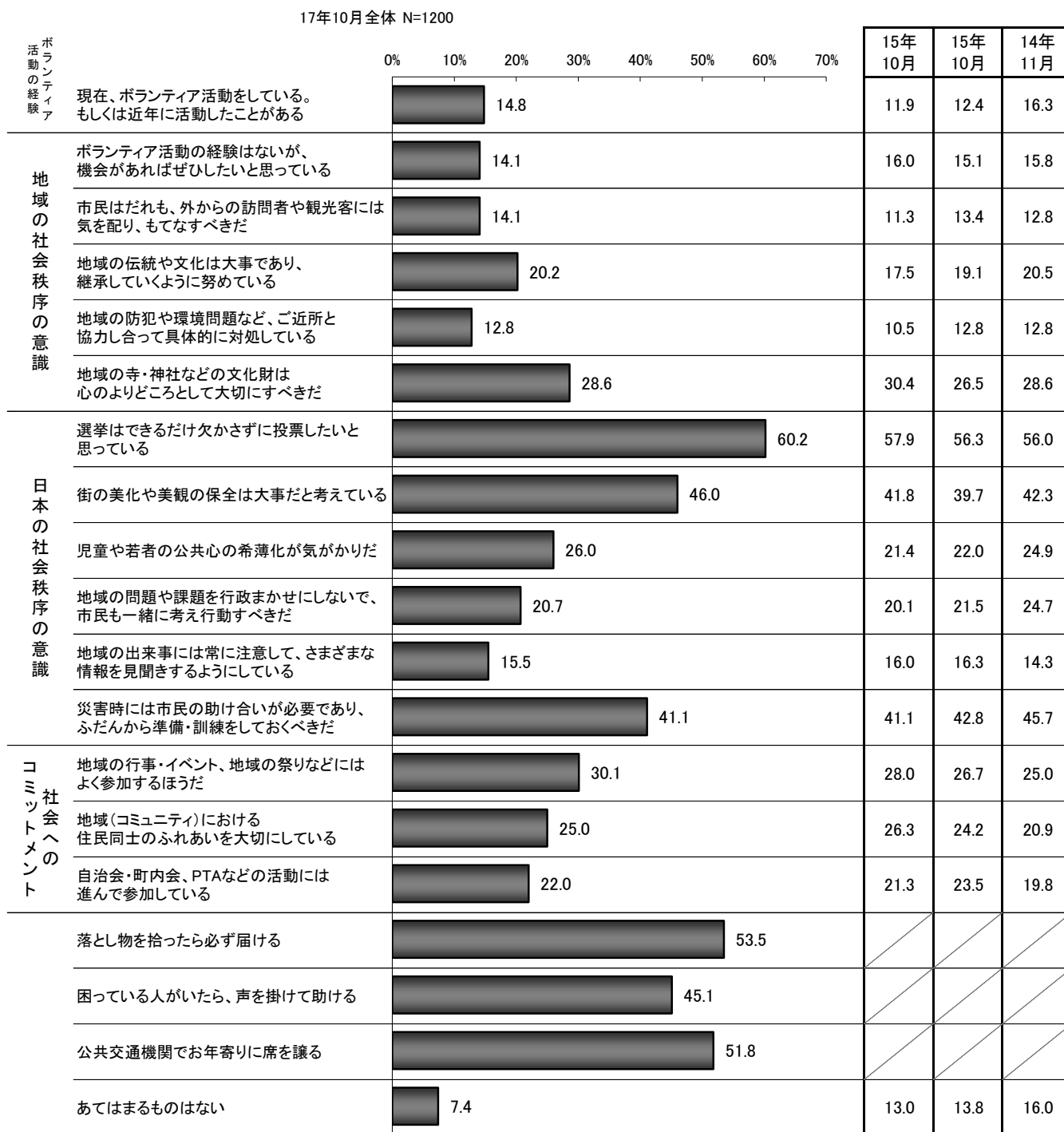
X章 生活意識や行動

●生活意識や行動に対する価値観

生活意識や行動に関する項目を質問している。新規項目も含む。

回答の高い項目は、「選挙はできるだけ欠かさずに投票したいと思っている」(60.2%)、「落とし物を拾ったら必ず届ける」(53.5%)、「公共交通機関でお年寄りに席を譲る」(51.8%)が挙げられる。新規項目が多くの回答を獲得しており、「あてはまるものがない」が減少しているが、その他の項目には前回と大きな変化はない。

問1. ふだんの生活意識や行動について、あなたご自身のお考えについてお伺いします。
次の中からあなたの考えや行動に近いものをすべてお選びください。(○はいくつでも)



(%)

4.3 経年変化の観察および福島第一原子力発電所事故の世論への影響

本調査は、定点的かつ経年的な世論調査を2006年度から実施し、2017年度の調査で11回目となる。2011年3月に発生した福島第一原子力発電所事故の前後においても調査を実施しており、この事故が原子力利用に関する世論に対して、多大な影響を与えたことが明らかとなっている。

2006～2017年度の調査結果の経年的な変化を観察した結果を示すとともに、2011年の福島第一原子力発電所事故の原子力利用に関する世論への影響についても改めて示すこととする。

(1) 原子力に対するイメージ

「原子力」という言葉から思い浮かぶイメージを質問したところ、回答の上位4項目は、「危険」(68.5%)、「不安」(57.3%)、「複雑」(33.8%)、「信頼できない」(30.2%)という否定的なイメージの項目であった。

一方で、肯定的なイメージで回答の上位2項目は、「必要」(17.9%)、「役に立つ」(17.8%)という項目で、他の項目はきわめて低い反応水準であった。

表「回答が多い項目（上位9項目）」

1. 危険 (68.5%)	否定的なイメージ
2. 不安 (57.3%)	〃
3. 複雑 (33.8%)	〃
4. 信頼できない (30.2%)	〃
5. 悪い (19.1%)	〃
6. 気になる (19.0%)	〃
7. 必要 (17.9%)	肯定的なイメージ
8. 役に立つ (17.8%)	肯定的なイメージ
9. わかりにくい (15.8%)	否定的なイメージ

選択肢を「よい」－「悪い」のように「肯定的なイメージ」－「否定的なイメージ」の“対”になるように並べ替え、比較を行った。ほとんどの項目で“対”になるどちらか一方の選択肢に回答が集まる傾向があり、10ポイント以上の差が見られる項目は、下表の通り。

原子力は、「悪い」、「複雑」、「危険」、「信頼できない」、「不安」、「わかりにくい」、「気になる」という否定的なイメージに傾いていることが分かる。否定的なイメージに回答が集中する一方で、「役に立つ」という肯定的なイメージもあることが分かる。

「必要」－「不必要」は、上記の傾向と異なる。どちらか一方の選択肢に回答が集まる傾向がなく、ある程度の回答が双方にあることから、「必要」－「不必要」については、意見

が分かれていることがわかる。

表「肯定的／否定的イメージの比較」

肯定的なイメージ		否定的なイメージ
よい (0.9%)	<	悪い (19.1%)
単純 (0.3%)	<	複雑 (33.8%)
安全 (1.8%)	<	危険 (68.5%)
信頼できる (0.8%)	<	信頼できない (30.2%)
安心 (1.8%)	<	不安 (57.3%)
役に立つ (17.8%)	>	役に立たない (2.0%)
わかりやすい (0.1%)	<	わかりにくい (15.8%)
気にならない (2.4%)	<	気になる (19.0%)
必要 (17.9%)	>	不必要 (13.6%)

経年変化の観察による分析

原子力のイメージとして挙げられた以下の項目の経年変化を観察した。

- ・ 否定的なイメージ：「悪い」、「複雑」、「危険」、「信頼できない」、「不安」、「わかりにくい」、「気になる」
- ・ 肯定的なイメージ：「役に立つ」
- ・ 意見が分かれている原子力のイメージ：「必要」、「不必要」

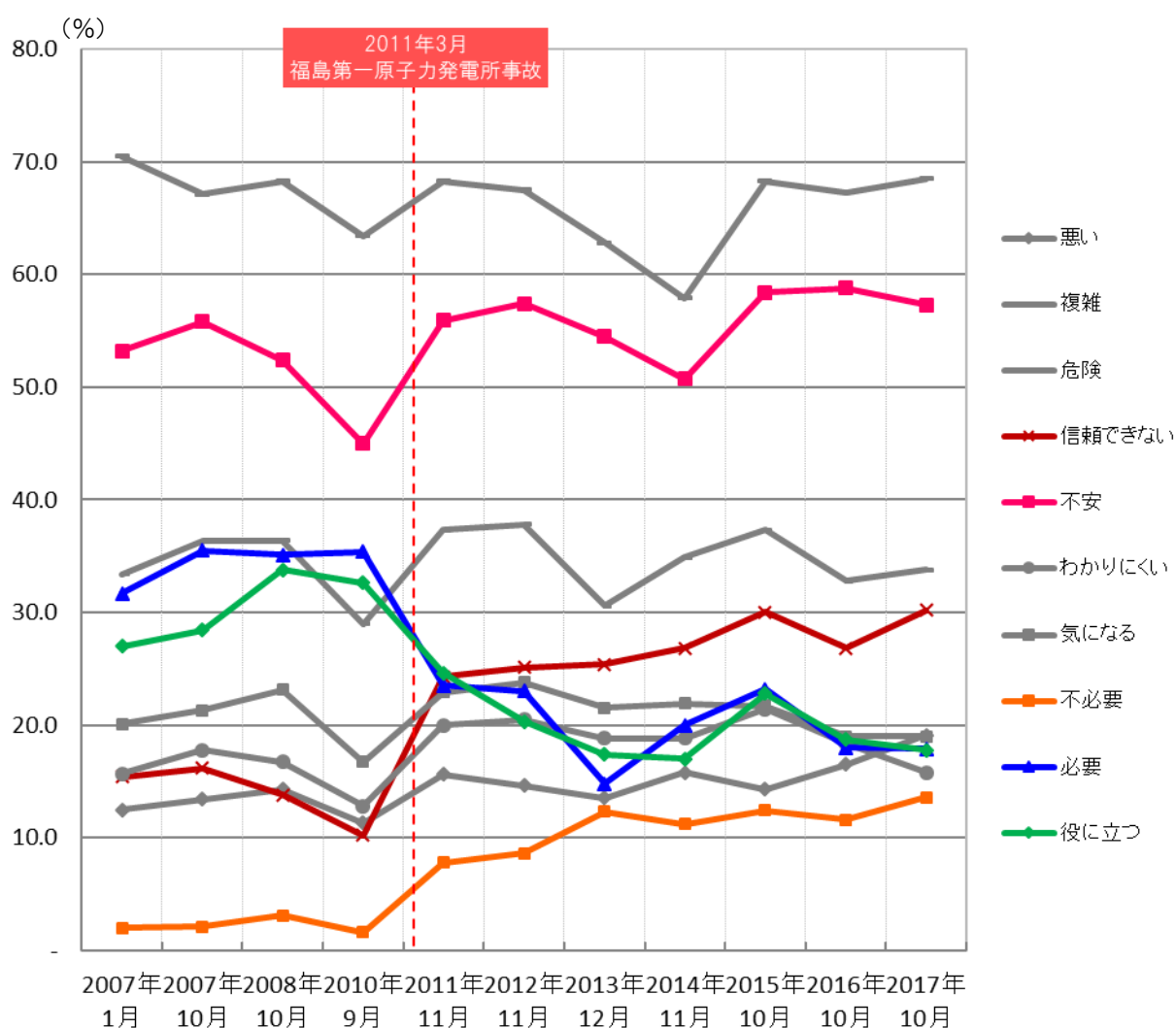
表「原子力に対するイメージの経年変化」

		2007年 1月	2007年 10月	2008年 10月	2010年 9月	2011年 11月	2012年 11月	2013年 12月	2014年 11月	2015年 10月	2016年 10月	2017年 10月	2010→ 2011 差異
否定的な イメージ	悪い	12.5	13.4	14.3	11.3	15.6	14.6	13.5	15.8	14.3	16.5	19.1	4.3p
	複雑	33.4	36.3	36.4	29.0	37.3	37.8	30.6	34.9	37.3	32.8	33.8	8.3p
	危険	70.5	67.1	68.3	63.4	68.3	67.5	62.8	57.9	68.3	67.3	68.5	4.9p
	信頼できない	15.4	16.2	13.8	10.2	24.3	25.1	25.4	26.8	30.0	26.8	30.2	14.1p
	不安	53.2	55.8	52.4	45.0	55.9	57.4	54.5	50.7	58.4	58.8	57.3	10.9p
	わかりにくい	15.7	17.8	16.7	12.8	20.0	20.5	18.8	18.8	21.4	18.4	15.8	7.2p
	気になる	20.1	21.3	23.1	16.7	22.9	23.8	21.5	21.9	21.7	19.0	19.0	6.2p
	不必要	2.0	2.1	3.1	1.6	7.8	8.6	12.3	11.2	12.4	11.6	13.6	6.2p
肯定的な イメージ	必要	31.7	35.5	35.1	35.4	23.5	23.0	14.8	20.0	23.2	18.0	17.9	-11.9p
	役に立つ	27.0	28.4	33.8	32.6	24.6	20.3	17.4	17.0	22.8	18.7	17.8	-8.0p

「2010年9月（事故前）」より5P以上高い→「赤字」、10P以上高い→「黄色セル」、5P以下低い→「青字」、10P以上低い→「青色セル」。

否定的なイメージの上位4項目「危険」、「不安」、「複雑」、「信頼できない」は、前回（2016年）と同様の順位で、ポイントの大きな変動は見られないが、「信頼できない」、「不必要」については、福島第一原子力発電所の事故後、ポイントが上昇した以降も少しずつ上昇しているように見える。次年度以降の変化を確認することが望まれる。

一方で、肯定的なイメージの上位2項目「必要」、「役に立つ」は、前回（2016年）と比べて、ポイントの大きな変動は見られなかった。福島第一原子力発電所の事故後、減少傾向が底を打ち、その低い水準を維持していると考えられる。さらに、次年度以降の変化を確認することが望まれる。



図「原子力に対するイメージの経年変化」

福島第一原子力発電所の事故前後での変化

2011年3月に発生した福島第一原子力発電所事故の前後、「2010年9月」と「2011年11月」では大きな差が見られる。事故により原子力に対する世論が大きく変動していることが分かる。特に大きな差（10ポイント以上）が見られた項目は、以下のとおり。

- ・ 信頼できない : +14.1
- ・ 必要 : -11.9
- ・ 不安 : +10.9

「信頼できない」は、事故後、最もポイントが高まった項目となった。事故によって原子力に対する信頼が大きく損なわれたことが確認できる。その後も高まった水準が2017年まで維持されている（もしくは、徐々に上昇しているように見える）ことから、事故によって大きく損なわれた原子力に対する信頼は、2017年まで回復傾向を示していないことが確認できる。

「必要」は、事故後、肯定的なイメージの中では、最もポイントが変動した項目となった。事故によって原子力の必要性に疑問を抱いたことが分かる。さらに、その後も減少傾向が続き、2013年12月調査のポイント（14.8%）は、「不必要（12.3%）」と同程度の水準まで落ち込む結果となった。その後、2013年度調査をピークに徐々に増加傾向に転じているように見えたが、福島第一原子力発電所の事故後、減少傾向が底を打ち、その低い水準を維持していると考えられる。

次いで変動幅の大きい「不安」は、事故後、ポイントが増加したが、直近の数値は2008年以前と同程度の水準となっている。2010年9月の結果は全体的に否定的なイメージが低い傾向があるため、増減の傾向を判断するためには、さらに次年度以降の変化を確認する必要がある。

一方で、事故後もあまり差が見られない項目として、「危険」が挙げられる。最も回答が多い「危険」は、事故後、若干、ポイントが増加したものの、事故前のレベルと同程度となっている。つまり、事故前より原子力は「危険」と認識されており、事故後もその認識はあまり変化していないことが分かる。

(2) 放射線に対するイメージ

「放射線」という言葉から思い浮かぶイメージを質問したところ、全体として肯定的なイメージよりも否定的なイメージの反応が圧倒的に高く、「危険」(71.2%)、「不安」(51.3%)という回答が突出している。一方、肯定的なイメージでは「役に立つ」(19.3%)という回答が高いが、否定的イメージと比べるとポイント数が圧倒的に低い。

表「回答が多い項目（上位5項目）」

1. 危険 (71.2%)	否定的なイメージ
2. 不安 (51.3%)	〃
3. 悪い (29.6%)	〃
4. 複雑 (21.4%)	〃
5. 役に立つ (19.3%)	肯定的なイメージ

選択肢を「よい」－「悪い」のように「肯定的なイメージ」－「否定的なイメージ」の“対”になるように並べ替え、比較を行った。ほとんどの項目で“対”になるどちらか一方の選択肢に回答が集まる傾向があり、10ポイント以上の差が見られる項目は、下表の通り。

放射線は、原子力に対するイメージと同様に、「暗い」、「悪い」、「複雑」、「危険」、「信頼できない」、「不安」、「わかりにくい」、「気になる」という否定的なイメージに傾いていることが分かる。否定的なイメージに回答が集中する一方で、「役に立つ」という肯定的なイメージもあることが分かる。

「必要」－「不必要」は、上記の傾向と異なる。どちらか一方の選択肢に回答が集まる傾向がなく、ある程度の回答が双方にあることから、「必要」－「不必要」については、意見が分かれていることがわかる。

表「肯定的／否定的イメージの比較」

肯定的なイメージ		否定的なイメージ
明るい (－)	<	暗い (17.4%)
よい (0.6%)	<	悪い (29.6%)
単純 (0.3%)	<	複雑 (21.4%)
安全 (0.8%)	<	危険 (71.2%)
信頼できる (0.5%)	<	信頼できない (17.2%)
安心 (1.0%)	<	不安 (51.3%)
役に立つ (19.3%)	>	役に立たない (2.2%)
わかりやすい (0.4%)	<	わかりにくい (12.3%)
気にならない (1.4%)	<	気になる (12.6%)
必要 (10.8%)	>	不必要 (7.7%)

経年変化の観察による分析

放射線のイメージとして挙げられた以下の項目の経年変化を観察した。

- ・ 否定的なイメージ：「暗い」、「悪い」、「複雑」、「危険」、「信頼できない」、「不安」、「わかりにくい」、「気になる」
- ・ 肯定的なイメージ：「役に立つ」
- ・ 意見が分かれている放射線のイメージ：「必要」、「不必要」

表「放射線に対するイメージ 経年変化」 (％)

		2007年 1月	2007年 10月	2008年 10月	2010年 9月	2011年 11月	2012年 11月	2013年 12月	2014年 11月	2015年 10月	2016年 10月	2017年 10月	2010→ 2011 差異
否定的な イメージ	暗い	21.3	18.7	19.9	19.0	20.1	20.7	17.5	19.2	16.5	16.2	17.4	1.1p
	悪い	22.2	21.3	25.0	21.2	28.3	27.2	24.6	21.9	27.7	23.8	29.6	7.1p
	複雑	21.8	24.2	24.9	21.3	24.0	23.2	20.1	22.7	24.2	22.4	21.4	2.7p
	危険	75.6	71.8	76.3	71.9	73.2	74.0	72.5	66.8	72.9	72.1	71.2	1.3p
	信頼できない	14.8	12.9	14.8	10.5	18.3	17.5	17.8	17.9	18.1	15.2	17.2	7.8p
	不安	51.4	48.8	51.7	46.2	53.8	54.8	52.9	48.6	55.8	50.9	51.8	7.6p
	わかりにくい	12.0	13.2	11.8	10.0	17.6	13.8	13.5	15.6	16.4	13.5	12.3	7.6p
	気になる	17.6	15.3	17.1	13.7	20.9	17.8	17.3	15.3	17.5	14.5	12.6	7.2p
	不必要	4.3	3.4	4.3	3.7	10.8	10.1	8.9	6.3	7.0	5.9	7.7	7.1p
肯定的な イメージ	必要	15.6	17.8	19.7	18.8	11.8	10.6	6.6	7.9	11.8	11.7	10.8	-7.0p
	役に立つ	22.4	27.2	29.6	28.1	16.3	16.0	13.6	14.5	21.0	19.6	19.3	-11.8p

「2010年9月（事故前）」より5 P以上高い→「赤字」、10 P以上高い→「黄色セル」、5 P以下低い→「青字」、10 P以上低い→「青色セル」。

回答が突出している「危険」、「不安」は、前回（2015年）からポイントの大きな変動は見られない。この2項目については、高い水準で安定していると考えられる。

福島第一原子力発電所の事故前後での変化

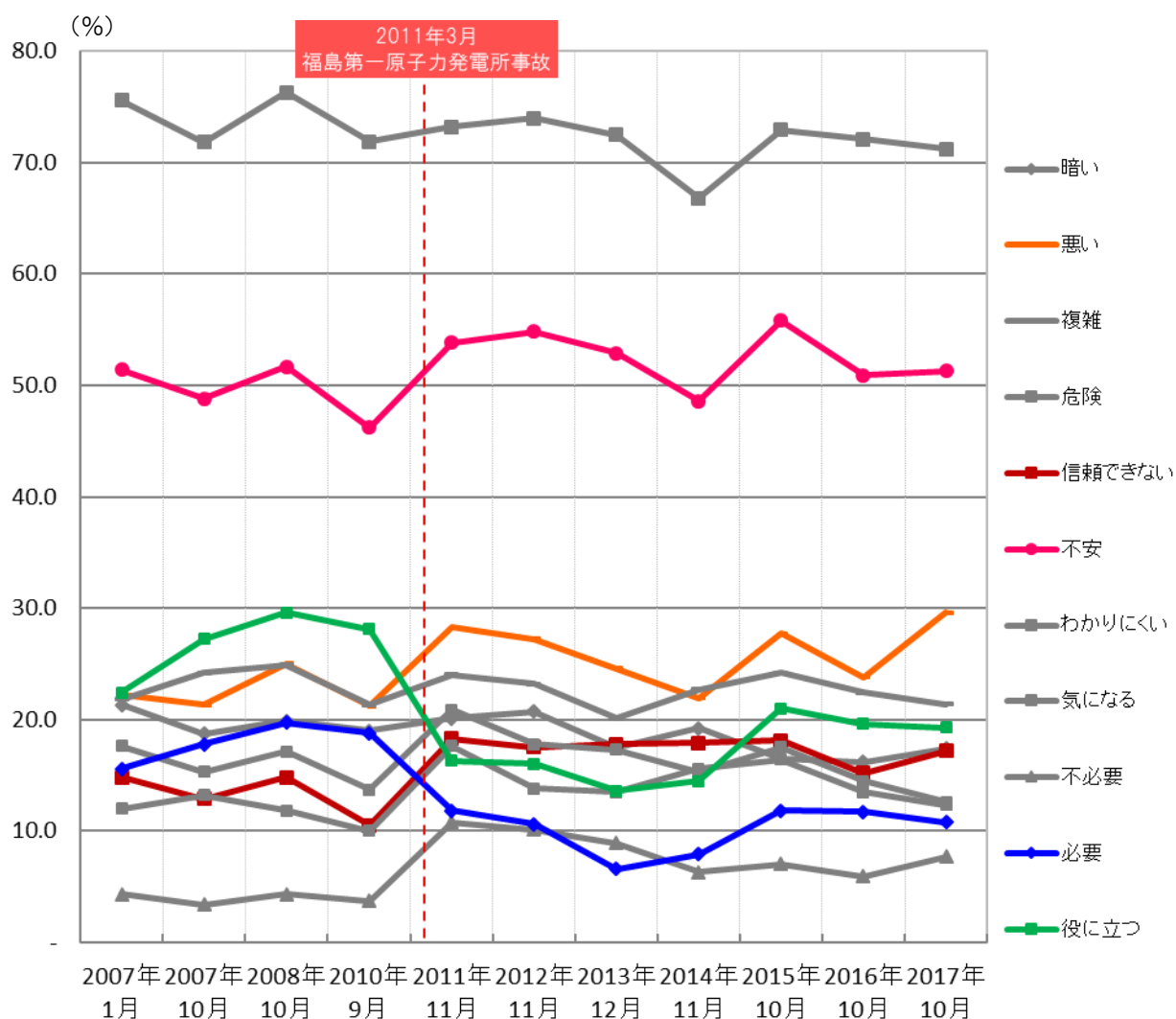
2011年3月に発生した福島第一原子力発電所事故の前後、「2010年9月」と「2011年11月」では大きな差が見られる。事故により原子力に対する世論が大きく変動していることが分かる。特に、大きな差（10ポイント以上）が見られた項目は、「役に立つ（-11.8）」のみであった。

「役に立つ」は、事故後、最も変動した項目となった。事故により放射性物質が放出され、多くの住民の避難や食品の流通規制、放射線による健康影響に対する不安など、社会に大きな影響を与えたことを受け、「役に立つ」のポイントが落ち込む結果となったと推測される。その後、2013年度調査をピークに徐々に増加傾向に転じているように見えたが、2016年でポイントが減少し、2017年もその水準が維持されている。

「役に立つ」のような経年変化の傾向は、変動幅は狭いものの「必要」でも見ることができる。さらに、原子力のイメージ「必要」、「役に立つ」の経年変化の傾向も同じような動きを見せている。つまり、原子力と放射線のイメージは、強い関連性がある可能性が高い。

否定的なイメージでは、「不安」、「悪い」、「信頼できない」、「わかりにくい」、「不必要」の5項目が事故後、ポイントが高くなっている。2010年9月の結果は、全体的に否定的なイメージが低い傾向があるため、増減の傾向を判断するためには、さらに次年度以降の変化を確認する必要がある。

一方で、事故後もあまり差が見られない項目として、「危険」、「複雑」が挙げられる。これらの項目は、事故後もあまりポイントが増加せず、事故前のレベルと同程度となっている。つまり、事故前より放射線は「危険」、「複雑」と認識されており、事故後もその認識はあまり変化していないことが分かる。



図「放射線に対するイメージ 経年変化」

(3) 原子力・放射線・エネルギーについての関心

原子力やエネルギーの分野について関心のあることを質問した。最も関心が高い項目は「地球温暖化」(47.3%)である。次いで、「原子力施設のリスク(事故・トラブルなど)」(41.7%)、「福島第一原子力発電所の状況」(41.0%)、「放射線による人体の影響」(38.8%)、「放射性廃棄物の処分」(37.4%)、「日本のエネルギー事情」(36.8%)、「原子力発電の安全性」(32.3%)と続く結果となった。

2017年度は、昨年度のインタビュー調査において関心の高い項目として挙げられた「福島第一原子力発電所の状況」と「避難指示解除区域における住民の帰還状況」を追加したが、「福島第一原子力発電所の状況」に対して高い関心が示された。

前回(2016年)と比べると、「原子力施設のリスク」、「放射性廃棄物の処分」、「原子力発電の安全性」のポイントが上昇していることが確認できる。原子力発電の再稼働、高レベル放射性廃棄物の処分に関する項目の関心が高まった。

経年変化の観察による分析

上位7項目の経年変化を観察した。

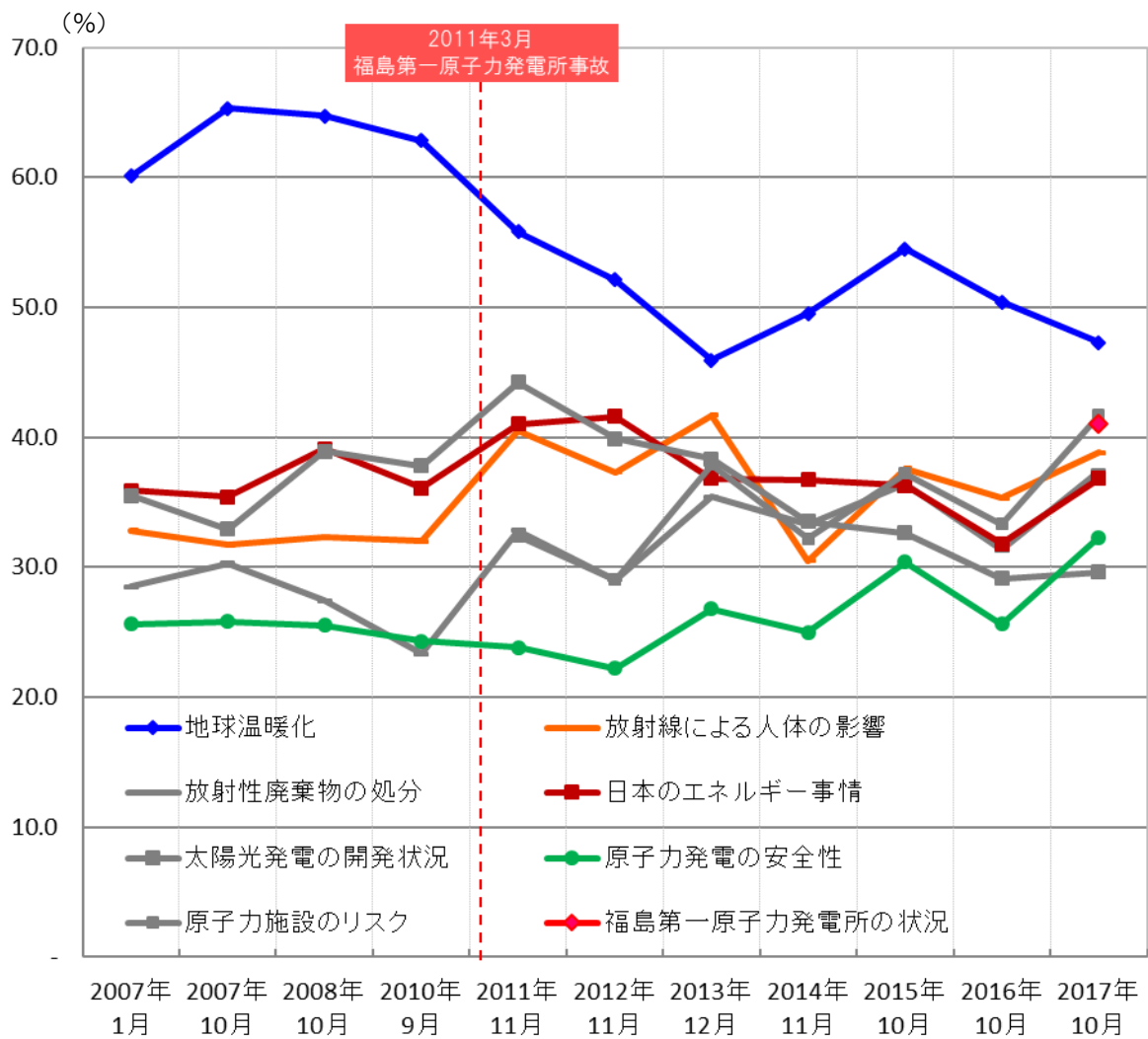
表「回答が多い項目(上位7項目)」

1. 地球温暖化 (47.3%)
2. 原子力施設のリスク(事故・トラブルなど) (41.7%)
3. 福島第一原子力発電所の状況 (41.0%)
4. 放射線による人体の影響 (38.8%)
5. 放射性廃棄物の処分 (37.4%)
6. 日本のエネルギー事情 (36.8%)
7. 原子力発電の安全性 (32.3%)

表「原子力・放射線・エネルギーについての関心の経年変化」

	2007年 1月	2007年 10月	2008年 10月	2010年 9月	2011年 11月	2012年 11月	2013年 12月	2014年 11月	2015年 10月	2016年 10月	2017年 10月	2010→ 2011 差異
地球温暖化	60.1	65.3	64.7	62.8	55.8	52.1	45.9	49.5	54.5	50.4	47.3	-7.0p
放射線による人体の影響	32.8	31.7	32.3	32.0	40.5	37.3	41.7	30.5	37.6	35.3	38.8	8.5p
放射性廃棄物の処分	28.5	30.3	27.4	23.3	32.8	29.0	35.4	33.3	36.4	31.3	37.4	9.5p
日本のエネルギー事情	35.9	35.4	39.1	36.1	41.0	41.6	36.8	36.7	36.3	31.8	36.8	4.9p
太陽光発電の開発状況	35.5	32.9	38.9	37.8	44.2	39.9	38.3	33.5	32.6	29.1	29.6	6.4p
原子力発電の安全性	25.6	25.8	25.5	24.3	23.8	22.2	26.8	25.0	30.4	25.6	32.3	-0.5p
原子力施設のリスク					32.4	29.0	37.9	32.2	37.2	33.3	41.7	-
福島第一原子力発電所の状況											41.0	-

「2010年9月(事故前)」より5P以上高い→「赤字」、10P以上高い→「黄色セル」、5P以下低い→「青字」、10P以上低い→「青色セル」



図「原子力・放射線・エネルギーについての関心 経年変化」

福島第一原子力発電所の事故前後での変化

2011年3月に発生した福島第一原子力発電所事故の前後、「2010年9月」と「2011年11月」では大きな差が見られる。事故により原子力に対する世論が大きく変動していることが分かる。特に大きな差が見られた項目は、以下のとおり。

- ・放射性廃棄物の処分 : +9.5
- ・放射線による人体の影響 : +8.5
- ・地球温暖化 : -7.0

「放射性廃棄物の処分」は、事故後、最も関心が高まった項目となった。事故により原子力発電に注目が集まり、まだ確定していない高レベル放射性廃棄物の処分地に対する関心が高まったと推察される。さらに、この項目はその後もポイントが高まった状態で維持され

ていることから、関心が高まった状態が維持していることが分かる。2015年5月に「特定放射性廃棄物の最終処分に関する基本方針」が改定され、2016年には国が科学的に最終処分地の適性がより高いと考えられる地域を提示すると報道されたことも関心が高い状態で維持されている要因として挙げられる。さらに、2017年7月28日に経済産業省が高レベル放射性廃棄物の地層処分の用地としての適性を示す地図「科学的特性マップ」を提示したことを受け、2017年度のポイントが上昇したと推察される。

「放射線による人体の影響」も事故後、関心が高まった項目として挙げられる。事故により放射性物質が放出されたことで、放射線による健康影響に対して不安を抱く国民が増え、関心が高まったと推測される。その後も関心が高まった状態は継続しているが、次年度以降の変化を確認し、増減の傾向を判断する必要がある。

一方、事故後、関心のポイントが減少した項目として、「地球温暖化」が挙げられる。事故後、地球温暖化に関する報道が少なかったため、関心が低下したと推測される。

(4) 今後、利用・活用していくべきエネルギー

今後、日本が利用・活用していくべきと思うエネルギーを質問したところ、「太陽光発電」(77.5%)、「風力発電」(63.3%)、「水力発電」(55.5%)、「地熱発電」(45.2%)と続く。前回(2015年)までの結果と同様の傾向を示している。

経年変化の観察による分析

回答結果の経年変化を観察した。

表「回答結果(回答が多い順)」

1. 太陽光発電 (77.5%)	6. 廃棄物発電 (24.6%)
2. 風力発電 (63.3%)	7. 天然ガス火力発電 (20.3%)
3. 水力発電 (55.5%)	8. 原子力発電 (11.8%)
4. 地熱発電 (45.2%)	9. 石油火力発電 (8.3%)
5. バイオマス発電 (31.4%)	10. 石炭火力発電 (5.7%)

表「今後、利用・活用していくべきエネルギー 経年変化」

(%)

	2008年 10月	2010年 9月	2011年 11月	2012年 11月	2013年 12月	2014年 11月	2015年 10月	2016年 10月	2017年 10月	2010→2011 差異
太陽光発電	78.3	82.4	86.5	83.4	79.6	77.5	82.8	78.8	77.5	4.1p
風力発電	61.1	61.5	70.8	69.8	62.9	59.3	63.9	63.3	63.3	9.3p
水力発電	44.3	45.5	63.1	54.3	49.1	51.9	56.8	52.8	55.5	17.6p
地熱発電	27.7	31.8	47.9	45.8	45.1	44.9	47.2	43.3	45.2	16.1p
廃棄物発電	25.3	26.4	28.3	24.8	22.7	27.4	31.3	29.6	24.6	1.9p
バイオマス発電	14.4	17.8	26.8	21.9	23.0	28.1	28.3	26.6	31.4	9.0p
天然ガス火力発電	15.3	16.3	28.9	27.7	29.1	25.5	28.3	21.1	20.3	12.6p
原子力発電	31.2	36.9	16.7	13.9	12.3	14.3	15.8	12.9	11.8	-20.2p
石油火力発電	3.5	5.4	10.2	10.4	8.9	8.5	11.1	7.8	8.3	4.8p
石炭火力発電	4.3	3.7	9.9	9.8	6.6	7.6	8.2	5.1	5.7	6.2p

「2010年9月(事故前)」より5P以上高い→「赤字」、10P以上高い→「黄色セル」、5P以下低い→「青字」、10P以上低い→「青色セル」

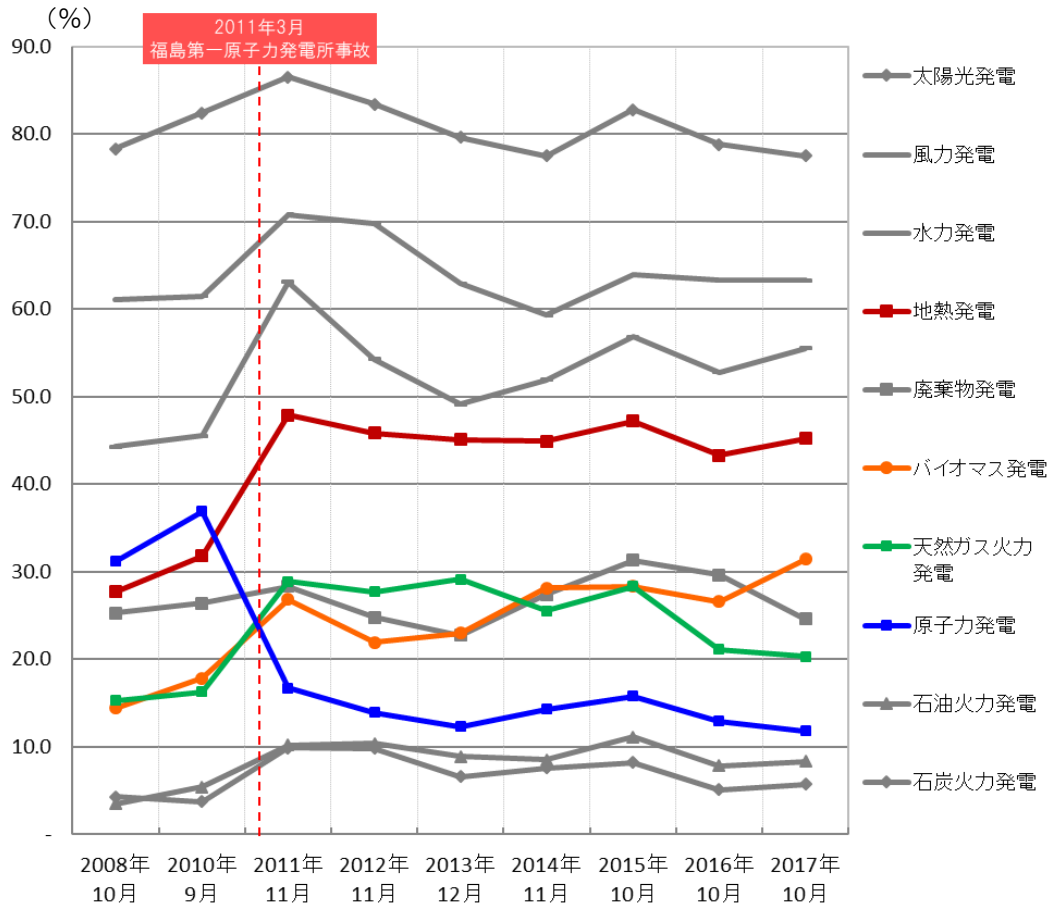
福島第一原子力発電所の事故前後での変化

2011年3月に発生した福島第一原子力発電所事故の前後、「2010年9月」と「2011年11月」では大きな差が見られる。特に大きな差が見られた項目は、以下のとおり。

- ・原子力発電 : -20.2
- ・水力発電 : +17.6
- ・地熱発電 : +16.1
- ・天然ガス火力発電 : +12.6

「原子力発電」は、最もポイントが減少した項目。その後も低い水準は維持されており、2015年以降、複数の原子力発電所が再稼働されたが、原子力発電のポイントはあまり変わらないため、今後、利用・活用していくべきエネルギーとして考えられていないことが分かる。

事故後、ポイントが増加した項目として、「水力発電」、「地熱発電」、「天然ガス火力発電」が挙げられている。その中でも「地熱発電」は、その後もポイントが高まった状態で維持されていることから、将来的なエネルギーとして期待されていることが分かる。



図「今後、利用・活用していくべきエネルギー 経年変化」

4.4 インタビュー調査と広聴・広報のあり方の検討

(1) インタビュー調査の実施

「原子力に関する世論調査（2017年度）」の結果を用いたインタビューを8回、約69名の対象者について実施した。実施状況を下表に示す。今後の広聴・広報・コミュニケーションの方向性を分析するために、インタビューの対象者が様々なセクターに分布するように配慮した。

インタビューでは、2016年10月に実施した「原子力に関する世論調査」の結果を用いて、インタビュアー¹がその概要を紹介しながら、それぞれのトピックに関する意見や感想、また、広聴・広報・コミュニケーションに関する要望や方向性について聞いた。

インタビュアーが提供した情報は、付録Aにまとめた。

なお、インタビュー対象者は、主に原子力などに対して関心が高い方へ依頼し、限られた人数に対して実施しているため、全国の世論調査の回答者を代表するものではない。

表「インタビューの実施結果」

インタビュー対象者	人数	実施日
有識者①	約50名	2017年12月8日
事業者の広報担当	5名	2017年12月21日
有識者②	1名	2017年12月27日
首都圏の関心層	6名	2018年1月6日
テレビ局記者	1名	2018年1月16日
首都圏の20代	4名	2018年1月17日
教育関係者①	1名	2018年1月18日
教育関係者②	1名	2018年1月19日
【合計】	約69名	

¹ インタビュアー：木村浩氏（NPO 法人パブリック・アウトリーチ）、記録：丸山剛史氏（株式会社 NV 研究所）

(2) インタビュー結果の整理と分析

本節では、インタビューから得られた意見を「原子力発電に対する態度」、「ベネフィット認知」、「リスク認知」という観点からまとめる。また、リスク認知の中でも、高レベル放射性廃棄物に関する観点は、別立てとする。それを受けて、今後、どのような広聴・広報・コミュニケーションを行うべきかという観点から考察する。

① 原子力発電に対する態度

原子力発電に対する態度に関しては、原子力推進側の意見（増加すべき・震災前に戻すべき）が減少しつつある可能性がある、という結果について意見が寄せられた。再稼働との関係で、電力需要に関する安易な思い込み（原子力発電がなくとも電力は特に問題なく供給できる）や、政治との兼ね合いを指摘する声も聴かれた。また、情報保有量に注目して（情報保有量が増えることによって）意見の変化が見られることに対する意見が得られた。

エネルギー源全体に対しては、再生可能エネルギーへの期待の高さと危うさを指摘する声が見られる。再生可能エネルギーによる発電量が増加している現状があると同時に、電気が安定的に供給されるには多くの調整が必要である事実が伝えられていない、さらには、もしそれが伝わったとしても、「電力会社がやってくれればよい」と他人事として捉えられてしまう可能性に対する危惧も見られる。

また、原子力発電については、「再生可能エネルギーの過大評価が、原子力の過小評価につながっているのかもしれない」といった声も聞かれた。原子力発電についてよく理解してほしいというよりは、再生可能エネルギーの現実について理解してほしいという意見が多いと感じる。

「原子力発電に対する態度に関する調査結果を見て得られた主な意見」

原子力に対する態度

- 推進側の意見が 2015 年度から 2017 年度にかけて徐々に減っている。3.11 直後に推進側の意見が減り、その後、それが落ち着いていくなれば分かるが、トレンドがその逆になっている。来年のデータが非常に興味深い（参院選もあるため）。
- 昨年（2017 年）の総選挙では、立憲民主党や希望の党が原発ゼロの政策を打ち出した（ただし、その工程は示されていない）。推進側の意見が減った要因のひとつかもしれない。
- 原子力を利用しなくても地球温暖化問題は解決するのか、原子力の安全性はどの程度確保されているのか、という情報がないので、感覚的に回答している人が多いのではないかと感じる。（私は理科を担当しているので、それらの情報を入手しようと心がけているが、それでも十分に情報が得られているとは思っていない）
- 頭では原発を利用していくべきだと分かっているが、心では反対している人は多いのではないかと感じる。この調査結果は、「頭で分かっていること」の結果であって、仮に国民投票をしたら、不安に思う気持ちももっと強く出てきて、この通りの結果にはならないと思う。
- 「しばらく利用するが徐々に廃止」の「しばらく」の範囲は、人によって違うのだろう。
- 無関心層が多いことが最大の問題だと思う。現在は、関心が強く、情報保有量が多い一部の人たちだけが、原子力について議論しているのではないかと感じる。その結果、「即時廃止すべき」という声が大きくなっているのだと思う。

- 「その他」「わからない」があるのだから、「あてはまるものはない」という選択肢はいらないのではないか。どのような心理がはたらいて、「あてはまるものはない」に丸をつけるのだろうか。「無関心」ということだろうか。
- まったく知識を持っていないので、どの選択肢も選べない。ただ、何が分からないかも分からないので、「わからない」にもつけにくい。私は、「あてはまるものはない」に丸を付けるかもしれない。
- 私は塾講師のアルバイトをしているが、「何が分からないか分からない」という言葉はよく聞く。ただ、教え子も、少しずつ理解が進んでいくと、「楽しくなってきた」「それでも難しくて嫌いだ」という意見を持つようになる。知識が増えてきたときに、現在、大多数を占める「徐々に廃止」層がどのような意見を持つかは興味深し、重要なことだと思う。
- 「わからない」と回答している人が、どんな考えで丸を付けたのかが分からない。無関心で、国や電力会社が決めればよい、と容認している層なのだろうか。問10の「どちらともいえない」も、回答者の意図がよく分からない。
- 原子力の情報保有量がない層は、関心がないということだろう。一方で、関心が高い層は意見が両極端（原発増加⇔即時廃止）になりがちという側面もあるので、どのように広報していけばよいかは難しい。
- 情報保有量が増えると、両極端な意見を持つ人が増えていくというのは、原子力に限らず、一般的な傾向なのか？ ⇒意見が割れているような事柄については、原子力に限らず、知識が増えるにつれ、両極端な意見を持つ人が増えていく傾向がある。
- 原発がなくても電気が足りるのは事実である（火力を用いればよい）。今必要なのは、電気が足りるかどうかの議論ではなく、追加の価値をどこまで出すかどうか（二酸化炭素排出をどこまでどう減らすか）である。主張のレベルが前者でとどまってしまう場合も見受けられる。
- 「原子力」については、各教員の考え方の違いもある。私としては、教員が原子力に反対でも構わないが、生徒には事実は正しく伝えてほしいと思っている。

再稼働に対する態度

- 問題なく安定的に運転しているときは、ニュースで報道されにくい（震災前は、原子力発電所の運転状況についてはまったく報道がなかった）。「原子力発電所が再稼働し、トラブルなく、きちんと動いています」という広報も意味があるのではないか。
- 「新規基準に適合なら再稼働OK／適合でも再稼働NG」は意見が拮抗しているにも関わらず、「国民の理解が得られていない」のポイントが高いということは、原子力規制委員会が国民から信頼されていないことの表れかもしれない。
- 広島高裁では、「規制委の判断は不合理」との理由で、伊方原発の運転停止の判決が出た。その報道を見てみると、原子力規制委員会はきちんと仕事をしているのか、と感じてしまう人も多いのではないか。次年度の調査では、その辺りを分析できるように設計してはどうか。
- 「需要が全体でこれだけあるから、これだけ再稼働が必要です」という説明がなく、再起動の是非のみを議論しているのが問題だと思う。

エネルギーに対する態度

- 昔は、東京電力が「さまざまな発電方法を組み合わせ安定させている」というCMをよく流していたが、そのことを理解している人が少ないのだろう。それぞれの発電方法にはいいところ、悪いところがあり、それを理解し、選ぶ能力が必要である。生徒たちには、「それは、君たちが生き方を選ぶときにも大切になってくる」と教えているが、きよんとする生徒も多い。
- 「原子力発電」を単体で見たときに、事故が危険だからやめたほうがいい、と短絡的に判断する人が、大人も含め、多いのではないか。
- 原子力発電については、生活を維持するためには必要、自分の住んでいる地域以外で発電するのならば、まあいいのではないかと考えている大人が多いのではないかと予想する。

- 原子力発電が担ってきたエネルギーを再生可能エネルギーで賄うことは非常に難しいと思う。ただ、情報保有量がない人でも「太陽光発電」に丸をつけていることから、知識がないにも関わらず、流行っているものを期待している人も多いだろう。
- 現状は、電気の8割を火力発電が占めている。水力が10%弱で、現時点では再稼働した原発は4基である。今の原子力発電の割合ならば、再生可能エネルギーで賄えると思う。ただ、今後、地球温暖化対策として火力発電の割合を減らしていく際に、再生可能エネルギーがそれに代替できるかどうかについて、世論がどう考えているかはよく分からない。私個人としては、代替は難しいと考えている。
- 原子力を積極的に使いたいと思っているのか、他のエネルギーが使えないから原子力を使おうと消極的に賛成しているだけなのかを区別できるような質問を設計してはどうか。
- クロス集計結果を見ると、「徐々に廃止」層と「即時廃止」層の意見分布は似ているように見えるが、その考え方はまったく異なるのだろう。「徐々に廃止」層は、新規増設はせず、経年した原子炉が自然と減っていくことを望んでいるのだろう（現実的な発想）。「即時廃止」層は、理想を見ている層なのだろう。
- 3.11前は、エネルギー基本計画で原子力50%を謳い、国民の原子力に対する期待も高かった。たった7年前なのに、空気がまったく変わってしまっている。
- 再生可能エネルギーの過大評価が、原子力の過小評価につながっているのかもしれない。再生可能エネルギーに丸を付けているが、原子力には丸を付けていない人がどのくらいいるのかは気になる。
- 地熱・風力のポテンシャルにも限界があると思うので、当面は火力に頼ることになるのではないかと。天然ガスは、新しいガス田も発見されているので、今後100年程度はもちそうだが、その先は分からない。
- 「天然ガス火力発電」のポイントが低下している理由がよく分からない。中東依存への忌避感が原因ならば理解できるが、近年はアメリカのシェールガスもある。
- 3.11直後は、悲惨な事故をバネにして、日本は再生エネルギー大国になると思われていたが、その後ほとんど進んでいない。
- 地域によって、再生可能エネルギーの導入率は異なる。再生可能エネルギーへの期待度にも地域差があるのではないかと。
- 再生可能エネルギーの発電量が多くなっている状況も伝えていくべきかもしれない。
- （再生可能エネルギーの発電量が多くなっている状況を伝えても）消費者は、「自分には関係がない話だ、電力会社がうまくやりくりしてくれればよい」と思ってしまうかもしれない。
- 「太陽光発電」や「風力発電」はあちらこちらに建設されているので、エネルギー源として期待する人も多いだろう。コストも低下している。
- 高校生時代に、風力発電について調べたことがある。調べる前は、「再生可能エネルギー100%を目指す」と考えていた。風力発電が盛んな地域の自治体の担当者に話を聞いたところ、「努力はしているが、100%にするのはなかなか難しい」という話を聞き、現実を思い知った。
- 「バイオマス発電」は、まだ認知度が低いだろう。
- 「バイオマス発電」と「廃棄物発電」の違いは何か？ ⇒本来はバイオマス発電の一部が廃棄物発電だが、この設問を作った際に別の項に分けたので、そのまま継続して質問している。⇒2つを比較すると、全体では「廃棄物発電」のほうがポイントが高め。「廃棄物発電」は、情報保有量がない人でも13%程度あるが、保有量が多い人でも40%程度に留まる。一方、「バイオマス発電」は、保有量がない人は7%程度に留まるが、保有量の増加と共にポイントが高まり、保有量が多い層は64%に達している。情報保有量の多い人ほど、「バイオマス発電」に対する期待が高いようだ。
- 学校の現場では、電力網の話はしていない。今後、各家庭が売電をしたときに、誰にどんなメリットがあって、誰にどんなデメリットがあるのか、という話は学校ではしない。今は、植木鉢や町の電灯に小さな太陽光発電パネルが設置されている。それを見て、太陽光発電をもっとやればいいの

ではないか、と考える人も多いかもしれない。ただ、太陽光発電が実際に系統に組み込まれたときにどういう影響が出るかについては、ブラックボックスになっていてよく分からないし、教育現場では伝えられていない。

- 中学校では、個別の事柄は教えるが、総合的な理解をしてもらうのはなかなか難しい。例えば、各発電方式の仕組みは学ぶが、系統については学ばない。直流・交流は学ぶが、なぜ電線では交流が使われているのかは学ばない。
- 「新宿駅の床に圧電素子を置けば（振動発電をすれば）、自動改札の電気くらいは賄えるかもしれない」というアイデアが生徒から出てくることもある。それに対して、いいアイデアだが、配線はどうつなげばいいと思うか、などと答えている。アイデアを実現するためには解決すべき問題が多々あるということ、そういった機会を活用して教えている。また、現場を見に行くことが非常に大切だと考えている。
- 生徒たち（中学生）を対象に、将来のエネルギーや環境について考える機会を設けたのだが、中学で習う情報は限られているので、ほとんど意見が出てこなかった。意見が出たとしても、ごく近い未来の話ばかりになってしまう。
- 今後、生徒たちが普通に育っていく過程で、エネルギーに関する知識を得る機会があるのだろうか、と懸念している。
- 生徒にエネルギーについて教える際は、再生可能エネルギーに期待を持ってほしいと思いついて教えているが、ただ、期待を持たれ過ぎても現実感を失うのではないかと危惧しており、そのバランスに悩んでいる。

② ベネフィット認知・リスク認知

原子力に対するベネフィット認知では、電力料金との関係について指摘する声が多かった。この項目については、男女差がほとんどないこと（多くの項目では男女差が見られ、一般的に男性の方が原子力発電については許容的な意見を有する）、固定価格買取制度（FIT）の導入によって電力料金が上がり始めたことが影響しているのではないかと、というような意見がある。

「ベネフィット認知・リスク認知に関する調査結果を見て得られた主な意見」

ベネフィット認知

- 「原子力がないと、電気料金が上がる」は、経済的な話なので、女性が鋭く反応するのではないかと？
⇒問 10 は、多くの項目で、男性のほうがはっきりした意見を持っている。例えば「原発がなくても日本は経済的に発展できる」「地球温暖化防止に役に立つ」は、肯定意見も否定意見も男性のほうがポイントが高くなっている。一方、この項目は男女差がほとんどない。生活に密接した項目として認識されているのだろう。
- 原発のコストが高いか安いかにについては大きな議論があるが、電気代という側面で切り込むのは悪くない。
- 原発をやめるから電気代が高くなるのか、再生可能エネルギーを入れすぎるから高くなるのか、総合的に評価しなければならない。そのときには海外の先行事例をつぶさに調べる必要があるだろう（マスメディアの立場としては、詳細に取材をしていくしかないと考える。責任ある立場の方にインタビューしに行くという取材方法もあるだろう）。また、多くの国民がその情報にアクセスしやすくすべきだ。
- FIT が導入され、実際に電気料金が上がってきているということを実感し始めたのではないかと。
⇒必ずしも、原発が再稼働したから電気料金が下がったという単純な構図ではない。原油価格の低下も電気料金低下の一因。2年ほど前から電気料金は低下している。ただ、再稼働が始まったのも

2年ほど前からなので、関連付けて考える人も多いようだ。

- 「原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないの、地球温暖化防止に有効である」は、ある意味事実確認のような質問なのに、「そう思わない」と回答する人がいるのがよく分からない。
- 原子力発電が二酸化炭素を出さないのは、共通認識だと思っていたが、否定意見が一定数いる。自分の好きな情報しか受け入れない(聞く耳を持たない)という人間の傾向が表れているのだと思う。
- 原発の廃止を願っている人は、事故が起きた際の健康被害を気にしているのだと思う。二酸化炭素が増えたからといって、日本の場合は、直接的に健康被害が発生するわけではないので、火力発電でもいいのではないか、と考えている人もいるのではないかな。
- 電気を使うときに、地球温暖化のことまでは考えていない。「地球温暖化防止」というトピックが原子力の関心喚起につながるとは思えない。
- 学校では、「地球温暖化」については、生態系の話に関連して、主に「温室効果」の説明をしている。温室(ビニールハウス)は温かいので、生徒もイメージしやすいようだ。ただ、惑星全体の熱の収支が原因であるということはなかなか理解されない。
- 学校では、人間が起こした温暖化という意味では、二酸化炭素が重要な役割を果たしている、という説明はするが、温暖化そのものにはあまり触れていない。温暖化が本当に起きているかどうかはよく分からない、今は間氷期なので今後は寒冷化するかもしれない、ということも教えている。
- 学校では、二酸化炭素関連では、京都議定書やパリ協定の話、排出権取引の話もしている。(理科で扱うべき事柄なのか、社会科で扱うべき事柄なのかは、判断が難しい。ただ、現時点では、理科の教科書にはパリ協定の話は載っていないと思う)
- 学校では、「原子力発電は二酸化炭素を出さない」ということは説明するが、「温暖化防止に役に立つ」ということと結びつけては説明していない。
- 関心の高い人は、情報量も増えるかもしれないが、信念をもって情報を収集する傾向もあるかもしれない(自分の好きな情報だけを集める傾向があるかもしれない)。
- 「即時廃止」層の中には、論理的な判断をしている方と、是が非でも廃止したいと考えている人がいるようだ。我々メディア側は、全ての人を対象に報道をしているが、理論的な内容の報道は理論的に判断する人に届く、という側面があるのはやむを得ないのかもしれない。
- 「即時廃止」層で、「そう思う」「どちらともいえない」と回答している人とは、話し合いが成立すると思う。

リスク認知

- ベネフィット認知・リスク認知の項目を見ていると、この3年で、原発利用に対して慎重な方向に意見が変化しているように見える。
- 知識を得れば得るほど、やはり危ない、と感じる人が増えるのだろう。
- あれだけの事故があつたにも関わらず、安全確保が可能でないと思う人が4割しかいないことに驚いた。(福島事故について深く知っていれば、最悪の状況が重なったからあの事故になった、だとすれば安全確保は可能だ、と考えるのかもしれないが、他の設問を見ると、一般の人々の原子力に関する知識量はそれほど多くない) ⇒問10は、回答負担を減らすために「どちらともいえない」という選択肢を入れているため、「どちらともいえない」という回答が増えているのだと思う。
- 様々な事故調査報告書で、「福島事故は津波が原因」との結論が出ているが、地震が原因だと考えている人も多いのではないかな。
- 2017年10月4日に、原子力規制委員会は、柏崎刈羽原発6・7号機が新規規制基準に適合していると発表した。報道量も増えたとし、また、関連して中越沖地震や福島のことも報道された。強い肯定意見(地震国に原発は危険だと思う人)が増えたのは、その影響もあるのかもしれない。
- 地震からは逃れられないと感じている人が多いのではないかな。
- 南海トラフ地震など、そろそろ起こると言われている大地震がなかなか発生しないので、そろそろ来るのではないかな、という不安が高まっているのかもしれない。

- 学校では、放射線にはこんなメリット・デメリットがある、という話はするが、「必要だ」という文脈では話さない。人体にダメージがあるというデメリットもあるが、それは、人体に影響がないようにすれば殺菌に使えるというメリットでもある、裏表である、という話をしている。

今年度の調査では、リスク認知に関する項目の中でも、特に高レベル放射性廃棄物処分についての調査結果がまとまっており、それについての意見も多く聞かれた。

処分場に対する不安に関して、「情報保有量が多い人でも「大きな事故が起きないか心配」と回答している人は多い。国民一般は、上の人が思っている以上に地層処分のことをよく分かっておらず、不安を抱いている人が多いのではないか」との意見があり、原子力業界とのリスク認知のギャップを指摘している。

また、処分に取り組むことは大切でも、地層処分については納得していないことについて、「今ある方法の中では地層処分がベストなのだから、それを認知させることが大切」という意見や「情報保有量が増えると、「地中深くに埋めることに賛成」のポイントが増える（「反対」のポイントも増えるが、「賛成」のほうが、ポイント増加率が高い）」との指摘もあり、現時点では、地層処分についての情報を涵養^{かんよう}することが大切との指摘が多い。

「高レベル放射性廃棄物処分に関する調査結果を見て得られた主な意見」

- 情報保有量が増えると、「地中深くに埋めることに賛成」のポイントが増える（「反対」のポイントも増えるが、「賛成」のほうが、ポイント増加率が高い）。勉強すれば地層処分に賛成する人が増えるということだろう。
- 原発とは違い、廃棄物はすでに発生しており、対応せざるを得ないので、情報を与えれば与えるほどやらなければいけないという思いは強まるのではないかと。ただ、自分の近くには来てほしくないと思う人は多いだろう。
- 廃棄物処分については、放射線の情報保有量に応じて意見が異なるのではないかと。⇒情報保有量は、エネルギー・環境分野、原子力分野、放射線分野の3つでそれぞれ調べているが、3つとも傾向は似ていた。情報保有量の多い人は、どれかの分野に偏っているということではなく、全体的に知っているようだ。
- 原発反対のために高レベル放射性廃棄物を反対する人もいる。
- 地層処分に反対する理由は何か？ ⇒調査では分からない。別のインタビュー調査などを参考にすれば、反対するのは、「地上管理がよい」ということではなく、「地層処分がもっともよいための根拠を示されていない」ということのほうが多い。
- 大事故の不安がそれほど大きいのはショック。地層処分は原発よりもリスクが低い。福島事故のイメージが強いのではないかと。地層処分に関する安全性を訴求する必要があると感じた。
- 高レベル放射性廃棄物処分は、総論賛成・各論反対の問題になるようだ。そのような問題を解決していったような事例はないのか？ ⇒環境問題ではある（安間川の治水対応など。リスクの伴うステークホルダーが意思決定に関与する形で、対応が進められて、（当時では）うまくいった）。ただし、高レベル放射性廃棄物処分については、現時点では国全体の問題でもあり、その規模でできる範囲とは思えない。いずれ立地問題になる段階では、解決の方法はいくつかのやり方があると思う。
- 情報を持ってもらうだけでは問題は解決しないと（木村氏が）述べていたが、それではどうしたらよいのか。⇒現時点では、まず地層処分についての納得性が十分でないと考えられるので、そこから始める必要がある。この課題については、むしろ情報の十分な提供と、人々が抱えている疑問

への適切な対応を繰り返すことが大切だろう。一方で、最終的には、ある特定の地域での施設立地問題になるので、情報提供ベースで事業が進むとは思えない。地層処分の実施に向けて、解決すべき数多くの社会的課題群を洗い出し、それぞれがどのようなステークホルダーが対象になり、どのような枠組みで対応するのかを整理しておく必要があるだろう。

- 情報項目について11問すべてを「聞いたことがある」と回答しているグループを見ると、「地層処分の安全確保は可能」だが、「大きな事故が起こるかもしれない」と思う人たちが存在している。これは現在の技術では難しいと思っていることを表している可能性があるのではないかと。11問すべてを「聞いたことがある」と回答したグループにおいて、「私たちの世代では考えなくてもよい」という回答が比較的多いことも整合的である。
- 情報保有量が多い人でも「大きな事故が起きないか心配」と回答している人は多い。事業者は地層処分についてよく分かっているので、大丈夫だと思っているかもしれないが、国民一般は、上の人が思っている以上に地層処分のことをよく分かっておらず、不安を抱いている人が多いのではないかと。
- 「現世代で処分しなければいけない」のポイントが意外と高いことに驚いた。
- 情報保有量が増えれば増えるほど、「現世代で処分」することが難しい、という考え方になっていくだろう。訴求方法には注意が必要である。
- 「現世代で処分しなければならない」という考え方は、放射性廃棄物の処分を生活ごみの延長で考えているような気がして、違和感がある。
- 来年度は、「NIMBYを越えるため」の示唆が得られるような調査票を設計してはどうか。
- 地層処分事業には時間がかかるので、「自分たちの世代で処分する」ことは無理だと思う。
- 「10万年後の話は想像できない」と思う人がいるのは仕方がない。
- 「地中深くに埋めることに反対」と答えている人が意外と多くて驚いた。今ある方法の中では地層処分がベストなのだから、それを認知させることが大切だと思う。
- この結果は、原子力のリスクへの理解度を表しているのではないかと。私は、原子力がどのくらいのリスクを持っているかがよく分からないので、心配である。
- 「私たちの世代で処分しなければならない」「原発の利用・廃止に関わらず処分に取り組みなければならない」という壮大な目標に対しては一定の回答があるにも関わらず、問5の「科学的特性マップ」の認知度は低い。地層処分を進めるために具体的な行動（例えば、自分で調べる）を起こす人は少ないということだろう。

③ 情報保有量

今年度調査から、情報保有量を測定する項目は大きく変わった。エネルギー環境分野・原子力分野・放射線・放射能分野の三つに分割し、それぞれを測定する方針としたが、特に原子力分野についての情報量が少ないことを指摘する意見があった。

情報量が少ない人々にどのように情報を届ければよいのか、という話題も大きく語られた。「原子力に関する情報量が絶対的に少ない。新聞ではある程度、出てくるが、テレビではほとんど出てこない。自分から求めようとしないと情報が入ってこない」「センセーショナルな情報は伝わりやすいが、受け手が偏った考え方をしてしまうおそれがある」「国民全体の認知度をしっかり把握し、基本的な情報を提供するのがいいのではないかと」など、コンテンツやメディアについての意見が述べられた。

また、マスメディア業界からは、「テレビは瞬間的に強く報道してインパクトを与える伝え方をする。新聞は、こつこつと持続的に報道する傾向にある」と、メディアの差異についての言及がなされた。

「原子力・放射線・エネルギーの知識に関する調査結果を見て得られた主な意見」

原子力・放射線・エネルギー分野への関心

- 分かりやすい質問に対する回答が多い。ニュースで露出が多い項目のポイントが高い。
- 世代別・性別で、関心の傾向がどのように違うのか興味がある。
- 学生や女性の関心を高めることが課題と考えている。特にイベントなどに参加すると、男性の参加者が多く、女性の関心が低い感触がある。
- 「原子力発電の安全性」は、3.11前後でポイントが思ったよりも変化していない。
- 「原子力発電の安全性」は、3.11以降ポイントが上がっていない。私も世論調査を実施したことがあるが、聞き方ひとつで結果は大きく変わってくる。どのような聞き方をすると、このようなトレンドになるのかは興味深い。
- まともに動いている原子力発電所は少なく、また、動かなくても電気が足りており、再生可能エネルギーが増えている現状では、原子力への関心が低下するのは仕方がない面もあるだろう。
- 人々は、限られたお金をやりくりして生活している。電気代は生活に密接しているにも関わらず、「発電コスト」に興味がない人が多い。興味がないというよりも、伝えが足りないのかもしれない。⇒「コスト」ではなく、「電気代」という表現に変えると、結果が変わってくるかもしれない。
- 単に「発電コスト」と言うだけではなく、電気料金の請求書にどのように当てはまっていくのかを示すと、人々の意識も変わってくるのかもしれない。（請求書に掲載されている「再生可能エネルギー発電賦課金」の項目は、あまり見られていないのではないか）
- 「地球温暖化」に対する関心が、震災以前のほうが高いのは興味深い。鳩山政権が2009年の衆議院総選挙で打ち出した「2020年までにCO₂を1990年比25%削減」という公約が人々の関心を強く喚起していたのかもしれない。
- エネルギーは非常に大きい問題なので、資源エネルギー庁の審議会だけでは足りないと思う。この調査の結果を見ると、国民の多くは「どちらともいえない」「わからない」に丸を付けているので、国民全員に聞くのが正しいとは限らないが、少なくとも、国民に選ばれた国会議員は本気で議論していくべきではないか。また、開かれた場で本気で議論をすれば、マスコミの報道量も増え、国民の関心も高まるのではないか。その際は、海外事例も参考にすべきだ。賛成・反対両方の立場の議員がいるだろうから、偏った情報があればその場で正されるだろう。その議論を通じて日本の現状を測り、今後を考えていく必要があるだろう。

エネルギー・環境分野に関する知識

- 原発が動いていたときは、エネルギー自給率に関する認識はどうだったのか？ ⇒当時はエネルギー自給率が15%程度だった。ただ、この質問項目を設置したのは2013年12月調査からなので、震災以前のデータはない。
- 認知度に男女差はあるのか？ ⇒基本的にどの項目も男性のほうがポイントが高い。ただし、「電力自由化」については、男女のポイントが拮抗している。
- 受験で出題される項目はよく覚えている。学校で教えていけば伝わるというわけではなく、本人が本気で学ぶ機会がないと、知識として身につかないのかもしれない。
- 「エネルギー資源の埋蔵量には限りがある」「再生可能エネルギーには太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなどがある」については、教科書にも載っているし、教えている。

原子力分野に関する知識

- 11個項目があるが、それぞれの難易度は異なる。「原発を利用すると放射能を持った廃棄物が発生する」ことを知っている人は多いが、「科学的特性マップ」のニュースを見逃した人は多いようだ。
- 「どの項目も説明できない」の割合が非常に高い。この層に対してはたらしかけをしていかないと、認知度は上がっていかないだろう。なぜ説明できないのか、その理由が分析できるように質問票を

設計してはどうか。

- 原子力に関する情報量が絶対的に少ない。新聞ではある程度出てくるが、テレビではほとんど出てこない。自分から求めようとしないと情報が入ってこない。
- 原子力の情報保有量がない層は、関心がないということだろう。
- 私は、原子力については、まったく知識がないのだが、問5の項目の中では、「原発を利用すると、放射能を持った廃棄物が発生する」しか知らなかった。
- この結果を見ると、知識をそれなりに持っている層（≒関心の高い層）は、全体の4割程度だといえる。関心のない層にいかにか訴求していくかは非常に難しい問題だ。
- 情報保有量が少ない人たちにも伝わる情報が何かあればよい。センセーショナルな情報は伝わりやすいが、受け手が偏った考え方をしてしまうおそれがある。
- 情報保有量がない人が、1200人中273人いるが、本当にそうなのだろうか、と思う。学校の社会科の授業等で原子力発電の概要は習う。1つも知らないというのは、反原発の意思の表れなのではないか。⇒情報保有量と原子力利用に対する態度のクロス集計を見ると、「即時廃止」層は、知識を多く有している場合が多い。⇒30代以降になると、学校で何かを習う機会はほとんどなくなる。学校の授業で習ったことも、20年、30年と時間が経つと忘れてしまうのかもしれない。
- 国民全体の認知度をしっかり把握し、基本的な情報を提供するのがいいのではないか。⇒関心が低い層の意識づけに効果的なのは政治である。欧州などでは、政治家がエネルギー政策を打ち出し、市民がそれに関心を持ち、市民の意識が形成されていく、という順番で物事が進んでいる。日本の現政権は、エネルギー関係にほとんどタッチしていない。
- 「科学的特性マップ」の認知度は今後どう変化すると想定できるのか？⇒現状では、原子力やエネルギーに関する情報はマスメディア経由で伝わるということがほとんどであることを考えれば、マスメディアがどのように科学的特性マップを扱うかによるかもしれない。ほとんど扱われなければ、人々の知るところとはならないだろう。
- 「科学的特性マップ」は公表されたばかりなので、認知度が低いのは仕方がない面もあるだろう。NUMOの不祥事報道があったので、今調査をすれば、もう少しポイントが高くなるかもしれない。
- 「科学的特性マップ」は、公表の仕方が地味だったのではないか。ホームページで公表しただけで、メディアもあまり反応しなかった。発表日が具体的に定まっていたわけでもなかった（7月中というだけだった）。
- 「科学的特性マップ」への関心を喚起する方策としては、「わが町に来たらどうか」と呼びかけることだろうか。
- 原子力発電をどうするべきか、再生可能エネルギーをどうするべきかという問題は、日本の中だけで考えていると詰まってしまう。海外の状況を知るべきだが、調査結果を見ると、海外の状況を知っている人は少ないようだ。
- 海外の原子力事情を積極的に捉えたニュースは少ない。結果的に、東芝の原子力事業の巨額損失など、うまくいっていない事例が紹介されがちなのだろう。ニュースになりやすい事柄がニュースになって、それが広く知られているというのが現状なのかもしれない。
- 「ドイツは廃止方針」という情報は大々的に報道されているが、フランス、イギリス、アメリカなどの状況はあまり報道されていないので、このような結果になるのは仕方がないのではないか。
- 私は、フランス、イギリス、アメリカの原子力事情については、新聞でもよく見る。
- ドイツは、国内の原発は廃止するが、フランスの原発で作られた電気を輸入しているので、原発を利用していると言ってもいいのではないか。そういう意味では、ドイツが「廃止方針」と言っているのは卑怯な側面もあると思う。EUでは電気の輸出入が行われているという状況まで含めて、情報を伝えていくべきだ。
- 人間は、自分にとって都合のいい情報を集める傾向にあるのではないか。「廃止方針」は、多くの人にとって好ましい情報なのだろう（原発の増加や維持はあまり好ましく思われていないのだろう）。

- 日本政府は、原子力を推進したいのか、反対したいのか、どちらなのかよく分からない。福島事故があったので、「推進したい」という情報は発信しにくくなっているのかもしれない。その結果、「ドイツは廃止方針」など、原子力に対して慎重な態度の情報が多く流れるようになっているのではないか。
- 「ウランの核分裂で発生した熱で水蒸気を作り、タービンを回して発電している」は、教科書にも載っているので、説明している。原子力の使いやすさ（少量でも大量の電気が生み出せる）、使いにくさ（急には止められない）、ごみが発生することなども併せて教えている。
- 海外の原子力事情は、教師でも知らない人が多いのではないか。
- 「ドイツ・スイスは廃止方針」「フランス・イギリス・アメリカは主要電源として維持」「中国・インド・ロシアは増大方針」「使用済み燃料から回収したプルトニウムは再利用されている」「使用済み燃料を再処理する過程でHLWが発生」は、理科では扱っていない。廃棄物処分については、社会科では扱っているかもしれない。

放射線分野に関する知識

- シーベルト、ベクレルなどの単位は、学ぶ機会が多かったのだろう。
- 「常に自然放射線を受けている」は授業でも教えているので、中学生でも聞いたことがあると答えるのではないか。
- 私が担当するときには、問6の項目はだいたい生徒に教えている。

テレビ報道

- テレビは瞬間的に強く報道してインパクトを与える伝え方をする。新聞は、こつこつと持続的に報道する傾向にある。マスメディアの伝え方が人々の認知度に影響を与えることも多いだろう。
- 科学的特性マップについては、我々マスメディア側も精いっぱい報道したつもりではあるが、財布をやりくりして必死に日常生活を送っている人々は、ニュースを見てもスルーしてしまっている可能性が高い。再処理工場の稼働ものびのびになっている中で、さらにその先の高レベル放射性廃棄物処分まで関心を持ってもらうのは難しい。

④ 広報・広聴・教育

広報・広聴すべきコンテンツとして、「(原発のリスクや安全性だけでなく、)ベネフィットがなければ当然物事は進まないの、その辺りも含めてフラットに伝えられる雰囲気醸成されることが望ましい」といったような、原子力発電に関わる周辺情報も同時に得られるような工夫が必要という指摘があった。また、「単に「危ない」と言うだけの抽象的な情報ではなく、個々人の判断材料となるような具体的な数値がほしい」「賛成・反対は主張せず、今、日本はどのような状況なのか、俯瞰的に分かりやすく」というような、コンテンツの有すべき性質に関する意見も聞かれた。基本的には、「両論併記・具体的・わかりやすく」を心がける必要がある。

「自分事にする工夫が必要だろう」ということから、例えば、「男女ともに関心の高い「電気料金」など、日常生活に結びついた部分から訴求してはどうか」という提案もなされた。

今年度のインタビューでは、情報を伝えるメディアとして、インターネットに関する意見が多く聞かれた。「原子力に対する関心が低下しているので、インターネットで調べる（自発的に調べる）というところまでたどり着かないことが多いのではないか。特に、高齢者にとって、インターネット検索は敷居が高い」「インターネット検索は、高齢層に限らず、若

年層でも敷居が高いのではないか」という意見に見られるように、関心の低い人々がインターネットで検索するという行動は取りにくいだろうことが指摘された。

若年層からは、SNS による情報収集について、「私は、最近ではツイッターで情報を収集していることが多い。SNS のほうが、見出しが分かりやすく、短文で情報が書かれている。インターネットで情報を検索する機会は減った」という指摘もあった。SNS の中でも、ツイッターは、自ら情報を探すというよりは、ツイートとして流れている情報から気になるものを拾い上げる、という利用をされているようだ。

ただし、SNS の利用については、「SNS で発信されているのは、「誰かの考え（二次情報）」である。一次情報に触れず、「この人がこういうことを言っているから」ということで、自分の考えを持たずに意見を持ってしまう人が増えているように感じる。インパクトを持った発信の影響を受けている人が多いように思う」というように、一次情報までさかのぼって意見形成する機会が減ることを危惧する声もある。さらには、「「家族・友人・知人との会話」のポイントが減っているようだが、近年は、直接会話の機会が減り、SNS でのコミュニケーションが増えているのではないかと、SNS が直接対話の減少要因になっていることを懸念する声もあった。

メディアを通じての情報提供よりも、「皆が関心を持つイベントを開き、その一部に原子力を入れ込んでいく、などのアプローチが必要」「多くの人が見ている媒体に情報を載せればよい、と考えるよりも、リアルな体験（見学会など）をしてもらったほうが、効果が大きいのではないかと」という指摘もあり、原子力やエネルギーに関する低関心化の流れの中では、受動的な情報獲得にならざるを得ないメディアに頼るよりは、マスとしての広がりはないが、高密度な情報獲得のイベントを考えることの重要性が指摘された。

そして、「見学会を開くにしても、ただ施設を見て、お弁当を食べて帰るだけではなく、撮っていい範囲で写真を撮ってもらってコンテストを開くなど、参加者が楽しめるイベントを開いて、少しでも関心を高めていく努力が必要」と、参加する機会をしっかりとらえ、関心喚起に最大限つなげる工夫をすることの必要性が述べられている。

教育業界からは、「エネルギー問題に高い関心（不安）を持っている生徒は多いので、授業でも多く取り上げるようにしている」一方で、「原子力は、発電方法のひとつとして紹介されているが、詳しい説明はしていない」という、現場の状況が語られた。教育の現場ではアクティブラーニングが浸透してきており、生徒に手を動かしてもらうような実習が増えているのだが、「数年前までは、「はかるくん」の無料貸し出しを行っていたので、自然放射線を実際に測った人も多かったのではないかと。また、霧箱の無料貸し出しもあった。無料貸し出しが終わったので、学校現場では放射線教育が下火になっている」といった意見も聞かれ、教育全体の方向性と放射線教育への支援の方向性が食い違っていることに対する意見も聞かれた。

学校現場ならではの意見も聞かれた。例えば、「中学生は、そもそもニュースに興味を示さないことが多い。低学年だと、YouTube しか見ないという生徒も多い。3 年生になると、

公立高校が時事問題を扱うこともあるので、ニュースを見始めるようだ」というように、世論調査対象外の情報獲得行動について言及がなされたり、「学校だと、「見学会」は敷居が高い。金銭的支援がなければ、かなり早めから準備が必要になる」「出前授業の機会はあるが、単発で、時間も限られているので、できることも限られている。新しい知識を得る機会にはなるが、お互いに話し合っただけで知識を深める機会にはなかなかない」など、学校現場特有の事情によって、エネルギー・原子力業界が準備するイベントへの参加の敷居が高いことなどが語られた。

「広報・広聴・教育に関する調査結果を見て得られた主な意見」

情報獲得行動

- 人々が積極的に情報を入手しにしているのか、受動的に受け取っているだけなのか、が分析できるようにしていただけるとありがたい（例えば、関心の高い人はこういうメディアから積極的に情報を取っている、高齢層は認知度が高いがワイドショーで受動的に聞いている、など）。
- 情報源の選び方は、人のキャラクターによって変わってくるのではないかと（情報を自ら得ようとする人、人任せにする人など）。今は、マスメディア情報への信頼も失墜し、何も信じられないような状況になっている。一般的な方法をとるというよりも、個別・個別のアプローチが必要なかもしれない。
- 知識があれば、数値を見て、危険かそうでないかを判断できるが、知識がないと、マスメディアの出す報道に流されてしまう。それで本当に正しい方向に進めるのかどうか疑問に思う。今の日本人は、マスメディアに頼り切っており、自己判断をしなくなっているのかもしれない。
- 「原子力関係者」の信頼は思っていたよりも高かった。
- 原子力を進めようとしている人が「専門家」や「原子力関係者」の情報を信頼するのは、当然のことだと思う。
- 「評論家」は、考え方にバイアスがかかっているにも関わらず、弁が立つので、いい意味でも悪い意味でも影響が大きいだろう。
- 身近な人と話をすると、原子力に賛成か、反対か、という時点で話が止まってしまうことが多い。
- 電力自由化は、原子力について議論するチャンスだったと思う。例えば、「原子力を廃止してほしいから、なるべく自然エネルギーを利用している会社を選びたい」などの会話ができればよかったのだが、結局、電気料金が安いのか高いのか、という話に留まってしまっている。
- 「原子力に関するイベントに出た」と周りに話すと、「推進派になったのか」と聞かれ、それ以上の議論にならないのが現状である。
- 目に触れる機会を増やすことは大切なので、この間でポイントの高いメディアに情報を掲載していくことも大切だと思う。テレビや新聞は多くの人に大きなインパクトを与えるし、SNS やスマホのアプリは若い世代の目に多く触れる。
- 中学生は、専門的な内容が載っている本はほとんど読まない。「専門家」と接する機会はほぼないと言えるだろう。家族がテレビなどで仕入れた情報を話しているのを聞くことが多くなるのだろう。
- 10代の「教師」のポイントが高いのは、普段学校の授業で聞いているからだと思う。
- 自分から一次情報を探していく生徒は少ない。誰かからの伝聞がほとんどで、しかも、1か所から聞いたならそれで満足することが多い。（医療におけるセカンド・オピニオンが普及してくれば、また違うのかもしれないが）放射線と言えば、国の基準と国際基準とでは、国の基準のほうが厳しいということは、ほとんどの生徒は知らないと思う。
- 私は、「見学会」に参加して、情報を得たいと思っている。
- 過去の調査結果から、「原子力関係者」が「インターネット」で情報を発信すべき、との意見も多

いのだが、今年の結果を見ると、「事業者のHP」はポイントが低い。「インターネット」の中では、「検索サイトのニュース」「スマホのニュースアプリ」のポイントが高く、結局は、マスメディア経由の情報源しか使われていない。

広報・広聴のターゲット

- イベントに「参加しにくい」という理由で、参加者が少ないのが最大の課題だろう。
- 原子力メインの情報・イベントを提供しても、関心を持たない人がほとんどだろう。皆が関心を持つイベントを開き、その一部に原子力を入れ込んでいく、などのアプローチが必要だろう。
- 「原子力関係者」のポイントが高めだが、「利用層で強い」という点が気になった。知りたい情報を聞きに行く、という傾向が表れているのだろう。
- 国は、あらゆる分野に広報予算をばらまいてはいるが、全体としての広報戦略がなく、国が責任を取らない体制になっている。
- 学祭でサイエンスカフェを開き、原子力について議論する場を作ったことがある。そのような場では、原子力に関する議論が成立していた。（ただし、大学の学部が主催している特別な場であったことは注意が必要だとは思う）
- 情報を自発的に入手している場合と、受動的に受け取っている場合とは、区別したほうがいいのではないか。調査結果を見ると、多くの人は原子力に関する情報を受動的に入手しているのだと思う。
- 原子力に関する情報を広く伝える方法としては、受動的に情報が入っていくようにどうにかしてSNS等のトレンドに載るようにするか、非常に強く関心を持ってもらって自発的に調べてもらうか、が考えられるだろう。私はかなり関心を持っているほうだが、それでも原子力について自発的には検索しないので、後者の方法はかなり難しいと思う。
- 一定程度の知識レベルがないと、社会的な出来事に関心を持たないし、意見も持たないのかもしれない。
- 中学生は、そもそもニュースに興味を示さないことが多い。低学年だと、YouTubeしか見ないという生徒も多い。3年生になると、公立高校が時事問題を扱うこともあるので、ニュースを見始めるようだ。見出しに大きな記事があれば、彼らの印象に残るかもしれない。

コンテンツ

- 英語のレポートはなかなか伝わらないので、「原子力関係者」や「専門家」が、日本語の平易なレポートを作成し、広報に活用すべきではないか。
- 原子力の安全性の話はしにくいので、メリット側の話をしたほうがいだろう。
- 「トイレなきマンション」はかなり普及してしまった言葉である。地層処分に関する広報も、単に「現世代で処分しなければならない」ではなく、もっとよい表現を考えるべきだ。（ただし、正確に伝えるのは非常に難しい、という面もある）。
- 原子力に関しては、従来と同じ言葉、方法では、いいイメージになっていかないだろう。新しい言葉で情報を伝え、判断を促していくべきだろう。
- 私は「スマホのニュースアプリ」をよく見るが、夜には朝に読んだ内容を忘れてしまう。新聞を読んでいる人も、同じように、関心のない情報はすぐに忘れてしまうのではないか。多くの人が見ている媒体に情報を載せればよい、と考えるよりも、リアルな体験（見学会など）をしてもらったほうが、効果が大きいのではないか。
- はじめから耳をふさいで関心を持たない層にどうはたらきかけるか、が大切だ。例えば、見学会を開くにしても、ただ施設を見て、お弁当を食べて帰るだけではなく、撮っていい範囲で写真を撮ってもらってコンテストを開くなど、参加者が楽しめるイベントを開いて、少しでも関心を高めていく努力が必要なのではないか。
- 結果を見ると、やはり「施設見学会」や「勉強会」のハードルは高いのだと思う。
- 男女ともに関心の高い「電気料金」など、日常生活に結びついた部分から訴求してはどうか。例え

ば、実は再生可能エネルギーに高いお金を払っている、LNGを輸入するために日本は追加で数兆円払っている、など。ただ、うまく伝えないと逆効果になるかもしれない。

- 電力自由化について、全体のメリット・デメリットをリベラルに公平に情報発信してほしい。
- 原発推進・反対とはかかわりのない中立なデータである、という信頼を失うと、そのデータは信頼性を失ってしまう。本調査は、推進・反対に関係のないデータなので、非常に良いデータである。また、事実を淡々と伝えることが大切だ。
- 日本では原発の安全性の議論ばかりなされているが、原発には当然ベネフィットがあり、立地自治体への手当ても厚い。もんじゅの廃炉が決まった際は、ナトリウムが用いられている炉の廃炉が安全にできるのかという議論が強かったが、地元の本音は雇用問題ではないか。お金に関する事実を伝え、日本ではなぜか札束で頬を叩いたと言われる。一方で、海外では、交付金がなく経済効果だけで立地が決まっている事例もある。そういう事実も含めてしっかり伝えていくべきだ。ベネフィットがなければ当然物事は進まない、その辺りも含めてフラットに伝えられる雰囲気醸成されることが望ましい。
- フラットな視点で発信されている情報はどれなのか、疑問に思っている。ニュースのキャスターは、事実に加え、自身の考えも伝えている（時間がない場合は、一次情報は伝えず、判断結果しか伝えない場合もある）。私個人としては、事実のみを羅列してほしい（その事実をどう受け止めるかは、こちらに任せてほしい）。
- 例えば、原発の安全性について伝える際は、建物の耐久性などを数値で伝えてほしい。単に「危ない」と言うだけの抽象的な情報ではなく、個々人の判断材料となるような具体的な数値がほしい。
- 対立意見まで含めて、網羅的に情報を掲載してくれるポータルサイトがあればありがたい。（理想は、一次情報のみが載っているサイト。片方の色がついているサイトだと、生徒に活用を呼びかけるのも躊躇してしまう）
- 簡単な動きのある画像（例えば、発電所で蒸気がどのように動いて、タービンがどのように回って、発電されているのかが、動きのある矢印で示されている図）などが載っているウェブサイトがあると、生徒たちも理解しやすいと思う。
- 自分事にする工夫が必要だろう。科学的特性マップも、ただ地図を公表するだけでは、「色のついている日本地図」としか受け取られない。例えば、自分の住んでいる町の名前を入力すると、「あなたの町は緑色です」と返ってくる、というような工夫をすれば、「緑色って何だろう？」と興味を持って中身を見る人も増えるのではないか。
- 若い世代が好むタレントを活用し、地層処分についても、「ハタチの献血」のようなキャンペーンを打ってはどうか。
- 冊子・勉強会の機会などは、いろいろな場所で公開してほしい。
- パンフレットも、配るだけでなく、インターネットで PDF を配布するなど、オープンにほしい。例えば、福島県もいろいろなパンフレットを作っているが、フォーラムなどに行かないと、パンフレットを入手する機会がない。教育現場にはそういったパンフレットがなかなか届かないのが現状である。

テレビ・新聞

- テレビのニュース番組は使える時間が短いので、事実のみを伝えることが多い（本来は、その意味までも伝えなければいけないとは思うが）。新聞の社説は、スペースを十分に使うことができるので、事実に加え、各社の主張も加わってくる。
- ニュース番組のコメンテーターは、中立、もしくはやや左に寄っている人を選ぶことが多い。人は、何かよく分からない問題（絶対に安心とは言えない問題）に対しては、本能的に不安な気持ちを抱くことが多い。肯定側だけのコメンテーターで番組を構成するのは難しい。最低でも真ん中、少し左寄りのコメンテーターを選ぶことで、メディア側としても安全をとることが多い。
- 「即時廃止」層の中には、論理的な判断をしている方と、是が非でも廃止したいと考えている人が

いるようだ。我々メディア側は、全ての人を対象に報道をしているが、理論的な内容の報道は理論的に判断する人に届く、という側面があるのはやむを得ないのかもしれない。

- テレビの情報番組のコメンテーターとして、資源エネルギー庁の方に出演してもらってはどうか。仮に番組が炎上してしまったとしても、本気で戦っている場面を見せるのには一定の効果があるのではないか。
- 池上彰氏のように、賛成・反対は主張せず、今、日本はどのような状況なのか、俯瞰的に分かりやすく説明できる人を活用してはどうか。
- メディア経由で見学会レベルの情報が入手できればいいのだが、難しいだろう。
- 私は見学会に行ったことがあるのだが、そこで感じたことと、メディア経由で伝わってくる情報とはズレを感じる。見学会に行ったことがない方は、メディアからの情報のみで（いろいろな情報が抜け落ちた状態で）物事を判断することになる。

インターネット

- 「スマートフォンのニュースアプリ」「検索サイトのニュース」の情報源はどこなのか？ ⇒共同通信社の情報を基に作成していることが多いようだ。（新聞は、共同通信社の情報を基に、独自の色をつけたり、独自に取材をして記事を作成している）
- 「検索サイトのニュース」は、何か1つ記事を見ると、関連した記事が表示される。閲覧者がそれらの記事を取捨選択し、読んでいくことで、見る情報に色がついていくのだと思う。
- 新聞は、新聞社を選んだ時点で情報に色がつく。グーグル等の検索サイトで何かを調べたときに、検索結果がどのような順番で並んでいるのかは気になる。
- 閲覧数が多いサイトが上位に並ぶのではないか。
- インパクトの強い言葉が使われているページが上位に並ぶのではないか。
- インターネットの情報をどこまで信頼していいのか、という問題があるだろう。
- 原子力に対する関心が低下しているので、インターネットで調べる（自発的に調べる）というところまでたどり着かないことが多いのではないか。特に、高齢者にとって、インターネット検索は敷居が高い。
- インターネット検索は、高齢層に限らず、若年層でも敷居が高いのではないか。私は、最近ではツイッターで情報を収集していることが多い。SNSのほうが、見出しが分かりやすく、短文で情報が書かれている。インターネットで情報を検索する機会は減った。
- 周りには、「原子力に関心はないが、原発利用は反対」という意見の方が多い。そういった方々は、自発的にインターネットで調べることはないだろう。また、自分の考えに近い情報しか入手しないのではないか。
- SNSで発信されているのは、「誰かの考え（二次情報）」である。一次情報に触れず、「この人がこういうことを言っているから」ということで、自分の考えを持たずに意見を持ってしまう人が増えていくように感じる。インパクトを持った発信の影響を受けている人が多いように思う。
- インターネットの見学会も、個々のポイントは低いですが、合計すると「見学会」に匹敵するポイントになる。だとすれば、コストのかかる見学会よりも、インターネット等の広報に予算を投入したほうがいいのではないか。

直接対話

- 「家族・友人・知人との会話」のポイントが減っているようだが、近年は、直接会話の機会が減り、SNSでのコミュニケーションが増えているのではないか。
- 震災から時間が経って、原子力に対する関心が低下していると思う。そのため、友人・知人と原子力に関する会話をしにくくなっている。マスメディアで取り扱われることも少なくなっている。
- 身近な人と社会的な話をする機会はあまりない（関心を持つ人が少ない）。また、周りにどんな目があるか分からないから、あまり社会的な発言をしないように注意はしている。自分の意見を発信

しづらい世の中になっているのかもしれない。

教育

- 中学校では、まず、エネルギーの概念を教えるところから始める。力学的エネルギーを扱うことが多い（電気エネルギーなどは計算がしにくいいため）。また、数値を見たときに、それがどのくらいの大きさなのかイメージできない生徒が多い。
- 数字が出てくると途端に理解しにくくなる生徒は多い。分数と小数では、小数のほうがイメージをつかみにくい生徒のほうが多いようだ。インパクトのある伝え方をするとよく伝わるので、教師側も注意している。（例えば、「10%しかない」と「1割しかない」だと、「1割」のほうがインパクトが強いようだ）
- エネルギー問題に高い関心（不安）を持っている生徒は多いので、授業でも多く取り上げるようにしている。
- 自然エネルギーのメリット・デメリットも教えるようにしている。例えば、「風力発電の巨大な羽が秒速何メートルで回っている下に住みたいか」などと問いかけることもある。
- 理科の教科書の最後の単元に、発電方法と放射線の項目がある。
- 原子力や放射線は、そこまで多く扱っているわけではない。3年生の最後の単元の中にエネルギー利用の課題があり、その中に、原子力と放射線が含まれている。受験シーズンなので、生徒がいない中で授業が進むこともある。
- 原子力は、発電方法のひとつとして紹介されているが、詳しい説明はしていない。
- 原子力発電については、学校教育ではあまり教えていない。
- 放射線は、教科書では4ページ程度が割かれている。担当する教師によって、どの程度教えるかは異なっている。詳しく防護原則や半減期まで説明する場合もあれば、教科書通りの内容をさらりと流すだけの場合もある。
- 放射線利用、放射線の性質などは、比較的教える機会が増えている。文部科学省が発行した放射線の副読本を活用する機会も増えている。
- 放射線は、原爆に結びつけてイメージして、危険なものだと捉えている生徒が多いので、放射線利用などについても教えるようにしている。
- 私自身もそれほど詳しくないので、授業は、教科書に載っている事柄に加え、チェルノブイリ原発事故、福島第一原発事故を紹介する程度に留まっている。
- 数年前までは、「はかるくん」の無料貸し出しを行っていたので、自然放射線を実際に測った人も多かったのではないかと。また、霧箱の無料貸し出しもあった。無料貸し出しが終わったので、学校現場では放射線教育が下火になっている。実体験をさせたほうが良いと思う。
- ドライアイスを用意するにも手間がかかる。手軽に扱える器具として、水冷式の霧箱も紹介している。
- 例えば、「はかるくん」を借りて学校敷地内を測ると、中には線量が高い場所もある。それが自分の教室の近くだと嫌がる生徒もいるし、いじめにつながるおそれもあるので、自然のものなので振れ幅はあるということを丁寧に伝え、慎重に対応しなければならない。それができないと、体験させればさせるほど逆効果になってしまうという問題もある。今後、教師の世代交代が進んでいくと、その対応が難しくなるかもしれない。（40代より若い世代は、中学生のときに放射線について学んでいない。また、原子力が導入されてきたことを知っている世代と、原子力があるのが当たり前世代とでは、感じ方、教え方も変わってくると思う。）
- 「放射線から身を守るには、離れる、時間を短くする、遮る」については、線源からの距離に応じて線量がどのように変化するかを実験して、グラフを書いて、距離が離れるほど線量が落ちることを教えている。また、学習キットでは、鉛を使って遮蔽すると線量が激減することも実測（体験）できる。
- 文部科学省は、近年、アクティブラーニングを推奨してきた。活動の中で何かを学ぶという姿勢は、

- どんな物事にでも適応できるわけではないが、使えるところでは使っているつもりである。
- 総合的な学習の時間もあるが、オリンピック・パラリンピック関係や伝統芸能に関する学習に時間を割かれているので、エネルギーについては、理科の単元が中心になる。
 - 総合学習の時間の集団討論（都立受験の形式のひとつ）や、理科の授業のグループディスカッションを見ていると、生徒たちは、地球温暖化、原発問題などに高い関心を持っている様子が伺える。生徒の関心対象はこの調査結果と似ており、どの世代でも同じような事柄に関心を持つのだなと思った。
 - 授業では、タブレットも活用している。生徒たちは、温暖化が進んでいること自体は知っているが、どのくらいの割合で二酸化炭素が増えているか、二酸化炭素にどのような効果があるのか、などは知らない。そのときに、全部こちらが教えるだけではなく、生徒たちにも調べさせるようにしている。
 - ただ教科書の内容を教えるだけでなく、本人が自分の言葉でアウトプットできるようにさせたいと思っている。例えば、発電の仕組みについて説明できるようにタブレットで調べてみなさい、という方法で授業を進めるときもある。
 - タブレットの導入数は、自治体によって異なる。本校では40台（1クラス分）導入されている。1人1台のときもあれば、グループワークさせるときもある。
 - タブレットの導入状況は学校によっても異なる。導入されていない学校もあるので、教師間での情報交換はあまり行われていない。
 - 授業では、例えば、豆電球の回路を作るが、そこで使われるエネルギーは日常生活で使われているエネルギーに比べて小さい。日常に結びつくような内容は、3年生の最後の単元で教えるが、受験であまり扱われないこともあり、多くの時間は割かれぬ。どうしても受験で出題される内容に重点が置かれる。
 - 理科の授業時間は、1年生は105時間、2・3年生は140時間ずつ。例えば、2年生は、電気、化学、気象、動物の4つの分野があり、ほぼ均等に時間を使うので、電気の35時間の中で、エネルギーについて教える時間を割り振ることになる。ただ、どうしても受験で出題される「オームの法則」などが中心になる（エネルギーについては、受験で出題されることが少ない）。
 - 私は、50分の授業時間のうち、20分は活動（生徒に話をさせる・実験など）の時間にあて、15分は知識の定着や新しい知識を与える時間、5分は問題演習や予備の時間、最後の10分は今教えている事柄について、日常生活に結びつく内容があれば伝えるようにしている。
 - 学習指導要領では、幅広い知識を得て、自分で物事を考えられる生徒に育てることが目標に掲げられている。それと受験で要求されることとは少しギャップがある。学習指導要領に則った授業をしようと取り組んでいるが、保護者の方は模擬試験の点数（受験対策）を気にする方もいらっしゃる。
 - 次の学習指導要領では、その物事が身近でどのように使われているのか、どのような利点・欠点があるのかまで併せて教えるような内容が検討されている。
 - 次の学習指導要領では、各教科で伸ばすべき能力が明記されている。中学では教科担任制を取っているので、担当する教員全員が指導要領を把握していなければ、個人の能力を正しく伸ばせない恐れがある。
 - エネルギー、原子力、放射線は、学校教育に取り入れたはずだが、「学校」のポイントが低い。
⇒10代ではポイントが高い（20代以降は学校で話を聞く機会がほとんどない）。
⇒教科書に徐々に載るようにはなってきたが、多くても3ページほどなのが現状である。また、教科書に載っていたとしても、校長、PTA、教師個人の考え方によって、教え方は変わってくる。
 - 「教師」の信頼が低い。 ⇒「教師」に対する「一般的な信頼」は高い。ただし、原子力に関する情報源としては信頼が低いのだろう。
 - 「学校」のポイントがもっと高くなればよいと思う。 ⇒10代・20代では、「学校」のポイントが高い。

- 近隣に、太陽光パネルを屋上に設置している小学校があるのだが、せっかくある設備を活用した教育がなされているのかどうか気になっている。
- 学校だと、「見学会」は敷居が高い。金銭的支援がなければ、かなり早めから準備が必要になる。例えば、見学会にバスが必要だとすると、保護者の方にバス代を支出してもらわなければならない、予算を前年度から検討しなければいけない。区が費用負担してくれるケースもあるが、区には税金の用途の公表義務があるので、例えば、原子力発電所の見学は申請がしにくい。
- 出前授業の機会はあるが、単発で、時間も限られているので、できることも限られている。新しい知識を得る機会にはなるが、お互いに話し合っただけで知識を深める機会にはなかなかならない（複数回の企画にならないと、なかなか難しい）。原子力は3年生で扱うのだが、教える時期は1月頃になる。受験期間に、外部の人が何回も出前授業に来るという環境は、生徒も落ち着かないのではないかと。受験が終わる3月は、通常の授業がほとんど終わっているため、授業の枠数を確保するのが難しくなる。
- 高校受験では「原子力」はほとんど出題されない。
- 当校には理科部はないが、取り組んでいる学校もある。ただ、原子力を扱うのは難しいようだ。科学技術館には相当数の「はかるくん」があるので、それを活用しているケースもあるようだ。

(3) インタビュー結果を踏まえた広聴・広報のあり方の検討

本節では、インタビュー調査結果を受けて、今後、どのような広聴・広報・コミュニケーションを行うべきかという観点から考察する。

原子力発電に対する態度に関しては、例年と異なり、原子力推進側の意見（増加すべき・震災前に戻すべき）が減少しつつある可能性がある、という結果について多くの意見が寄せられた。再稼働との関係で、電力需要に関する安易な思い込み（原子力発電がなくとも電力は特に問題なく供給できる）や、政治との兼ね合いを指摘する声も聴かれた。また、情報保有量に注目して、（知識を持つことによって）意見の変化が見られることに対する意見が得られた。

エネルギー源全体に対しては、再生可能エネルギーへの期待の高さと危うさを指摘する声が見られる。再生可能エネルギーによる発電量が増加している現状があると同時に、電気が安定的に供給されるには多くの調整が必要である事実が伝えられていない、さらには、もしそれが伝わったとしても、「電力会社がやってくれればよい」と他人事として捉えられてしまう可能性に対する危惧も見られる。

また、原子力発電については、「再生可能エネルギーの過大評価が、原子力の過小評価につながっているのかもしれない」といった声も聞かれた。原子力発電についてよく理解してほしいというよりは、再生可能エネルギーの現実について理解してほしいという意見が多いようだ。

今年度の調査では、リスク認知に関する項目の中でも、特に高レベル放射性廃棄物処分についての調査結果がまとまっていたことを受け、それについての意見も多く聞かれた。

処分場に対する不安に関して、「情報保有量が多い人でも「大きな事故が起きないか心配」と回答している人は多い。国民一般は、上の人が思っている以上に地層処分のことをよく分かっておらず、不安を抱いている人が多いのではないか」との意見があり、原子力業界とのリスク認知のギャップを指摘している。

また、処分に取り組むことは大切でも、地層処分については納得していないことについて、「今ある方法の中では地層処分がベストなのだから、それを認知させることが大切」という意見や「情報保有量が増えると、「地中深くに埋めることに賛成」のポイントが増える（「反対」のポイントも増えるが、「賛成」のほうが、ポイント増加率が高い）」との指摘もあり、現時点では、地層処分についての情報を^{かんよう}涵養することが大切との指摘が多い。

以上のような世論の動きを踏まえたうえで、広報・広聴すべきコンテンツとして、「（原発のリスクや安全性だけでなく、）ベネフィットがなければ当然物事は進まないで、その辺りも含めてフラットに伝えられる雰囲気^{ふんいき}が醸成されることが望ましい」といったような、原子力発電に関わる周辺情報も同時に得られるような工夫が必要という指摘があった。また、「単に「危ない」と言うだけの抽象的な情報ではなく、個人の判断材料となるような具体的な数値がほしい」「賛成・反対は主張せず、今、日本はどのような状況なのか、俯瞰的

に分かりやすく」というような、コンテンツの有すべき性質に関する意見も聞かれた。基本的には、「両論併記・具体的・わかりやすく」を心がける必要がある。「自分事にする工夫が必要だろう」ということから、例えば、「男女ともに関心の高い「電気料金」など、日常生活に結びついた部分から訴求してはどうか」という提案もなされた。

そして、情報を伝えるメディアとして、インターネットに関する意見が多く聞かれた。「原子力に対する関心が低下しているので、インターネットで調べる（自発的に調べる）というところまでたどり着かないことが多いのではないかと。特に、高齢者にとって、インターネット検索は敷居が高い」「インターネット検索は、高齢層に限らず、若年層でも敷居が高いのではないかと」という意見に見られるように、関心の低い人々がインターネットで検索するという行動は取りにくいだろうことが指摘された。

若年層からは、SNSによる情報収集について、「私は、最近ではツイッターで情報を収集していることが多い。SNSのほうが、見出しが分かりやすく、短文で情報が書かれている。インターネットで情報を検索する機会は減った」という指摘もあった。SNSの中でも、ツイッターは、自ら情報を探すというよりは、ツイートとして流れている情報から気になるものを拾い上げる、という利用をされているようだ。

ただし、SNSの利用については、「SNSで発信されているのは、「誰かの考え（二次情報）」である。一次情報に触れず、「この人がこういうことを言っているから」ということで、自分の考えを持たずに意見を持ってしまう人が増えているように感じる。インパクトを持った発信の影響を受けている人が多いように思う」というように、一次情報までさかのぼって意見形成する機会が減ることを危惧する声もある。さらには、「「家族・友人・知人との会話」のポイントが減っているようだが、近年は、直接会話の機会が減り、SNSでのコミュニケーションが増えているのではないかと」と、SNSが直接対話の減少要因になっていることを懸念する声もあった。

メディアを通じての情報提供よりも、「皆が関心を持つイベントを開き、その一部に原子力を入れ込んでいく、などのアプローチが必要」「多くの人が見ている媒体に情報を載せればよい、と考えるよりも、リアルな体験（見学会など）をしてもらったほうが、効果が大きいのではないかと」という指摘もあり、原子力やエネルギーに関する低関心化の流れの中では、受動的な情報獲得にならざるを得ないメディアに頼るよりは、マスとしての広がりはないが、高密度な情報獲得イベントを考えることの重要性が指摘された。

そして、「見学会を開くにしても、ただ施設を見て、お弁当を食べて帰るだけではなく、撮っていい範囲で写真を撮ってもらってコンテストを開くなど、参加者が楽しめるイベントを開いて、少しでも関心を高めていく努力が必要」と、参加する機会をしっかりとらえ、関心喚起に最大限つなげる工夫をすることの必要性が述べられている。

教育業界からは「エネルギー問題に高い関心（不安）を持っている生徒は多いので、授業でも多く取り上げるようにしている」一方で、「原子力は、発電方法のひとつとして紹介されているが、詳しい説明はしていない」という、現場の状況が語られた。教育の現場ではア

クティブラーニングが浸透してきており、生徒に手を動かしてもらうような実習が増えてきているのだが、「数年前までは、「はかるくん」の無料貸し出しを行っていたので、自然放射線を実際に測った人も多かったのではないかと。また、霧箱の無料貸し出しもあった。無料貸し出しが終わったので、学校現場では放射線教育が下火になっている」といった意見も聞かれ、教育全体の方向性と放射線教育への支援の方向性が食い違っていることに対する意見も聞かれた。

学校現場ならではの意見も聞かれた。例えば、「中学生は、そもそもニュースに興味を示さないことが多い。低学年だと、YouTube しか見ないという生徒も多い。3 年生になると、公立高校が時事問題を扱うこともあるので、ニュースを見始めるようだ」というように、世論調査対象外の情報獲得行動について言及がなされたり、「学校だと、「見学会」は敷居が高い。金銭的支援がなければ、かなり早めから準備が必要になる」「出前授業の機会はあるが、単発で、時間も限られているので、できることも限られている。新しい知識を得る機会にはなるが、お互いに話し合っただけで知識を深める機会にはなかなかない」など、学校現場特有の事情によって、エネルギー・原子力業界が準備するイベントへの参加の敷居が高いことなどが語られた。

以上を踏まえて、情報発信のあり方についての意見をまとめると、以下のようになる。

〔コンテンツ〕

原子力利用の意識減少が懸念されることから、原子力による発電以外の周近的なベネフィットについても総合的に発信するべきだという意見がある。一方、再生可能エネルギーに関する適切な情報発信を行うことによって、冷静な将来エネルギーに関する議論ができるのではないか、という指摘もある。どちらにせよ、基本的には、「両論併記・具体的・わかりやすく」を心がける必要がある。

〔広報・広聴のあり方〕

今年度は特に、インターネットの使い方についての有意義な言及がなされた。若年層を中心に、SNS の活用が大きく見られる。ただし、情報を積極的に獲得しようとしているというよりは、ツイッターなどを使い、受動的に情報を得る媒体として活用している一面を見ることができた。また、SNS 経由の情報獲得は、そのほとんどが二次情報であるため、発信者の意見が分離し難く混入していることの危惧にも対応する必要がある。

また、原子力やエネルギーに関する人々の低関心化が進む昨今では、マスに情報を発信する方法の限界が指摘されている。むしろ、関心層にターゲットを絞り込み、高密度で、効果的な情報を提供する機会を検討すべきであろう。

付録 A：インタビューによる情報提供内容

インタビュー時にインタビュー者が用いたパワーポイント資料と、提供した情報の概要を示す。

紹介する調査の概要

- **原子力に関する世論調査（2017年度）**
- 実施日：2017年10月4日～16日
- 方法：割り当て留め置き法
- 対象：全国15歳～79歳男女1200人
- 実施者：日本原子力文化財団
 - 委員会構成：（委員長）飯本武志（東京大）・遠藤博則（深川第八中）・川上和久（国際医療福祉大）・木村浩（PONPO）・高嶋隆太（東京理科大）

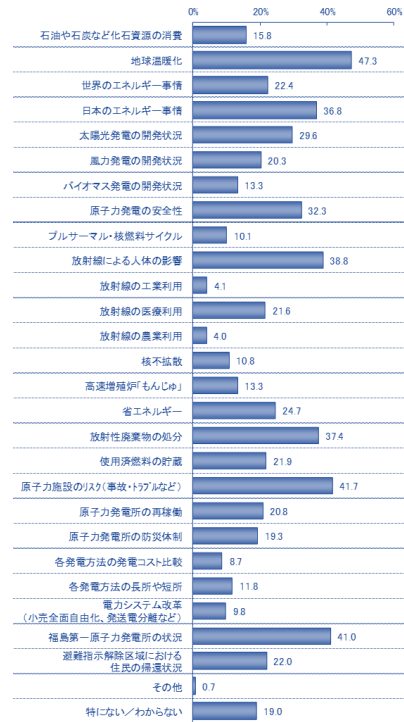
- **2018年3月から公開予定**

2

- ・ 2017年10月4日～16日に実施。
- ・ 割り当て留め置き法（信頼性の高い、一般的な方法）で実施。
- ・ 対象者は15～79歳男女1200人。
- ・ 原子力だけではなくて、オムニバス形式の調査の一部。「原子力については答えたくない」と忌避する人は減るのがメリット。質問量が増えるので、回答したがない人が増えるのがデメリット。

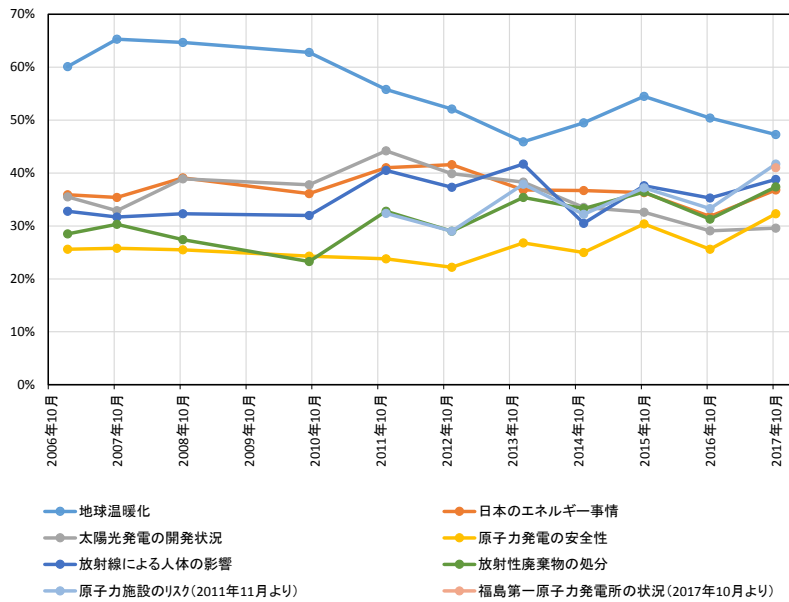
関心

- 地球温暖化
- 原子力施設のリスク
- 福島の状態
- 放射性廃棄物処分
- 放射線人体影響
- 日本のエネルギー事情
- 原子力発電の安全性



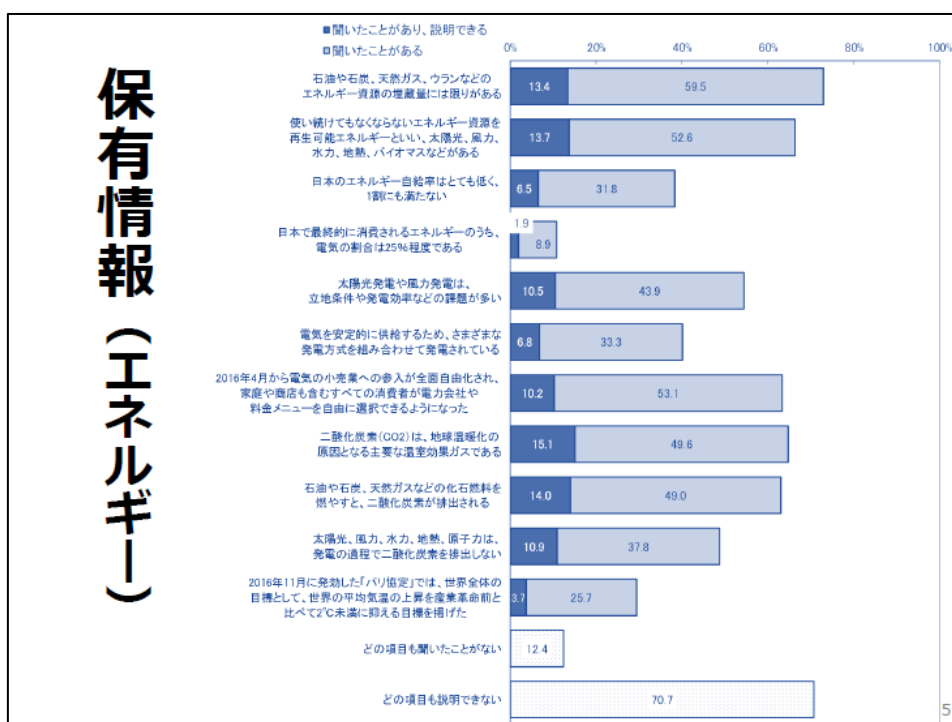
3

関心（上位項目・経年）

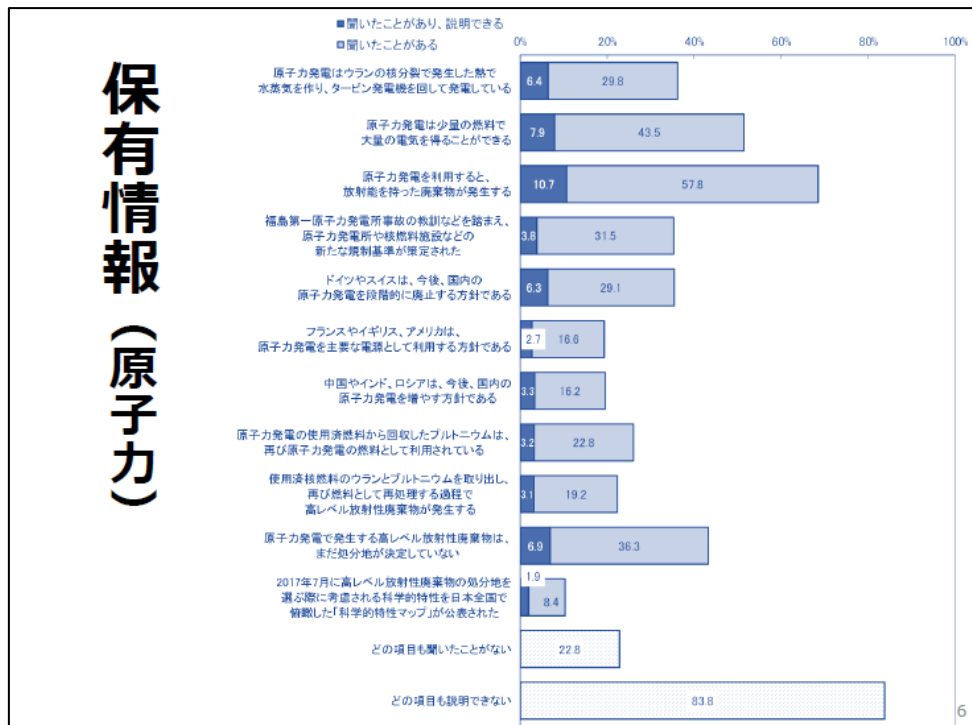


4

- 「地球温暖化」「原子力施設のリスク」「福島第一原発の状況（新規項目）」「放射性廃棄物の処分」「放射線の人体影響」「日本のエネルギー事情」「原子力発電の安全性」のポイントが高い。
- ポイントが高い項目の経年変化を見ると、「地球温暖化」は、2000年代後半にピークがあり、その後、じわじわポイントが低下している。2015年頃に再びピークを迎える（パリ協定の影響か）が、2015～2017年にかけてポイントが減っている（ただし、順位としてはずっと1位）。
- 原子力関係の項目は、比較的高めのポイントで安定している（ただし、「地球温暖化」に比べるとポイントは低め）。3.11前後でポイントが増えている項目が多い。



- ・ 昨年までは、エネルギー、原子力、放射線について、1つの質問で情報保有量を聞いていたが、今年は、3つの質問に分けている。また、「聞いたことがあるもの」「他人に説明できるもの」の2つを分けて聞いている。
- ・ エネルギー・環境分野について、認知度が50%を超えている項目は「資源の埋蔵量には限りがある」「使い続けてもなくならない再生可能エネルギーには太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなどがある」「CO₂は温室効果ガス」「電力自由化」「化石燃料を燃やすとCO₂発生」など。
- ・ 「聞いたことがある」との回答は、60～70%の項目も多いが、「説明できる」は10%程度に留まる項目が多い。
- ・ 特に認知度が低いのは、「最終的に消費されるエネルギーのうち、電気の割合は25%」で、「聞いたことがある」が10%強に留まる。
- ・ 「パリ協定」については、「聞いたことがある」は30%弱。設問に数字が入り、細かく聞きすぎているせいかもしれない。
- ・ 「エネルギー自給率は1割に満たない」を聞いたことがある人は40%程度。
 - 昨年度は「エネルギー自給率は6%」と具体的に聞いており、「よく知っている」「ある程度、知っている」「聞いたことがある」の合計は約4割。



- ・ 全体として、問4 エネルギー・環境分野に関する知識よりも、ポイントが低い。（各項目の難易度が高いせいもあるか）
- ・ 最も知られている項目は「原発を利用すると放射性廃棄物が発生」。「原発は少量の燃料で大量の電気を得られる」「高レベル放射性廃棄物の処分地はまだ決定していない」が続く。
- ・ 各国の状況を分けて聞いたところ、「ドイツ・スイス（廃止方針）」の認知度は高いが、「フランス・イギリス・アメリカ（主要電源として維持）」「中国・インド・ロシア（増加）」はあまり知られていない。人々は、廃止側の情報を集めがちな傾向があるようだ。
- ・ 「科学的特性マップ」は、「聞いたことがある」まで含めて10%程度と、認知度は低い。

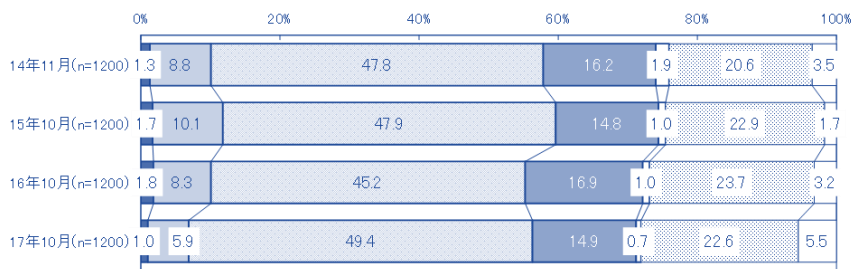
(定義) 情報保有量

選択個数 (人数)	保有量											
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	273	115	155	131	102	98	76	52	59	44	42	53
			保有量無 273			保有量少 401			保有量中 387			保有量多 139
(1)原子力発電は核分裂の熱で発電	0.0	6.1	8.4	29.0	43.1	54.1	80.3	73.1	86.4	79.5	97.6	100.0
(2)原発は少量燃料で大量の電気得られる	0.0	15.7	47.7	60.3	74.5	75.5	84.2	88.5	91.5	84.1	100.0	100.0
(3)原発では放射能を持った廃棄物が発生	0.0	53.9	82.6	90.1	95.1	96.9	96.1	100.0	98.3	100.0	100.0	100.0
(4)福一事故受け原発等の新規制基準策定	0.0	12.2	14.2	24.4	51.0	50.0	53.9	59.6	78.0	93.2	100.0	100.0
(5)独、スイスは国内の原発廃止する方針	0.0	1.7	9.7	30.5	35.3	56.1	64.5	84.6	88.1	84.1	100.0	100.0
(6)仏、英、米は原発を主要電源で利用	0.0	1.7	0.6	2.3	5.9	13.3	31.6	42.3	61.0	79.5	88.1	100.0
(7)中、印、露は今後原発を増やす方針	0.0	0.9	1.3	6.1	8.8	18.4	25.0	38.5	57.6	72.7	90.5	100.0
(8)回収Puは原発燃料に再利用	0.0	0.9	7.1	11.5	16.7	30.6	43.4	57.7	71.2	88.6	97.6	100.0
(9)再処理過程で高レベル廃棄物発生	0.0	0.0	1.9	5.3	9.8	29.6	27.6	55.8	62.7	93.2	88.1	100.0
(10)高レベル放射性廃棄物処分地は未定	0.0	7.0	25.8	38.9	57.8	70.4	78.9	88.5	84.7	93.2	97.6	100.0
(11)科学的特性マップ公表	0.0	0.0	0.6	1.5	2.0	5.1	14.5	11.5	20.3	31.8	40.5	100.0

- ・ 情報保有量の定義：「聞いたことがある」と回答した個数で分類している。「保有量無」層は丸をつけた個数が0個、「保有量少」層は1～3個、「保有量中」層は4～8個、「保有量多」層は9～11個に丸をつけている。「科学的特性マップ」は、10個丸を付けている人でも40%しか回答がなく、その情報が伝わっていないことがよく分かる。

原子力利用（経年）

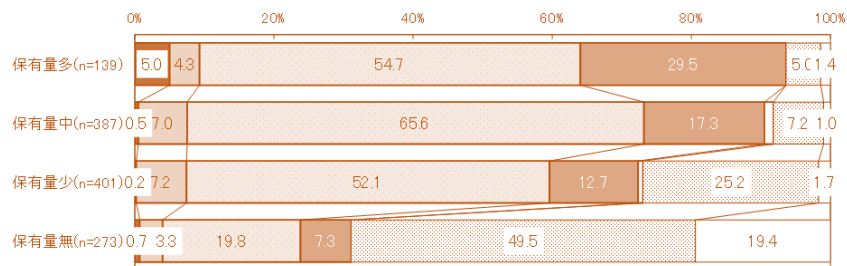
- 原子力発電を増やしていくべきだ
 - 東日本大震災以前の原子力発電の状況を維持していくべきだ
 - 原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ
 - 原子力発電は即時、廃止すべきだ
 - その他
 - わからない
- あてはまるものはない



8

原子力利用×情報

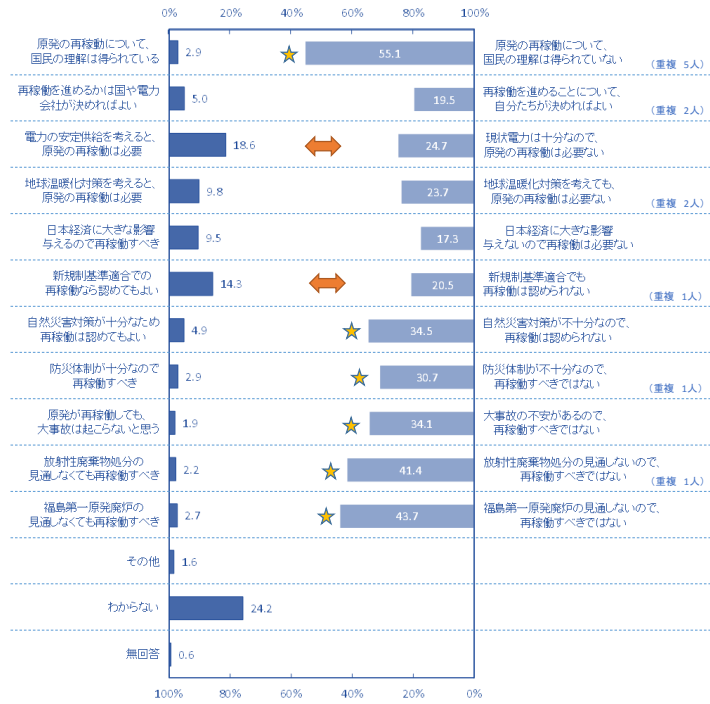
- 原子力発電を増やしていくべきだ
 - 東日本大震災以前の原子力発電の状況を維持していくべきだ
 - 原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ
 - 原子力発電は即時、廃止すべきだ
 - その他
 - わからない
- あてはまるものはない



9

- 「しばらく利用するが徐々に廃止」が最も多く、50%弱。「即時廃止」は15%程度。「わからない」が2割強。「維持」は5.9%、「増加」は1.0%。
- 増加・維持を合わせて10%を切っている。「増加・維持」層は、経年で徐々に減っているように見える。「即時廃止」層の推移は、もうしばらく様子を見ないと分からない。
- 原子力の情報保有量とのクロス集計を見ると、「保有量無」層は、「わからない」が5割もあるが、保有量が増えるにつれ、「わからない」との回答が減り、両極端（増加・即時廃止）な意見が増えてくる。「増やすべき」と回答している人は、ほぼ、「保有量多」層のみ。「徐々に廃止」が最も多いのは、保有量中の層。
- 情報保有量がない層では、「あてはまるものはない」との回答が多い。全体でも「あてはまるものはない」との回答が経年で増加している。「その他」があるにも関わらず、「あてはまるものはない」と回答しているということは、質問に対して無責任な態度の人が増えているということかもしれない。

再稼働



10

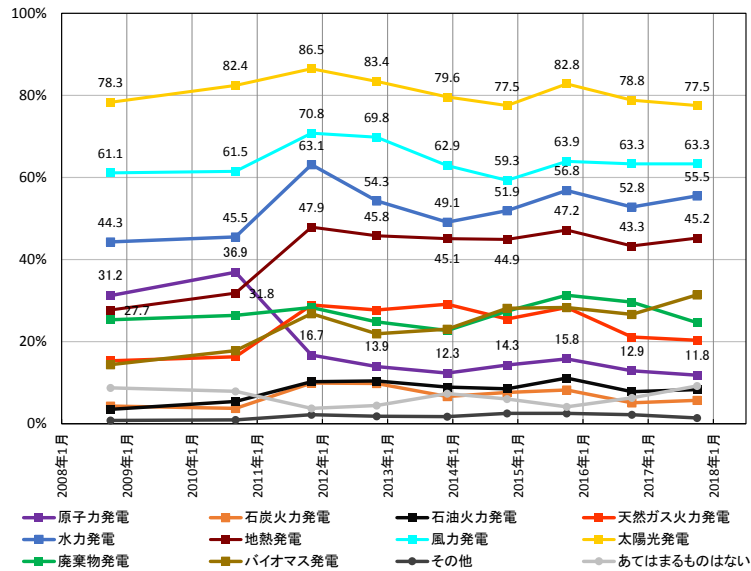
再稼働×情報・利用

	全体	原子力の情報保有量別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	83	593	179	271
国民理解は得られていない	55.1	72.7	73.6	55.1	19.8	42.2	67.5	84.9	22.9
福島廃炉見通しないため再稼働すべきでない	43.7	61.2	59.2	43.9	12.5	14.5	54.5	79.9	15.1
廃棄物処分見通しないため再稼働すべきでない	41.4	61.2	57.9	40.4	9.5	9.6	52.3	73.7	14.4
自然災害対策不十分であり再稼働認められない	34.5	51.1	46.5	32.2	12.5	7.2	40.6	76.0	9.6
大事故が不安なため再稼働すべきでない	34.1	55.4	48.6	30.4	8.1	6.0	40.8	79.3	5.9
防災体制不十分のため再稼働すべきでない	30.7	49.6	42.9	27.2	8.8	9.6	35.2	69.8	7.7
電力十分賄えているので再稼働不要	24.7	38.1	35.1	20.9	8.4	2.4	27.7	60.3	4.4
電力安定供給のため再稼働必要	18.6	30.9	24.0	18.2	5.1	66.3	23.4	1.7	7.4
新規制基準適合でも認められない	20.5	43.9	29.2	15.0	4.4	-	21.8	59.8	2.2
新規制基準適合ならば認める	14.3	28.1	17.3	13.5	4.4	44.6	17.0	1.7	9.6
わからない	24.2	5.0	8.3	19.0	64.1	10.8	9.8	3.9	62.0

11

- 経年で聞いているが、今年は、対になる項目を設置し、どちらの意見が多いのかが見えるように整理している。
- 「国民の理解は得られていない」「福島第一原発の廃炉の見通しが無いので、再稼働すべきでない」「廃棄物処分の見通しが無いので、再稼働すべきでない」「大事故の不安」「自然災害対策が不十分」「防災体制が不十分」は、片方の意見がメインとなっている。
- 「新規制基準適合ならOK／適合でもNG」「安定供給のために必要／賄えているから不要」は、意見が拮抗している。
- クロス集計を見ると、原子力の情報保有量別では、保有量が少ないと「わからない」の割合が増える。保有量が多くなると、どの意見も、全体平均以上の回答強度になる。
- 原子力利用に対する態度別で見ると、「安定供給のために必要／賄えているから不要」や「新規制基準適合ならOK／適合でもNG」は、「増加・維持」層と「即時廃止」層では意見がまったく逆になっている。「徐々に廃止」層は、ポイントがほぼ拮抗していて、「意見の綱引き」が見られる。
- 「国民の理解は得られていない」については、「増加・維持」でもポイントが高い。

エネルギー源



12

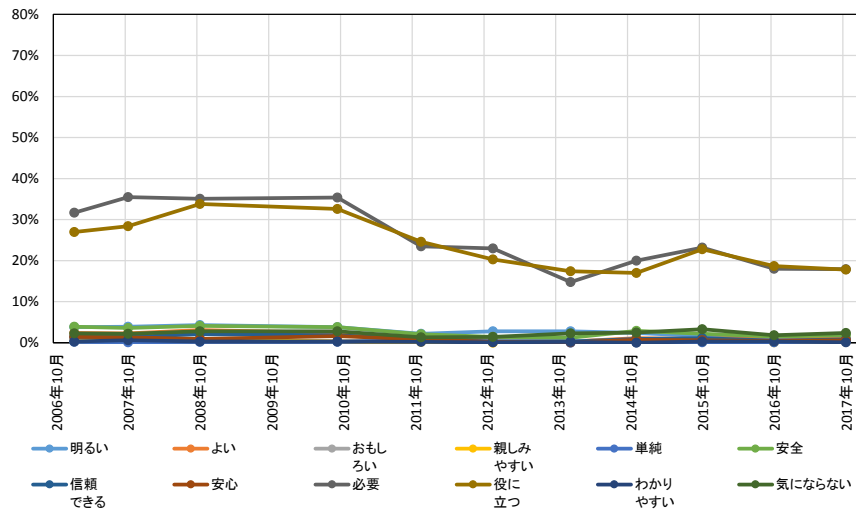
エネルギー源×情報・利用

	全体	原子力の情報保有量別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	83	593	179	271
原子力発電	11.8	16.5	15.8	10.0	6.2	63.9	10.3	0.6	7.7
石炭火力発電	5.7	7.2	8.5	4.7	2.2	14.5	4.0	10.6	4.1
石油火力発電	8.3	12.2	12.4	6.5	3.3	22.9	7.9	12.8	3.3
天然ガス火力発電	20.3	38.1	29.2	16.2	4.4	31.3	24.6	22.3	9.6
水力発電	55.5	72.7	69.0	57.6	24.5	56.6	66.4	69.8	31.7
地熱発電	45.2	71.2	61.0	40.1	16.8	48.2	56.3	59.2	19.6
風力発電	63.3	71.2	74.9	66.3	38.5	60.2	73.4	78.8	43.9
太陽光発電	77.5	85.6	85.3	82.0	55.7	69.9	87.2	88.3	64.9
廃棄物発電	24.6	39.6	31.3	20.9	12.8	30.1	30.4	30.2	11.8
バイオマス発電	31.4	64.0	42.9	25.7	7.0	30.1	39.3	45.3	11.1
その他	1.4	3.6	1.3	0.5	1.8	-	1.0	1.1	2.6
なし	9.2	0.7	0.8	4.5	32.2	1.2	1.7	1.7	18.1

13

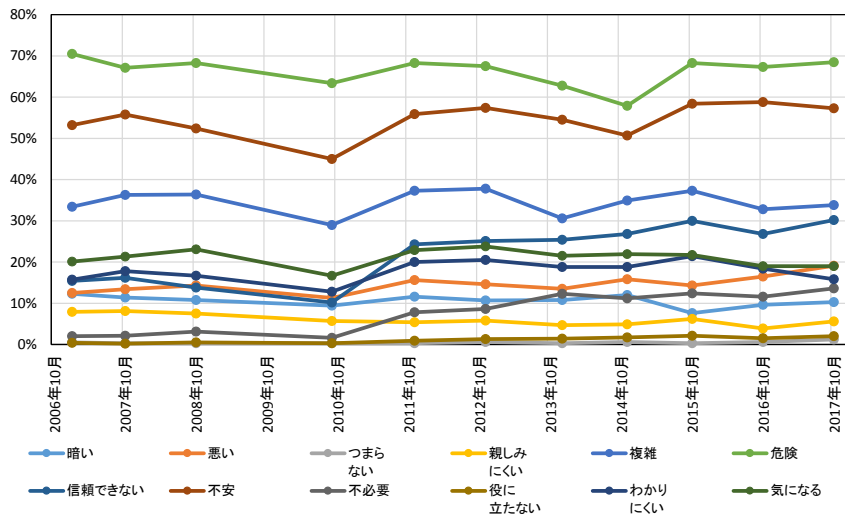
- ・ 「太陽光」「風力」「水力」は、震災前後問わず、上位3位を保っている。
- ・ 震災前は、「原子力」は4位で、40%弱のポイントだったが、震災後は12%程度まで低下し、その後は低い水準を維持している。
- ・ 震災後は「地熱発電」のポイントが増加している（30%前後→45%前後）。
- ・ 同程度のポイントの「廃棄物」「バイオマス」と比較して、近年は、「天然ガス火力」のポイントが徐々に低下しているように見える。
- ・ クロス集計を見ると、原子力の情報保有量が多い層は、「原子力発電」のポイントがやや高め。また、全体的に回答強度が高い。保有量が減ると、そもそも発電方式をあまり知らないのか、回答強度が低下する。
- ・ 今年は、情報保有量が多い層で再生可能エネルギーのポイントが高くなっている（前年は、知識中程度の層で高めだったが、知識が多い層ではポイントは落ち込んでいた）。再生可能エネルギーの信頼度がかなり高まっているようだ。
- ・ 保有量が少ない層ほど、再生可能エネルギーだけでもいけるのではないかと、という回答傾向になっている。保有量が無い層が期待しているのは、ほぼ「太陽光発電」のみ。
- ・ 原子力利用に対する態度別で見ると、「増加・維持」層は、当然ながら、「原子力発電」のポイントが高い。「即時廃止」層は、再生可能エネルギーへの期待が高いが、火力発電のポイントは低い。「徐々に廃止」層は、火力発電のポイントがさらに低くなっている。「増加・維持」層は、再生可能エネルギーへの期待はやや低めで、その分、火力発電のポイントが高めになっている。

原子カイメージ（肯定的・経年）



14

原子カイメージ（否定的・経年）



15

イメージ×情報・利用

	全体	原子力の情報保有量別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	83	593	179	271
危険	68.5	75.5	76.2	70.1	51.6	54.2	74.7	86.0	55.7
不安	57.3	59.0	66.9	61.1	37.0	39.8	64.2	72.6	45.0
複雑	33.8	43.2	40.1	34.7	18.7	39.8	41.1	25.7	25.8
信頼できない	30.2	45.3	36.7	27.2	17.6	14.5	34.4	57.0	11.8
悪い	19.1	28.8	19.9	18.5	13.9	6.0	17.5	41.9	13.3
気になる	19.0	27.3	23.5	18.7	8.8	9.6	22.8	23.5	14.4
必要	17.9	18.7	21.7	19.5	9.9	53.0	21.6	0.6	11.8
役に立つ	17.8	27.3	23.8	15.5	7.7	49.4	21.4	2.8	12.2
わかりにくい	15.8	15.1	15.0	16.0	16.8	10.8	15.0	13.4	22.1
不必要	13.6	28.1	17.8	10.0	5.5	-	11.0	45.8	4.4
暗い	10.3	16.5	10.1	11.0	6.2	3.6	8.3	24.6	8.1

(%)

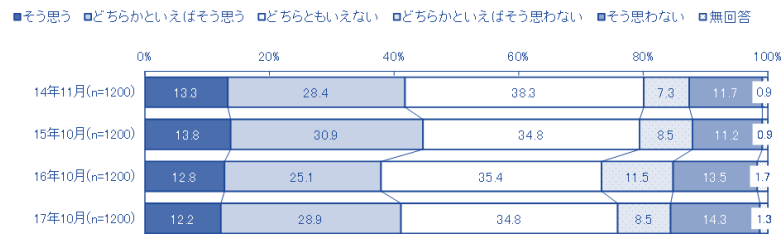
16

- ・ 調査開始当時から聞いている質問で、回答の信頼性も高い。
- ・ 肯定的なイメージでポイントが高いのは、「必要」「役に立つ」の2つのみ。震災前は2つとも30%程度だったが、震災後は、いずれも20%程度に低下し、そのままの水準を維持している。
- ・ 否定的なイメージは、「危険」「不安」「複雑」「信頼できない」のポイントが高い。他の項目も、肯定的なイメージよりはポイントが高め。「信頼できない」は、震災後ポイントが増加している。
- ・ 震災後、否定的なイメージは全体的にポイントが増加。特に、「信頼できない」「不必要」は、震災後、ポイントが増加している。
- ・ 他の世論調査でも、2014年頃に「危険」「不安」の感情は底を打ったとの分析結果があった。本調査でも、2014年までは「危険」「不安」のポイントが低下している。しかし、2015年以降は「危険」「不安」のポイントが増加している。再稼働に関する報道が断続的に行われた結果か。
- ・ クロス集計を見ると、原子力の情報保有量別では、保有量が多いほど、回答強度が高くなっている。イメージを聞いているのだが、情報保有量が大きな影響を与えている。ただし、「わかりにくい」については、保有量が低いほうがポイントが高め。
- ・ 「増加・維持」層は、「必要」「役に立つ」のポイントが突出して高い。「徐々に廃止」層も、「必要」「役に立つ」のポイントが高め。「即時廃止」層は、否定的なイメージのポイントが高い。
- ・ 「徐々に廃止」層は、「必要」は約21%、「不必要」は約11%。意見はやや拮抗してい

るか。「イメージ」を問うと、「必要」と回答する人は多い。ただし、問7の今後利用すべきエネルギーでは、「原子力発電」のポイントは低めになっている。

- 「複雑」は、「増加・維持」層や「徐々に廃止」層のポイントが高めで、否定的なイメージの中でも特殊な位置づけである。
- 原子力の広報予算減と、「必要」のポイント減とは、相関があるのかもしれない。

ベネフィット（原子力） ～原子力発電は役に立つ



	全体	原子力の情報保有量別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	83	593	179	271
そう思う	12.2	22.3	15.8	9.5	5.9	49.4	11.3	3.9	7.0
↑	28.9	23.7	30.5	33.4	22.7	41.0	34.2	14.0	28.8
どちらともいえない	34.8	20.9	26.6	37.4	49.8	7.2	34.9	15.6	50.9
↓	8.5	12.9	10.3	7.5	5.1	1.2	10.8	14.0	3.3
そう思わない	14.3	20.1	15.2	11.2	14.7	1.2	7.8	51.4	8.1

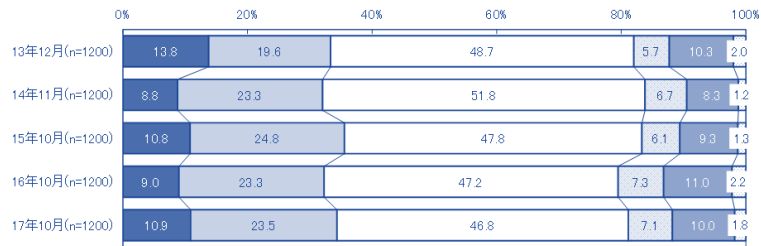
17

- ・ 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が4割、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」が2割、「どちらともいえない」が4割弱。経年変化はあまりない。
- ・ 情報保有量が増えると、両極端な意見が増えていく（結果として、保有量が多い層は、意見が満遍なく分布している）。保有量が減ると、「どちらともいえない」に寄った意見が増えてくる。
- ・ 「増加・維持」層は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が多く、「即時廃止」層は「そう思わない（強い否定意見）」が多い。

ベネフィット（原子力）

～原子力発電は発電の際にCO₂を出さないので、地球温暖化防止に有効

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

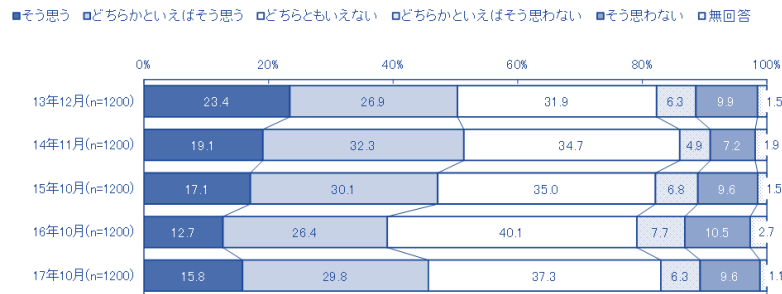


	全体	原子力の情報保有量別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	83	593	179	271
そう思う	10.9	27.3	14.2	7.0	3.7	25.3	11.1	12.8	4.4
↑	23.5	28.1	29.5	23.4	12.8	33.7	29.5	16.8	15.9
どちらともいえない	46.8	23.7	34.1	53.9	65.9	33.7	43.2	25.7	68.3
↓	7.1	5.8	7.8	8.7	4.4	3.6	8.3	8.4	5.5
そう思わない	10.0	15.1	12.9	5.5	9.9	2.4	6.9	34.6	3.3

18

- 他調査で類似の質問をしている。震災前は、肯定層6割、否定層はほぼゼロだった。
- 震災後、肯定層が30%強、否定層が20%程度になった。震災以後は、大きな変化はない。
- 「即時廃止」層は、「どちらともいえない」と「そう思わない」の2つのピークを持つ。経年変化では、「そう思わない」と答える人が徐々に増えているように見える。「即時廃止」層の中も、原子力利用は反対だがその効能は認める層と、効能も認めない層とに分かれているようだ。
- 情報保有量が多い層は、「即時廃止」層と意見分布が似ている。(情報量が増えると、極端な意見を持つ人がふえるので、即時廃止層の割合も高くなるためか)

ベネフィット（原子力） ～原子力発電がないと、電気料金があがる



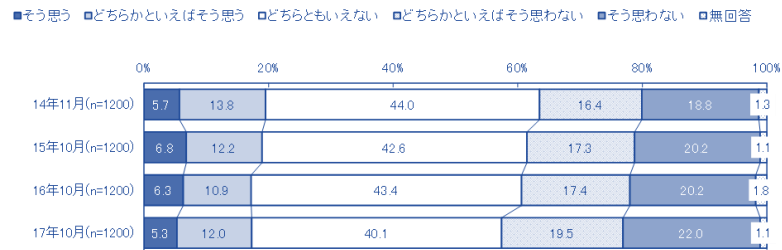
	全体	原子力の情報保有量別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	83	593	179	271
そう思う	15.8	28.1	19.6	13.7	7.3	36.1	18.0	14.0	7.4
↑	29.8	30.2	33.3	31.9	21.6	33.7	35.8	17.9	26.2
どちらともいえない	37.3	22.3	27.1	39.4	56.4	27.7	32.0	28.5	53.9
↓	6.3	3.6	8.3	7.0	4.0	-	7.1	8.9	5.5
そう思わない	9.6	15.8	10.9	7.0	8.4	2.4	6.2	30.2	5.5

19

- ・ 肯定意見が少しずつ減っていた（50%程度から 40%程度まで減っていた）が、今年は増加している（45%程度）。
- ・ 管轄地域別で見ると、関西電力、中国電力は、平均よりも肯定意見が多い。7月に、関西電力で、電気料金を変えろという報道があったことが影響しているか。（一方、問10c「経済的に発展できる」には、管轄地域の格差がない）北陸電力は肯定意見が非常に多いが、人数が少ないのでその影響かもしれない。（北陸電力は、ちょうど調査の時期に、電気料金変更の情報がリークしていたようだ：正式なプレス発表があったのは調査終了後だが）
- ・ 他の項目に比べると男女差が少ない項目である。（他の項目は、男性のほうがはっきりした意見を持つ傾向がある）
- ・ 「即時廃止」層は、「どちらともいえない」と「そう思わない」の2つのピークを持つ。

リスク（原子力）

～原子力発電の安全を確保することは可能



	全体	原子力の情報保有量別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	83	593	179	271
そう思う	5.3	9.4	6.5	4.5	2.9	24.1	5.1	2.2	2.2
↑	12.0	12.2	14.0	12.2	8.8	33.7	12.6	3.4	10.7
どちらともいえない	40.1	17.3	28.9	45.4	59.7	27.7	35.1	12.3	67.5
↓	19.5	18.7	23.3	20.9	12.5	9.6	27.0	15.6	11.1
そう思わない	22.0	42.4	27.1	15.7	13.6	3.6	19.7	66.5	6.3

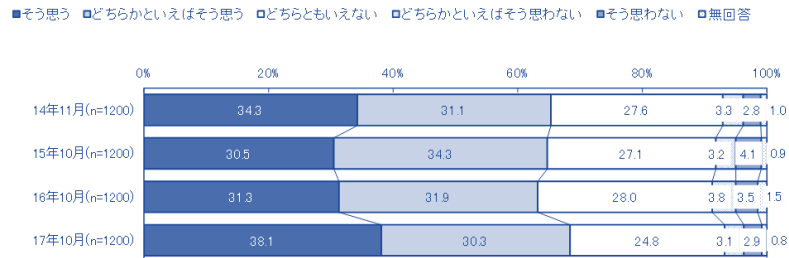
(%)

20

- ・ 経年で、少しずつ否定的な意見が増えているように見える。
- ・ 「増加・維持」層は肯定意見が多く、「即時廃止」層は否定意見が多い。「徐々に廃止」層の意見は、やや否定側に寄っている。
- ・ 情報保有量が増えると、否定意見が増える。

リスク（原子力）

～わが国のような地震国に原子力発電所は危険

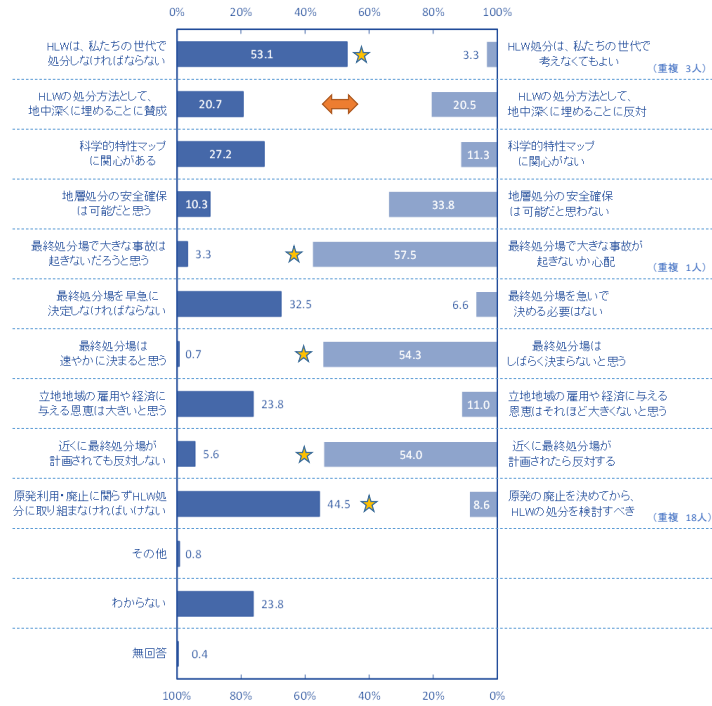


	全体	原子力の情報保有量別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	83	593	179	271
そう思う	38.1	56.8	49.4	33.9	18.7	10.8	43.3	81.6	12.9
↑	30.3	18.7	31.8	35.9	26.0	19.3	38.4	10.6	30.3
どちらともいえない	24.8	15.1	14.7	24.9	43.6	49.4	13.7	3.4	50.2
↓	3.1	4.3	2.3	2.7	4.0	7.2	2.5	0.6	4.1
そう思わない	2.9	5.0	1.6	2.0	5.1	12.0	1.7	3.9	1.1

21

- ・ 経年で、強い肯定意見が徐々に増えているように見える。
- ・ 「増加・維持」層は、「どちらともいえない」が多い。「そう思わない」も他の層に比べるとポイントが高め。

高レベル放射性廃棄物



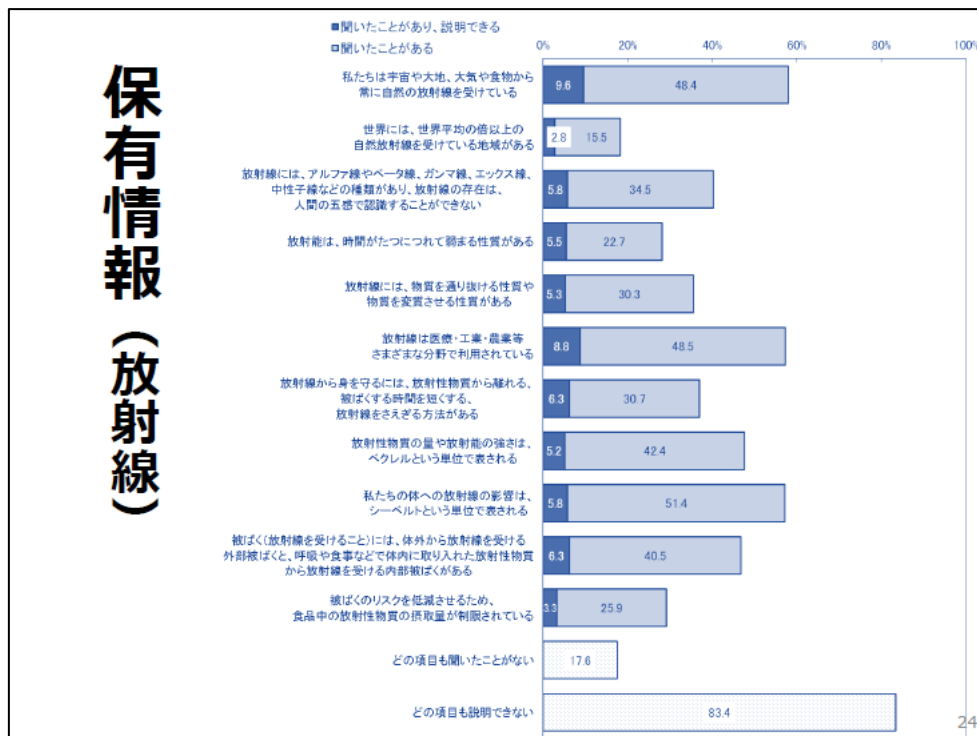
22

高レベル放射性廃棄物×情報・利用

	全体	原子力の情報保有量別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	83	593	179	271
最終処分場の大きな事故が心配	57.5	75.5	71.6	58.9	26.4	43.4	69.5	79.3	31.0
最終処分場はしばらく決まらない	54.3	87.8	75.7	47.6	16.8	53.0	69.1	73.2	18.5
近隣への最終処分場計画は反対	54.0	67.6	72.4	53.4	22.0	33.7	66.6	75.4	28.0
現世代で処分	53.1	70.5	65.1	55.9	23.1	48.2	63.7	73.7	26.2
原子力の利用・廃止に関わらず処分に取り組むべき	44.5	75.5	63.3	37.2	12.8	37.3	58.2	60.9	13.7
地中深くに埋めることに賛成だ	20.7	39.6	27.4	17.0	7.0	41.0	24.6	19.0	9.6
地中深くに埋めることに反対だ	20.5	29.5	28.2	19.5	6.6	12.0	24.8	38.5	5.5
地層処分の安全確保は可能	10.3	24.5	14.7	6.5	2.2	34.9	11.1	9.5	3.7
地層処分の安全確保は可能でない	33.8	51.8	48.3	30.7	8.8	19.3	42.7	59.8	8.1
わからない	23.8	4.3	8.3	21.4	59.3	15.7	11.1	6.7	54.2

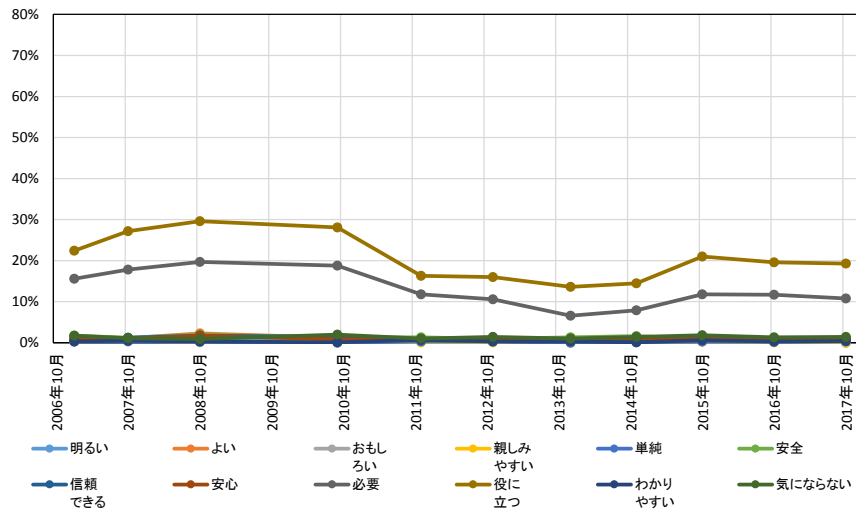
23

- 今年、項目を整理し直し、対になる意見を示す形式にした。
- 「原発の利用・廃止に関わらず取り組むべき／原発の廃止を決めてから取り組むべき」は、重複回答が18人と多め。
- 肯定的な意見では、「私たちの世代で処分しなければならない」「原発の利用・廃止に関わらず取り組むべき」のポイントが高い。処分そのものは取り組まなければならない、という意見を持った人が多いようである。否定的な意見では、「大きな事故が起きないか心配」「近くに計画されたら反対する」「しばらく決まらない」のポイントが高い。
- 「地中深くに埋めることに賛成／反対」は、どちらもポイントが2割程度で、拮抗している。3年前（2014年1月）に原子力学会が実施した類似の調査では、賛成側の意見が2割程度、反対側の意見が2割程度で、今回の調査とほぼ同じ傾向であった。
- 「科学的特性マップに関心がある」は27%。「科学的特性マップに関心がない」も10%あり、全体として、関心は低いといえる。
- クロス集計を見ると、「地中深くに埋めることに賛成／反対」については、保有量多の層では賛成意見が多いが、その他の層では意見が拮抗している。原子力利用の態度別で見ると、「増加・維持」層は賛成意見が、「即時廃止」層は反対意見が多い。「徐々に廃止」層は意見が拮抗している。
- 「安全確保は可能／可能でない」の項目は、「徐々に廃止」層で「可能でない」のポイントが高め。「徐々に廃止」層は、地層処分の賛成／反対では意見が割れているが、安全／危険では危険側に意見が寄っているようだ。



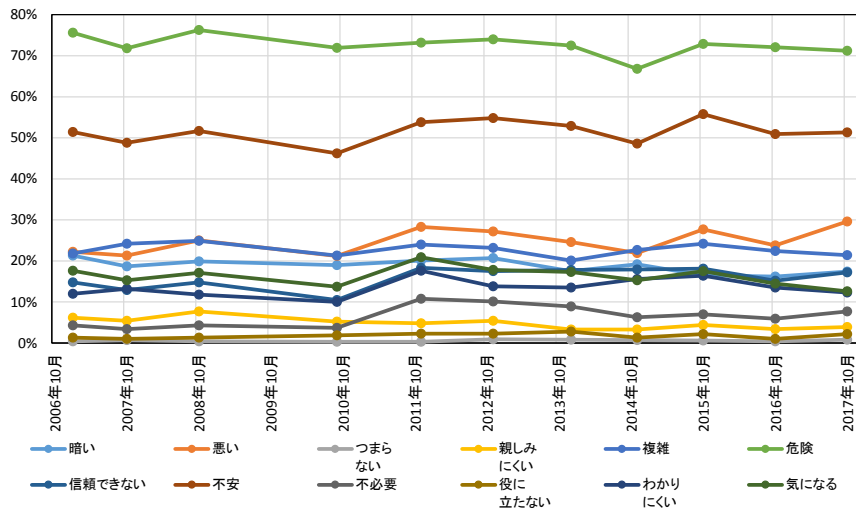
- ・ 問 4、問 5 に比べ、「保有量多」層の人数が少なめ。設問の難易度は、問 6 が最も高かったのかもしれない。
- ・ 全体としては、問 5 よりも回答強度が高い。
- ・ 「常に自然放射線を受けている」「様々な分野で利用されている」「シーベルトという単位」「ベクレルという単位」「外部被ばく・内部被ばく」などの認知度が高い。
- ・ 「世界平均の倍以上の自然放射線を受けている地域がある」のポイントは低め。

放射線イメージ（肯定的・経年）



25

放射線イメージ（否定的・経年）



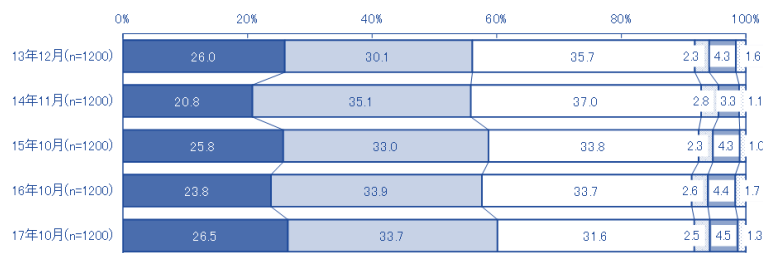
26

※インタビュー時間の関係上、詳細な説明はなされなかった。

ベネフィット（放射線）

～医療、工業、農業等での放射線利用は必要

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



	全体	原子力の情報保有量別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	83	593	179	271
そう思う	26.5	43.9	33.6	25.2	9.5	47.0	29.8	29.6	13.7
↑	33.7	33.8	38.8	35.9	23.1	22.9	40.6	25.7	31.0
どちらともいえない	31.6	15.1	20.4	33.7	52.7	26.5	24.3	27.4	47.2
↓	2.5	2.9	2.8	1.2	3.7	-	2.5	3.4	1.8
そう思わない	4.5	4.3	3.6	2.7	8.4	1.2	1.9	14.0	4.4

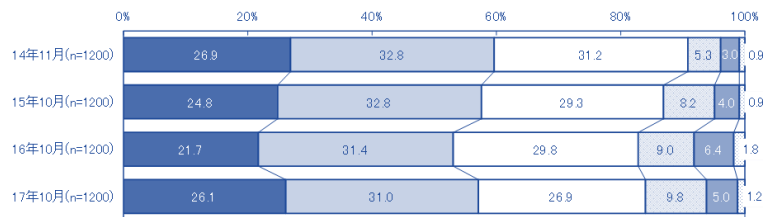
27

- 全体としては6割が肯定意見を持っている。
- 10代は、否定的意見がやや多い。

リスク（放射線）

～土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答



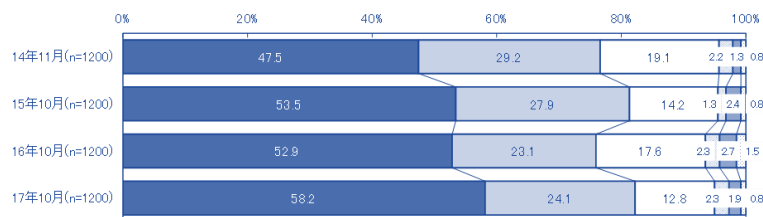
	全体	原子力の情報保有量別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	83	593	179	271
そう思う	26.1	28.1	28.7	25.4	22.3	8.4	25.6	52.5	18.1
↑	31.0	31.7	31.3	35.4	23.8	24.1	36.9	23.5	29.2
どちらともいえない	26.9	21.6	22.5	23.7	40.7	32.5	21.9	13.4	40.6
↓	9.8	10.1	13.2	9.7	5.1	16.9	11.5	3.4	7.0
そう思わない	5.0	8.6	3.9	4.7	5.1	16.9	3.5	6.1	3.3

28

リスク（放射線）

～将来の世代への影響はゼロにしたい

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらともいえない □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

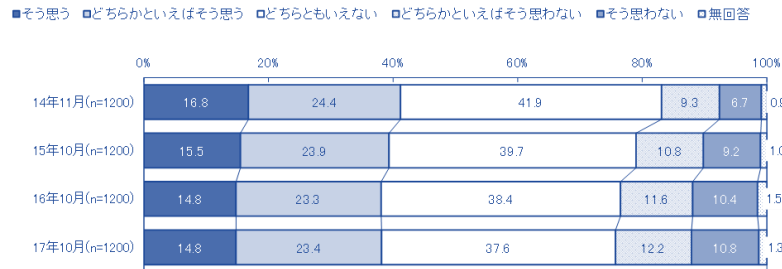


	全体	原子力の情報保有量別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	83	593	179	271
そう思う	58.2	66.9	60.7	59.9	47.6	25.3	61.4	83.8	50.9
↑	24.1	18.7	27.4	27.2	17.6	33.7	28.8	10.6	21.4
どちらともいえない	12.8	7.9	7.5	10.2	26.4	27.7	6.2	2.8	22.9
↓	2.3	2.9	2.8	1.2	2.6	3.6	2.0	0.6	2.6
そう思わない	1.9	3.6	1.0	1.0	3.7	7.2	1.2	2.2	1.1

29

※インタビュー時間の関係上、詳細な説明はなされなかった。

リスク（放射線） ～食品選びで、放射能について気をつけている

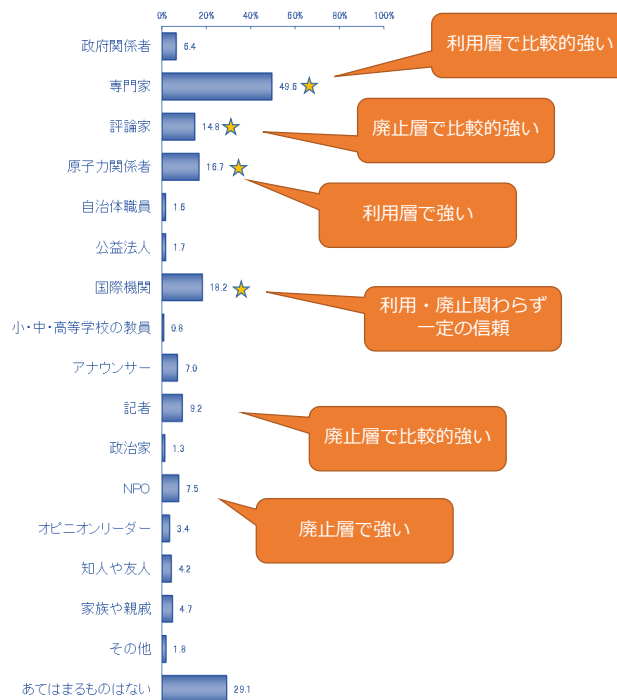


	全体	原子力の情報保有量別				原子力利用に対する態度別			
		保有量多	保有量中	保有量少	保有量無	増加・維持	徐々に廃止	即時廃止	わからない
N	1200	139	387	401	273	83	593	179	271
そう思う	14.8	20.9	16.5	14.0	10.6	4.8	14.0	34.1	8.5
↑	23.4	19.4	25.3	27.2	17.2	13.3	26.5	22.9	23.2
どちらともいえない	37.6	33.1	33.9	34.4	49.8	36.1	35.9	25.7	46.1
↓	12.2	12.9	12.7	12.7	10.3	18.1	12.6	7.3	12.9
そう思わない	10.8	13.7	10.9	10.5	9.5	26.5	10.3	9.5	7.0

30

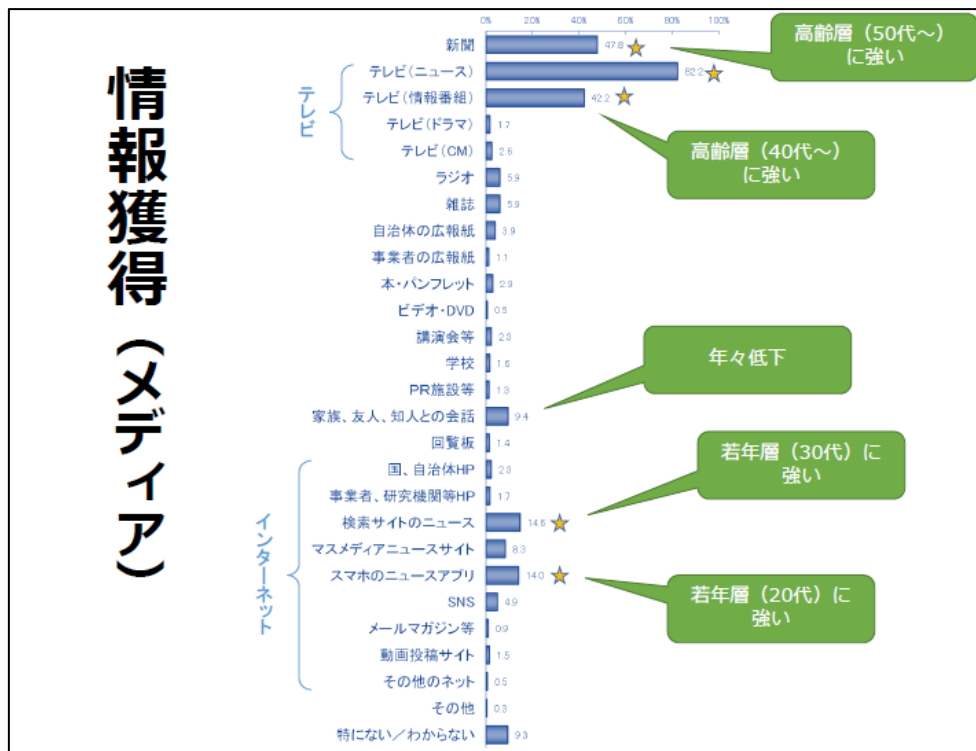
※インタビュー時間の関係上、詳細な説明はなされなかった。

情報源信頼



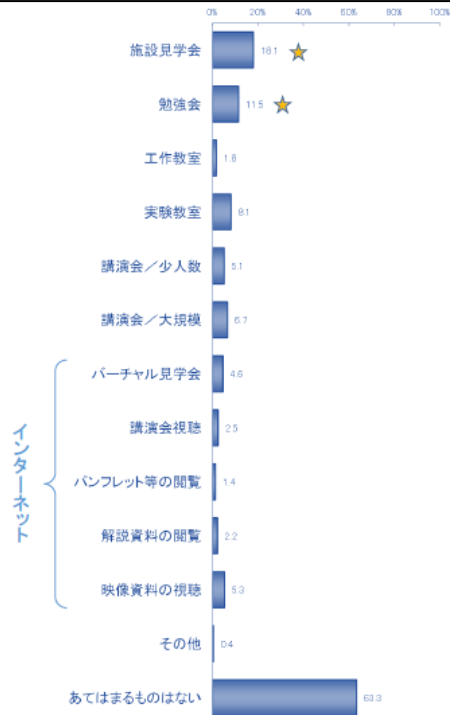
31

- ・ 「専門家」「国際機関」「原子力関係者」「評論家」などのポイントが高い。
- ・ 原子力利用の態度によって、それぞれ情報源が異なっている。自分が知りたい情報を出すところを信頼する、という傾向が見える。
- ・ 「あてはまるものはない」が30%ある。(ただし、内訳としては、情報を得ようとしなない人たちが多くの割合を占めている)
- ・ 10代は、「あてはまるものがない」の割合が高め。他には、「教員」「家族・友人・知人との会話」のポイントが高めになっている。



- ・ 「テレビ（ニュース）」「新聞」「テレビ（情報番組）」が強い。「検索サイトのニュース」「スマートフォンのアプリ」などのポイントも高め。
- ・ 10代は「学校」が高め。
- ・ 年齢層によって、情報源が異なっている。
- ・ 「家族・友人・知人との会話」は、徐々にポイントが低下している（15%程度⇒9%程度）。「家族・友人・知人との会話」（いわゆる口コミ）は、マスメディア以外で唯一有効な情報源であったが、徐々に効果が弱くなっているようだ。原子力のことが、日常の話題にのぼらなくなったのかもしれない（原子力全体に対する関心が低下しているのかもしれない、あるいはタブー化したのかもしれない）。

情報獲得 (イベント)



イベントの性質×参加意欲

見学会
(N=217)

	%	⇔	%
理解しやすい	51.6	⇔	9.7 理解しにくい
詳しく知る	59.0	⇔	6.5 知れない
知りたいことを得る	39.6	⇔	6.0 得られない
信頼できる	15.7	⇔	3.7 信頼できない
関心持つ	62.7	⇔	0.5 持たない
多くに伝わる	29.0	⇔	5.5 多くに伝わらない
役に立つ	35.0	⇔	1.8 役に立たない
参加しやすい	21.7	⇔	14.7 参加しにくい

勉強会
(N=138)

	%	⇔	%
理解しやすい	50.0	⇔	7.2 理解しにくい
詳しく知る	67.4	⇔	3.6 知れない
知りたいことを得る	46.4	⇔	4.3 得られない
信頼できる	25.4	⇔	2.9 信頼できない
関心持つ	53.6	⇔	1.4 持たない
多くに伝わる	34.1	⇔	2.9 多くに伝わらない
役に立つ	39.1	⇔	0.7 役に立たない
参加しやすい	29.0	⇔	5.8 参加しにくい

講演会・少人数
(N=61)

	%	⇔	%
理解しやすい	65.6	⇔	3.3 理解しにくい
詳しく知る	68.9	⇔	8.2 知れない
知りたいことを得る	70.5	⇔	8.2 得られない
信頼できる	23.0	⇔	4.9 信頼できない
関心持つ	50.8	⇔	6.6 持たない
多くに伝わる	19.7	⇔	4.9 多くに伝わらない
役に立つ	37.7	⇔	1.6 役に立たない
参加しやすい	32.8	⇔	13.1 参加しにくい

講演会・大規模
(N=80)

	%	⇔	%
理解しやすい	43.8	⇔	13.8 理解しにくい
詳しく知る	46.3	⇔	13.8 知れない
知りたいことを得る	38.8	⇔	13.8 得られない
信頼できる	20.0	⇔	5.0 信頼できない
関心持つ	53.8	⇔	3.8 持たない
多くに伝わる	55.0	⇔	8.8 多くに伝わらない
役に立つ	33.8	⇔	5.0 役に立たない
参加しやすい	41.3	⇔	7.5 参加しにくい

- 「あてはまるものはない」が6割強で一番多い。
- 「施設見学会」「勉強会」などのポイントが高め。
- 「参加したい」と回答している人たちの、イベントに参加する理由を見ると、「見学会」は、「関心を持つ」「詳しく知る」のポイントが高め。「勉強会」は、「詳しく知る」「関心を持つ」のポイントが高い。「講演会・少人数」は「知りたいことを得る」「詳しく知る」のポイントが高い。「講演会・大人数」は、「多くの人に伝わる」のポイントが高い。
- それぞれのイベントに参加したいと回答している人たちの中では、「参加しにくい」のポイントは低い。参加意欲が高い人にとっては、各種イベントは参加しにくいものではないようである。一方、全体では「参加しにくい」のポイントは高めになっている。

付録B：調査票改訂に関する申し送り事項

【各設問に対して】

- (問5について)「どの項目も説明できない」の割合が非常に高い。この層に対して、はたらきかけをしていかないと、認知度は上がっていかないだろう。なぜ説明できないのか、その理由が分析できるように調査票を設計してはどうか。
- (問7について)九州電力で再生可能エネルギーの割合が7割だった、との報道を受けて、量を入れられるという話と安定供給とは別問題だが、その点を知っている人は、ワークショップなどでの反応を見る限り、ほとんどいない。エネルギーに関する報道の仕方も検討する必要があるかもしれない。
- (問7について)原子力を積極的に使いたいと思っているのか、他のエネルギーが使えないから原子力を使おうと消極的に賛成しているだけなのかを区別できるような質問を設計してはどうか。
- (問8-2について)広島高裁では、「規制委の判断は不合理」との理由で、伊方発電所の運転停止の判決が出た。その報道を見ていると、原子力規制委員会はきちんと仕事をしているのか、と感じてしまう人も多いのではないか。次年度の調査では、その辺りを分析できるように設計してはどうか。
- (問11について)「現世代で処分しなければならない」に丸をつけている人の中には、場所が決まればすぐ処分できるだろう、と考えている人がいるのかもしれない。アンケートでそれを聞くのは難しいが、インタビューなどで調査ができればよい。
- (問11について)来年度は、「NIMBYを越えるため」の示唆が得られるような調査票を設計してはどうか。NIMBYの範囲は、およそ県レベルのようだ。例えば、「関東地方」まで広がると、別に構わない、という反応になるようだ。「電力管轄地域にそれぞれ1つずつ処分場を作るとしたら、どう思うか」というような設問を作ってもいいかもしれない。また、「指定廃棄物」に絡めた設問を作ってもいいかもしれない。
- (問14・15について)人々が積極的に情報を入手しにいつているのか、受動的に受け取っているだけなのかを分析できるようにしてはどうか(例えば、関心の高い人はこういうメディアから積極的に情報を取っている、高齢層は認知度が高いがワイドショーで受動的に聞いている、など)。
- (問16について)今回は、参加者が情報を受け取る側面での項目しか設置しなかったもので、このような結果になった。例えば、「他の参加者の意見が聞ける」など、参加者同士の相互作用などを項目にすると、また違った結果になるかもしれない。
- (問16について)項目に「出前授業」を加えてもいいかもしれない。

【調査全体について】

- 今は「原子力に関する世論調査」だが、もししばらくしたら、「エネルギーに関する世論調査」にシフトしてもいいかもしれない。